

目次

商学部の基本理念・役職者・適用学則	2
三田キャンパスガイド	4
主な事務室と事務取扱時間	
振鈴表	
掲示板	
校舎と教室番号	
三田キャンパスマップ	
第1 学事関連スケジュール(三田)	6
第2 学籍(休学・留学・退学)	10
1 休学	10
2 留学	10
3 退学	10
海外の教育機関に留学する場合の取扱い	11
第3 学生証・諸届・証明書	12
1 学生証	12
2 住所変更(本人・保証人)	12
3 保証人変更	12
4 改姓・改名	12
5 国籍変更	12
6 通学区間の変更	13
7 証明書(成績証明書・学割証等)	13
第4 Web システム	14
1 Web システム概要	14
2 Web システム操作上の注意	15
3 パスワード再発行	15
第5 履修・授業・成績	16
1 履修申告	16
2 教員を訪ねる場合	17
3 教室使用申請(三田)	17
4 AV 機器の鍵・機材の貸出	17
5 緊急時における授業の取扱い	18
6 早慶野球戦時における授業の取扱い	18
7 成績	18
8 成績質問制度	18
第6 試験	20
1 試験の種類	20
2 不正行為	22
3 レポート	22
第7 学生総合センター	24
1 窓口案内	24
2 学生生活支援	24
3 遺失物の取扱い	25
4 奨学金	25
5 就職・進路支援	25
6 学生相談室	25
7 学生健康保険互助組合	26
8 学生教育研究災害傷害保険	26

9 任意加入の補償制度	26
定期健康診断	26
第8 履修要項【05学則用】	28
1 開講科目と単位数	28
2 卒業および進級所要単位数	32
3 履修上の注意	33
4 分野について	37
5 卒業単位数チェック表	43
第9 履修要項【99学則用】	44
1 開講科目と単位数	44
2 卒業および進級所要単位数	48
3 履修上の注意	49
4 分野について	55
5 卒業単位数チェック表	61
講義要綱・シラバス	63
諸研究所設置講座	131
1 教職課程センター	133
2 言語文化研究所	134
3 メディア・コミュニケーション研究所	139
4 斯道文庫	156
5 体育研究所	158
6 福澤研究センター	166
7 国際センター	169
8 保健管理センター	192
9 情報処理教育室	194
10 アート・センター	196
11 知的資産センター	197
12 外国語教育研究センター	199
13 グローバルセキュリティ研究所	202

商学部の基本理念・役職者・適用学則

基本理念

本学部は、福澤諭吉の実学の精神を「商学」の分野において継承し、現代社会の進歩と変革に対応して、つねに新鮮にして活力のある学部であることをめざす。

1. 本学部は、広い視野と創造的思考をもって、現代の産業社会を商学の理論と実証を通して把握し、その方向を洞察することを、研究と教育の基本とする。
2. 教育にあたっては、経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想をもってつねに新しい課題に取り組み、体得した科学的方法と商学の専門知識を積極的に問題解決に適用できる人材の育成をめざす。
3. 本学部は、このような知的教育にとどまらず、教員と学生の人間的接触を重視し、個性の伸長をはかり、意欲的で国際性豊かな、活力ある人間の形成をめざす。
4. 「商学」の核を、経営学・会計学・商業学・経済学および産業経済論とする。
5. 本学部は、これらの実現のために、独自の研究教育体制とカリキュラムの有機的編成をはかる。

役職者

学 部 長：清家 篤

学習指導主任（三田）：菊澤 研宗 研究室 423 号室（内線 23173）e-mail:kikuzawa@fbc.keio.ac.jp

オフィスアワー：木曜日13：30～15：00

学習指導副主任（三田）：小野 晃典 研究室 416 号室（内線 23800）e-mail:akinori@fbc.keio.ac.jp

オフィスアワー：月曜日12：15～13：00

学習指導に相談のある場合には、授業期間中にオフィスアワーを利用してください。予約は不要ですが、研究室棟 1 階の内線電話で連絡をしたうえで訪問してください。休業期間中はメールにて連絡を取り、日程の調整をしてください。

【重要】適用学則

商学部では、2005 年度より新カリキュラムが導入されました。

入学年度と入学形態ごとに適用される学則は以下のとおりです。適用される学則を必ず確認してください。

	2004 年度以前	2005 年度	2006 年度	2007 年度以降
1 年入学	99学則	05学則	05学則	05学則
2 年編入学	99学則	99学則	05学則	05学則
3 年学士入学	99学則	99学則	99学則	05学則

本冊子の「履修要項」部分は適用される学則によりページが分かれています。十分注意してください。

専攻課程に学ぶ諸君へ

2年間の日吉での課程を終えた諸君は、これからいよいよ商学部の専門科目を履修することになる。商学部では従来から日吉と三田での教育の連続性と一貫性という点を考慮してカリキュラムの編成を行い、何度かの改定をも試みてきた。こうした改定の結果、日吉のカリキュラムにおいても専門科目の基礎や入門的な科目が設置され、また三田にも教養科目に属するものが設けられている。

こうしたカリキュラム編成が試みられているのは、商学部の教育目的として、諸君らが幅広い知識と教養をそなえ、次代を担う知識人になってほしいという願いがあることと、一方で諸君らにできるだけ早く商学部の主要な学問分野の内容に接してもらい、商学部がどのような研究教育をする学部であるのかを理解する糸口になればという意図からである。三田におかれている教養科目についても同様の趣旨をもっており、三田で専門的な分野を学んでゆくなかで、基礎的な分野の学習の必要性を改めて認識した諸君のために履修可能なようにという意味から設けられている。また今日では、「地球環境問題」や「技術革新に関連する問題」のように、複合的な専門分野からのアプローチによって、はじめて問題の本質を把握できるものが増えている。商学部では、ある一定の条件をみたせば、このような複合的なアプローチによる大学院の科目も履修することができ、高度な専門知識を習得することもできる。

こうした三田、日吉の教育の連続性と一貫性を考慮に入れたカリキュラムではあるが、その中心をなしているのが商学であり、それは商業学、会計学、経営学の3分野から構成されている。しかし、こうした3つの専門分野についての学習をし、各々の分野についてその内容を理解するためには、産業・経済についての知識が当然のことながら必要とされる。そのために商業学、会計学、経営学の3分野に加え、産業・経済分野を合わせた4つの専門分野が商学部の専攻課程の中核にあるものと考え、それらがその他関連分野と有機的・体系的に組み合わせられたものが、商学部のカリキュラムの特徴である。諸君には、カリキュラム編成の意図を十分に理解し、広い視点から自らの問題発見と分析を深化させてほしいものと期待している。

とくに、近年のわれわれの存在する経済社会は激しく変化しており、社会からの大学や諸君へのニーズが変化する兆しを見せつつある。こうした状況のもとで、大学生活の後半である2年間の専攻課程をどう過ごすかということが、従来にも増して重要になってきているといえよう。三田での最初の1年間に、すでに述べたように、できるだけ幅広い視野を身につけ、そうした視点から社会で起こっている諸問題を見据え、深く分析してゆくという努力がなされなければならないといえる。時代の変化は、既存知識の適応能力の限界を示し、新たな知識の構築を要請してくるようになるであろう。そのためには、現実や既存の知識や社会の仕組みを批判的に検討するような姿勢を作る努力が必要になってくるといえる。

三田での2年間の生活のなかで、諸君らの自身の視点、考え方を確立し、そのような立場から多様な社会問題を分析するような努力をされ、次代を担う豊かな知識人に成長されんことを願ってやまない。

学部長 清家 篤
学習指導主任(三田) 菊澤 研宗

三田キャンパスガイド

主な事務室と事務取扱時間

事務室	主な業務	事務取扱時間	場 所
学事センター	履修・授業・成績	授業期間中 平日 8:45～16:45 休業期間中の 11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 大学院校舎1階
学生総合センター	学生生活・奨学金・就職		5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 仮設A棟
	学生相談	平日 9:30～11:30 / 12:30～16:30	西校舎地下2階
国際センター	留学	授業期間中 平日 8:45～16:45 休業期間中の 11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎1階 5月下旬以後 仮設A棟
教職課程センター	教職課程		南館地下1階
保健管理センター	健康診断・ヘルスケア	平日 8:45～11:30/13:00～16:15	北館1階
三田 ITC	keio.jp, PC 関連	授業期間中 平日 8:45～18:15 休業期間中は 8:45～17:00	大学院校舎地下1階

南校舎の建て替え工事に伴い、学事センターと学生総合センター、国際センターの事務室はそれぞれ5月下旬までに移転する予定です。詳細は掲示とホームページで適時お知らせします。

土曜、日曜、祝日、大学が定める休日および大学の事務一斉休業期間（三田）は閉室します。

大学が定める休日 …… 1月10日（福澤先生誕生記念日）、4月23日（開校記念日）

大学の事務一斉休業期間（三田） …… 8月中旬および年末年始

変更等は適時ホームページ「塾生の皆様へ」でお知らせします。

振鈴表

時 限	授業期間	定期試験期間		追加試験期間	
	三田・日吉	三田	日吉	三田	日吉
第1時限	9:00～10:30	9:00～10:30	9:30～10:30	9:00～10:20	9:30～10:30
第2時限	10:45～12:15	10:45～12:15	10:50～11:50	10:30～11:50	10:50～11:50
第3時限	13:00～14:30	13:00～14:30	12:50～13:50	12:30～13:50	12:50～13:50
第4時限	14:45～16:15	14:45～16:15	14:10～15:10	14:00～15:20	14:10～15:10
第5時限	16:30～18:00	16:30～18:00	15:30～16:30	15:30～16:50	15:30～16:30
第6時限	18:10～19:40	18:15～19:45	16:50～17:50	17:00～18:20	16:50～17:50

掲示板

掲示板は西校舎正面入口と西校舎地下1階、地下2階にあります。他学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している学部の掲示板を確認してください。他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については、「共通」掲示板を確認してください。研究会に関する掲示は、西校舎501番教室後方入口前の掲示板を利用してください。掲示内容の一部については学事 Web システム、塾生ページでも確認できます。

学事センター（三田商学部担当）からのお知らせ：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/sho/index.html>

校舎と教室番号

第一校舎	大学院校舎	西校舎	南 館	南別館	仮設教室
101～147	313, 321-A～375-C	501～545 西校舎ホール	2B11～2B42	621～672	K 11

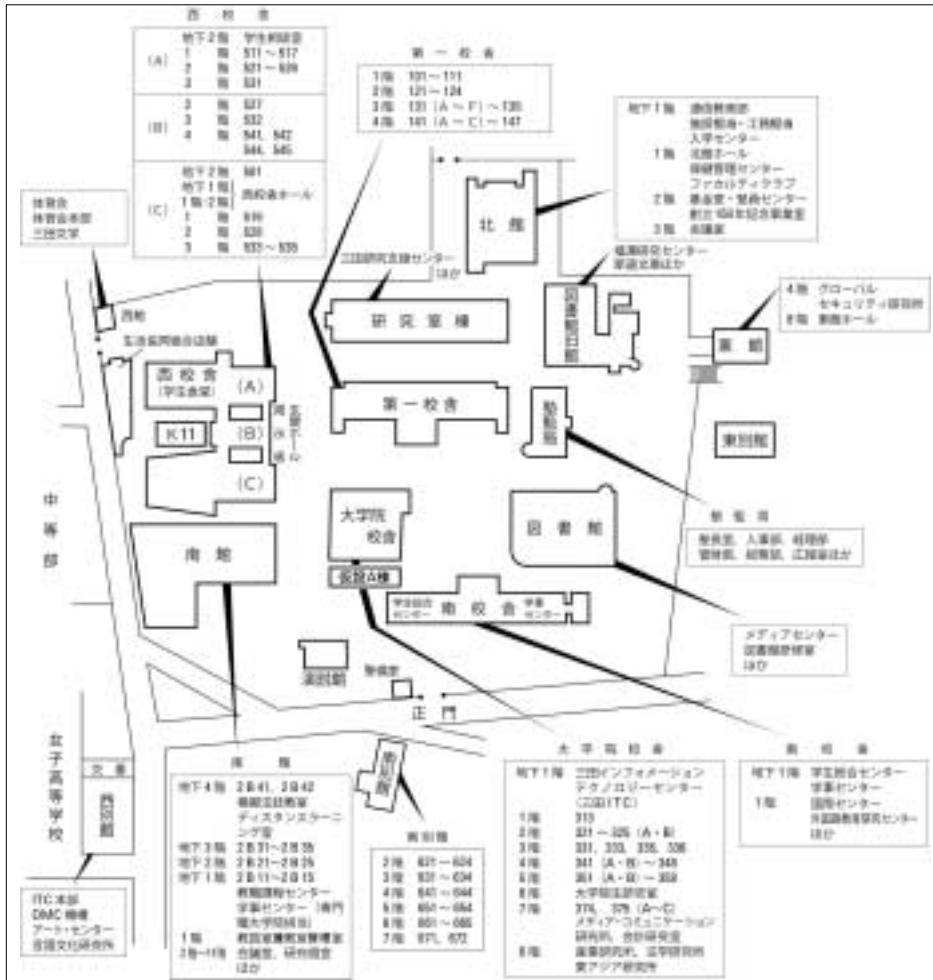
「仮設教室」は、「西校舎」地下2階の出口近辺に建設し、2009年4月に竣工する予定です。

「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にありますが、時間には十分な余裕をもって移動してください。信号待ち、混雑状況等によっては、定刻に間に合わないことも考えられます。

三田キャンパスマップ（2009年4月現在）

「南校舎」は、2009年の5月下旬以降に建て替え工事に入る予定です。建て替え工事期間中の代替教室や各事務室の移転先等について、掲示やHPで確認をしてください。

「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にあります。信号待ちのある国道を横断しなくてはなりません。



その他

(1) PC アカウント・パスワード

三田キャンパス内の PC を利用するためには、新たに三田 ITC でアカウントとパスワードを作成する必要があります。日吉のアカウントとパスワードでログインすることはできません。

(2) PC を利用できる場所

PC は第一校舎、大学院校舎、メディアセンター、南館図書室、東館等に設置されています。

(3) 証明書自動発行機

証明書自動発行機は学事センター内に 1 台、南校舎中庭側に 3 台設置されています。ただし、南校舎建て替え工事の開始にあわせて、いずれも設置場所を移転します。掲示やホームページで確認してください。

(4) コピー

コピーは生協購買部、生協食堂、メディアセンター等で行うことができます。

(5) 食堂

三田キャンパス内には、西校舎に「山食(やましよく)」と「生協食堂」の 2 つの食堂があります。

第1

学事関連スケジュール(三田)

2009年
4月

授業期間

休業期間

休日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
諸研究所ガイダンスの詳細は後述 下旬 定期健康診断			成績証明書発行開始(12:30)		入学式	
ガイダンス期間(1日~7日)						
5	6	7	8	9	10	11
商学部第3学年ガイダンス (10:00 西校舎ホール)			学事WebシステムPW変更 締切(学事センター提出)		春学期授業開始	
ガイダンス期間			Web履修申告期間(10日16:00~16日10:00)			
12	13	14	15	16	17	18
				履修申告用紙による 履修申告(8:45~10:00)		
19	20	21	22	23	24	25
				開校記念日		
26	27	28	29	30		
			昭和の日	授業料等納入期限 (全納または春学期分納)		

5月

上旬 履修申告科目確認表送付(本人宛) 上旬 定期健康診断							1	2
3	4	5	6	7	8	9		
憲法記念日	みどりの日	こどもの日	振替休日	4年生用卒業見込証明書 発行開始	履修申告修正期間(7日~11日予定)			
10	11	12	13	14	15	16		
17	18	19	20	21	22	23		
24	25	26	27	28	29	30		早慶野球戦(予定)
31								

6月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

諸研究所ガイダンス日程

情報処理教育室ガイダンス	4月3日(金)10時45分	515番教室
福澤研究センターガイダンス	4月3日(金)13時00分	513番教室
斯道文庫ガイダンス	4月6日(月)10時45分	512番教室
国際センター在外研修プログラムガイダンス	4月6日(月)10時45分	526番教室
グローバルセキュリティ研究所ガイダンス	4月6日(月)12時15分	515番教室
教職課程ガイダンス(新規登録者)	4月6日(月)13時00分	519番教室
外国語教育研究センターガイダンス	4月6日(月)13時00分	531番教室
教育実習事前指導(今年度実習予定者)	4月6日(月)14時45分	519番教室
教職課程ガイダンス(学校教育学コース)	4月6日(月)16時30分	514番教室
体育研究所ガイダンス	4月7日(火)9時00分・10時45分	512番教室
言語文化研究所ガイダンス	4月7日(火)12時20分	522番教室

7月

「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
上旬 春学期末定期試験時間割発表 上旬 春学期末追加試験申込受付			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
				補講日		
12	13	14	15	16	17	18
		春学期授業終了	春学期末定期試験(16日~27日予定)			
19	20	21	22	23	24	25
海の日	→					
26	27	28	29	30	31	
→	夏季休業(～9月23日)					

8月

						1
2	3	4	5	6	7	8
		春学期末追加試験(予定)	春学期末追加試験(予定)			
9	10	11	12	13	14	15
三田キャンパス一斉休業(9日~15日)						
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

上旬 春学期学業成績表送付(保証人宛)		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
敬老の日	国民の休日	秋分の日	ガイダンス	秋学期授業開始		
27	28	29	30			

10月

授業期間

休業期間

休日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 体育の日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30 授業料等納入期限(秋学期分納)	31 早慶野球戦(予定)

11月

「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

1	2	3 文化の日	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18 補講日(午前) 三田祭準備(午後)	19 三田祭準備	20 三田祭	21 三田祭
22 三田祭	23 勤労感謝の日 三田祭	24 三田祭片付け	25	26	27	28
29	30 休学願提出期限(今年度分)					

12月

		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23 天皇誕生日 冬季休業(～1月5日)	24	25	26
27	28	29	30	31		

三田キャンパス一斉休業(29日～1月5日) 

2010年
1月

「月曜代替講義日」には実際の曜日にかかわらず月曜日として授業が行われます。
「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
					1 元日	2
上旬 秋学期末定期試験時間割発表 上旬 秋学期末追加試験申込受付						
3	4	5	6	7	8	9
授業開始						
10 福澤先生誕生日	11 成人の日	12	13	14	15 月曜代替講義日	16
17	18	19 補講日 秋学期授業終了	20	21	22	23
秋学期末定期試験(21日~2月3日予定)						
24	25	26	27	28	29	30
31						

2月

	1	2	3 福澤先生生日	4	5	6
7	8	9	10	11 建国記念の日	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	上旬~3月下旬 春季休業 下旬 秋学期末追加試験(予定)					

3月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10 卒業生発表	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21 春分の日	22 振替休日	23 卒業式	24	25	26	27
28	29	30	31	中旬 学業成績表送付(保証人宛)		

第2 学籍（休学・留学・退学）

1 休学

(1) 休学願

「休学願」提出期限：当該年度の11月末日の事務取扱日

休学希望者は、期限までに学習指導と面接し、所定の「休学願」に学習指導の承認印を受け、三田学事センターに提出してください。

病気・怪我を理由に休学をする場合は、医師の診断書が必要です。

休学期間は当該年度末（3月31日）までとなります。休学が次の年度に及ぶ場合はあらかじめ「休学願」を提出してください。

(2) 就学届

休学期間が終了し、再び学業に戻る場合は、速やかに所定の「就学届」を提出してください。

病気・怪我を理由に休学をしていた場合は、医師の診断書が必要です。

2 留学

(1) 国外留学申請

教授会において適正と認められた海外の大学で、正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合に留学が許可されます。語学研修等は留学に該当せず、休学の対象になります。

留学を希望する場合は、あらかじめ三田学事センターで確認・相談のうえ必要書類を用意し、所定の「国外留学申請書」を三田学事センターに提出してください。また、学習指導と面接し、教授会での承認も必要です。これらを含めて出発の1ヶ月前までに済ませてください。

その他留学に関する詳細については「海外の教育機関に留学する場合の取扱い」を参照してください。

(2) 就学届

留学期間が終了し再び学業に戻る場合は、速やかに所定の「就学届」を提出してください。

(3) 留学に伴う単位認定

30単位を超えない範囲で慶應義塾大学での履修単位として認定することがあります。認定を希望する場合は、「就学届」の提出とあわせて、所定の「留学に伴う単位申請書」と留学先での成績証明書、講義要綱を用意して三田学事センターで確認・相談をしてください。

3 退学

(1) 自主退学

事情により退学をする場合は、所定の「退学届」を三田学事センターに提出し、学生証を返却してください。

「退学届」には、退学の具体的理由、保証人連署、本人および保証人の捺印が必要です（本人と保証人は異なる印を使用してください）。

(2) 退学処分

4年間で第3学年に進級し得ない者および第3・4学年併せて4年間在学し卒業し得ない者は学則第156条により退学処分となります。

大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められたとき、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できないときなどには学則第188条により退学処分となります。

海外の教育機関に留学する場合の取扱い

在学中に留学を希望する場合、学籍は「留学」と「休学」に分けられます。

	留 学	休 学
種類	「交換留学」「奨学金による留学」「私費留学」の3種類。いずれの場合も、教授会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）のみ「留学」として認められる。	語学研修やその他左記の留学として認定されない場合。
期間	対象期間 「留学」の開始日から最長1年間まで。 年度途中で開始し、年度途中で終了することが可能。 [例] 2009.9.22～2010.9.21	提出年度の4月1日から年度末日（翌年3月31日）までの1年間。休学開始日にかかわらず、当該年度はすべて休学扱いとなる。 申請期日はその年度の11月末日の事務取扱日まで。
	延長 1回まで可能。最長で留学開始日から2年間まで。3年目以降は「休学」。希望する場合は所定の「国外留学申請書」の再提出が必要。	年度をまたいで休学する場合、新年度に「休学願」の再提出が必要。
学費・渡航費	学費減免措置 1年目：私費留学の場合、留学により在学しなかった学期の属する年度の授業料と実験実習費の年額の4分の1を各学期において免除される場合あり。	減免制度なし。
	補給費 「交換留学」または「奨学金による留学」の場合は渡航費が補助される場合あり。窓口は国際センター。	渡航費補助制度なし。
単位取得・認定	留学期間をはさむ履修 年度途中から留学する場合、留学前に履修申請した科目を留学後に継続履修し、単位取得することが可能。ただし、同一科目同一担当者であることが条件（留学前に科目担当者に留学後に継続履修する意志があることを伝えておく必要あり）。研究会の扱いについては、事前に学事センターに相談・要確認。なお、体育実技は、履修登録が学期開始日前で、履修定員に余裕があり、健康診断証明書を持参した場合のみ継続履修可能。	休学開始日にかかわらず、当該年度の1年間はすべて休学扱いとなるため、年度途中から休学する場合、履修申請した科目はすべて削除となる。 [例] 秋学期から休学をしても、春学期終了科目など既に取得した当該年度の単位はすべて削除。
	留学先で取得した単位 30単位を超えない範囲で、慶應義塾大学の単位として認定される場合あり。認定希望の場合は、帰国後速やかに学事センターに申し出、「就学届」提出時に要申請。認定対象科目は専門教育科目・語学科目。総合教育科目は対象外。また、既取得科目と同一科目名での認定は不可。希望する科目が認められないこともあり。認定の結果、認定された単位と履修申請した単位の合計が履修上限単位を超過してもそのまま履修可能。ただし、認定科目と同一名称科目の履修申請は不可。	単位認定なし。
在学年数への算入	進級・卒業 1年間に限り留学期間が慶應義塾大学の在学年数に算入され、遡及して進級できる場合あり。ただし、遡及卒業は不可。 [例] 第3学年夏から留学し、1年後帰国した場合、在学年数への算入が認められ、進級諸条件を満たしていれば第4学年への遡及進級となり、その年度末に卒業することが可能。第4学年夏に留学し、1年後帰国した場合、再度第4学年に在籍することになる（卒業は帰国年度の年度末）。 [第3学年で留学した場合の遡及進級の条件] 第4学年への遡及進級を希望する場合、次の合計で進級所要単位数を満たす必要あり。 留学前に第3学年で履修し取得した単位 留学先で取得した単位で帰国後に認定された単位 研究会の扱いについては学事センターにて要確認。 なお、認定単位により帰国年度末の進級・卒業を希望する場合は、1月末の事務取扱日が申請期日。	在学年数への算入は不可。休学終了後は原級にとどまる。

注意 TOEFL, GRE, GMAT 等受験の際、身分証明書としてパスポートが必要になります。

留学は二重学籍を認めるものではありませんので、学籍について次の点に注意してください。

慶應義塾大学で取得した単位を外国大学に振り替えた場合（Transfer）その単位は慶應義塾大学から抹消される。

外国大学で学位を取得せずに帰国する場合、により抹消した単位は慶應義塾大学での単位として認定し、外国大学で取得した単位も慶應義塾大学に振り替え（Transfer）する場合がある。

外国大学で学位を取得した場合、外国大学に振り替えた単位と取得した単位は、ともに外国大学で取得した単位として扱う。

なお、上記のことについて確認するために、帰国後に成績証明書の提出を求めることがあります。

第3 学生証・諸届・証明書

1 学生証

学生証は本大学学生であることを証明する身分証明書です。様々な場面で必要になるので常に携帯してください。

(1) 再交付

学生証または学生証裏面シールを紛失、汚損した場合は、速やかに三田学事センターで再交付を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類 (所定用紙 は学事センターにあります)

証明書用写真 (縦 4cm 横 3cm, カラー光沢仕上げ, 脱帽, 上半身正面, 背景なし 3 ヶ月以内に撮影されたもの), 2,000円 (証紙 証紙は学事センター内の券売機で販売しています), 学生証再交付願 所定用紙

(2) 学生証の返却

再交付を受けた後に前の学生証が見つかった場合、また、退学・卒業等で離籍した場合はただちに三田学事センターへ返却してください。

(3) 国際学生証

国際学生証については生協事務室に問い合わせてください。(TEL : 03 3455 6651)

2 住所変更 (本人・保証人)

住所 (本人・保証人) を変更した場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。住居表示・地番変更の場合も届け出てください。本人の住所変更の場合、学生証裏面シールの記載事項変更も同時に行い、窓口で証明印を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類 (所定用紙 は学事センターにあります)

学生証, 在学カード 所定用紙

3 保証人変更

保証人を変更する場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。保証人は日本国内に居住し一家計を立てている成年者で、本人の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者とし、父または母としてください。父母が保証人となり得ない場合は、兄、姉、伯父、伯母等後見人またはこれに準ずる方としてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類 (所定用紙 は学事センターにあります)

学生証, 保証人変更届 所定用紙, 在学カード 所定用紙, 誓約書 (本人・新保証人押印) 所定用紙, 新保証人の住民票

4 改姓・改名

改姓・改名をした場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。届出後、履修中の科目担当者に必ずその旨申し出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類 (所定用紙 は学事センターにあります)

学生証, 改姓(名)届 所定用紙, 在学カード 所定用紙, 誓約書 (本人・保証人押印) 所定用紙, 学生証再交付願 (写真貼付 縦 4cm 横 3cm, カラー光沢仕上げ, 脱帽, 上半身正面, 背景なし 3 ヶ月以内に撮影されたもの, 手数料不要) 所定用紙, 新姓名の戸籍抄本

5 国籍変更

国籍を変更した場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類

学生証, 戸籍謄本 (コピーでも可), 住民票

6 通学区間の変更

住所変更等に伴い学生証裏面に記入している通学区間を変更する場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

通学定期券の発売区間は「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。なお、通学区間が適正でない場合は、通学定期券の発売が停止されます。

必要書類

学生証

7 証明書（成績証明書・学割証等）

(1) 証明書自動発行機

設置場所と利用時間（他キャンパス（日吉・矢上・藤沢・芝共立）に設置されている発行機も利用できます。）

南校舎1階（中庭側） 月～土 9:00 20:00 授業・定期試験のない土曜日は利用できません。

学事センター内 月～金 8:45 16:45 授業・定期試験のない日は8:45 11:30 / 12:30 16:45

5月下旬からの南校舎建て替え工事に伴う設置場所の移転先情報や、メンテナンス・故障等による利用停止情報は、適時HP等でお知らせします。http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shoumei/index.html

(2) 証明書の厳封

厳封を希望する場合は窓口で申し込んでください。発行済みの証明書を後から厳封することはできません。

なお、厳封には手数料はかかりませんが、発行する証明書の枚数分の手料は必要です。

(3) 代理人による申請

代理人による証明書の申請は、学生本人が大学に行くことが困難な場合（留学中、入院中等）に限り受け付けます。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類

本人の学生証の写し、委任状、代理人の身分証明書

委任状には特に所定の書式はありませんが、例を参照のうえ、学生本人の意思が確認できるように作成してください。

[例] 委任状

私「(本人氏名)」は、「(代理人氏名)」に、証明書の申込みと受け取りを一任します。

20x x年 月 日・本人署名・捺印

身分証明書とは、慶應義塾大学学生証、免許証、パスポート、健康保険証、外国人登録証明書、住民基本台帳カード（写真付のもの）を原則とします。社員証、他大学学生証等は受け付けません。

(4) 証明書一覧

証明書	言語	手数料	発行場所	発行日数	発行開始日	備 考
在学証明書	和文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
	英文					
成績証明書	和文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
	英文					
卒業見込証明書	和文	200円	自動発行機	即日	5月7日	4年生のみ発行されます。
卒業見込付成績証明書	和文	400円	自動発行機	即日	5月7日	4年生のみ発行されます。
履修科目証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月1日	
	英文	200円	窓口	即日		
健康診断証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月中旬	受診した年度の年度末まで発行されます。
	英文					
学割証	和文	無料	自動発行機	即日	4月1日	定期健康診断を未受診の場合は発行できません。1人1日10枚まで発行できます。
通学証明書	和文	無料	窓口	即日		学生証で購入できない区間またはバスを利用する際に必要な証明書です。
旧司法試験受験用単位取得証明書	和文	200円	窓口	数日 ^(注)		旧司法試験一次試験免除用の証明書です。発行スケジュールは適時掲示板でお知らせします。
各種資格試験等受験用単位取得証明書	和文	200円	窓口	数日 ^(注)		
提出先所定の用紙(リクエストフォーム)に証明を要するもの	和文	200円	窓口	数日 ^(注)		

(注) 発行までに時間がかかる場合がありますので、余裕をもって申請してください。

証明書発行には学生証が必要です。

2002年度以前の入学者が初めて英文の証明書を発行する場合は、窓口に出してください。

学割証の有効期限は発行日から3ヶ月以内です(有効期間内でも学籍を失った場合は無効)。必要な枚数だけ発行するようにしてください。

特別学割証と団体旅行申込書(団体割引)を発行する場合は、窓口に出してください。

学費未納の場合は、すべての証明書を発行できません。

第4 Webシステム

1 Webシステム概要

インターネットに繋がるパソコンがあれば、各種サービスを利用できます。

「塾生の皆様へ」ホームページ	
URL	http://www.gakuji.keio.ac.jp/
概要	塾生の皆様に向けて各種情報を提供するポータルサイトです。最新のお知らせや各種ホームページのリンク等を提供しています。
主な提供サービス	授業 / 履修 / 試験 ・履修案内 / 講義要綱 / 時間割 (PDF) の公開 / 卒業発表 (学籍番号のみ公開) 等 学生生活 / 進路 ・窓口利用案内 / イベントや奨学金についての情報等

学事 Web システム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/パスワード	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
概要	履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認等ができます。学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知した学事 Web パスワードが必要です。パスワードを忘れた場合は学事センターにお問い合わせください。
主な提供サービス	履修申告 時間割や登録番号から科目を選択し履修申告を行うシステムです。履修申告期間に何度でも申告内容の修正が行えます。受付期間中に時間割が変更する場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要があれば締め切りまでに申告の修正を行ってください。 履修確認 一定の期間に履修中科目の一覧を表示します。ただし、表示される履修中科目は暫定的な内容となります。最終的な履修科目は、履修申告科目確認表で確認してください。 休講・補講 休講・補講のある授業の一覧が表示されます。携帯端末からも利用できます。ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、直前にも掲示板を確認するようにしてください。 連絡・呼出 事務室からのお知らせやキャンパスの掲示板に掲示される呼出がある場合は、学事 Web システムにログインした直後にメッセージが表示されます。連絡・呼出は、携帯端末からのログイン時にも表示されます。

Web エントリーシステム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/パスワード	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
概要	各種の申込み (エントリー) を行うシステムです。 ログインには学事 Web システムと同じ学籍番号/学事 Web パスワードを利用します。パスワードを忘れた場合は学生証持参のうえ、学事センター窓口までお越しください。
主な提供サービス	抽選エントリー 事前抽選が必要な科目の抽選申込み (エントリー) を行うシステムです。ただし、科目によっては Web を使わずにエントリーシートを窓口に提出する場合があります。また、受付期間が科目ごとに異なります。

keio.jp (共通認証システム)	
URL	http://keio.jp/
ID/パスワード	慶應 ID / パスワード
マニュアル	http://keiojp.itc.keio.ac.jp/
概要	共通の ID (慶應 ID) で様々なサービスを提供するためのシステムです。利用するには、慶應 ID の取得 (アクティベーション) が必要です。また、一部のサービスでは、厳密に個人認証を行うために第 2 パスワードとして学事 Web パスワードが必要となる場合もあります。
主な提供サービス	<p>学業成績表閲覧 学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 保証人へ郵送した学業成績表の原本から、個人を特定できる項目を除いた学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は、学部・研究科、学年等で異なります。詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。</p> <p>健診結果お知らせ 学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 当該年度に受診した学生のみ健康診断の結果の閲覧ができます。閲覧開始時期は健診受診時にお知らせします。結果についての質問等は保健管理センターにお問い合わせください。</p> <p>就職・進路支援システム 進路希望、進路届、就職体験記、求人票等</p> <p>その他 ・慶應メール/教育支援システム等 (詳しくは上記のマニュアルページでご確認ください)</p>
慶應 ID 取得	<p>慶應 ID を取得していない方は「アクティベーション」を行ってください。その際に個人認証として学籍番号と学事 Web パスワードが必要です。詳細は、以下を参照してください。</p> <p>http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html</p> <p>アクティベーションは 1 度しかできません。慶應 ID や設定したパスワードを忘れてしまった場合は、各キャンパスの ITC 窓口にお問い合わせください。</p>

2 Web システム操作上の注意

- (1) 複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。
- (2) Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- (3) Web システムへログインしたまま長時間画面の前から離れた際に他人に悪用されないようにする等のセキュリティ上の目的で、長時間同じ画面が表示された場合は、次の画面には進めないようになっています。そのような場合は、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。
- (4) 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- (5) Web システムは、推奨された環境ではない場合や各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わない場合は、ログインできないことがあります。推奨環境、設定方法、操作方法については、各 Web システムのマニュアルを参照してください。

3 パスワード再発行

各 Web システムのパスワード再発行窓口は以下のとおりです。

	ログイン ID	ログインパスワード	再発行窓口	必要書類
学事 Web システム	学籍番号	学事 Web システムパスワード	学事センター	学生証
Web エントリーシステム	学籍番号	学事 Web システムパスワード	学事センター	学生証
keio.jp (共通認証システム)	慶應 ID	keio.jp パスワード	三田 ITC	学生証・慶應 ID
塾生の皆様へ	不要	不要		
三田キャンパス内の PC を利用するための ID およびパスワードは三田 ITC で再発行できます。				

第5 履修・授業・成績

1 履修申告

(1) 履修申告方法

学事 Web システムによる申告期間 4月10日(金)16:00 ~ 4月16日(木)10:00

学事 Web システム URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

操作方法・注意は学事 Web システムのオンラインマニュアルを参照してください。

履修申告期間前

- a 最新の学業成績表で、すでに取得している科目・単位を確認し、本項や「第8・9 履修要項」の項を正確に理解し、「講義要綱・シラバス」等本冊子の各部を参照のうえ、今年度の履修計画をたててください。なお、学業成績表は保証人宛に送付しています。
- b 履修者数の事前調整（抽選）がある科目の情報入手や、諸研究所（国際センターや情報処理教育室等）のガイダンスに参加する等、個別にも事前手続を把握しておいてください。なお、諸研究所のガイダンス日程は「第2 学事関連スケジュール（三田）」の項を参照してください。
- c 履修に関する疑問点その他を学習指導と、または学事センターで確認しておいてください。なお、窓口でよく受ける質問については、「第8・9 履修要項」の項、特に「3 履修上の注意」を読むことでほとんどが解決できます。
- d 住所等が変わっている場合は、「第3 学生証・諸届・証明書」の項を参照し、「住所変更届」等を提出してください。履修・卒業・進級等にかかわる連絡は、大学に届け出のある住所に郵送します。

履修申告期間中

- a 学事 Web システムにより履修申告をしてください。
期間最終日に初めて申告するのではなく、期間中の早い時期に申告してください。期間中は何度でも申告内容の修正ができます。なお、毎日午前4時から1時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止します。
- b 時間割が変更すること等がありますので、随時掲示版等で最新の情報を確認してください。
登録していない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。
期日までに履修申告をしない場合は、修学の意志がないものとして退学処分になります。（学則第188条）
やむを得ない理由がある場合は、Web によらずに履修申告をすることができます。本項の「履修申告用紙による履修申告」を参照してください。

履修申告期間後

- a 履修の変更・追加・取消は認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録科目の一覧画面を印刷し、時間割とともに控えとして保管してください。
- b 5月上旬に、「履修申告科目確認表」（申告した科目のリスト）を、大学に届出のある本人の住所宛に郵送します。登録エラーや科目間違い等の有無を確認のうえ、修正期間中に学事センター窓口申し出て修正を行ってください。
- c 修正期間は掲示で案内します（送付後約一週間の予定）。この期間経過後は本年度の履修確認が終了したものとみなし、履修内容は確定されます。以上を怠ったために生じた問題（申告漏れ、科目間違い等により、結果として進級・卒業単位不足となる、住所変更届が未提出であったために確認表が届かない等）について大学は一切責任を持ちません。

(2) 科目の登録方法

授業科目名、担当者名と登録番号（5桁）を確認してください。

1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。集中講義や実験を伴う科目等、曜日・時限が複数にわたって開講している授業科目についても、登録番号は1つだけです。その登録番号を1つ登録することで他の時限についても登録されます。この場合、どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできません。

商学部設置科目のうち、他学部・諸研究所と併設している科目については、必ず商学部の設置科目を履修しなければなりません。商学部の時間割で登録番号を確認してください。

履修科目により、登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合（「A欄」申告）と、各自分野を選択しなければならない場合（「B欄」申告）があります。詳細は「第8・9 履修要項」の項を参照してください。

(3) 履修申告用紙による履修申告

やむを得ない理由で Web による履修申告が行えない場合には、用紙によって履修申告をしてください。学事 Web システムによる申告と併用はできません（すべての科目をどちらか一方の方法により申告してください）。履修申告用紙による申告日は、4月16日(木)8:45～10:00です。希望者は以下の注意事項をすべて把握したうえで学事センターに所定の申告用紙の入手を申し出てください。

HB か B の鉛筆を使用してください。

学籍等の記入方法

学部、学年、組、氏名、学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。

A 欄記入上の注意事項

- a 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を で囲み、曜日・時限を記入します。
- b 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入します。
- c 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し、マークします。

B 欄記入上の注意事項

- a 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を で囲み、曜日・時限を記入します。
 - b 科目名・教員名を記入します。
 - c 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し、マークします。
 - d 分野欄：2 桁の履修申告用 B 欄分野番号を記入し、マークします。
- 「無効マーク」(A 欄・B 欄に共通)にマークすると、その枠内を無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、「無効マーク」を利用してください。

履修申告用紙の再交付について

- a 履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参のうえ、学事センターに申し出てください。
- b 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

2 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室か教員室を訪ねてください。学事センターで仲介等はいりません。メールでアポイントをとる場合は、各学部の Web 上の教員紹介等を参照してください。(http://www.fbc.keio.ac.jp/professorate/index.html)なお、講義要綱・シラバスも参照し、該当授業の訪問ルールに留意してください。

(1) 三田所属専任教員（教授・准教授・専任講師・助教）.....研究室（研究室棟または南館）

(2) 日吉所属専任教員および塾外からの出講者（講師）.....教員室（南館 1 階）

専任教員が講師が不明な場合はシラバス等で確認してください。

3 教室使用申請（三田）

(1) 研究会の教室使用申請

所定の「学内集会届」を窓口に提出し、「申請者控」を後日窓口で受け取ってください。なお、休業期間中の利用申請には、「学内集会届」に研究会担当教員の捺印が必要です。

使用不可能期間	土曜・日曜・祝日、大学が定めた休日、定期試験期間中
受付窓口	三田学事センター教室担当
申込期日	使用希望日の 2 週間前から事務取扱日換算の前日まで

(2) 公認学生団体の教室使用申請

「第 7 学生総合センター」の項を参照してください。

(3) 外部団体の教室使用申請

詳細は管財部管財担当に問い合わせてください。施設使用費等が必要となります。

他地区の教室利用については、各地区で申請方法等を確認してください。

4 AV 機器の鍵・機材の貸出

貸出窓口 教員室（南館 1 階）
休業期間中は学事センターが窓口
手続 学生証提示

5 緊急時における授業の取扱い

政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合や、各種自然災害・大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態が発生した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

(1) 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合は、ただちに全学休校とします。なお、地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応については、ホームページ等を通じてお知らせします。

(2) 鉄道等交通機関の運行停止やその他緊急事態発生の場合

台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休講措置をとらざるを得ない場合はホームページ等を通じてお知らせします。

URL <http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

その他の注意事項

授業開始後に緊急事態が発生した場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。

掲示や構内放送、上記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

6 早慶野球戦時における授業の取扱い

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします。雨天中止による延期や、同点終了による3回戦以降もこれに準じます。試合結果は、東京6大学野球連盟オフィシャルサイトで確認してください。

URL <http://www.big6.gr.jp/>

雨天等による当日試合中止の判断は、明治神宮野球場（神宮球場）の判断によります。

神宮テレフォンサービス：TEL 03 3236 8000

7 成績

(1) 成績評語

所定の授業に出席し評価試験（定期試験またはレポート）を受けた後に評語が決まります。学業成績の評語はA・B・C・Dの4種で示すことを基本とし、A・B・Cを合格、Dを不合格とします。ただし、特定の科目は、評語をP・Fの2種とし、この場合、Pを合格、Fを不合格とします。さらに、他大学等で履修した科目をA・B・CまたはPの評語を用いずに認定する場合は、これをGとします。

(2) 学業成績表

学業成績表を保証人宛に郵送します。春学期終了科目については9月中旬に、通年科目や秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については3月中旬に発送します。学業成績表はいかなる事情があっても再発行しません。また、事前、事後の成績照会は一切受け付けません。

(3) Web 閲覧

特定期間内に学業成績表をWebで閲覧可能です。利用にあたっては「keio.jp」のID・パスワードおよび「学事Webシステム」のパスワードが必要です。閲覧期間等の詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。なお、パスワードの再発行等、Webシステムの利用案内については、「第4 Webシステム」の項を参照してください。

(4) 学業成績証明書

学業成績証明書を発行する時期は翌年度以降（4月以降）です。ただし、卒業発表後、卒業決定者については事前申請により卒業式の日以降に発行します。詳細は1月に掲示します。卒業式の日程については、「第1 学事関連スケジュール（三田）」の項を参照してください。

8 成績質問制度

履修した科目の成績評語に対して、確固たる根拠をもって問い合わせたいと考える場合は、質問制度を利用してください。申請日程等の詳細は掲示で案内します。申請日を過ぎたものは一切受け付けません。なお、この制度を利用せずに、メールやその他の方法で授業担当者に直接問い合わせることはできません。この場合は不正行為とみなされ、学則第188条および商学部内規により厳しく処罰されます。

第6 試験

1 試験の種類

(1) 定期試験

定期試験は春学期末と秋学期末に実施されます。日程は「第1 学事関連スケジュール(三田)」の項を参照してください。

定期試験時間割, 持ち込み指示, 受験に関する注意事項等の詳細を掲示で必ず確認してください。

定期試験・追加試験の URL : <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shiken/index.html>

定期試験に関する注意

a 学生証

- (a) 学生証を必ず携帯し, 提示してください。
- (b) 試験当日, 万一学生証を携帯しなかった場合は, 学事センターで必ず仮学生証(発行当日に限り全キャンパスで有効, 図書館入館も可)の交付を受けてください。なお, 仮学生証の発行には, 手数料 500 円が必要となります。
- (c) 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- (d) 仮学生証の発行手続により, 試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。また, 追加試験の対象とはなりません。

b 禁止事項

- (a) 2 時限以降は, 前時限の監督者が退室しない限り, 試験場へ入室できません。
- (b) 試験場(教室)を間違えないようにしてください。履修していない科目の試験場へは立ち入らないでください。
- (c) 答えは必ず提出しなければなりません。未提出の場合, 不正行為と判断され, 処分の対象とされます。

c 定期試験の実施時間

- (a) 定期試験の振鈴は授業時の振鈴とは異なります。「三田キャンパスガイド」の項を参照してください。また, 定期試験の振鈴は日吉キャンパスと三田キャンパスで異なりますので注意してください。
- (b) 三田キャンパスの追加試験の振鈴は定期試験の振鈴とは異なります。

d 遅刻

- (a) 試験開始後 20 分までの遅刻の場合は, 試験を受験することができます(試験時間の延長はありません)。ただし, 遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合, 当該試験をそのまま受験するのか, あるいは追加試験の申請をするのかは, 本人の判断に依ります。電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので, 必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。

e 退室

- (a) 試験開始後 20 分間および試験終了前 10 分間は退室を認めません。また, 試験開始後の体調不良等の理由で途中退室する場合は, 追加試験の対象とはなりません。

f その他

- (a) 試験時間割発表時に掲示する注意事項, 持ち込み等は, その都度掲示しますので注意してください。
- (b) 答案用紙の担当者および科目名ならびに氏名・学籍番号の記入事項は, すべて略さず正確に記入してください。記入がない場合は成績はつきません。

定期試験時間割重複の取扱いについて

a 所属キャンパスで時間割が重複した場合，所属キャンパスの学事センターで手続が必要です。

(a) 時間割確認後すぐに学事センターへ申し出てください。

(b) 期日に遅れると受験できません（申し込み期間は掲示します）。

(c) 受験料は不要です。

b 他キャンパスの試験と重複した場合は，いずれかの学事センター窓口で確認してください。

(a) 三田と日吉の試験が重複した場合は，その旨申し出てください。また，矢上，藤沢の各設置科目を追加試験とする場合は，各地区に早急に確認してください。

(2) 授業内試験

随時授業時間内に行われます。

(3) 追加試験

追加試験は，履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等，やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった授業科目に対して行うものです。ただし，外国語科目，演習科目，体育実技，その他定期試験期間中に定期試験を行わず，レポート・平常点・授業内試験等により評価の定まる科目，ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合，その実施の有無を含めて取扱いは当該学部の方針によります。他学部・諸研究所が設置主体である併設科目（総合教育科目「人の尊厳（社会と人権）」，専攻科目「経済統計／経済統計 ・ 」 「法学各論（経済法 ・ ）」「法学各論（租税法 ・ ）」「法学各論（労働法 ・ ）」「経済学史 a・b」）についてもこれに準じます。追加試験の申請には，試験欠席の理由を明示できる医師の診断書（加療期間の明記されたもの），事故の証明書，あるいは学習指導の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は，定期試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は，所定の手続を日吉で行う必要があります。なお，試験場は原則として日吉になります。以上の手続を怠って試験を受けても無効です。なお，定期試験期間中，当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は，追加試験が認められません。

(4) 再試験

商学部学生に対してはその履修する科目がいずれの学部の設置科目であっても再試験は行いません。

2 不正行為

定期試験はもとより、レポート・授業中に行われる小テスト等においても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰り、その他試験監督者からの報告等があった場合には不正行為とされ、学則第 188 条および商学部内規により厳しく処分されます。

レポート・論文の執筆上の注意

レポートや論文の執筆・提出は、定期試験、教場試験と並んで大学での勉学の成果の証となる重要なものです。ところがレポートや論文の書き方のルールを守らないため、不合格になったり、場合によっては不正行為と判定されて処分の対象になったりすることもあります。そこで執筆上の最も重要なポイントを挙げておきます。

1. 自分の意見とそれ以外の部分を明確に分ける。
2. 他人の意見などを引用する場合は必ず出典を挙げる。
3. 文言を引用するときは、誤字も含めて一字一句正確に引用する。
4. 出典の示し方はルールに従う。(下記の文献参照)
5. インターネットからの引用は URL とその取得日を載せる。

これらのルールを守らない場合、剽窃、盗作と判定され、定期試験での不正行為と同様の扱いで処分が行われることがあるので、レポートや論文の執筆にあたっては十分に注意してください。

以下のうち最低 1 点に目を通しておくことを勧めます。出典の示し方の一般的な方法については、これらの参考書で学んでください。

- 木下是雄著 『理科系の作文技術』(中公新書, 1981 年)
[本書は理科系, 文科系を問わず必読]
- 木下是雄著 『レポートの組み立て方』(ちくま学芸文庫, 1994 年)
- 澤田昭夫著 『論文の書き方』(講談社学術文庫, 1977 年)
- 澤田昭夫著 『論文のレトリック』(講談社学術文庫, 1983 年)
- 野口悠紀雄著 『「超」文章法』(中公新書, 2002 年)

3 レポート

レポートを三田学事センターへ提出する場合は以下を厳守してください。

指定された期間に指定された場所へ提出してください。それ以外は受け付けません。

一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

学事センターへ提出を指示された場合は、所定のレポート提出用紙(2枚複写式)に必要事項を記入し、レポートに添付して提出してください(2枚とも)。レポート提出用紙は三田学事センターにあります。

学事センターレポートボックス受付時間(時間厳守)

	受付曜日	受付時間
三田地区	火・水曜日, 木・金曜日	8:45 ~ 16:45

受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。
授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

	授業・定期試験のある時	授業のない時(夏・冬・春季休業中)
日吉地区	月~金曜日 8:45 ~ 16:45	月~金曜日 8:45 ~ 11:30, 12:30 ~ 16:45

授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

第7 学生総合センター

1 窓口案内

(1) 学生生活支援

課外活動，課外教養，奨学金，学生健康保険互助組合等に関することを取り扱っています。

(2) 就職・進路支援

就職・進路相談，OB・OG 情報，就職ガイダンス，求人情報等に関することを取り扱っています。

(3) 学生相談室

さまざまな悩みや相談を受け付けています。

2 学生生活支援

(1) 教室等の使用申請

対象 …… 公認学生団体の会合

使用可能期間 …… 授業期間中のみ使用可能。

ただし，日曜・祝日・大学が定めた休日，定期試験期間中・休業期間中は不可。

使用可能時間 …… 月～金曜日 9:00～20:00

土曜日 9:00～18:00

音楽団体指定時間

月～金曜日 18:10～20:10

土曜日 13:00～18:00

手続 …… 「学内集会届」を学生総合センター受付窓口へ提出

「申請者控」を後日窓口で受け取ってください。

申込期日 …… 使用希望日の2週間前から事務室開室日換算の3日前まで

備考 …… 教室以外に使用できるスペースとして，「学生談話室 A・B」と「音楽練習室」があります。

研究会で使用する場合は「第5 履修・授業・成績」の項を参照してください。

(2) 学生食堂の使用申請

対象 …… 公認学生団体・研究会・教職員・塾員等のパーティー

使用可能期間 …… 日曜・祝日以外

手続 …… 予約後2週間以内に，窓口へ「学内集会届」を提出して正式申込をしてください。

備考 …… 「学内集会届」が提出されなかった場合，予約が取り消されます。食事の内容等については「学内集会届」提出後に，当該食堂に直接相談をしてください。

(3) 学外行事の届出，団体割引の届出

対象 …… 公認学生団体や研究会の学外行事 [例] 合宿，コンサート，懇親会

手続 …… 窓口へ「学外行事届」を提出

申込期日 …… 行事の4日前（土・日・祝日を除く）まで

備考 …… 受理されると傷害保険の対象となります（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。また，団体割引やゴルフ場使用税免除に関する証明も受け付けます。

(4) 備品借用の申請

対象 …… 公認学生団体の備品借用 [例] ステッカー，ワイヤレスマイク，塾旗，水差，椅子，机等

手続 …… 窓口へ「借用書」を提出

申込期日 …… 借用希望日の4日前（土・日・祝日を除く）まで

(5) 郵便物の取扱い

対象 …… 外部から送付される公認学生団体宛の郵便物

取扱い …… 学生総合センター内のメールボックスに区分けしてあります。責任者が定期的に取りに来てください。

備考 …… 個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

(6) 組織届

対象 …… クラブ，サークル等を新設し，公認学生団体の認定を希望する組織

手続 …… 窓口へ「組織届」を提出

(7) 掲示・チラシ配布の申請

対象 …… ポスターの掲示やチラシ・パンフレットの配布

手続 …… 窓口へ「届出書」を提出

申込期日 …… 行事の4日前（土・日・祝日を除く）まで

(8) 伝言板および「DENGON」

対象 …… 塾生間の連絡用

手続 …… 窓口へ申し出て「掲示物受付簿」を記入

備考 …… A4 用紙 1 枚のみ掲示可能

(9) 車輛入構の申請

塾生の車輛入構は認められていません。やむを得ず車輛入構の必要がある場合のみ下欄を参照してください。

手 続 …… 窓口に「届出書」を提出

申 込 期 日 …… 入構希望日の4日前(土・日・祝日を除く)まで

(10) 大学生生活懇談会

講演会や見学会をはじめ、スキー企画等さまざまな催物を随時開催しています。企画内容については構内のチラシやポスター、学生総合センターホームページを参照してください。

(11) 配布物・閲覧物関係

財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券が置いてあります。また、ボランティア募集や公募関係の案内もファイル等で公開しています。

3 遺失物の取扱い

届出のあった遺失物は、学生総合センター学生生活支援窓口にて保管しています。

ただし、学生証のみの拾得については、学事センター(総合窓口)にて保管します(学生証が、財布や定期入れ等に入っている場合は、学生総合センターで保管されます)。

4 奨学金

(1) 「奨学金案内」

学生総合センターで「奨学金案内」を配布し、「奨学金案内」にて別途詳細を案内しています。「奨学金案内」は、概ね4月初旬に配布し、配布後に随時出願受付を行います。

(2) 主な奨学金の概略

募集日程は、その都度西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学奨学金〔給付〕

5月下旬に出願受付を行います。

慶應義塾大学特別奨学金〔給付〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。年2回出願受付を行います。

慶應義塾維持会奨学金〔給付〕

募集は4月に行います。

指定寄付奨学金〔給付〕

募集は主に4月に行います。

日本学生支援機構奨学金〔貸与〕

4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種(無利子)と、第二種(有利子)があり、その他に家計急変者を対象とした緊急採用(第一種)・応急採用(第二種)もあります。

地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金〔給付・貸与〕

募集は主に4・5月に行います。

(3) 奨学融資制度(利子給付奨金制度付き学費ローン)

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、本人の申請に基づいて規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

5 就職・進路支援

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報等を、学生総合センター事務室、就職資料室にて、提供しています。また、keio.jp上から求人票や就職活動体験記を閲覧することもできます。

3年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッション等をキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったこと等があった場合には、いつでも個別相談にも応じています。

6 学生相談室

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できるところです。

相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります(電話予約可)。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

7 学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、学生健保から医療費給付が受けられます。給付手続は、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続してください。なお、給付方法は銀行振込（ゆうちょ銀行は不可）となりますので、口座登録が必要です。

- 慶應病院で受診した場合... 病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月 20 日に、入院は翌々月 20 日に給付金が振り込まれます。
- 一般病院で受診した場合... 学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で 1 か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の 3 点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4 か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月 20 日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設等を行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。

その他、入学時に配布した「健保の手引き」でさまざまな案内をしていますので、詳細を確認してください。「健保の手引き」は学生総合センター窓口でも閲覧可能です。

8 学生教育研究災害傷害保険

教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

(1) 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

(2) 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式等の教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

(3) (1) 以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

(4) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続により、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングラライダー等の危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続を行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および公認学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

9 任意加入の補償制度

任意加入の補償制度としては、以下の 2 種類があります。資料請求や加入希望の場合は直接連絡をしてください。

(1) 「学生総合補償制度」

(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）TEL 03 3453 3846

(2) 「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」

慶應生活協同組合 TEL 045 563 8489

定期健康診断

定期健康診断は学校保健法に基づいて全学年を対象に年 1 回実施しています。学則第 179 条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので必ず受診してください。未受診の場合には「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

また学内における麻疹の集団感染を予防するために、母子健康手帳等を確認し、ワクチン未接種でかつ罹患したことがない方、あるいはワクチンを 1 回接種し 10 年以上経過した方は、かかりつけ医師と相談し、ワクチン接種を受けることをお勧めします。また、風疹・水痘（みずぼうそう）・流行性耳下腺炎（おたふく）等の感染症予防についてもかかりつけ医師とご相談ください。学内集団感染予防のため、ご協力ください。

第 8

履修要項【05学則用】

1 開講科目と単位数

2009年度に商学部が三田に設置する科目と単位数は次のとおりです。授業には週1コマ開講される通年科目、春学期または秋学期のみに毎週2コマ開講される集中科目、および週1コマの春学期または秋学期のみの半期科目があります。科目名の末尾に「 / 」がつく科目は一方のみの履修が可能ですが、「a / b」がつく科目は春学期・秋学期セットで履修しなければなりません。

なお、05学則適用者が99学則適用者の科目を履修することはできません。

(1) 総合教育科目

分類	科目名	単位数
類	自然科学概論	2
	自然科学概論	2
	実践自然科学	2
類	人間と音楽	2
	人間と音楽	2
	人の尊厳(社会と人権)	2
類	総合教育セミナーS(類)	2
類	データとの対話S	2

(2) 専攻科目

類

(注) 各論的科目は毎年度開講されるとは限りません。

特定期間集中の科目は、開講期間に注意してください。

分野	科目名	単位数	備考
A 経営	現代企業経営各論(企業形態)	2	秋学期
	現代企業経営各論(企業制度)	2	秋学期
	現代企業経営各論(企業戦略)	2	春学期
	現代企業経営各論(企業評価)	2	秋学期
	現代企業経営各論(企業分析の方法)	2	春学期
	現代企業経営各論(企業倫理)	2	春学期
	現代企業経営各論(経営経済)	2	秋学期
	現代企業経営各論(経営情報論)	2	春学期
	現代企業経営各論(経営組織)	2	春学期
	現代企業経営各論(組織文化論)	2	秋学期
	現代企業経営各論(中小企業経営)	2	秋学期
	現代企業経営各論(日本経営基本論)	2	春学期特定期間集中
	現代企業経営各論(比較経営論)	2	春学期
	経営管理各論(経営管理)	2	春学期
	経営学説史各論(方法論史)	2	秋学期
B 会計	会計史	2	春学期
	会計史	2	秋学期
	財務会計各論(会計基礎理論)	2	春学期
	財務会計各論(会計測定論)	2	春学期

		財務会計各論(会計測定論)	2	秋学期
		財務会計各論(現代会計論)	2	秋学期
		財務会計各論(国際会計論)	2	春学期
		財務会計各論(税務会計論)	2	春学期
		財務会計各論(税務会計論)	2	秋学期
		財務会計各論(非営利法人会計論)	2	春学期
		財務会計各論(非営利法人会計論)	2	秋学期
		会計監査各論(公認会計士による財務諸表監査)	2	春学期
		管理会計各論(業績評価と会計)	2	春学期
		管理会計各論(原価管理論)	2	春学期
		管理会計各論(原価計算論)	2	秋学期
		管理会計各論(現代管理会計論)	2	春学期
		管理会計各論(サービス業の管理会計)	2	春学期
		管理会計各論(戦略的管理会計)	2	秋学期
		会計史各論		休講
C	商業	マクロ・マーケティング論	2	春学期
		マーケティング学説史	2	秋学期
		マーケティング史	2	春学期
		マクロ・マーケティング各論		休講
		ミクロ・マーケティング論	2	春学期
		ミクロ・マーケティング各論(グローバル・マーケティング論)	2	秋学期 秋学期特定期間集中
		ミクロ・マーケティング各論(広告論)	2	秋学期
		ミクロ・マーケティング各論(消費者行動論)	2	春学期
		ミクロ・マーケティング各論(セールスプロモーション論)	2	秋学期
		ミクロ・マーケティング各論(製品開発論)	2	秋学期
		ミクロ・マーケティング各論(マーケティング経済学)	2	春学期
		ミクロ・マーケティング各論(マーケティング・リサーチ)	2	春学期
D	D1 国際経済	国際経済学	2	春学期
		国際経済学	2	秋学期
		国際経済学各論(国際経済政策論)	2	春学期
		国際経済学各論(国際貿易論)	2	春学期
		世界経済論	2	春学期
		世界経済論	2	秋学期
		世界経済各論(国際開発協力論)	2	秋学期
		世界経済各論(中国経済論)	2	春学期
		国際金融論	2	春学期
	国際金融論	2	秋学期	
	国際金融各論(国際金融機関論)	2	春学期	
	D2 計量経済	理論経済学	4	春学期集中
		理論経済学各論(応用ミクロ経済学)	2	春学期
		理論経済学各論(障害者の経済学)	2	秋学期
		理論経済学各論(マクロ・エコノミクス)	2	春学期
		理論経済学各論(マネタリー・エコノミクス)	2	秋学期
		経済政策	4	春学期集中
		経済統計	2	春学期
経済統計		2	秋学期	
経済統計各論(指数論)		2	秋学期	
経済統計各論(数理統計基礎)	2	春学期		
経済統計各論(統計的推論)	2	秋学期		
計量経済学	2	春学期		
計量経済学	2	秋学期		
計量経済学各論(応用計量経済学)	2	春学期		
計量経済学各論(マクロ計量経済学)	2	春学期		
計量経済学各論(ミクロ計量経済学)	2	秋学期		

D 経済・産業	D 3 金融・保険	金融論	2	春	学	期
		金融論	2	秋	学	期
		金融各論（資本市場論）	2	春	学	期
		金融各論（資本市場論）	2	秋	学	期
		財政学	2	春	学	期
		財政学	2	秋	学	期
		財政学各論		休		講
		証券経済論		休		講
		証券経済論		休		講
		証券経済各論（証券制度論）	2	秋	学	期
		保険学	2	春	学	期
		保険学	2	秋	学	期
		保険学各論（生命保険論）	2	春	学	期
		保険学各論（損害保険論）	2	春	学	期
	保険学各論（保険経営論）	2	秋	学	期	
	リスク・マネジメント各論（現代社会とリスク）	2	秋	学	期	
	D 4 ・交通 ・公共政策 ・産業組織	産業組織論	4	春	学	期集中
		産業組織各論（規制の経済学）	2	春	学	期
		産業組織各論（産業組織と企業戦略）	2	春	学	期
		産業組織各論（社会問題の経済学）	2	秋	学	期
		サービス経済学		休		講
		サービス経済学		休		講
		交通経済論	2	春	学	期
		交通経済論	2	秋	学	期
		交通経済各論（公益事業論）	2	春	学	期
		交通経済各論（公益事業論）	2	秋	学	期
	交通経済各論（国際交通論）	2	秋	学	期	
	D 5 労働・社会	労働経済学	2	春	学	期
		労働経済学	2	秋	学	期
		産業関係論	2	春	学	期
産業関係論		2	秋	学	期	
産業関係各論（労務管理論）		4	春	学	期集中	
産業社会学		2	春	学	期	
産業社会学		2	秋	学	期	
産業社会学各論（経営社会学）		2	春	学	期	
産業社会学各論（経営社会学）		2	秋	学	期	
〔組織心理学 a		2	春	学	期	
〔組織心理学 b		2	秋	学	期	
社会保障論		2	春	学	期	
社会保障論		2	秋	学	期	
社会保障各論（人口・労働問題と社会保障）	2	秋	学	期		
D 6 ・産業史 ・経営史	産業史	2	春	学	期	
	産業史各論（比較小売業史）	2	秋	学	期	
	経営史	2	春	学	期	
	経営史各論（アメリカ経営史）	2	秋	学	期	
	経営史各論（日本経営史）	2	秋	学	期	

類

科目名	単位数
専攻演習 D	4
専攻演習 S	2
外国語演習 D (フランス語)	4
外国語演習 D (中国語)	4
外国語演習 D (スペイン語)	4
外国語演習 S (英語)	2
外国語演習 S (ドイツ語)	2
専門外国書研究 (独書)	4
専門外国書研究 (仏書)	4
関連課題研究 D	4
関連課題研究 S	2
研究会	8 または 4

(3) 商学関連科目

科目名	単位数	備考
経済数学基礎	2	春 学 期
経済数学	2	秋 学 期
経済数学	2	秋 学 期
ゲーム理論	2	春 学 期
法学各論 (経済法)	2	春 学 期
法学各論 (経済法)	2	秋 学 期
法学各論 (商法 A)	2	春 学 期
法学各論 (商法 B)	2	秋 学 期
法学各論 (商法 A)	2	春 学 期
法学各論 (商法 B)	2	秋 学 期
法学各論 (租税法)	2	春 学 期
法学各論 (租税法)	2	秋 学 期
法学各論 (民法 A)	2	春 学 期
法学各論 (民法 B)	2	秋 学 期
法学各論 (民法 A)	2	春 学 期
法学各論 (民法 B)	2	秋 学 期
法学各論 (労働法)	2	春 学 期
法学各論 (労働法)	2	秋 学 期
〔 経済学史 a	2	春 学 期
〔 経済学史 b	2	秋 学 期
ラボから市場へ：ロボット社会とビジネス・パーソン (寄附講座)	2	春 学 期
現代の物流の変革 (寄附講座)	2	春 学 期
現代の株式市場と上場会社 (寄附講座)	2	秋 学 期
資産運用の理論と実務 (寄附講座)	2	春 学 期
現代の企業金融 (寄附講座)	2	秋 学 期
イノベーションの経営・商業	2	春 学 期
経済学と法制度	2	秋 学 期
社会科学の考え方	2	春 学 期
ジャパニーズ・エコノミー	2	秋 学 期
戦略の経営・会計	2	秋 学 期
戦略の経済・商業	2	秋 学 期
〔 イタリア語 a	1	春 学 期
〔 イタリア語 b	1	秋 学 期
〔 ロシア語 a	1	春 学 期
〔 ロシア語 b	1	秋 学 期
〔 朝鮮語 (初級) a	1	春 学 期
〔 朝鮮語 (初級) b	1	秋 学 期
〔 朝鮮語 (中級) a	1	春 学 期
〔 朝鮮語 (中級) b	1	秋 学 期
〔 アラビア語 a	1	春 学 期
〔 アラビア語 b	1	秋 学 期
〔 ギリシャ語 a	1	春 学 期
〔 ギリシャ語 b	1	秋 学 期
〔 ラテン語 a	1	春 学 期
〔 ラテン語 b	1	秋 学 期

2 卒業および進級所要単位数

(1) 第4学年への進級所要単位数

第3学年において履修する専攻科目 類, 専攻科目 類, および商学関連科目から12単位以上を取得すること。取得単位が12単位に満たない場合は進級できません。

(2) 卒業所要単位数

第4学年において12単位以上を取得すること。

商学部設置の「研究会」を第3・4学年を通じて履修している場合は、この12単位の中の8単位として算入されます。

原級者の場合は、合計で12単位を取得すれば必要単位数を満たします。毎年新たに12単位を取得する必要はありません。

次の表のとおり、合計128単位以上を取得すること。

授業科目の種類		所要単位数	
総合教育科目	類 類 類 類 類	6単位以上必要 他学部・諸研究所科目は第1・2学年で8単位まで算入 4単位まで算入	20単位以上 (うち指定 演習科目 2単位以上)
	外国語科目	英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語のうちから2か国語各8単位	
基礎科目	類(基礎必修科目)	12単位	16単位以上
	類(基礎基盤科目)	4単位以上	
専攻科目	類(専攻核科目)	10単位以上	18単位以上
	類(専攻基本科目)	4単位以上	
	類 類	2単位以上必要	46単位以上
商学関連科目			12単位
合計			128単位以上

総合教育科目 類(体育科目)は、何単位取得しても進級・卒業所要単位数に算入される単位は第1～4学年あわせて4単位までです。4単位を超える分は、進級・卒業所要単位数に算入されません。

専攻科目 類には、次の科目を含まなければなりません。

- ・「基本簿記と財務諸表の見方」
- ・「経営学(環境と戦略)」または「経営学(組織と管理)」のうち1科目
- ・「商業学」または「商業学」のうち1科目

第3・4学年を通じて58単位以上(専攻科目 類を46単位以上, 商学関連科目を12単位)を取得しなければなりません。不合格のために再履修した第1・2学年配当の必修科目および所定単位不足の選択科目(総合教育科目, 基礎科目 類, 専攻科目 類)はこの58単位に含まれません。

自由科目は進級・卒業所要単位数に算入されません。

(3) 学士入学者

履修科目について

学士入学者は、4月に学習指導主任と面接を行います。

- 学士入学する以前の学部において取得した単位を認定する場合があります。
- 学士入学する以前の学部における履修状況により、商学部第1学年の必修科目(基礎科目 類)の「経済学基礎」の履修を商学関連科目12単位のうちで指定する場合があります。

第4学年への進級所要単位数

第3学年において履修する専攻科目 類, 専攻科目 類, 専攻科目 類, 専攻科目 類, および商学関連科目から30単位以上を取得すること。取得単位が30単位に満たない場合は進級できません。

卒業所要単位数

授業科目の種類			単位数
専攻科目	類(専攻核科目)	10単位以上	18単位以上
	類(専攻基本科目)	4単位以上	
	類 類	2単位以上必要	46単位以上
商学関連科目			12単位
合計			76単位以上

専攻科目 類 18単位分は履修上限単位(50単位)に含まれません。ただし、18単位を超えて余分に申告する分については履修単位数に含まれます。

専攻科目 類には、次の科目を含まなければなりません。

- ・「基本簿記と財務諸表の見方」
- ・「経営学(環境と戦略)」または「経営学(組織と管理)」のうち1科目
- ・「商業学 」または「商業学 」のうち1科目

自由科目は進級・卒業所要単位に算入されません。

3 履修上の注意

(1) 履修上限単位について

1か年に履修できる単位数の最高限度は50単位です。ただし、次の科目は履修単位数に含まれません。

不合格のために再履修する第1・2学年配当の必修科目(外国語科目, 基礎科目 類)および単位不足の選択科目(基礎科目 類, 専攻科目 類)。ただし、選択科目のうち、単位不足分を超えて余分に申告する分については履修単位数に含まれます。

単位不足の総合教育科目(類 6単位, および指定演習科目 2単位を含む)。ただし、単位不足分を超えて余分に申告する分については履修単位数に含まれます。

第3学年において履修する商学部設置の「研究会」。

自由科目。

(2) 研究会の履修について

研究会を履修する学生は、志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受け、合格しなければなりません。

第3・4学年を通じて履修し、第4学年でまとめて8単位を取得します(第3学年では履修単位数に含まれません)。

履修申告は第3学年で「研究会(3年)」を、第4学年で「研究会(4年)」をそれぞれ申告してください。なお、商学部設置の「研究会」を商学関連科目として履修することはできません。専攻科目 類として履修してください。

第3学年のみの履修は認められません。

第4学年のみの履修は、担当教員の了承を得たうえで「研究会認定用紙」(所定用紙)を提出した場合のみ、4単位を取得できます。

研究会を退会した場合は、速やかに学事センターに「研究会退会届」(所定用紙)を提出してください。

他学部設置の研究会を履修する場合は商学関連科目, 自由科目 のいずれかで登録してください。専攻科目 類として履修することはできません。

(3) 専攻科目 類の履修者数調整について

専攻演習 D・S については、履修申告の前に履修者数調整(抽選)を行います。履修を希望する場合は、以下に従って事前に Web エントリーを行ってください。抽選に通った場合のみ履修申告が出来ます。また、外国語

演習 D・S、関連課題研究 D・S についても、担当者による履修者数の事前調整が行われる場合があります。講義要綱・シラバス部分で確認し、必ずガイダンスと初回授業に出席してください。

〔Web エントリー方法〕

<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/entry/> を開き、〔Web エントリーシステムにログイン〕ボタンをクリック

〔オンラインマニュアル〕

上記 URL を開き、〔操作マニュアル〕ボタンをクリック

	Web エントリー期間	結果発表	結果発表場所
初回	4月6日(月)9:00～16:30	4月7日(火)9:00	西校舎 501 番教室後方入口前の掲示板 (掲示により行い、Web では発表しません)
追加	4月7日(火)9:00～14:00	4月8日(水)8:30	

携帯電話からはエントリーできません。

やむを得ず、Web エントリーができない場合は、事前に学事センターに相談してください。

初回抽選で決定するのは1クラスのみです。もう1クラスを希望する場合は、追加抽選にエントリーしてください。

追加抽選の対象者は以下のとおりです。

- ・初回抽選でエントリーできなかった者
- ・初回抽選で漏れた者
- ・初回抽選で決定したクラスに追加して2クラス目を希望する者

抽選に通っただけでは登録されませんので、履修申告期間内に必ず履修申告してください。

抽選に通った科目は必ず履修申告しなければなりません。履修申告をしないとエラー科目となり、他のすべての科目が未登録になります。やむを得ない事情で履修できなくなった場合は、「専攻 類(旧: 類)クラス削除願」(所定用紙)に担当者の承認印をもらい、学事センターまで提出してください。

不正または無効の申告を行った場合は、決定クラスの発表後でも履修を認めません。

商学部設置の「研究会」を履修している場合は、専攻演習 D・S を専攻科目 類として履修することはできません。商学関連科目として履修してください。(外国語演習 D・S、関連課題研究 D・S は、研究会を履修していても、専攻科目 類として履修することができます)

(4) 商学関連科目の履修について

商学関連科目として設置されている科目のほか、商学部設置科目、および他学部・諸研究所設置科目(商学部設置科目と同一名称の科目、商学部と併設されている科目を除く)を商学関連科目として履修申告できます。

商学関連科目は第3・4学年を通じて12単位まで進級・卒業所要単位数に算入されます。

商学部設置の研究会を商学関連科目として履修することはできません。専攻科目 類として履修してください。

商学関連科目として履修申告した科目を、後に他の分野に振り替えることはできません。

(5) 他学部・諸研究所・他地区設置科目の履修について

他学部・諸研究所設置科目は商学関連科目、または自由科目 として履修することができます。

事前に手続が必要なものや、他学部の学生の履修を認めない場合もありますので、設置学部の講義要綱や掲示板で必ず確認してください。履修にあたっては、履修を希望する授業科目の担当者の許可を口頭で得てから(承認印は不要)履修申告をしてください。

他学部・諸研究所設置科目の履修申告の際には、分野の指定が必要になる場合があります。

三田に設置されている他学部の科目を履修する場合は、それぞれ「文学部時間割表[2・3年生(07学則)]」、「経済学部3・4年授業時間割」、「法学部法律学科3・4年授業時間割」の2005年度以降入学者用部分、「法学部政治学科3・4年授業時間割」に記載されている科目を登録してください。

他地区設置科目を履修する場合は、移動時間を十分考慮のうえ、三田の設置科目と時間が重複しないように注意してください。移動不可能と思われる履修申告をした場合は三田の履修科目を無効とします。特に、時限が連続する履修(例 1時限三田, 2時限他地区)はできませんので注意してください。なお、昼休みを挟んだ場合は可とします。

定期試験は授業時間割と異なる時間帯で試験が行われることがありますので、試験時間割が他地区の科目と

重複することがあります。その場合の取扱いについては試験時間割発表時に掲示しますので、確認して所定の手続きをとってください。

(6) 重複履修について

曜日、時限を重複して履修することはできません。

同一名称の科目、および同一名称とみなされる科目（下表参照）は、同一学年内および学年が異なっても重複して履修することはできません（原則として担当者が異なっている場合でも不可）。

商学部設置科目	同一名称とみなされる他学部設置科目		
	経済学部設置科目	法学部設置科目	総合政策・環境情報学部設置科目
世界経済論 ・	世界経済論 a・b		
国際金融論 ・	国際金融論 a・b		国際金融論
経済政策	経済政策論 a・b	経済政策 ・	
計量経済学 ・	計量経済学 中級 a・b		
金融論 ・	金融論 a・b		
財政学 ・	財政論 a・b	財政論 ・	
産業組織論	産業組織論 a・b		
労働経済学 ・	労働経済論 a・b	労働経済論 ・	
産業社会学 ・	産業社会学 a・b		
法学各論（商法 A）	商法 a	商法 A	
法学各論（商法 B）	商法 b	商法 B	
法学各論（民法 A）	民法 a	民法 A	
法学各論（民法 B）	民法 b	民法 B	
法学各論（民法 A）	民法 a	民法 A	
法学各論（民法 B）	民法 b	民法 B	

ただし、以下の例外があります。

- ・一方の科目を自由科目 として履修申告すれば、重複履修が認められます。ただし、自由科目 は進級・卒業所要単位に算入されません。また、自由科目 として履修申告した科目を、後に他の分野に振り替えることはできません。
- ・商学関連科目として履修可能な外国語科目は、科目名が同じでも担当者が異なれば履修を認めます。科目名と担当者が同じでも内容が異なる場合には担当者の承認を得ることを条件に履修を認めます。
- ・専攻演習 D、外国語演習 D、関連課題研究 D は担当者が異なる場合に限り、一方を商学関連科目として履修することを認めます。専攻演習 S、外国語演習 S、および関連課題研究 S は、担当者が同じでも内容が異なれば商学関連科目として履修することを認めますが、担当者の承認が必要です。また、既に商学関連科目として重複履修している場合は、自由科目 としてしか履修できません（再度、商学関連科目として履修することはできません）。
- ・総合教育科目については、以下の表のとおりです。

総合教育セミナー （他学部設置少人数セミナー含む）	サブタイトルが異なり、担当者の許可があれば可
総合教育科目 類	担当者が異なれば可、もしくは同じ担当者でも担当者の許可があれば可
総合教育科目 類 「データとの対話 D」「データとの対話 S」	サブタイトルが異なれば可
総合教育科目 類（実技科目）	重複履修可

- ・進級不合格者は、同一学年内で既に単位を取得した科目を履修上限 50 単位の範囲で再履修することができます。この場合は、評価の良い方がその科目の成績評価として記録されます。ただし、進級・卒業所要単位には加算されません。また、自由科目 として単位を取得した科目の再履修はできません。

商学部と他学部と同じ名称の科目が設置されている場合には、商学部が設置している科目のみ履修することができます。他学部の科目は履修できません。

ただし「研究会」については、志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受けて合格すれば、他学部のものも履修できます（商学部の「研究会」と他学部の「研究会」の重複履修も可能です）。

商学部と他学部とで併設されている以下の科目を履修する場合は、たとえ科目名が異なっても商学部設置の科目を履修しなければなりません。

商学部設置科目	他学部併設科目（他学部での科目名）		
	経済学部設置科目	法学部設置科目	国際センター設置科目
総合教育セミナー S（ 類）			日本における外資系企業
国際経済学 ・		国際経済論 ・	
世界経済論 ・		国際経済論 ・	
世界経済各論（国際開発協力論）		開発援助政策論	
経済統計 ・		経済統計 a・b	
法学各論（経済法 ）		経済法	
法学各論（経済法 ）		経済法	
法学各論（租税法 ）	租税法 a	租税法 / 所得税法	
法学各論（租税法 ）	租税法 b	租税法 / 企業税法	
法学各論（労働法 ）	労働法 a	労働法	
法学各論（労働法 ）	労働法 b	労働法	
経済学史 a・b	経済学史 a・b		

(7) 第1・2学年の不合格科目の履修について

日吉でのガイダンスについて

必修の外国語科目に不合格がある者は、三田には特修授業等は設置されていませんので、日吉設置の授業科目を履修しなければなりません。「商学部外国語科目履修案内」をあわせて参照してください。なお、以下のとおり日吉でガイダンスを行いますので必ず出席してください。

4月4日（土）13：00～14：30

英語・ドイツ語履修者 23 番教室
 英語・フランス語履修者 22 番教室
 英語・中国語履修者 J21 番教室
 英語・スペイン語履修者 J19 番教室

不合格のために再履修する第1・2学年設置の以下の必修科目は第3学年で履修することを原則とします。第3学年で単位が取得できない場合、第4学年で履修しなければなりません。授業時間割が重複したり、定期試験で日吉・三田の試験が重複して受験できず卒業できなくなることがありますので注意してください。

外国語科目 2 か国語 16 単位
 基礎科目 類 12 単位
 基礎科目 類 4 単位
 専攻科目 類 10 単位以上 }
 専攻科目 類 4 単位以上 } ・ 類合計 18 単位以上

なお、総合教育科目は卒業までに 20 単位以上（うち 類は 6 単位以上）必要になり、類～類の指定演習科目も 2 単位以上が必修です。第3学年での履修の仕方および成績によっては、第4学年に進級できても第4学年の履修申告時点で卒業できないことが決定する場合があります。卒業所要単位を考慮に入れて誤りがないよう十分に注意してください。

中国語 a、b が不合格の場合、日吉設置の特修クラス中国語 a、b を履修しなければなりません。中国語 a、b は 2 コマ設置されますが、クラス指定になります。履修者は、学事センターで自分の履修クラスを確認してください。なお、クラス変更に関する注意事項および所定の用紙は学事センター窓口で配付しています。間違ったクラスで履修した場合、成績が付きませんので、十分に気を付けてください。

(8) 強化プログラムについて

各プログラムに定められた条件を満たした場合、「強化プログラム修了」の認定証が学部から授与されます。各プログラムの概要、詳細な認定の条件については別冊の「強化プログラム履修案内」を参照してください。

4 分野について

(1) 分野の選択

履修申告欄は A 欄と B 欄によって構成されています。

通常は A 欄にて履修申告します。他学部設置の科目を履修する場合や、一つの科目に対して複数の分野を選択できる場合等、変則的な履修をする場合に B 欄分野番号（2桁の数字）を使って B 欄で申告します。

A 欄と B 欄のどちらを使用するかについては次の表で確認してください。

科目の種類		対象科目	使用欄	分野番号	分野の扱い
商学部設置科目			A 欄	—	分野番号表のとおり
		必修科目は履修を許可された場合のみ	B 欄	50 60	商学関連科目 自由科目 I
他学部設置科目		42 ページに掲載の総合教育科目*	A 欄	—	総合教育科目
		「全学部共通外国語科目履修案内」に掲載の外国語科目* http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html			商学関連科目
		上記*以外の科目	B 欄	51 60	商学関連科目 自由科目 I
諸研究所	言語文化研究所設置講座		A 欄	—	商学関連科目
			B 欄	60	自由科目 I
	メディア・コミュニケーション研究所設置講座	メディア・コミュニケーション研究所の研究生として履修する場合	A 欄	—	商学関連科目
			B 欄	60	自由科目 I
			B 欄	61	自由科目 II
	斯道文庫設置講座		A 欄	—	商学関連科目
			B 欄	60	自由科目 I
	福澤研究センター設置講座		A 欄	—	商学関連科目
			B 欄	60	自由科目 I
	国際センター設置講座		A 欄	—	商学関連科目
			B 欄	60	自由科目 I
	保健管理センター設置講座		A 欄	—	商学関連科目
			B 欄	60	自由科目 I
	情報処理教育室設置講座		A 欄	—	商学関連科目
			B 欄	60	自由科目 I
	アート・センター設置講座		A 欄	—	商学関連科目
			B 欄	60	自由科目 I
知的資産センター設置講座		A 欄	—	商学関連科目	
		B 欄	60	自由科目 I	
外国語教育研究センター設置講座		A 欄	—	商学関連科目	
		B 欄	60	自由科目 I	
グローバルセキュリティ研究所設置講座		A 欄	—	商学関連科目	
		B 欄	60	自由科目 I	
体育研究所設置講座		A 欄	—	総合教育科目 V 類	
		B 欄	60	自由科目 I	
教職課程センター設置科目		A 欄	—	自由科目 II	
外国語学校設置講座のうち、商学部および他学部設置されていない外国語	2009 年度は対象科目なし	B 欄	60	自由科目 I	
教育免許取得のために履修する教職課程授業科目		B 欄	61	自由科目 II	

(2) 分野番号表（下線のついてる科目は今年度開講されません）

科目種類 (括弧内は卒業所要単位数)	分野	授業科目	申告欄	B欄分野	
総合教育科目 (20 単位以上)	類 類 (6 単位以上)	01-01-01	総合教育セミナー D (類)(4) 総合教育セミナー S (類)(2) 他学部少人数セミナー (類)(2 または 4)	A 欄	
		01-01-02	化学・(実験を含む)(各3) 生物学・(実験を含む)(各3) 物理学・(実験を含む)(各3)		
		01-01-03	宇宙の科学(2) 基礎の数学(2) 健康科学(2) 現代化学概論(2) 現代生物学概論(2) 自然科学概論・(各2) 自然人類学(2) 実践自然科学(2) 心理学・(各2) 人類学・(各2) 生命現象の分子科学(2) 生命の科学(2) 地学・(各2) 地学 a・b(各2) 地球科学概論(2) 地球科学概論・(各2) 天文学・(各2) 天文学 a・b(各2) 動物行動学(2)		
	類	01-02-01	総合教育セミナー D (類)(4) 総合教育セミナー S (類)(2) 他学部少人数セミナー (類)(2 または 4)		
		01-02-02	映像・音響文化論(2) 音楽・(各2) 音楽 a・b(各2) 科学史・(各2) 科学史・(各2) 漢文 a・b(各2) 近代思想史・(各2) 近代思想史 a・b(各2) 経済人類学・(各2) 経済人類学 a・b(各2) 言語学 ~ (各2) 言語認識論(2) 現代芸術論(2) 現代思想論(2) 現代社会論(2) 現代世界史(2) 現代日本史(2) 現代メディア論(2) 国語国文・(各2) 国語国文 a・b(各2) ジェンダー論・(各2) 社会科学概論・(各2) 社会学・(各2) 社会学 a・b(各2) 社会心理学・(各2) 宗教学・(各2) 宗教学 a・b(各2) 住宅・建築史概論(2) 女性学(2) 身体文化論(2)		

総合教育科目 (20単位以上) (41ページ参照)	類	01-02-02	人文総合講座(2) 人文総合講座・(各2) 政治学・(各2) 世界の政治(2) 造形・デザイン論(2) 地域研究(各2) 地域生態文化論(2) 地域文化論(2) 地域文化論～(各2) 中国事情(2) 地理学・(各2) <u>地理学 a・b(各2)</u> 哲学・(各2) <u>哲学 a・b(各2)</u> 日本の政治(2) 人間と音楽・(各2) 東アジア宗教文化概論・(各2) 美術・(各2) <u>美術 a・b(各2)</u> 人の尊厳(社会と人権)(2) フランス事情・(各2) 文学・(各2) <u>文学 a・b(各2)</u> 文化人類学(2) 法学・(憲法を含む)(各2) 倫理学・(各2) <u>倫理学 a・b(各2)</u> 歴史・(各2) <u>歴史 a・b(各2)</u> 論理学・(各2) <u>論理学 a・b(各2)</u> 論理学序論(2) 論理学本論(2)	A 欄		
		01-03-01	総合教育セミナーD(類)(4) 総合教育セミナーS(類)(2) アカデミック・スキルズ～(各2) 社会との対話D(4) <u>社会との対話S(2)</u> 他学部少人数セミナー(類)(2または4)			
		01-03-02	21世紀の実学(2) 医療・福祉の行政(2) 科学技術と現代社会(2) 科学と社会(2) <u>近代日本と福澤諭吉(2)</u> 情報リテラシー基礎(4) 身体/感覚文化(2) 生命の教養学(2) <u>西洋文明学説史・(各2)</u> 戦争と社会(2) 日本の産業と経営(2) <u>日本文明学説史・(各2)</u> パリアフリー/ユニバーサルデザイン入門・(各2) 比較文化論 a・b(各2) <u>東アジアの中の近代日本(2)</u> <u>表象文化論 a・b(各2)</u> <u>文明学説史・(各2)</u> 民族文化論(2) <u>ラテンアメリカ研究 a・b(各2)</u>			
	01-03-03 (他学部・諸 研究所科目は 第1・2学年で 8単位まで 算入)	<u>アラビア語 a・b(各1)</u> <u>イタリア語入門・(各1)</u> <u>イタリア語入門 a・b(各1)</u> その他,商学部設置の外国語科目(必修語学を必修分とは別に履修する場合) 他学部設置の科目で担当教員に履修が許可されたもの(設置学部の必修科目 および商学部設置科目と同一名称の科目を除く) 言語文化研究所設置講座 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 福澤研究センター設置講座 国際センター設置講座 保健管理センター設置講座 情報処理教育室設置講座 アート・センター設置講座 知的資産センター設置講座 外国語教育研究センター設置講座	B 欄	38		
	類	01-04-01	確率論基礎(2) ゲーム理論基礎(2) 線形代数演習(2) 微積分演習(2) 線形代数(2) 中級線形代数(2) 中級微積分(2)	A 欄		
		01-04-02	データとの対話D(4) <u>データとの対話S(2)</u>			
		01-04-03	英語アカデミックライティング(2) 英語ディスカッション(2) 英語ディベート(2) 英語プレゼンテーション(2) 英語リーディングセミナー(2) 英語リスニングセミナー(2)			
		01-04-04	ドイツ語インテンシブ(2) <u>ドイツ語インテンシブ(2)</u>			
		01-04-05	フランス語インテンシブ(2) <u>フランス語インテンシブ(2)</u>			
		01-04-06	中国語インテンシブ(2) <u>中国語インテンシブ(2)</u>			
		01-04-07	スペイン語インテンシブ(2) <u>スペイン語インテンシブ(2)</u>			
	類 (4単位まで算入)	01-05-01	体育実技A(1) 体育実技B(1)	A 欄		
		01-05-02	体育学講義(2) 体育学演習(1)			
	外国語科目 (計16単位)	第1学年 配当科目 (2か国語 各4単位)	02-01-01	英語(各1)	A 欄	
			02-01-02	ドイツ語(各1)		
02-01-03			フランス語(各1)			
02-01-04			中国語(各1)			
02-01-05			スペイン語(各1)			
02-01-11			日本語(外国人留学生)(各1)			
第2学年 配当科目 (2か国語 各4単位)		02-02-01	英語(各1)			
		02-02-02	ドイツ語(各1)			
		02-02-03	フランス語(各1)			
		02-02-04	中国語(各1)			
		02-02-05	スペイン語(各1)			
02-02-11	日本語(外国人留学生)(各1)					

基礎科目	類 基礎必修科目 (12単位)	03-01-01	経済学基礎 (2) 経済学基礎 (2)		
		03-01-02	微積分 (2) 微積分 (2)		
		03-01-03	統計学 (2) 統計学 (2)		
	類 基礎基盤科目 (4単位)	03-02-01	経済史 (2) 経済史 (2)		
		03-02-02	社会経済学 (2) 社会経済学 (2)		
		03-02-03	私法基礎 (2) 私法基礎 (2)		
専攻科目(日吉設置)	類 専攻核科目 (10単位以上)	04-01-01	経営学(環境と戦略)(2) 経営学(組織と管理)(2)		
		04-01-02	基本簿記と財務諸表の見方(2)		
		04-01-03	商業学 (2) 商業学 (2)		
		04-01-04	産業経済論 a (2) 産業経済論 b (2)		
		04-02-01	応用経営学(企業をめぐる諸課題) (2)		
		04-02-02	応用簿記(4) 財務会計論(4) 管理会計論(4) 監査論(2) 企業法(4)		
	類 専攻基本科目 (4単位以上)	04-02-03	マーケティング・マネジメント論(2)		
		04-02-04	経済学 (2) 経済学 (2)		
		A 経営	04-03-01	現代企業経営各論(2) 経営管理各論(2) 経営学説史各論(2)	
			B 会計	04-03-02	会計史 ・ (各2) 財務会計各論(2) 会計監査各論(2) 管理会計各論(2) 会計史各論(2)
				C 商業	04-03-03
		D1 国際 経済	04-03-04		国際経済学 ・ (各2) 国際経済学各論(2) 世界経済論 ・ (各2) 世界経済各論(2) 国際金融論 ・ (各2) 国際金融各論(2)
	D2 計量 経済		04-03-05		理論経済学(4) 理論経済学各論(2) 経済政策(4) 経済統計 ・ (各2) 経済統計各論(2) 計量経済学 ・ (各2) 計量経済学各論(2)
	D 経済 産業	D3 金融・ 保険	04-03-06	金融論 ・ (各2) 金融各論(2) 財政学 ・ (各2) 財政学各論(2) 証券経済論 ・ (各2) 証券経済各論(2) 保険学 ・ (各2) 保険学各論(2) リスク・マネジメント各論(2)	
			D4 交通・公共 政策・産業組織	04-03-07	産業組織論(4) 産業組織各論(2) サービス経済学 ・ (各2) 交通経済論 ・ (各2) 交通経済各論(2)
		D5 労働・ 社会	04-03-08	労働経済学 ・ (各2) 産業関係論 ・ (各2) 産業関係各論(4) 産業社会学 ・ (各2) 産業社会学各論(2) 組織心理学 a・b(各2) 社会保障論 ・ (各2) 社会保障各論(2)	
			D6 産業史・経営史	04-03-09	産業史(2) 産業史各論(2) 経営史(2) 経営史各論(2)
	類 (2単位以上)	専攻演習 D (4) 専攻演習 S (2) 外国語演習 D (4) 外国語演習 S (2) 専門外国書研究(4) 関連課題研究 D (4) 関連課題研究 S (2)	04-04-01	研究会(3年生)(0)	
04-04-02			研究会(4年生)(8または4)		
商学 関連 科目			第3・4学年 のみ (12単位)	05-01-01	21世紀のマネジメント(2) 経済数学基礎(2) 経済数学 (2) 経済数学 (2) ゲーム理論(2) 法学各論(2) 経済学史 a・b(各2) ラボから市場へ：ロボット社会とビジネス・パーソン(2) 現代の物流の変革(2) 現代の株式市場と上場会社(2) 資産運用の理論と実務(2) 現代の企業金融(2) 変革の時代の企業経営(4) 環境ビジネスとポスト京都議定書時代の企業(2) イタリア語 a・b(各1) ロシア語 a・b(各1) 朝鮮語(初級) a・b(各1) 朝鮮語(中級) a・b(各1) アラビア語 a・b(各1) ギリシャ語 a・b(各1) ラテン語 a・b(各1)

A
欄

商学 関 連 科 目	第3・4学年 のみ (12単位)	05-01-02	イノベーションの経営・商業(2) 経済学と法制度(2) 社会科学の考え方(2) ジャパニーズ・エコノミー(2) 戦略の経営・会計(2) 戦略の経済・商業(2)	A欄	
		05-01-03	商学部設置されている科目のうち、あらかじめ商学関連科目として履修申告したもの	B欄	50
		05-01-04	他学部設置の科目で担当教員に履修が許可されたもの (設置学部の必修科目および商学部設置科目と同一名称の科目を除く) 言語文化研究所設置講座 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 斯道文庫設置講座 福澤研究センター設置講座 国際センター設置講座 保健管理センター設置講座 情報処理教育室設置講座 アート・センター設置講座 知的資産センター設置講座 外国語教育研究センター設置講座 グローバルセキュリティ研究所設置講座	A欄	51
自 由 科 目	自由科目 (*卒業単位には含まれません。 1カ年につき8単位まで)	06-01-01	商学部設置科目(必修科目は、履修を許可された場合のみ) 他学部設置の授業科目 言語文化研究所設置講座 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 斯道文庫設置講座 体育研究所設置講座 福澤研究センター設置講座 国際センター設置講座 保健管理センター設置講座 情報処理教育室設置講座 アート・センター設置講座 知的資産センター設置講座 外国語教育研究センター設置講座 グローバルセキュリティ研究所設置講座 外国語学校設置講座のうち、商学部および他学部に設置されていない外国語 (2009年度は対象科目無し)	B欄	60
		06-01-02	メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修するメディア・コミュニケーション研究所設置講座 教職課程センター設置科目 教員免許取得のために履修する教職課程授業科目		61

(注) 専攻科目 類の各論的科目の()内の科目名は省略してあります。

指定演習科目一覧

分類	授業科目名称
総合教育科目 (類)	化学 (実験を含む)
	化学 (実験を含む)
	生物学 (実験を含む)
	生物学 (実験を含む)
	物理学 (実験を含む)
	物理学 (実験を含む)
	総合教育セミナーD (類)
	総合教育セミナーS (類)
	他学部設置少人数セミナー (類)
	(類)
(類)	総合教育セミナーS (類)
(類)	他学部設置少人数セミナー (類)
(類)	アカデミック・スキルズ
	アカデミック・スキルズ
	アカデミック・スキルズ
	アカデミック・スキルズ
	社会との対話D
	社会との対話S
	総合教育セミナーD (類)
	総合教育セミナーS (類)
	他学部設置少人数セミナー (類)
	(類) 自主強化科目
ゲーム理論基礎	
線形代数演習	
微積分演習	
線形代数	
中級線形代数	
中級微積分	
データとの対話D	
データとの対話S	
英語アカデミックライティング	
英語ディスカッション	
英語ディベート	
英語プレゼンテーション	
英語リーディングセミナー	
英語リスニングセミナー	
ドイツ語インテンシブ	
ドイツ語インテンシブ	
フランス語インテンシブ	
フランス語インテンシブ	
中国語インテンシブ	
中国語インテンシブ	
スペイン語インテンシブ	
スペイン語インテンシブ	

他学部設置の総合教育科目について（三田）

三田地区で開講される以下の他学部設置の授業科目は、商学部の総合教育科目として扱われます。

履修申告に際しては、以下の点に注意してください。

A 欄で申告してください。B 欄分野番号の指定は必要ありません。

以下の授業科目については下表中の分野以外での履修申告はできません（商学関連科目として履修申告できません）。

履修人数が多い場合は設置学部の学生が優先となります。必ず履修申告前に授業担当者に許可をもらうようにしてください。

講義要綱・時間割は設置学部のもので確認してください（学事センターにて閲覧できます）。

授業科目の種類	分野	科目名	設置学部
総合教育科目 類	01-01-03	数学	法
		数学	法
		統計学	法
		統計学	法
総合教育科目 類	01-02-01	人文科学研究会	法
		人文科学研究会	法
		人文科学研究会	法
		人文科学研究会	法
	01-02-02	映画演劇論	文
		映画演劇論	文
		映画演劇論	文
		映画演劇論	文
		ロシア文学	文
		ロシア文学	文
		芸術と文明	文
		現代芸術	文
		現代芸術	文
		詩学	文
		詩学	文
		地域研究 - 中国事情	経
地域研究 - 中国事情	経		
総合教育科目 類	01-03-02	基礎情報処理	文
		情報処理	経
		自然科学特論	法
		自然科学特論	法

5 卒業単位数チェック表

※必ず本要項を参照して、チェックしてください。

			必要単位数		取得単位数			
	1・2年時 取得単位	総合教育科目	I類	6単位以上	20単位以上 (卒業までに) [うち指定演習科目 2単位以上]	I類		計
II類				II類				
III類			他学部・諸 研究所設置 科目は8単 位まで算入	III類				
IV類				IV類				
V類			4単位まで 算入	V類				
外国語		外国語1	8単位					
		外国語2	8単位					
基礎科目		I類 (基礎必修科目)	12単位					
		II類 (基礎基盤科目)	4単位以上					
専攻科目		I類 (専攻核科目)	10単位以上	18単位以上	I類		計	
	II類 (専攻基本科目)	4単位以上	II類					
小計(1)		70単位以上						

※上記に所定単位不足の科目があったとしても、合計で70単位以上を取得していれば第3学年に進級できます。
ただし、単位不足分は、以下の第3・4学年で必要な58単位とは別に必要になりますので、58単位に含めて数えないように注意してください。

			必要単位数		取得単位数			
	3・4年時 取得単位	専攻科目	III類	2単位以上	46単位以上	III類		計
IV類			IV類					
商学関連科目		12単位						
小計(2)		58単位以上						

合計(1) + (2)	128単位以上	
-------------	---------	--

4年生取得単位	12単位以上	
---------	--------	--

(3年生)第4学年への進級条件	12単位以上	
-----------------	--------	--

(注) 総合教育科目は学則上、卒業までに20単位以上取得すれば良いことになっていますが、科目の性質や、カリキュラムの計画を考えるとできるだけ第1・2学年で履修しておくのが望ましいため、第1・2学年の科目として掲載しています。

第9

履修要項【99学則用】

1 開講科目と単位数

2009年度に商学部が三田に設置する科目と単位数は次のとおりです。授業には週1コマ開講される通年科目，春学期または秋学期のみに毎週2コマ開講される集中科目，および週1コマの春学期または秋学期のみの半期科目があります。科目名の末尾に「 / 」がつく科目は一方のみの履修が可能です，「 a / b 」がつく科目は春学期・秋学期セットで履修しなければなりません。

なお，99学則適用者が05学則適用者の科目を履修することはできません。

(注) 新カリキュラム導入に伴い，*がついている科目は次年度以降も開講する予定はありませんので，注意して履修計画を立ててください。*がついていない科目でも予告なく休講になる場合があります。

(1) 総合教育科目

分類	科目名	単位数
類	自然科学概論	2
	自然科学概論	2
	実践自然科学	2
類	人間と音楽	2
	人間と音楽	2
	人の尊厳(社会と人権)	2
類	総合教育セミナーS(類)	2

(2) 専攻科目

類

科目名	単位数	科目名	単位数
専攻演習D	4	研究会	8または4
専攻演習S	2	*外書演習	
外国語演習D(フランス語)	4	*外国語特殊(英語演習)	
外国語演習D(中国語)	4	*外国語特殊(ドイツ語口語表現)	
外国語演習D(スペイン語)	4	*外国語特殊(フランス語上級-講読)	
外国語演習S(英語)	2	*外国語特殊(フランス語上級-演習)	
外国語演習S(ドイツ語)	2	*外国語特殊(中国語中・上級)	
ドイツ語専門書研究	4	*外国語特殊(スペイン語)	
フランス語専門書研究	4	*専門演習	
関連課題研究D	4	*専門外国書研究	
関連課題研究S	2		

類

a 専攻分野に関する科目

(注) なお，各論的科目は毎年度開講されるとは限りません。

特定期間集中の科目は，開講期間に注意してください。

分野	科目名	単位数	備考
経営	A 経営		
	《総論的科目》		
	*現代企業経営論		休講
	*経営管理論		休講
	*経営学説史		休講
	《各論的科目》		
	現代企業経営各論(企業形態)	2	秋学期

経営	現代企業経営各論（企業制度）	2	秋	学	期
	現代企業経営各論（企業戦略）	2	春	学	期
	現代企業経営各論（企業評価）	2	秋	学	期
	現代企業経営各論（企業分析の方法）	2	春	学	期
	現代企業経営各論（企業倫理）	2	春	学	期
	現代企業経営各論（経営経済）	2	秋	学	期
	現代企業経営各論（経営情報論）	2	春	学	期
	現代企業経営各論（経営組織）	2	春	学	期
	現代企業経営各論（組織文化論）	2	秋	学	期
	現代企業経営各論（中小企業経営）	2	秋	学	期
	現代企業経営各論（日本経営基本論）	2	春学期特定期間集中		
	現代企業経営各論（比較経営論）	2	春	学	期
	経営管理各論（経営管理）	2	春	学	期
	経営学説史各論（方法論史）	2	秋	学	期
会計	B 会計	《総論的科目》			
	財務会計論	4	通	年	
	管理会計論	4	休	講	
	会計史		通	年	
	(注)「管理会計論」は、2006年度以前に「管理会計各論(原価計算論)」の単位を 取得済みの場合は履修できません。				
	《各論的科目》				
	財務会計各論(会計基礎理論)	2	春	学	期
	財務会計各論(会計測定論)	2	春	学	期
	財務会計各論(会計測定論)	2	秋	学	期
	財務会計各論(現代会計論)	2	秋	学	期
	財務会計各論(国際会計論)	2	春	学	期
	財務会計各論(税務会計論)	2	春	学	期
	財務会計各論(税務会計論)	2	秋	学	期
	財務会計各論(非営利法人会計論)	2	春	学	期
	財務会計各論(非営利法人会計論)	2	秋	学	期
	会計監査各論(公認会計士による財務諸表監査)	2	春	学	期
	管理会計各論(業績評価と会計)	2	春	学	期
	管理会計各論(原価管理論)	2	春	学	期
	管理会計各論(サービス業の管理会計)	2	春	学	期
管理会計各論(戦略的管理会計)	2	秋	学	期	
会計史各論		休	講		
商業	C 商業	《総論的科目》			
	マクロ・マーケティング論		休	講	
	ミクロ・マーケティング論		休	講	
	《各論的科目》				
	マクロ・マーケティング各論(商業経済学)	2	春	学	期
	マクロ・マーケティング各論(マーケティング学説史)	2	秋	学	期
	マクロ・マーケティング各論(マーケティング史)	2	春	学	期
	ミクロ・マーケティング各論(グローバル・マーケティング論)	2	秋学期特定期間集中		
	ミクロ・マーケティング各論(広告論)	2	秋	学	期
	ミクロ・マーケティング各論(消費者行動論)	2	春	学	期
	ミクロ・マーケティング各論(セールスプロモーション論)	2	秋	学	期
	ミクロ・マーケティング各論(製品開発論)	2	秋	学	期
	ミクロ・マーケティング各論(マーケティング経済学)	2	春	学	期
	ミクロ・マーケティング各論(マーケティング・リサーチ)	2	春	学	期
経済・産業	D 国際経済	《総論的科目》			
	国際経済学	4	通	年	
	世界経済論	4	通	年	
	国際金融論	4	通	年	
	《各論的科目》				
	国際経済学各論(国際経済政策論)	2	春	学	期
	国際経済学各論(国際貿易論)	2	春	学	期
	世界経済各論(国際開発協力論)	2	秋	学	期
	世界経済各論(中国経済論)	2	春	学	期
	国際金融各論(国際金融機関論)	2	春	学	期

経済・産業	E 計量経済	《総論的科目》		
		理論経済学	4	春学期集中
		経済政策	4	春学期集中
		経済統計	4	通 年
		計量経済学	4	通 年
		《各論的科目》		
		理論経済学各論（応用ミクロ経済学）	2	春 学 期
		理論経済学各論（障害者の経済学）	2	秋 学 期
		理論経済学各論（マクロ・エコノミクス）	2	春 学 期
		理論経済学各論（マネタリー・エコノミクス）	2	秋 学 期
	経済政策各論		休 講	
	経済統計各論（指数論）	2	秋 学 期	
	経済統計各論（数理統計基礎）	2	春 学 期	
	経済統計各論（統計的推論）	2	秋 学 期	
	計量経済学各論（応用計量経済学）	2	春 学 期	
	計量経済学各論（マクロ計量経済学）	2	春 学 期	
	計量経済学各論（ミクロ計量経済学）	2	秋 学 期	
	F 金融・保険	《総論的科目》		
		金融論	4	通 年
		財政学	4	通 年
証券経済論			休 講	
保険学		4	通 年	
《各論的科目》				
金融各論（資本市場論）		2	春 学 期	
金融各論（資本市場論）		2	秋 学 期	
財政学各論			休 講	
証券経済各論（証券制度論）		2	秋 学 期	
保険学各論（生命保険論）	2	春 学 期		
保険学各論（損害保険論）	2	春 学 期		
保険学各論（保険経営論）	2	秋 学 期		
リスク・マネージメント各論（現代社会とリスク）	2	秋 学 期		
G 産業・交通	《総論的科目》			
	産業組織論	4	春学期集中	
	サービス経済学		休 講	
	交通経済論	4	通 年	
	《各論的科目》			
	産業組織各論（規制の経済学）	2	春 学 期	
	産業組織各論（産業組織と企業戦略）	2	春 学 期	
	産業組織各論（社会問題の経済学）	2	秋 学 期	
	サービス経済学各論		休 講	
	交通経済各論（公益事業論）	2	春 学 期	
交通経済各論（公益事業論）	2	秋 学 期		
交通経済各論（国際交通論）	2	秋 学 期		
H 労働・社会	《総論的科目》			
	労働経済学	4	通 年	
	産業関係論	4	通 年	
	産業社会学	4	通 年	
	組織心理学	4	通 年	
	社会保障論	4	通 年	
	《各論的科目》			
	労働経済学各論		休 講	
	産業関係各論（労務管理論）	4	春学期集中	
	産業社会学各論（経営社会学）	2	春 学 期	
産業社会学各論（経営社会学）	2	秋 学 期		
組織心理学各論		休 講		
社会保障各論（人口・労働問題と社会保障）	2	秋 学 期		

経済・産業	I 産業史・経営史	《総論的科目》		
		産業史	2	春学期
	経営史	2	春学期	
	《各論的科目》			
	産業史各論（比較小売業史）	2	秋学期	
	経営史各論（アメリカ経営史）	2	秋学期	
	経営史各論（日本経営史）	2	秋学期	

b その他の科目

科目名	単位数	備考
情報処理		休講
情報処理		休講
数学各論（経済数学基礎）	2	春学期
数学各論（経済数学）	2	秋学期
数学各論（経済数学）	2	秋学期
数学各論（ゲーム理論）	2	春学期
法学各論（経済法）	2	春学期
法学各論（経済法）	2	秋学期
法学各論（商法 A）	2	春学期
法学各論（商法 B）	2	秋学期
法学各論（商法 A）	2	春学期
法学各論（商法 B）	2	秋学期
法学各論（租税法）	2	春学期
法学各論（租税法）	2	秋学期
法学各論（民法 A）	2	春学期
法学各論（民法 B）	2	秋学期
法学各論（民法 A）	2	春学期
法学各論（民法 B）	2	秋学期
法学各論（労働法）	2	春学期
法学各論（労働法）	2	秋学期
〔経済学史 a〕	2	春学期
〔経済学史 b〕	2	秋学期
ラボから市場へ：ロボット社会とビジネス・パーソン（寄附講座）	2	春学期
現代の物流の変革（寄附講座）	2	春学期
現代の株式市場と上場会社（寄附講座）	2	秋学期
資産運用の理論と実務（寄附講座）	2	春学期
現代の企業金融（寄附講座）	2	秋学期
イノベーションの経営・商業	2	春学期
経済学と法制度	2	秋学期
ジャパニーズ・エコノミー	2	秋学期
戦略の経営・会計	2	秋学期
戦略の経済・商業	2	秋学期

(3) 自主選択科目

科目名	単位数	備考
〔イタリア語 a〕	1	春学期
〔イタリア語 b〕	1	秋学期
ロシア語	2	通年
朝鮮語（初級）	2	通年
朝鮮語（中級）	2	通年
アラビア語	2	通年
ギリシャ語	2	通年
ラテン語	2	通年

2 卒業および進級所要単位数

(1) 第4学年への進級所要単位数

第3学年において履修する総合教育科目，専攻科目 類，専攻科目 類，関連科目，および自主選択科目から12単位以上を取得すること。取得単位数が12単位に満たない場合は進級できません。

(2) 卒業所要単位数

第4学年において12単位以上を取得すること。

商学部設置の「研究会」を第3・4学年を通じて履修している場合は，この12単位の中の8単位として算入されます。

原級者の場合は，合計で12単位を取得すれば必要単位数を満たします。毎年新たに12単位を取得する必要はありません。

次の表のとおり，合計128単位以上を取得すること。

授業科目の種類			所要単位数
総合教育科目	類 類 類 類	6単位以上必要	20単位以上
		4単位まで算入	
外国語科目	英語，ドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語のうちから2か国語各8単位		16単位
基礎科目	類	6単位	14単位以上
	類A群	4単位以上	
	類B群	2単位以上	
	類C群	2単位以上	
専攻科目	類	4単位以上	12単位以上
	類	8単位以上	
	類 類	2単位以上必要	46単位以上
自主選択科目	第1・2学年で取得したもの		8単位
	第3・4学年で取得したもの		12単位
合計			128単位以上

総合教育科目 類（体育科目）は，何単位取得しても進級・卒業所要単位数に算入される単位は第1～4学年あわせて4単位までです。4単位を超える分は，進級・卒業所要単位数に算入されません。

関連科目（専攻科目 類）は，何単位取得しても進級・卒業所要単位数に算入される単位は8単位までです。8単位を超える分は，進級・卒業所要単位数に算入されません。

総合教育科目，基礎科目，専攻科目のうち，所定単位数を超えて取得した単位は，自動的に自主選択科目として算入されます。ただし，第3・4学年を通じて必要な自主選択科目の12単位には，第1・2学年において取得した単位は算入されませんので，履修学年には充分注意してください。

第3・4学年を通じて58単位以上（専攻科目 類を46単位以上，自主選択科目を12単位）を取得しなければなりません。不合格のために再履修した第1・2学年配当の必修科目および所定単位数不足の選択科目（総合教育科目，基礎科目 類，専攻科目 類）はこの58単位に含まれません。

自由科目は進級・卒業所要単位数に算入されません。

3 履修上の注意

(1) 履修上限単位について

1 かに履修できる単位数の最高限度は 50 単位です。ただし、次の科目は履修単位数に含まれません。

不合格のために再履修する第 1・2 学年配当の必修科目（外国語科目，基礎科目 類）および単位不足の選択科目（基礎科目 類，専攻科目 ・ 類）。ただし，選択科目のうち，単位不足分を超えて余分に申告する分については履修単位数に含まれます。

単位不足の総合教育科目（ 類 6 単位を含む）。ただし，単位不足分を超えて余分に申告する分については履修単位数に含まれます。

第 3 学年において履修する商学部設置の「研究会」。

自由科目。

(2) 研究会の履修について

研究会を履修する学生は，志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受け，合格しなければなりません。

第 3・4 学年を通じて履修し，第 4 学年でまとめて 8 単位を取得します（第 3 学年では履修単位数に含まれません）。

履修申告は第 3 学年で「研究会（3 年）」を，第 4 学年で「研究会（4 年）」をそれぞれ申告してください。

第 3 学年のみの履修は認められません。

第 4 学年のみの履修は，担当教員の下承を得たうえで「研究会認定用紙」（所定用紙）を提出した場合のみ，4 単位を取得できます。

研究会を退会した場合は，速やかに学事センターに「研究会退会届」（所定用紙）を提出してください。

他学部設置の研究会を履修する場合は関連科目，自主選択科目，自由科目 のいずれかで登録してください。専攻科目 類として履修することはできません。

(3) 専攻科目 類の履修者数調整について

専攻演習 D・S については，履修申告の前に履修者数調整（抽選）を行います。履修を希望する場合は，以下に従って事前に Web エントリーを行ってください。抽選に通った場合のみ履修申告が出来ます。また，外国語演習 D・S，関連課題研究 D・S についても，担当者による履修者数の事前調整が行われる場合があります。講義要綱・シラバス部分で確認し，必ずガイダンスと初回授業に出席してください。

〔Web エントリー方法〕

<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/entry/> を開き，[Web エントリーシステムにログイン] ボタンをクリック

〔オンラインマニュアル〕

上記 URL を開き，[操作マニュアル] ボタンをクリック

	Web エントリー期間	結果発表	結果発表場所
初回	4 月 6 日（月）9:00 ~ 16:30	4 月 7 日（火）9:00	西校舎 501 番教室後方入口前の掲示板 （掲示により行い，Web では発表しません）
追加	4 月 7 日（火）9:00 ~ 14:00	4 月 8 日（水）8:30	

携帯電話からはエントリーできません。

やむを得ず，Web エントリーができない場合は，事前に学事センターに相談してください。

初回抽選で決定するのは 1 クラスのみです。もう 1 クラスを希望する場合は，追加抽選にエントリーしてください。

追加抽選の対象者は以下のとおりです。

- ・初回抽選でエントリーできなかった者
- ・初回抽選で漏れた者
- ・初回抽選で決定したクラスに追加して 2 クラス目を希望する者

抽選に通っただけでは登録されませんので，履修申告期間内に必ず履修申告してください。

抽選に通った科目は必ず履修申告しなければなりません。履修申告をしないとエラー科目となり、他のすべての科目が未登録になります。やむを得ない事情で履修できなくなった場合は、「専攻 類（旧： 類）クラス削除願」（所定用紙）に担当者の承認印をもらい、学事センターまで提出してください。

不正または無効の申告を行った場合は、決定クラスの発表後でも履修を認めません。

商学部設置の「研究会」を履修している場合は、専攻演習 D・S を専攻科目 類として履修することはできません。自主選択科目として履修してください。（外国語演習 D・S、関連課題研究 D・S は、研究会を履修していても、専攻科目 類として履修することができます）

(4) 関連科目の履修について

他学部・諸研究所設置科目（商学部設置科目と同一名称の科目，商学部と併設されている科目を除く）を関連科目として履修申告できます。ただし，総合教育科目と外国語科目は認められません。

関連科目は第 3・4 学年を通じて 8 単位まで専攻科目 類として進級・卒業所要単位数に算入されます。

8 単位を超える分は，進級・卒業所要単位数に算入されませんが，履修単位数には含まれます。

関連科目として履修申告した科目を，後に他の分野に振り替えることはできません。

(5) 自主選択科目の履修について

自主選択科目として設置されている科目のほか，一部の商学部設置科目，および他学部・諸研究所設置科目（商学部設置科目と同一名称の科目，商学部と併設されている科目を除く）を自主選択科目として履修申告できます。

自主選択科目は第 3・4 学年を通じて 12 単位まで進級・卒業所要単位数に算入されます。

自主選択科目として履修申告した科目を，後に他の分野に振り替えることはできません。

第 3・4 学年を通じて履修した商学部設置科目のうち，所定単位数を超えて取得した単位は，自動的に自主選択科目として算入されます。

(6) 他学部・諸研究所・他地区設置科目の履修について

他学部・諸研究所設置科目は関連科目，自主選択科目，または自由科目 として履修することができます。

事前に手続が必要なものや，他学部の学生の履修を認めない場合もありますので，設置学部の講義要綱や掲示板で必ず確認してください。履修にあたっては，履修を希望する授業科目の担当者の許可を口頭で得てから（承認印は不要）履修申告をしてください。

他学部・諸研究所設置科目の履修申告の際には，分野の指定が必要になる場合があります。

三田に設置されている他学部の科目を履修する場合は，それぞれ「文学部時間割表 [2・3 年生 (07 学則)]」「経済学部 3・4 年授業時間割」，「法学部法律学科 3・4 年授業時間割」の 2005 年度以降入学者用部分，「法学部政治学科 3・4 年授業時間割」に記載されている科目を登録してください。

他地区設置科目を履修する場合は，移動時間を十分考慮のうえ，三田の設置科目と時間が重複しないように注意してください。移動不可能と思われる履修申告をした場合は三田の履修科目を無効とします。特に，時限が連続する履修（例 1 時限三田，2 時限他地区）はできませんので注意してください。なお，昼休みを挟んだ場合は可とします。

定期試験は授業時間割と異なる時間帯で試験が行われることがありますので，試験時間割が他地区の科目と重複することがあります。その場合の取扱いについては試験時間割発表時に掲示しますので，確認して所定の手続をとってください。

(7) 重複履修について

曜日、時限を重複して履修することはできません。

同一名称の科目、および同一名称とみなされる科目（下表参照）は、同一学年内および学年が異なっても重複して履修することはできません（原則として担当者が異なっている場合でも不可）。

商学部設置科目	同一名称とみなされる他学部設置科目	
	経済学部設置科目	法学部設置科目
簿記論	簿記	
世界経済論	世界経済論 a・b	
国際金融論	国際金融論 a・b	
経済政策	経済政策論 a・b	経済政策
計量経済学	計量経済学中級 a・b	
金融論	金融論 a・b	
財政学	財政論 a・b	財政論
産業組織論	産業組織論 a・b	
労働経済学	労働経済論 a・b	労働経済論
産業社会学	産業社会学 a・b	
法学各論（商法 A）	商法 a	商法 A
法学各論（商法 B）	商法 b	商法 B
法学各論（民法 A）	民法 a	民法 A
法学各論（民法 B）	民法 b	民法 B
法学各論（民法 A）	民法 a	民法 A
法学各論（民法 B）	民法 b	民法 B

ただし、以下の例外があります。

- ・一方の科目を自由科目として履修申告すれば、重複履修が認められます。ただし、自由科目は進級・卒業所要単位に算入されません。また、自由科目として履修申告した科目を、後に他の分野に振り替えることはできません。
- ・自主選択科目として履修可能な外国語科目は、科目名が同じでも担当者が異なれば履修を認めます。科目名と担当者が同じでも内容が異なる場合には担当者の承認を得ることを条件に履修を認めます。
- ・専攻演習 D、外国語演習 D、関連課題研究 D は担当者が異なる場合に限り、一方を自主選択科目として履修することを認めます。専攻演習 S、外国語演習 S、および関連課題研究 S は、担当者が同じでも内容が異なれば自主選択科目として履修することを認めますが、担当者の承認が必要です。また、既に自主選択科目として重複履修している場合は、自由科目としてしか履修できません（再度、自主選択科目として履修することはできません）。
- ・2004 年度までに「外国語特殊」の単位を取得している場合、2005 年度以降に同じ語種の「外国語演習」の履修はできません（同名科目とみなすため）。ただし、担当者が異なる場合に限り、自主選択科目として履修することを認めます。
- ・2006 年度までに「専門外国語研究」の単位を取得している場合、2007 年度以降に同じ語種の「語専門書研究」の履修はできません。
- ・総合教育科目については、以下の表のとおりです。

総合教育セミナー （他学部設置少人数セミナー含む）	サブタイトルが異なり、担当者の許可があれば可
総合教育科目 類	担当者が異なれば可、もしくは同じ担当者でも担当者の許可があれば可
総合教育科目 類（実技科目）	重複履修可
基礎科目 類 A 群 「情報処理」	サブタイトルが異なれば可

- ・進級不合格者は、同一学年内で既に単位を取得した科目を履修上限 50 単位の範囲で再履修することができます。この場合は、評価の良い方がその科目の成績評価として記録されます。ただし、進級・卒業所要単位には加算されません。また、自由科目として単位を取得した科目の再履修はできません。

商学部と他学部と同じ名称の科目が設置されている場合には、商学部が設置している科目のみ履修することができます。他学部の科目は履修できません。

ただし「研究会」については、志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受けて合格すれば、他学部のものも履修できます（商学部の「研究会」と他学部の「研究会」の重複履修も可能です）。

商学部と他学部とで併設されている以下の科目を履修する場合は、たとえ科目名が異なっても商学部設置の科目を履修しなければなりません。

商学部設置科目	他学部併設科目（他学部での科目名）		
	経済学部設置科目	法学部設置科目	国際センター設置科目
総合教育セミナーS（類）			日本における外資系企業
財務会計論	会計学 a・b	会計学・	
国際経済学		国際経済論・	
世界経済論		国際経済論・	
世界経済各論（国際開発協力論）		開発援助政策論	
経済統計		経済統計 a・b	
社会保障論		社会保障論・	
法学各論（経済法）		経済法	
法学各論（経済法）		経済法	
法学各論（租税法）	租税法 a	租税法 / 所得税法	
法学各論（租税法）	租税法 b	租税法 / 企業税法	
法学各論（労働法）	労働法 a	労働法	
法学各論（労働法）	労働法 b	労働法	
経済学史 a・b	経済学史 a・b		

(8) 第1・2学年の不合格科目の履修について

日吉でのガイダンスについて

必修の外国語科目に不合格がある者は、三田には特修授業等は設置されていませんので、日吉設置の授業科目を履修しなければなりません。「商学部外国語科目履修案内」をあわせて参照してください。なお、以下のとおり日吉でガイダンスを行いますので必ず出席してください。

4月4日（土）13：00～14：30

英語・ドイツ語履修者 23 番教室
 英語・フランス語履修者 22 番教室
 英語・中国語履修者 J21 番教室
 英語・スペイン語履修者 J19 番教室

不合格のために再履修する第1・2学年設置の以下の必修科目は第3学年で履修することを原則とします。第3学年で単位が取得できない場合、第4学年で履修しなければなりません。授業時間割が重複したり、定期試験で日吉・三田の試験が重複して受験できず卒業できなくなることがありますので注意してください。

外国語科目 2か国語 16単位

基礎科目 類 6単位

基礎科目 類 A群 4単位， 類 B群 2単位， 類 C群 2単位

専攻科目 類 4単位， 類 8単位

なお、総合教育科目は卒業までに20単位以上（うち類は6単位以上）必要になりますが、第3学年での履修の仕方および成績によっては、第4学年に進級できても第4学年の履修申告時点で卒業できないことが決定する場合があります。卒業所要単位を考慮に入れて誤りがないよう十分に注意してください。

新カリキュラム導入に伴う注意事項

商学部では2005年度入学者より新カリキュラムが導入されました。ただし、2004年度以前の入学者の卒業・進級条件は変わりません。第1・2学年の不合格科目を再履修する際には、「2004年度以前入学者用」の時間割で履修クラスを確認するようにしてください。

また、日吉設置の総合教育科目は半期科目移行に伴い、以下のように多くの科目名が変更となっています。

[総合教育科目 半期科目移行に伴う科目の見方]

- ・科目名の末尾に「春」がつくもの（ただし外国語科目は除く）
半期完結型科目で、成績は「春」が秋にそれぞれつきます。
先習条件がある場合やセットでの履修が推奨されている場合もありますので、シラバスで確認してください。
「春」を履修するには、原則として「秋」を履修しなければなりません。
- ・科目名の末尾にa, bがつくもの
セット履修しなければいけない科目で、成績はa, bいずれも学年末につきます。
- ・科目名の末尾にD, Sがつくもの
Dは通年もしくは半期集中科目で4単位、Sは半期科目で2単位になります。

科目廃止に伴う注意点

a 旧学則科目は、以下の表のとおり、新学則科目と併設（合同授業）になります。

	旧学則科目名	旧学則 単位数	新学則科目名	新学則 単位数
基礎 類	経済学	4.0	経済学基礎	2.0
	商学概論 54ページ b 参照	2.0	経済学基礎	2.0
			基本簿記と財務諸表の見方	2.0
			経営学（環境と戦略）	2.0
			経営学（組織と管理）	2.0
商業学	2.0			
基礎 A	情報処理	4.0	情報リテラシー基礎	4.0
	情報処理	4.0	データとの対話D	4.0
	社会科学の考え方 54ページ c 参照	4.0	社会科学概論 ・	2.0×2
	簿記論	4.0	近代思想史 ・	2.0×2
基礎 B	簿記論	4.0	簿記 ・ （経済学部用科目）	2.0×2
	数学基礎	2.0	休講	
	微分法 54ページ d 参照	2.0	微積分	2.0
			微積分	2.0
	線形代数	2.0	線形代数（自主強化科目）	2.0
	数理計画法	2.0	ゲーム理論基礎（自主強化科目）	2.0
解析	2.0	中級線形代数	2.0	
基礎 C	解析	2.0	中級微積分	2.0
	統計学	2.0	統計学	2.0
専攻 類	統計学	2.0	統計学	2.0
	経済史	4.0	経済史	2.0
			経済史	2.0
	私法基礎	4.0	私法基礎	2.0
			私法基礎	2.0
社会経済学	4.0	社会経済学	2.0	
専攻 類	経営学	4.0	経営学（環境と戦略）	2.0
			経営学（組織と管理）	2.0
	商業学	4.0	商業学	2.0
			商業学	2.0
	産業経済論	4.0	産業経済論 a	2.0
			産業経済論 b	2.0
	会計学	4.0	財務会計論	4.0
理論経済学	4.0	経済学	2.0	
		経済学	2.0	

b 「商学概論」選択の注意

	経営学既習者もしくは履修希望者	商業学既習者もしくは履修希望者
基本簿記と財務諸表の見方		
経営学（環境と戦略）	×	
経営学（組織と管理）	×	
商業学		×
商業学		×

○は履修可，×は履修不可

c 「社会科学の考え方」選択の注意

〔基礎科目 類 A 群「社会科学の考え方」として履修する場合は，登録番号「06037」

〔総合教育科目 類「社会科学概論 ・ 」として履修する場合は，「社会科学概論」登録番号「55024」
「社会科学概論」登録番号「88302」

〔基礎科目 類 A 群「社会科学の考え方」として履修する場合は，登録番号「64296（木3）」「88412（金1）」

〔総合教育科目 類「近代思想史 ・ 」として履修する場合は，「近代思想史」登録番号「12231（木3）」
「14818（金1）」

「近代思想史」登録番号「11895（木3）」

「11933（金1）」

d 「微分法」選択の注意

「微分法（微積分）」、「微分法（微積分）」として，2科目とも履修が可能ですが，その場合には，どちらかを自由科目として申告してください。どちらを自由科目とするかは選択することが出来ませんが，「微分法（微積分）」を自由科目にすることをお勧めします（履修申告後の基礎科目 類 B 群と，自由科目の単位交換は認めません）。

中国語第 が不合格の場合，日吉設置の特修クラス中国語第 X を履修しなければなりません。中国語第 X は 2 コマ設置されますが，クラス指定になります。履修者は，学事センターで自分の履修クラスを確認してください。なお，クラス変更に関する注意事項および所定の用紙は学事センター窓口で配付しています。間違ったクラスで履修した場合，成績がつきませんので，十分に気を付けてください。

4 分野について

(1) 分野の選択

履修申告欄は A 欄と B 欄によって構成されています。

通常は A 欄にて履修申告します。他学部設置の科目を履修する場合や、一つの科目に対して複数の分野を選択できる場合等、変則的な履修をする場合に B 欄分野番号(2桁の数字)を使って B 欄で申告します。

A 欄と B 欄のどちらを使用するかについては次の表で確認してください。

科目の種類	対象科目	使用欄	分野番号	分野の扱い	
商学部設置科目		A欄	—	分野番号表のとおり	
	「専攻演習」「外国語演習」「関連課題研究」	B欄	51	自主選択科目	
	必修科目は履修を許可された場合のみ		60	自由科目 I	
他学部設置科目	60ページに掲載の総合教育科目*	A欄	—	総合教育科目	
	「全学部共通外国語科目履修案内」に掲載の外国語科目*			自主選択科目	
	http://www.gakui.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html	B欄	41	関連科目(専攻Ⅳ類)	
	総合教育科目と外国語科目は不可		51	自主選択科目	
	上記*以外の科目		60	自由科目 I	
諸研究所	言語文化研究所設置講座	A欄	—	自主選択科目	
		B欄	60	自由科目 I	
	メディア・コミュニケーション研究所設置講座		A欄	—	自主選択科目
			B欄	41	関連科目(専攻Ⅳ類)
		メディア・コミュニケーション研究所の研究生として履修する場合		60	自由科目 I
		61	自由科目 II		
	斯道文庫設置講座		A欄	—	自主選択科目
			B欄	41	関連科目(専攻Ⅳ類)
				60	自由科目 I
	福澤研究センター設置講座		A欄	—	自主選択科目
			B欄	41	関連科目(専攻Ⅳ類)
				60	自由科目 I
	国際センター設置講座		A欄	—	自主選択科目
			B欄	41	関連科目(専攻Ⅳ類)
				60	自由科目 I
	保健管理センター設置講座		A欄	—	自主選択科目
			B欄	60	自由科目 I
	情報処理教育室設置講座		A欄	—	自主選択科目
			B欄	41	関連科目(専攻Ⅳ類)
				60	自由科目 I
アート・センター設置講座		A欄	—	自主選択科目	
		B欄	41	関連科目(専攻Ⅳ類)	
			60	自由科目 I	
知的資産センター設置講座		A欄	—	自主選択科目	
		B欄	41	関連科目(専攻Ⅳ類)	
			60	自由科目 I	
外国語教育研究センター設置講座		A欄	—	自主選択科目	
		B欄	60	自由科目 I	
グローバルセキュリティ研究所設置講座		A欄	—	自主選択科目	
		B欄	41	関連科目(専攻Ⅳ類)	
			60	自由科目 I	
体育研究所設置講座		A欄	—	総合教育科目Ⅳ類	
		B欄	60	自由科目 I	
教職課程センター設置科目		A欄	—	自由科目 II	
外国語学校設置講座のうち、商学部および他学部設置されていない外国語	2009年度は対象科目なし	B欄	60	自由科目 I	
教育免許取得のために履修する教職課程授業科目		B欄	61	自由科目 II	

(2) 分野番号表(下線のついてる科目は今年度開講されません)

科目種類 (括弧内は卒業所要単位数)	分野	授業科目	申告欄	B欄分野
総合教育科目 (6単位以上)	01-01-01	宇宙と生命(4) 宇宙と人間(4) 宇宙の科学(2) 基礎の数学(2) 健康科学(2) 現代化学概論(2) 現代生物学概論(2) 自然科学概論・(各2) 自然人類学(2) 実践自然科学(2) 植物の科学(2) 心理学(4) 心理学・(各2) 人類学(4) 人類学・(各2) 生態学(2) 生命現象の分子科学(2) 生命の科学(2) 地学(4) 地学・(各2) 地学 a・b(各2) 地球科学概論(2) 地球科学概論・(各2) 天文学(4) 天文学・(各2) 天文学 a・b(各2) 動物行動学(2) 動物の科学(2)	A欄	
	01-01-02	化学(6) 化学・(実験を含む)(各3) 生物学(6) 生物学・(実験を含む)(各3) 物理学(6) 物理学・(実験を含む)(各3)		
	01-01-03	総合教育セミナー(類)(2または4) 総合教育セミナーD(類)(4) 総合教育セミナーS(類)(2) 他学部少人数セミナー(類)(2または4)		
類 (20単位以上)	01-02-01	映像・音響文化論(2) 音楽(4) 音楽・(各2) 音楽 a・b(各2) 科学史(2) 科学史・(各2) 科学史・(各2) 漢文(4) 漢文 a・b(各2) 経済人類学(4) 経済人類学・(各2) 経済人類学 a・b(各2) 言語学(4) 言語学～(各2) 言語・社会論(2) 言語認識論(2) 言語・文化論(2) 現代芸術論(2) 現代思想論(2) 現代世界史(2) 現代日本史(2) 現代メディア論(2) 国語国文(4) 国語国文・(各2) 国語国文 a・b(各2) ジェンダー論・(各2) 宗教学(4) 宗教学・(各2)	B欄	

総合 教育 科目 (20 単 位 以 上)	類	01-02-01	宗教学 a・b(各2) 住宅・建築史概論(2) 女性学(2) 身体文化論(2) 人文総合講座(2) 人文総合講座・(各2) 造形・デザイン論(2) 地域研究(2または4) 地域生態文化論(2) 地域文化論(2) 地域文化論 ~ (各2) 中国事情(2) 哲学(4) 哲学・(各2) 哲学 a・b(各2) 人間と音楽・(各2) 東アジア宗教文化概論・(各2) 美術(4) 美術・(各2) 美術 a・b(各2) 人の尊厳(社会と人権)(2) フランス事情・(各2) 文学(4) 文学・(各2) 文学 a・b(各2) 文化人類学(2) 民族音楽学(4) 倫理学(4) 倫理学・(各2) 倫理学 a・b(各2) 歴史(4) 歴史・(各2) 歴史 a・b(各2) 論理学(4) 論理学・(各2) 論理学 a・b(各2) 論理学序論(2) 論理学本論(2)	
		01-02-02	近代思想史(2または4) 近代思想史・(各2) 近代思想史 a・b(各2) 現代社会論(2) 社会科学概論(4) 社会科学概論・(各2) 社会学(4) 社会学・(各2) 社会学 a・b(各2) 社会心理学・(各2) 政治学(4) 政治学・(各2) 世界の政治(2) 地理学(4) 地理学・(各2) 地理学 a・b(各2) 日本の政治(2) 法学(憲法を含む)(4) 法学・(憲法を含む)(各2)	
		01-02-03	総合教育セミナー(類)(2または4) 総合教育セミナーD(類)(4) 総合教育セミナーS(類)(2) 他学部少人数セミナー(類)(2または4)	
	類	01-03-01	21世紀の実学(2) アカデミック・スキルズ ~ (各2) 社会との対話(2) 社会との対話(2または4) 社会との対話D(4) 社会との対話S(2) 日本の産業と経営(2)	
		01-03-02	医療・福祉の行政(2) 科学技術と現代社会(2) 科学と社会(2) 近代日本と福澤諭吉(2) 自然とヒト(4) 身体/感覚文化(2) スタディ・スキルズ・(各2) 生命の教養学(2) 西洋文明学説史(4) 西洋文明学説史・(各2) 戦争と社会(2) 地域と文化(4) 日本文明学説史(4) 日本文明学説史・(各2) バリアフリー/ユニバーサル・デザイン入門・(各2) 比較文化論(4) 比較文化論 a・b(各2) 東アジアの中の近代日本(2) 表象文化論(4) 表象文化論 a・b(各2) 文明学説史(4) 文明学説史・(各2) 民族文化論(2) ラテンアメリカ研究(4) ラテンアメリカ研究 a・b(各2)	
		01-03-03	総合教育セミナー(類)(2または4) 総合教育セミナーD(類)(4) 総合教育セミナーS(類)(2) 他学部少人数セミナー(類)(2または4)	
	類 (4単位まで算入)	01-04-01	保健衛生(1) 体育理論(1) 体育学講義(2) 体育学演習(1)	
		01-04-02	体育実技(1) 体育実技(1) 体育実技 A(1) 体育実技 B(1)	
	外国語科目(計16単位)	第1学年 配当科目 (2か国語 各4単位)	02-01-01	英語(各2)
			02-01-02	ドイツ語(各2)
02-01-03			フランス語(各2)	
02-01-04			中国語(各2)	
02-01-05			スペイン語(各2)	
02-01-11			日本語(外国人留学生)(各2)	
第2学年 配当科目 (2か国語 各4単位)		02-02-01	英語(各2)	
		02-02-02	ドイツ語(各2)	
		02-02-03	フランス語(各2)	
		02-02-04	中国語(各2)	
		02-02-05	スペイン語(各2)	
02-02-11	日本語(外国人留学生)(各2)			
基礎 科目	類(6単位)	03-01-01	商学概論(2) 経済学(4)	
	類	A群 (4単位)	03-02-01	簿記論(4) 社会科学の考え方(4) 情報処理(4)情報処理(4)
		B群 (2単位)	03-02-02	数学基礎(2) 線形代数(2) 微分法(2) 解析(2) 解析(2) 数理計画法(2)
		C群 (2単位)	03-02-03	統計学(2) 統計学(2)
(日吉設置) 専攻科目	類 (4単位)	04-01-01	経済史(4) 社会経済学(4) 私法基礎(4)	
	類 (8単位)	04-02-01	経営学(4) 会計学(4) 商業学(4) 理論経済学(4) 産業経済論(4)	

A
欄

専攻科目（三田設置） ・ 類あわせて46単位	類 (2単位以上)	04-03-01	外書演習(2)		
			外国語特殊(2)		
			専門演習(2)		
			専門外国書研究(2)		
			専攻演習 D (4)		
			専攻演習 S (2)		
			外国語演習 D (4)		
			外国語演習 S (2)		
			ドイツ語専門書研究(4)		
			フランス語専門書研究(4)		
			関連課題研究 D (4)		
			関連課題研究 S (2)		
			04-03-02	研究会(3年生)(0)	
	04-03-03	研究会(4年生)(8または4)			
	類	A 経営	04-04-01	総論的科目	現代企業経営論(4) 経営管理論(4) 経営学説史(4)
			04-04-02	各論的科目	現代企業経営各論(2または4) 経営管理各論(2または4) 経営学説史各論(2または4)
		B 会計	04-04-03	総論的科目	財務会計論(4) 管理会計論(4) 会計史(4)
			04-04-04	各論的科目	財務会計各論(2または4) 会計監査各論(2または4) 管理会計各論(2または4) 会計史各論(2または4)
		C 商業	04-04-05	総論的科目	マクロ・マーケティング論(4) ミクロ・マーケティング論(4)
			04-04-06	各論的科目	マクロ・マーケティング各論(2または4) ミクロ・マーケティング各論(2または4)
		D 国際 経済	04-04-07	総論的科目	国際経済学(4) 世界経済論(4) 国際金融論(4)
			04-04-08	各論的科目	国際経済学各論(2または4) 世界経済各論(2または4) 国際金融各論(2または4)
		E 計量 経済	04-04-09	総論的科目	理論経済学(4) 経済政策(4) 経済統計(4) 計量経済学(4)
			04-04-10	各論的科目	理論経済学各論(2または4) 経済政策各論(2または4) 経済統計各論(2または4) 計量経済学各論(2または4)
		F 金融・ 保険	04-04-11	総論的科目	金融論(4) 財政学(4) 証券経済論(4) 保険学(4)
			04-04-12	各論的科目	金融各論(2または4) 財政学各論(2または4) 証券経済各論(2または4) 保険学各論(2または4) リスク・マネージメント各論(2または4)
G 産業・ 交通		04-04-13	総論的科目	産業組織論(4) サービス経済学(4) 交通経済論(4)	
	04-04-14	各論的科目	産業組織各論(2または4) サービス経済学各論(2または4) 交通経済各論(2または4)		
H 労働・ 社会	04-04-15	総論的科目	労働経済学(4) 産業関係論(4) 産業社会学(4) 組織心理学(4) 社会保障論(4)		
	04-04-16	各論的科目	労働経済学各論(2または4) 産業関係各論(2または4) 産業社会学各論(2または4) 組織心理学各論(2または4) 社会保障各論(2または4)		
I 産業史 ・経営史	04-04-17	総論的科目	産業史(2) 経営史(2)		
	04-04-18	各論的科目	産業史各論(2または4) 経営史各論(2または4)		
J その他	04-04-19		情報処理(4) 情報処理(2) 経済学史(4) ジャパニーズ・エコノミー(2)		

A 欄

専攻科目(三田設置) ・ 類あわせて46単位)	類	Jその他		経済学史 a・b(各2)	A欄	
			04-04-20	数学各論(2または4)		
			04-04-21	法学各論(2または4)		
			04-04-22	21世紀のマネジメント(2) ラボから市場へ:ロボット社会とビジネス・パーソン(2) 現代の物流の変革(2) 現代の株式市場と上場会社(2) 資産運用の理論と実務(2) 現代の企業金融(2) 企業の社会的責任(CSR)を考える(4) ブランド創造とコミュニケーションの新展開(4) 変革の時代の企業経営(4) 環境ビジネスとポスト京都議定書時代の企業(2)		
		04-04-23	イノベーションの経営・商業(2) 経済学と法制度(2) 戦略の経営・会計(2) 戦略の経済・商業(2) 環境の経済・経営・商業・会計(2) イノベーションの経済・経営・商業・会計(2) 非営利組織の経済・経営・商業・会計(2) 戦略の経済・経営・商業・会計(2)			
関連科目 (8単位まで 算入)	04-04-25	他学部および諸研究所(センター等を含む)に設置されている科目 で教授会が適当と認める授業科目	B欄	41		
自主 選択 科目 (20 単位)	第1・2学年 配当科目 (8単位)	05-01-01		*総合教育科目・基礎科目・専攻科目 類のうち所定単位数を超えて履修 合格した単位をもって充てることもできます。 (1・2年で履修合格したものに限られます)	A欄	
				商学部設置の外国語科目 ドイツ語インテンシブ(2) フランス語インテンシブ(2) 中国語週3クラス(2) スペイン語第X(2) スペイン語インテンシブ(2) アラビア語(2) 英語アカデミックライティング(2) 英語ディスカッション(2) 英語ディベート(2) 英語プレゼンテーション(2) 英語リーディングセミナー(2) 英語リスニングセミナー(2) 英語第X-レベル2(2),レベル3(2),レベル4(2) 英語第X-TOEFL/TOEIC Practice(2) イタリア語入門(2) イタリア語入門 a・b(各1) イタリア語入門 (各1) 確率論基礎(2) 線形代数演習(2) 微積分演習(2) 中級線形代数(2) 中数微積分(2)		
				他学部設置の授業科目(単位数は当該学部の学則に従う)		
			言語文化研究所設置講座 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 斯道文庫設置講座 福澤研究センター設置講座 国際センター設置講座 保健管理センター設置講座 情報処理教育室設置講座 アート・センター設置講座 知的資産センター設置講座 外国語教育研究センター設置講座 グローバルセキュリティ研究所設置講座	A欄		
		05-01-02	英語第X-TOEFL/TOEIC(2)			
第3・4学年 配当科目 (12単位)	05-01-01		*総合教育科目・基礎科目・専攻科目のうち所定単位数を超えて履修合格した 単位をもって充てることもできます。 (3・4年で履修合格したものに限られます)	A欄		
			英語第XX-レベル2(2) 英語第XX-レベル3(2) 英語第XX-レベル4(2) 英語第XX-TOEFL/TOEIC Practice(2) ドイツ語第XX(2) フランス語第XX(2) 中国語第XX(2) スペイン語第XX(2) イタリア語(2) イタリア語 a・b(各1) 朝鮮語(2) ロシア語(2) ギリシャ語(2) ラテン語(2) アラビア語(2)			
			外書演習(2) 外国語特殊(2) 外国語演習D(4) 外国語演習S(2) 専門演習(2) 関連課題研究D(4) 関連課題研究S(2) 専攻演習D(4) 専攻演習S(2) (ただし,自主選択科目として履修する場合)			B欄

自主 選択 科目 (20 単位)	第3・4学年 配当科目 (12単位)	05-01-01	他学部設置の授業科目 言語文化研究所設置講座 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 斯道文庫設置講座 福澤研究センター設置講座 国際センター設置講座 保健管理センター設置講座 情報処理教育室設置講座 アート・センター設置講座 知的資産センター設置講座 外国語教育研究センター設置講座 グローバルセキュリティ研究所設置講座	A欄	51
		05-01-02	英語第XX - TOEFL / TOEIC(2)		
自由 科目	自由科目 (*卒業単位には含 まれません。 1カ年につき8単位 まで)	06-01-01	商学部設置科目(必修科目は、履修を許可された場合のみ) 他学部設置の授業科目 言語文化研究所設置講座 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 斯道文庫設置講座 体育研究所設置講座 福澤研究センター設置講座 国際センター設置講座 保健管理センター設置講座 情報処理教育室設置講座 アート・センター設置講座 知的資産センター設置講座 外国語教育研究センター設置講座 グローバルセキュリティ研究所設置講座 外国語学校設置講座のうち、商学部および他学部に設置されていない外国語 (2009年度は対象科目無し)	B欄	60
		06-01-02	メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修するメディア・コミュニ ケーション研究所設置講座 教員免許取得のために履修する教職課程授業科目		61

(注) 専攻科目 類の各論的科目の()内の科目名は省略してあります。

他学部設置の総合教育科目について（三田）

三田地区で開講される以下の他学部設置の授業科目は、商学部の総合教育科目として扱われます。履修申告に際しては、以下の点に注意してください。

A 欄で申告してください。B 欄分野番号の指定は必要ありません。

以下の授業科目については下表中の分野以外での履修申告はできません（関連科目・自主選択科目として履修申告できません）。

履修人数が多い場合は設置学部の学生が優先となります。必ず履修申告前に授業担当者に許可をもらうようにしてください。

講義要綱・時間割は設置学部のもので確認してください（学事センターにて閲覧できます）。

授業科目の種類	分野	科目名	設置学部
総合教育科目 類	01-01-01	数学	法
		数学	法
		統計学	法
		統計学	法
総合教育科目 類	01-02-01	映画演劇論	文
		映画演劇論	文
		映画演劇論	文
		映画演劇論	文
		ロシア文学	文
		ロシア文学	文
		芸術と文明	文
		現代芸術	文
		現代芸術	文
		詩学	文
		詩学	文
		地域研究 - 中国事情	経
	地域研究 - 中国事情	経	
	01-02-03	人文科学研究会	法
人文科学研究会		法	
人文科学研究会		法	
人文科学研究会		法	
総合教育科目 類	01-03-02	基礎情報処理	文
		情報処理	経
		自然科学特論	法
		自然科学特論	法

5 卒業単位数チェック表

※必ず本要項を参照して、チェックしてください。

	必要単位数			取得単位数		
1・2年時 取得単位	総合教育科目	I類	6単位以上	20単位以上 (卒業までに)	I類	計
		II類			II類	
		III類			III類	
		IV類	4単位まで 算入		IV類	
	外国語	外国語 1	8単位			
		外国語 2	8単位			
	基礎科目	I類	6単位			
		II類A群	4単位以上			
		II類B群	2単位以上			
	専攻科目	I類	4単位以上			
II類		8単位以上				
自主選択科目 (所定単位数超過分を含む)		8単位				
小計 (1)		70 単位以上				

※上記に所定単位数不足の科目があったとしても、合計で70単位以上を取得していれば第3学年に進級できます。ただし、単位数不足分は、以下の第3・4学年で必要な58単位とは別に必要になりますので、58単位に含めて数えないように注意してください。

	必要単位数			取得単位数		
3・4年時 取得単位	専攻科目	III類	2単位以上	46単位以上	III類	計
		IV類	関連科目は 8単位まで 算入		IV類	
	自主選択科目 (所定単位数超過分を含む)		12単位			
小計 (2)		58 単位以上				

合計 (1) + (2)	128 単位以上	
--------------	----------	--

4年生取得単位	12 単位以上	
---------	---------	--

(3年生) 第4学年への進級条件	12 単位以上	
------------------	---------	--

(注1) 総合教育科目は学則上、卒業までに20単位以上取得すれば良いことになっていますが、科目の性質や、カリキュラムの計画を考えるとできるだけ第1・2学年で履修しておくのが望ましいため、第1・2学年の科目として掲載しています。

(注2) (2001年度以前入学者への注意) 第3学年に進級する為には68単位以上取得すれば良いことになってるため、もし1・2年時取得の自主選択科目が8単位に満たないまま第3学年に進級した場合は、とりあらず1・2年時取得の総合教育科目を自主選択科目にまわして補います。第3・4学年では、この補った総合教育科目(自主選択科目にまわした分)の単位も余計に取得する必要があります。

講義要綱・シラバス

今年度の開講科目のみ掲載しています。

科目名の前に【05】と記載されているものは2005年度以降入学者のみ、
【99】と記載されているものは2004年度以前入学者のみ履修できます。
科目名の末尾に「 , 」と記載されているものは半期ごとに履修でき
ますが、「 a , b」と記載されているものは春学期・秋学期セットでしか
履修できません。

総合教育科目

自然科学概論（春学期） 准教授 長谷川 由利子
宇宙・生命の誕生と進化 准教授 新田 宗 士

授業科目の内容：

わたしたちが、その上で生活していることをほとんど意識していない地球はどのようにして生まれたのでしょうか？地球が属している太陽系は？太陽系が属している宇宙は？また、地球上に最初に誕生した生命はどのようなもので、どのようにしてヒトへとつながっていったのでしょうか？この講義では、誕生と進化について宇宙と生命の観点から解説します。

テキスト：

使用しません。

参考書：

講義中に適宜紹介します。

自然科学概論（秋学期） 専任講師 上村 佳孝
科学と技術の最先端 専任講師 松浦 壮

授業科目の内容：

科学の進歩は、これまでに幾度となく人間の世界観を変えてきました。また、その応用技術は、我々の身近な生活のみならず、政治・経済・社会にも大きな影響を及ぼしてきました。今世紀になって、科学と技術はさらに発展し、我々の世界観と日常生活に大きな変革を与えようとしています。本講義では、物理学と生物学の分野における科学と技術の最先端を紹介します。前半では、「性と遺伝子にまつわる科学の最先端」を、後半では「相対性理論と量子論がもたらした世界観と科学技術」を講義します。

テキスト：

使用しません。

参考書：

使用しません。

実践自然科学（秋学期）
実験要素を含む4年生のための自然科学

教授 福澤 利彦
文学部 教授 大場 茂
法学部 教授 小林 宏 充

授業科目の内容：

実験やデモンストレーションなど、実験要素を取り入れて、自然科学の考え方や方法論を教えることに重点を置いた授業とします。全体説明のガイダンスの後、化学、物理学、生物学の3分野の教員が、それぞれの分野において、4回ずつ異なるテーマで授業を行います。実験要素を含むことが本科目の特徴であるため、受講生諸君が授業に参加して自ら考えることが必要となります。

テキスト：

特に指定しません。講義時に資料・プリントを配布します。

参考書：

特に指定しません。

人間と音楽（春学期）
歴史・文化・社会における世界音楽 講師 早稲田 みな子

授業科目の内容：

世界の様々な音楽文化を、その歴史・文化・社会との関わりの中で考察し、音楽に関する概念・価値観・理論の多様性、音楽の持つ多様な意義・機能、音楽の流動性・可変性などについて理解できるようにする。春学期の主なテーマは音楽と宗教、音楽家の社会的地位、異人としての音楽家、音楽と文化政策、および音楽劇である。個々の事例を通して、「音楽と人間の関わり」というより大きなテーマを考察する基礎力を養うことを目的とする。

テキスト：

特になし。授業中随時参考資料を配布する。

参考書：

特になし。

人間と音楽（秋学期）
歴史・文化・社会における世界音楽 講師 早稲田 みな子

授業科目の内容：

世界の様々な音楽文化を、その歴史・文化・社会との関わりの中で考察し、音楽に関する概念・価値観・理論の多様性、音楽の持つ多様な意義・機能、音楽の流動性・可変性などについて理解できるようにする。秋学期の主なテーマは、音楽の伝播と変容、労働の歌、抗議の歌、音楽と観光産業・エキゾティズム・人種問題、およびポピュラー音楽の生成

である。個々の事例を通して、「音楽と人間の関わり」というより大きなテーマを考察する基礎力を養うことを目的とする。

テキスト：

特になし。授業中随時参考資料を配布する。

参考書：

特になし。

人の尊厳（社会と人権）（春学期）

文学部 教授 安藤 寿康
文学部 教授 渡辺 秀樹
名誉教授 関場 武

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまざまわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけを掴んでいただくことが、この講義の目的である。

総合教育セミナー S（類）（春学期）

Foreign Companies in Japan—a Success or a Failure?

Understanding the True Situation of Foreign Companies in Japan
講師 ハリス、グレアム

授業科目の内容：

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the “Bubble era” and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

The Course which will be conducted in English will be a combination of lectures, discussions, student group presentations; case studies and research assignments

テキスト：

Current materials will be used.

【05】データとの対話 S（春学期） 講師 鴻巣 努

授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

参考書：

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社
- ・室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

【05】専攻科目 類

【99】専攻科目 類

[A 経営]

現代企業経営各論(企業形態)(秋学期) 名誉教授 植竹晃久

授業科目の内容:

企業環境の変化のもとで、企業とは何か、企業は誰のために、どのように運営されるべきかということがあらためて問われてきているが、そうした問題設定をふまえて、現代企業の特徴とその制度的枠組みについて考察していく。

テキスト:

植竹晃久(2008)『現代企業経営論:現代の企業と企業理論』税務経理協会。近刊。

参考書:

- ・吉森賢(2005)『経営システム・経営者機能』(放送大学教育振興会)
- ・植竹晃久・仲田正機編著(1999)『現代企業の所有・支配・管理:コーポレート・ガバナンスと企業管理』(ミネルヴァ書房)

現代企業経営各論(企業制度)(秋学期) 教授 谷口和弘

授業科目の内容:

企業は、補完的な制度・戦略、ガバナンス・システム、そして企業文化などの複合体とみなすことができる。本講では、組織経済学や戦略経営論の研究成果をふまえたうえで、環境変化のなかで、企業の境界と組織アーキテクチャがいかに変化していくかを検討する。とくに、企業の性質、リーダーシップ、比較コーポレート・ガバナンスと会社法の変化、「選択と集中」の戦略、モジュール化、そして資本主義の進化などにかかわる問題を考察する予定である。

テキスト:

・谷口和弘(2006)『企業の境界と組織アーキテクチャ:企業制度論序説』NTT出版。

参考書:

- ・谷口和弘(2008)『組織の実学:個人と企業の共進化』NTT出版。
- ・谷口和弘(2006)『戦略の実学:際立つ個人・際立つ企業』NTT出版。
- ・J. ロバーツ(谷口和弘訳)(2005)『現代企業の組織デザイン:戦略経営の経済学』NTT出版。
- ・R. ラングロウ・P. ロバートソン(谷口和弘訳)(2004)『企業制度の理論:ケイパビリティ・取引費用・組織境界』NTT出版。
- ・青木昌彦(瀧澤弘和・谷口和弘訳)(2001)『比較制度分析に向けて』NTT出版。
- ・鈴木清之輔(1999)『現代企業の株式所有構造と支配構造:企業の所有・支配分析の基礎視角』植竹晃久・仲田正機編『現代企業の所有・支配・管理:コーポレート・ガバナンスと企業管理システム』ミネルヴァ書房, pp.23-38。

現代企業経営各論(企業戦略)(春学期) 名誉教授 十川廣國

授業科目の内容:

本講義は、現代企業の戦略行動のあり方を理論的・実証的両側面から考えることに目的がある。そのため、まずは戦略論の発展の流れと企業が抱える課題について検討し、戦略経営のパスpekティブの重要性を明らかにする。そのうえで企業の競争優位構築とその行動について議論することになる。

テキスト:

特になし

参考書:

- ・十川廣國『企業の再活性化とイノベーション』中央経済社, 1997年
- ・十川廣國『新戦略経営:変わるミドルの役割』文真堂, 2002年
- ・十川廣國『経営学入門』中央経済社, 2006年
- ・十川廣國『イノベーション戦略とそのマネジメント』中央経済社, 2009年

現代企業経営各論(企業評価)(秋学期) 教授 岡本大輔

授業科目の内容:

企業評価論とは、ひとことで言ってどのような企業がよい企業か、どのような企業が良くない企業か、を考える学問である。しかし何を以て「良い」とするかはその評価基準によって、また評価を行なう主体によって異なる。すなわち、資金を貸し出す金融機関が評価する場合、投資家が評価する場合、実際に企業経営を行なっている経営者が評価する場合、また、就職のために学生が評価する場合、それぞれ評価基準が異なる。従来この企業評価は経営分析という手法によって行なわれてきたが、本講義ではそれをさらに応用した様々な企業評価を考察する。

テキスト:

なし

参考書:

- ・岡本大輔・梅津光弘著『企業評価+企業倫理』CSRへのアプローチ、慶應義塾大学出版会, 2006年
- ・岡本大輔著『AI企業評価』中央経済社, 2004年

現代企業経営各論(企業分析の方法)(春学期)

准教授 三橋 平

授業科目の内容:

本講義の目的は、企業行動を分析、解析するために必要な理論的背景とその方法論を体系的に議論することである。経営現象、企業行動をより幅広く、また正しく理解するには、定性的・定量的データの収集と分析が有効である。本講義では主にアーカイバル・データを用いた定量的アプローチによる企業分析の方法を紹介していく。企業行動分析の多くには、定石はない。これは、対象とするコンテキストに依存する傾向が強いためである。そのため、基本を学ぶだけでなく、応用を通じた分析手法の開発力、創造力の習得が価値を持つ。本講義では、具体的な分析案件に触れながら、受講生とインターアクティブな講義を行っていく。

テキスト:

必要に応じて講義の中で紹介する。

現代企業経営各論(企業倫理)(春学期) 准教授 梅津光弘

授業科目の内容:

昨今の企業不祥事の高発や不透明な取引引き慣行への批判などから、企業倫理やコンプライアンス、またコーポレート・ガバナンスの問題が企業経営の中核を担う課題として日本でも自覚されるようになってきた。このクラスではこうした事情を踏まえて、近年アメリカを中心に急成長してきた「Business Ethics(企業倫理学・経営倫理学)」という新学問領域の概説を行いながら、企業経営における社会的・道義的責任とは何かを共に考えてみたい。企業倫理は日本企業が今後直面する規制緩和、国際化、職場環境の多様化、社会全体の成熟化などの企業経営を取り巻く環境の変化との関係から今後もその重要性が増すと考えられる。また、国際化、地球環境保全、従業員の権利、社会貢献といった「新たな規範」に関する問題は、企業だけでなくあらゆる組織が取り組まなければならない課題でもある。参加者との活発な討論を通じて、国際的にも通用する経営理念と指導原理とを確立する契機になればと思う。

テキスト:

『ビジネスの倫理学』(丸善, 2002)

その他必要な文献やケースは適宜プリントにして配布する。

現代企業経営各論(経営経済)(秋学期) 教授 菊澤研宗

授業科目の内容:

現代企業経済学のフロンティアといわれている「取引コスト理論」、「エージェンシー理論」、「所有権理論」などの「組織の経済学」を数式は一切用いずに平易に説明し、これらの理論に基づいて日米独企業組織の効率性と非効率性を比較制度分析する。

テキスト:

菊澤研宗著『組織の経済学入門』有斐閣 2006年。

参考書:

- ・菊澤研宗著『比較コーポレート・ガバナンス論』有斐閣 2004年。
- ・菊澤研宗編著『業界分析組織の経済学』中央経済社 2006年。

現代企業経営各論(経営情報論)(春学期) 准教授 神戸和雄

授業科目の内容:

企業経営における情報の取り扱いに関する理解を深め、経営情報システムの活用と問題点を把握することを目的とする。

テキスト:

必要に応じて資料を配布する。インターネット経由での配布を予定している。

講義資料プリントは Web ページ <http://www.kambe.net/info2009/> よりダウンロードすること。ユーザ名・パスワードは初回授業で伝達。

参考書:

必要に応じて紹介する。

現代企業経営各論(経営組織)(春学期) 教授 渡部直樹

授業科目の内容:

組織・市場・情報

本講義では、従来からの組織に関する有力なアプローチをレビューするとともに、近年盛んになりつつある経済学的アプローチ、及びゲームの理論からのアプローチ、更に進化論的なアプローチといったものを検討し、これらを用いてわが国における組織問題 企業内のみならず企業間の を説明することにある。

テキスト：

テキストについては、授業の進行にあわせて具体的に指示する。

参考書：

- ・谷口和弘「戦略の実学」NTT出版、2006年
- ・ダウマ=シュルター著「組織の経済学入門」文真堂、2007年

現代企業経営各論（組織文化論）(秋学期) 教授 佐藤 和

授業科目の内容：

特にバブル崩壊以降、従来の日本型経営を行ってきた企業では、大きな変革が進行している。果たして「日本的」な要素は、21世紀にはすべて姿を消してしまうのだろうか。本講義では、現代企業経営を組織文化という視点から捉え、特に国や社会の持つ文化との関係を踏まえて考えてみたい。

テキスト：

佐藤和『日本型企業文化論』慶應義塾大学出版会、2009

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

現代企業経営各論（中小企業経営）(秋学期)

教授 高橋 美樹

授業科目の内容：

日米経済・産業のダイナミズム喪失が懸念される中、今日、中小企業は「日本経済再建の担い手」とまで呼ばれるようになっていきます。この授業では、「活力ある多数派」、「自己実現に挑戦する場」、「二重構造の底辺」など、様々な論じられる中小・ベンチャー企業を題材に、(1)中小企業について基礎的な知識を身につけること、(2)多様な学問的バックグラウンドをもつ諸君が分野を超えて意見を交わし、自分の頭で考える楽しさを味わってもらうこと、(3)これから社会に出ようとする諸君が自分自身の価値観、人生観、社会観を見直す契機を与えること、を講義の目標にしたいと思います。

テキスト：

最初の授業時に示します。

参考書：

- ・佐藤芳雄・巽信晴編著 [1996] 新中小企業論を学ぶ(新版)有斐閣選書
 - ・松田修一 [2005] 『ベンチャー企業第3版』(日経文庫)日本経済新聞社
 - ・植田浩史ほか [2006] 『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣コンパクト
 - ・渡辺幸男ほか [2006] 『20世紀中小企業論』有斐閣アルマ
- 他は、必要に応じて、講義中に紹介します。

現代企業経営各論（日本経営基本論）(春学期特定期間集中)

特別招聘教授 フルーイン、マーク

授業日：

- 火曜日 1限 5月12日・19日・26日
- 木曜日 1限 5月7日・14日・21日・28日
- 金曜日 1限 5月1日・8日・15日・22日・29日

現代企業経営各論（比較経営論）(春学期) 教授 前田 淳

授業科目の内容：

株式会社とは何か。その本質を理解した上で各国のコーポレートガバナンスの特徴を明らかにし、相互比較を行なう。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

講義の中で紹介する。

経営管理各論（経営管理）(春学期)

戦略構築と組織設計のマネジメント 教授 今口 忠政

授業科目の内容：

経営管理とは、組織メンバーの協力を確保して企業目標を効果的に実現するための活動である。そのためには、いかに目標を設定すれば良いか、設定した目標をどのような方法で実現するのか、役割分担をどのようにすれば良いか、動機づけやリーダーシップをどのようにすれば良いか等の問題を解決しなければならない。経営管理とはこのような一連の行動を指したものであるが、その巧拙によって生産性や企業業績が左右される。

講義はマネジメントに対する考え方を理論的に説明するとともに、実際の事例を用いて、できるだけ理解しやすいように心がける。

テキスト：

今口忠政著「戦略構築と組織設計のマネジメント」(中央経済社、2001年、2500円)

参考書：

教科書に記載、他は講義中に紹介します。

経営学説史各論（方法論史）(秋学期) 教授 榊原 研 互

授業科目の内容：

経営学が学問として成立してから約1世紀が経過し、経営学は今日社会科学の1学科として確固たる市民権を獲得するに至っている。しかしこのことは、経営学がもはや十分な体系性を具えているということではない。むしろ今日の経営学の対象領域の拡大は、学際的研究の名のもとに多種多様な理論や命題を次々と生み出し、それは「セオリー・ジャングル」と呼ぶにふさわしい様相を呈している。こうした状況にあって、われわれがさらに実り豊かな発展を経営学に期待しようと思うならば、われわれは何よりもこれら諸理論・諸学説の関係を明らかにし、かつそれらの科学性や説明力を批判的に吟味する必要がある。このような問題意識から、本講義では、まず科学的知識とはどのようなものかという方法論的基本問題から説き起こし、経営学の科学化をめぐる先人たちが払ってきた多くの努力の成果をドイツやアメリカの諸学説を通して明らかにしながら、経営学の今日的課題を考察する。

テキスト：

とくに指定しない。

参考書：

- ・G. シャンツ著、榊原訳『経営経済学の課題と方法』同文館、1991年
 - ・H. ウルリッヒ・G. ブローブスト著、榊原他訳『全体的思考と行為の方法』文真堂、1997年
 - ・M. ヴェーバー著、富永他訳『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』岩波書店、1998年
 - ・K. R. ポパー著、久野・市井訳『歴史主義の貧困 社会科学の方法と実践』中央公論新社、1961年
- その他、授業中に適宜紹介する。

[B 会 計]

[05] 会計史（春学期）/ 会計史（秋学期）

[99] 会計史（通年） 教授 友岡 賛

授業科目の内容：

そもそも会計とは何か、をかんがえる手掛かりとして、会計というものが経てきた変遷の姿、ときの経過にともなって過去から現在にいたるまで移り変わってきたそのプロセスをみる。方法としては、経済発展のプロセスに沿った通史的なそれが採用される。

また、会計の変遷と相即不離の関係にある企業形体の変遷を検討し、とりわけ、今日もっとも一般的な企業形体であるところの株式会社というそれについて、そもそも株式会社とは何か、をかんがえる。

テキスト：

- ・友岡賛『会計プロフェッションの発展』有斐閣
- ・友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣

参考書：

- ・友岡賛（編）『会計学』慶應義塾大学出版会
- ・友岡賛（編）『会計学の基礎』有斐閣
- ・友岡賛『会計の時代だ』筑摩書房

財務会計各論（会計基礎理論）(春学期) 教授 友岡 賛

授業科目の内容：

会計にかかわる基本的な問題をかんがえる。会計という行為の目的から説き起こし、会計公準論および会計主体論を検討の上、会計における認識、測定、および伝達にかかわる諸原則を論ずる。

テキスト：

- ・友岡賛（編）『会計学の基礎』有斐閣
- ・友岡賛、福島千幸『アカウンティング・エッセンシャルズ』有斐閣

参考書：

- ・友岡賛（編）『会計学』慶應義塾大学出版会
- ・友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣
- ・友岡賛『会計の時代だ』筑摩書房

財務会計各論（会計測定論）(春学期) 准教授 前川 千春

授業科目の内容：

近年、わが国においてもキャッシュ・フロー計算書が貸借対照表・損益計算書とともに基本財務諸表の一つとして位置づけられるようになってきた。当科目は、キャッシュ・フロー計算書の意義ならびに他の財務諸表との関係を理解し、個別キャッシュ・フロー計算書の具体的な作成方法・読み方を習得することを目的としている。

テキスト：

第1回の授業の際に指示する。

参考書：

必要に応じてプリントを配付する。

授業科目の内容:

近年、わが国においてもキャッシュ・フロー計算書が貸借対照表・損益計算書とともに基本財務諸表の一つとして位置づけられるようになってきた。当科目は、連結会計の基礎を理解し、連結キャッシュ・フロー計算書の具体的な作成方法・読み方を習得することを目的にしている。

テキスト:

第1回の授業の際に指示する。

参考書:

必要に応じてプリントを配付する。

授業科目の内容:

会計は、現在、大変動期にあるが、時価評価の導入だけが脚光を浴びており、そのため、現代会計は、一般に時価主義会計と特質づけられている。つまり、伝統的な取得原価主義会計は、環境要因の変動を反映する時価を無視しているという前提のもとに、時価評価の導入によって伝統的取得原価主義会計論の理論的欠陥を是正できるという考え方である。

しかし、こういう考え方によっては、現行会計の動向を適切に理解することは不可能である。なぜなら、現行会計の変革は、いわゆる金融資産の評価全般にかかわっているからである。つまり、伝統的な取得原価主義会計論は、もっぱら価値生産活動だけを対象としており、資本貸与活動(金融活動)を無視してきた。したがって、この点を是正しないかぎり、会計は、不完全なのである。現代会計理論は、こうした視点から再構築されなければならない。

本講義は、こうした視点のもとに、現代会計の動向の全体を合理的に説明する説明理論を粗上に載せることにしたい。

テキスト:

笠井昭次稿「現代会計理論の混迷(上下)」『税経通信』2007年6月号・7月号

授業科目の内容:

当科目の目的は、国際会計基準の概要を日本の会計基準との違いに焦点を当てて解説する。特に我が国にも国際会計基準に準拠した連結財務諸表を開示することを認めることの是非について議論が行われている。また、企業会計基準委員会の現在取り組んでいる国際会計基準と国内基準との収斂作業の動向を踏まえつつ、これからの我が国の会計の進むべき道の理解を深めることができる。

テキスト:

適宜配布資料を作って配布する。

参考書:

- ・International Financial Reporting Standards 2008 (原書) IASB
- ・「国際財務報告基準書 2007」発行元 雄松堂出版
- ・「国際会計の実務」(上巻, 下巻) 新日本監査法人 2007/8 LexisNexis (国際会計基準に関する解説書が多数出ているから自分の実力に見合った書物を購読することを勧める)

授業科目の内容:

税務会計とは、法人税を中心に、課税の基準となる課税所得の計算や課税価額の評価を目的とする会計であり、企業会計に立脚しつつ、租税法独自の調整を加えて作成されるものである。したがって、企業会計および租税法の理解が不可欠である。

講義においては、初めに我が国の租税制度の概要について説明し、その後法人税の課税所得の基礎的な計算構造等について理解する。

テキスト:

成道秀雄「税務会計論」中央経済社

授業科目の内容:

法人税の課税所得の計算および税額計算を中心とした税務会計について理解することを目的とするが、税制のあり方や税務行政についても検討する。また、最近脚光を浴びている国際課税についても触れることとしたい。

テキスト:

成道秀雄「税務会計論」中央経済社

授業科目の内容:

本講義では非営利法人の概要をみたあと、とくに私立学校法人の会計をとりあげ、以下の順で考察することにする。

- 学校法人会計の概要
- 資金収支計算の構造
- 消費収支計算の構造
- 基本金の特質

テキスト:

特に指定しないが、その都度指示するほか、随時プリントを配布する。

授業科目の内容:

本講義では非営利法人の概要をみたあと、とくに国立大学法人の会計をとりあげ、以下の順で考察することにする。

- 国立大学法人会計の概要
- 貸借対照表の構造
- 損益計算書の構造
- キャッシュ・フロー計算書の構造
- 国立大学法人等業務実施コスト計算書の構造

テキスト:

特に指定しないが、その都度指示するほか、随時プリントを配布する。

授業科目の内容:

公認会計士による財務諸表監査は、「監査主体論」「監査証拠論」「監査報告論」の3つの側面から把握することができます。本講義では、証券取引法に基づく財務諸表監査において、独立性の問題、監査証拠、リスク・アプローチ、内部統制、監査意見の形成およびゴーイング・コンサーン問題といった、これら3つの側面に見られるさまざまな論点を学んでいきます。

テキスト:

最初の時間に指定します。

授業科目の内容:

本講義では、管理会計の領域のうち、特に業績評価に係わる諸技法と諸問題について取り上げる。業績評価は、管理会計が資することを目的とする経営管理の中心に位置する。その巧拙は、経営上のパフォーマンスへの影響にとどまらず、そこで働く人達にも直接に係わる問題である。単に会計的な技法だけを扱うのではなく、広く経営管理における業績評価の問題とそこでの会計情報の役割に焦点を当てる。

テキスト:

特に指定しない。適宜、講義資料プリントを配布する予定である。

参考書:

講義の進行に合わせて、適宜参考文献を紹介する。

授業科目の内容:

この授業では、組織における原価管理(コストマネジメント)の様々なトピックスについて講義・議論する。ここでコストマネジメントとは「製品・サービスの適正なコスト水準を確保する」ことを意図するだけではなく、「コストの観点からビジネス・システム全体の最適化」を意図するアプローチである。

テキスト:

第1回の授業において指示する。

参考書:

- ・上埜進・杉山善浩・島吉伸・窪田祐一・吉田栄介『管理会計の基礎』税務経理協会。
- ・興津裕康・岡野憲治・吉田栄介編著『基礎から学ぶ現代原価計算』白桃書房。
- ・吉田栄介『持続的競争優位をもたらす原価企画能力』中央経済社。
- その他、トピックに応じて、適宜紹介する。

授業科目の内容:

この授業では、日吉の「管理会計論」において原価計算の基礎概念、個別・総合原価計算を既習であることを前提に、残された代表的原価計算手法である標準原価計算と直接原価計算を中心に学生による発表・講

義・議論・演習をおこなう。実際の計算を通じて理解を深めるため、毎回の演習および小テストを予定している。

テキスト：

第1回授業において指示する。

参考書：

- ・上埜進・杉山善浩・島吉伸・窪田祐一・吉田栄介『管理会計の基礎』税務経理協会。
- ・興津裕康・岡野憲治・吉田栄介編著『基礎から学ぶ現代原価計算』白桃書房。
- その他、トピックに応じて、適宜紹介する。

【05】管理会計各論（現代管理会計論）（春学期）

教授 横田 絵理

授業科目の内容：

近年管理会計の分野で話題になっているトピックスの中から経営組織と会計に関するいくつかのテーマを取り上げ事例とともに論じます。

テキスト：

特になし

参考書：

横田絵理『フラット化組織の心理と管理』慶應義塾大学出版会

管理会計各論（サービス業の管理会計）（春学期）

講師 青木 章通

授業科目の内容：

この授業では、非営利組織を含むサービス産業において、会計情報が経営のためにいかに用いられているのかを学習します。管理会計や原価計算の枠組みは、伝統的に製造業を中心に構築されてきました。しかし、サービス産業は製造業とは異なる経営上の課題を抱えていますので、注目すべきポイント、採算管理の方法、会計情報の使い方なども製造業とは違ったものであるはずで、授業では、金融業界、ホテル業界、百貨店、医療（病院）、行政（地方自治体）、鉄道・バスといった業界について学びます。

テキスト：

特になし。毎回プリントを配布します。

参考書：

中村清・山口祐司編『ホスピタリティマネジメント サービス競争力を高める理論とケーススタディ』、生産性出版、2002年。

管理会計各論（戦略的管理会計）（秋学期）

教授 園田 智昭

授業科目の内容：

管理会計は、企業を経営するために必要な会計情報を提供します。この講義では、経理や人事などの本社管理機能を企業グループ内で集約した組織であるシェアードサービスセンター（SSC）を対象として、その運営において課題となる、戦略的管理会計に係る問題を論じます。

テキスト：

園田智昭『シェアードサービスの管理会計』中央経済社

【99】財務会計論（通年）

名誉教授 笠井 昭次

授業科目の内容：

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探求する。ただし、その点に関する私見を一方向的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行なう。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

テキスト：

笠井昭次著『現代会計論』（慶應義塾大学出版会）

〔 C 商業 〕

【05】マクロ・マーケティング論（春学期）

【99】マクロ・マーケティング各論（商業経済学）（春学期）

マクロ・マーケティング・システムと社会とのインタラクション

教授 高橋 郁夫

授業科目の内容：

生産、流通、消費の連係を巨視的に捉え、それをマーケティング・システムと呼ぶとき、本講はシステムそれ自体と、加えて、それを取り巻く社会とのインタラクションを対象とする。

テキスト：

毎回、プリントを配布する。

参考書：

- ・清水猛（1988）『マーケティングと広告研究【増補版】』千倉書房。
- ・田村正紀（2001）『流通原理』千倉書房。

・高橋郁夫（2008）『消費者購買行動 小売マーケティングへの写像【三訂版】』千倉書房。

【05】マーケティング学説史（秋学期）

【99】マクロ・マーケティング各論（マーケティング学説史）（秋学期）

教授 堀越 比呂志

授業科目の内容：

今世紀初頭に始まったとされるマーケティング研究の諸成果の展開を時間を追って概観しながら、その知的到達点の構造を明らかにすることによって、マーケティング研究をより深く理解することが本講座の目的である。

テキスト：

テキストは特に用いない。

参考書：

- ・堀越比呂志『マーケティング・メタリサーチ マーケティング研究の対象・方法・構造』千倉書房
- ・堀田一善『マーケティング思想史の中の広告研究』日本経済新聞社
- その他主要参考文献は随時紹介する。

【05】マーケティング史（春学期）

【99】マクロ・マーケティング各論（マーケティング史）（春学期）

名誉教授 堀田 一善

授業科目の内容：

およそ人間社会におけるほとんどすべての制度や仕組みあるいは行動様式は、直面する問題を解決しようとする人々の努力の所産に他ならない。今日、マーケティングと呼ばれている企業の市場支配的あるいは市場適応的行動様式もその例外ではない。本講では、マーケティングがとりわけ純粋な形式をもって発展してきたと言われているアメリカを中心に、19世紀半ば以降の諸企業を取り巻く経済的、政治的、あるいは社会的状況要因に触発された市場の競争条件の変化と関係づけて、目的志向的な企業の行為様式としてのマーケティングがどのように進化してきたのか、そしてそれが個別経済的にも社会経済的にも無視できない影響力を有するようになってきた様相を、方法論的個人主義ないし制度主義的個人主義の観点から見て、状況の論理に照らして解明することを目的とする。

テキスト：

テキストは特に指定しない。

参考書：

- ・堀田一善著『マーケティング思想史の中の広告研究』（日本経済新聞社、2003年、3000円）
- ・堀田一善著『マーケティング思想史 メタ理論の系譜』（中央経済社、2006年、3000円）

【05】ミクロ・マーケティング論（春学期）

名誉教授 榎原 正勝

授業科目の内容：

本講義は、私達が日常経験的に目にすることが出来るマーケティング現象の背後にどのような経済原理が働いているかを理解することを目的としている。こうした能力を養うべく、理論的、原理的諸知識を学び取るとともに、事物を見えないところまで掘り下げて抽象的にとらえる仕方を学び、現実を理論の目で認識することをマーケティングの場で試みようとするものである。

テキスト：

適当なテキストがないので講義ノートによる。講義資料として毎時間プリントを配布する。

参考書：

多岐にわたるため授業中にその都度指示する。

ミクロ・マーケティング各論（グローバル・マーケティング論）

（秋学期特定期間集中）

特別招聘教授 小田部 正明

授業日：

月曜日 1・2限 12月14日・21日

火曜日 1・2限 12月15日・22日

土曜日 1～3限 12月12日（2・3限のみ）・19日

授業科目の内容：

The course challenges you to think critically about global competition. As such, rote learning of terms and concepts is not sufficient; you are prepared to take the executive's seat in managing business in global markets. Specifically, the course is designed to provide you with (a) familiarity with the problems and perspectives of marketing across national boundaries and with those within foreign countries; (b) insights into environmental perspectives of doing business outside the home country; (c) analytical ability to make marketing decisions facing all firms (exporters, licensor/licensee, joint venture firms, firms with overseas subsidiaries) engaged in business overseas; (d) understanding of the interfaces of marketing with other business functions, particularly with R&D and manufacturing; (e) knowledge of tools and practices for structuring and con-

trolling marketing programs on a global basis, and (e) discussion of the possibilities and limitations of the Internet in conducting international marketing

テキスト:

Kotabe and Helsen, *Global Marketing Management*, 4th ed. (Wiley, 2007) ISBN 0-471-75527-3.

ミクロ・マーケティング各論(広告論)(秋学期)

准教授 小野 晃 典

授業科目の内容:

本講では、マーケティング論の主要な下位分野の1つである広告論が取り上げられる。企業は自社製品の存在や優位性を潜在顧客に知らせるために、広告を行うかもしれない。また、広告イメージという名で知られているように、製品によってではなく広告によって優位性を確立しようとするかもしれない。多様な機能を有する広告と、それに対する消費者の認知的反応とを調べることによって、本講は、例えば「広告は消費者の購買行動にどのような影響を及ぼしうるのだろうか」や「どのような状況の下でどのような広告が有効なのだろうか」といった問いに関心を持つ学生に対して、研究サポートを提供する。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

参考書の推薦を求める学生に対しては、個々人の関心の方向や理解の度合いに応じて個別に紹介したい。

ミクロ・マーケティング各論(消費者行動論)(春学期)

准教授 斎藤 通 貴

授業科目の内容:

企業のマーケティング行動は、市場(消費者)への適応行動という特徴を強調する。すなわち、消費者がどの文化の中で、どのようなライフ・スタイルを持ち、どのように商品やサービスを選択・購買し、どのように使用し、どのような満足や不満を形成するか、といった消費者の行動を理解することが有効なマーケティング戦略策定の礎になることは言うまでもない。

ミクロ・マーケティング各論(セールスプロモーション論)(秋学期)

教授 清水 聡

授業科目の内容:

日本の広告費を眺めると、マス媒体を通じた広告よりもプロモーションに対する支出が増えていることがわかる。効果の見えにくい広告より、直接的に効果が測定できるセールスプロモーションに予算がシフトしてきているためである。本講義では、主として小売業の行うこれらのプロモーション活動について、小売業全体の戦略と合わせ、理論と効果を、特に消費者の視点で実例を挙げながら説明していく。

テキスト:

清水聡(2004)「消費者視点の小売戦略」, 千倉書房

ミクロ・マーケティング各論(製品開発論)(秋学期)

教授 濱岡 豊

授業科目の内容:

この授業では、マーケティングにおいて4Pの一つとしてとらえられている「製品」について、特に「開発」する段階に注目する。そこで行われている手法について紹介する一方、ケース演習やプロジェクトなどを通じて、それらを体得してもらいたい。なお、便宜上、「製品」という言葉をあてるが、製品のみならずサービスについても可能な手法について紹介する。

テキスト:

特に指定しない。資料は濱岡のホームページよりダウンロード可能。

<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka>

参考書:

上記参照

ミクロ・マーケティング各論(マーケティング経済学)(春学期)

准教授 鄭 潤 澈

授業科目の内容:

近年の経済学は古典的な完全市場の分析から進化をしつづけて、様々な実際の経営分野において応用されています。欧米の多くのビジネス・スクールやMBAコース等において「Managerial Economics」が基本・コア科目になっているという事実は、正にマーケティング経済学がマーケティングや経営戦略など経営学のなかで占めている現在の位置を示しています。本授業では「市場、競争、戦略」という、経営学を学ぶ上で最も重要な3つの分野を経済学の観点から講義していきます。

テキスト:

丸山雅祥『経営の経済学: Business Economics』(有斐閣)2005年

参考書:

丸山雅祥・成生達彦『現代のミクロ経済学』(創文社)1997年

ミクロ・マーケティング各論(マーケティング・リサーチ)(春学期)

教授 濱岡 豊

授業科目の内容:

「どの授業を履修するのか?」「どの製品を買うか?」など、意思決定をする際には、なんらかの情報を収集、分析する。これと同じように、企業がマーケティング意思決定(「どんな新製品を発売するか?」「どのような広告にするか?」「小売店にどのような対策を行うか?」)を行うときには、情報が必要となる。

マーケティング・リサーチとは、情報の収集・分析を通じて、よりよいマーケティング意思決定が行われるように支援する手続き・機能である。ただし、有用な情報を収集するには、マーケティング課題を定義し、リサーチ可能な仮説を設定することが必要となる。この授業の目的は次の3点にある。

- ・マーケティング課題、リサーチ仮説を設定、発見できるようになる。
- ・リサーチ仮説を検証するためのデータを収集できるようになる。
- ・データを正しく分析、解釈、報告できるようになる。

テキスト:

特に指定せず。資料は濱岡のホームページからダウンロード可能とする。<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka/>

参考書:

上記プリント、ホームページを参照。

[D1 / D 国際経済]

[05] 国際経済学 (春学期) / 国際経済学 (秋学期)

[99] 国際経済学 (通年) 教授 遠藤 正 寛

授業科目の内容:

国際経済学(国際貿易・国際金融)の基礎を講義します。

テキスト:

Paul. R. Krugman and Maurice Obstfeld, "International Economics: Theory and Policy, 8th Edition," Addison Wesley, 2008 (旧版で翻訳書有)

国際経済学各論(国際経済政策論)(春学期)

グローバルセキュリティ研究所 教授(有期) 法 専 充 男

授業科目の内容:

マクロ経済学、国際経済学などの理論を援用しながら、国際経済の最前線で何が起きているかを解説する。世界経済で近年生じた主要な事象については、それらの原因と含意を明らかにするとともに、事象相互の関連(例えば、今次の世界的金融危機とグローバル・インバランスの関連)について論ずる。また、主要な国際経済問題に対する経済政策の在り方について検討する。まだ教科書では取り上げられていないカレントなトピックスについても、可能な限り取り上げ、理論的に解明する。国際経済協議、経済政策立案の現場での経験を活かし、理論と現実の橋渡しをする。

テキスト:

特に指定せず。毎回、プリントを配布の予定。

参考書:

国際機関や各国政府・中央銀行・研究機関・研究者のレポートなどをインターネット等を通じ活用する。(英語のレポートが多いが、その内容のポイントは授業で解説する。)

国際経済学各論(国際貿易論)(春学期) 准教授 安藤 光 代

授業科目の内容:

本講義では、国際経済学のうち、応用ミクロ経済学である国際貿易論に関連したテーマを幅広く取り上げる。国と国との生産配置や貿易パターンを説明する理論モデルについても取り扱うが、本講義では特に、貿易政策とその厚生効果、サービス貿易、海外直接投資と企業活動の国際化、GATT/WTOと自由貿易協定などのテーマに焦点をあてる。国際経済のグローバル化が急速に進展する中、現実経済の分析に役立つ理論はどれか、あるいは逆に理論に立脚した実証・政策分析はいかに行えばよいのかについて議論し、現代の国際経済が抱える諸問題について経済学的な視点から理解を深めていきたい。

テキスト:

木村福成(2000)『国際経済学入門』日本評論社

【05】世界経済論（春学期）／世界経済論（秋学期）
【99】世界経済論（通年） 教授 和気洋子

授業科目の内容：

世界経済はいつも変動の中にある。それがどのような変動として実際に観測されるか、その変動要因が何であるか、その変動をどのように管理・統治できるか、その変動メカニズムをどのように理論化できるか、そして今後の世界経済をどのように展望できるかなど、知的関心は広くて深い。今21世紀を迎え、世界経済では、グローバリズムの功罪、WTOの役割、FTAの進展、EU通貨統合の進展、東アジア地域の変容、資源・エネルギー問題の深刻化、貧困問題・地球環境問題・安全・安心の暮らし・企業の社会的責任の視点など、新たな課題に向けて、新たな挑戦が始まっている。本講義では、世界経済論／世界経済論を通じて、現代および将来の産業経済社会をめぐる諸課題の本質を探る手がかりを得るために、イギリス産業革命から現代社会に至る技術進歩と経済発展の歴史とそれに関わる諸理論を展望し、そのなかで貿易政策論・国際マクロ経済論・開発経済論・環境経済学などで得られる学説史的な知見がいかに援用できるかを実践的に論じる。

参考書：

- ・石井・清野・秋葉・須田・和気・ブラギンスキー共著『入門・国際経済学』有斐閣2003年
- ・森田・天野編著『地球環境問題とグローバルコミュニティー』岩波書店2002年
- ・松村・関下・藤原・田中『現代世界経済をとらえる』東洋経済新報社2003年

世界経済各論（国際開発協力論）（秋学期）

講師 後藤一美

授業科目の内容：

(1) 世界がもし100人の村だったら、世界の富の90%をたった20人が握っている。公的援助をはるかにこえるお金が化粧品に消費されている。その一方で、15人が飢えて苦しんでいる。明日の世代を育てる教育にむけられるお金の10倍もお金が武器売りに使われている。この結果、16人は字を読むことさえままならない。3秒に子どもがひとり死んでゆく。こうした世界の現実をすこしでも良い方向にむけるためのさまざまな取り組みが地球規模で展開されている。

(2) 「国際協力（International Cooperation）」とは、複数のアクター（主権国家、国際機関、民間企業、市民社会）がある共通の目的に関する合意形成を図るために、あるいは合意された共通の目的実現のために、国境を越えて、個と全体の利益を調整しながら、持てる「力」（構想力・交渉力・実行力）をお互いに出し合う政治的プロセスを指す。現代の国際協力の政策群は、「一層の繁栄」「世界の安定」「心の安寧」という3つの大きな問題群からなる包括的・重層的・横断的な総合政策体系として理解される。

(3) 他方、現実の国際政治の場で展開される国際協力の実態としては、新構想の推進過程や政策形成の水面下で、新たなリーダーシップや秩序形成をめぐる熾烈な駆け引きが行われる。国際協力の世界とは、一見きれいな事のように見えて、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係が渦巻く同床異夢の世界である。その意味において、国際協力とは、国際政治社会における人間の本能としてのエゴイズムとヒューマニズムが複雑に絡み合う政治的営みでもある。

(4) 本講義は、「地球規模問題群（Global Issues）」のうち特に「国際開発（International Development）」に対する実践的問題解決アプローチ（とりわけ「日本の国際開発協力」）について、問題別・アクター別・手法別視点から、現代の国際開発協力の現状と課題を考察することによって、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材を育成することを目的とする。

(5) 手法：本講義は、ビデオ（日本語・英語）、講義（PPT使用）、質疑応答の3点セットを組み合わせながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識は必要としていない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力を置いている。（実際に国際開発協力の現場で働いている方々を授業内ゲスト・スピーカーとして数回招待することも予定したい。）

テキスト：

後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発：第4巻 日本評論社、2005年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

- ・後藤一美（監修）『国際協力用語集』第3版，国際開発ジャーナル社，2004年。
- ・荒木光弥，『1970年代途上国援助 歴史の証言』『1980年代途上国援助 歴史の証言』『1990年代途上国援助 歴史の証言』国際開発ジャーナル社，1997年&2005年。
- ・足立文彦『人間開発報告を読む』古今書院，2006年。
- ・入江昭（著）・篠原初枝（訳）『グローバル・コミュニティー 国連機関・NGOがつくる世界』早稲田大学出版部，2006年。

- ・功刀達朗・毛利勝彦（編著）『国際NGOが世界を変える 地球市民社会の黎明』東信堂，2006年。
- ・地球市民社会の研究プロジェクト（編）『地球市民社会の研究』中央大学出版部，2006年。
- ・小浜裕久『日本の国際貢献』勁草書房，2005年。
- ・白井早由里『マクロ開発経済学 対外援助の新潮流』有斐閣，2005年。
- ・城山英明『国際開発援助行政』東京大学出版会，2007年。
- ・Michael Edwards, *Future Positive: International Cooperation in the 21st Century*, Earthscan, 2004. (マイケル・エドワーズ(著), CSO ネットワーク(企画・監修), 杉原ひろみ・畑島宏之・鈴木恵子・粒良麻知子(訳)『フューチャー・ポジティブ 開発援助の大転換』日本評論社，2006年。)

世界経済各論（中国経済論）（春学期）

准教授 孟若燕

授業科目の内容：

今日に当たって中国に関するグッドニュースがたくさん出てきます。一つの最も成長の高い国として、今世紀半ば頃には経済規模が日本やアメリカを凌駕してトップに走るのではと予測されることもあります。一方、決して明るくない知らせも毎日ほど目に当たります。貧富格差の拡大、農村経済の停滞、社会保障制度の未整備、河川や大気汚染の進行など、成長の副産物なのか、改革の不十分さを語るものなのか、議論の余地が残っているまま成長のマイナス要因であることに間違いはない。この授業では、こうした過渡期にある中国の経済政策の転換、経済成長の要因および成長・改革の過程に伴った諸問題を解説します。

テキスト：

特に指定なし。

参考書：

- ・唐木園和著『中国経済近代化と体制改革』慶應義塾大学出版会，2007
- ・深尾光洋編『中国経済のマクロ分析 高成長は持続可能か』，日本経済新聞社，2006
- ・南亮進・牧野文夫編『中国経済入門：世界の工場から世界の市場へ』，日本経済新聞社，2005
- ・加藤弘之・上原一慶『中国経済論』，ミネルヴァ書房，2004
- ・日本経済研究センターほか編『中国の経済構造改革 持続可能な成長を目指して』日本経済新聞社，2006
- ・中曾和津次著『中国経済発展論』，有斐閣，1999
- ・Chow, Gregory C., *China's Economic Transformation*, Blackwell, 2002
- ・渡辺利夫編『ジレンマのなかの中国経済』，東洋経済新報社，2003
- その他，講義中その都度紹介する。

【05】国際金融論（春学期）／国際金融論（秋学期）

【99】国際金融論（通年） 教授 深尾光洋

授業科目の内容：

為替相場の変動、国際収支の不均衡などの国際金融に関連する諸問題を理解するために必要不可欠な諸概念と分析ツールを説明する。その基礎に立って、変動相場制下における経済政策運営、欧州通貨統合の背景、国際通貨政策等について理解を深めることを目標とする。

参考書：

授業開始後、関連文献や統計図表等をレジメとして生協経由で配布するので購入すること。

国際金融各論（国際金融機関論）（春学期）

商学研究科 教授（フジタ・チェアシップ基金） 柏木茂雄

授業科目の内容：

本講義では、グローバル化した今日の世界経済において、国際金融機関、特に国際通貨基金（IMF）が果たす役割および機能についての理解を深めることを目標とする。理論だけではなく、実務面を重視し、国際金融機関の現場で何がどのように議論されているかを紹介することにより、国際金融問題や国際金融機関に対する学生の関心と問題意識を高め、将来的に活躍する場としての興味を持たせたい。

テキスト：

特に指定せず。毎回レジメを配布の予定。

参考書：

- ・有吉 章（編）『図説 国際金融』財経詳報社，2003年
- ・白井早由里『検証 IMF 経済政策』東洋経済新報社，1999年
- ・白井早由里『メガバンク危機とIMF 経済政策』角川書店，2002年

【05】理論経済学 (春学期集中)

【99】理論経済学 (春学期集中) 教授 桜本 光

授業科目の内容:

経済現象を巨視的・微視的にとらえるマクロ・ミクロ経済理論を学ぶことにより、歴史的な転換期を迎えている世界経済特に、東アジアや米国と日本経済との相互依存関係を正確に理解し、現在の諸問題を整理し、今後の世界経済と日米経済の方向を講論できるような学生を養成する。

本科目は、本学部における経済関連及び他の専門科目の履修に際して、基礎的な理解を深めるために必要な科目の一つと考えられ、一年時履修の経済学の中・上級コースにあたる。

テキスト:

Dornbusch, R. and S. Fischer (1994) Macroeconomics. Sixth edition (first edition, 1978), McGraw-Hill. (廣松 / ドーンブッシュ / フィッシャー, マクロ経済学 (上下)「改訂版」CAP 出版)

参考書:

- ・ W. H. ブランソン (嘉治・今野訳) マクロ経済学 (上下) マグロウヒル.
- ・ R. ドーンブッシュ (大山他訳) 国際マクロ経済学 文眞堂.
- ・ W. J. イーシア (小田・太田訳) 現代国際経済学 (国際マクロ) 多賀出版.

理論経済学各論 (応用ミクロ経済学) (春学期)

教授 中島 隆 信

授業科目の内容:

本講義では、学生諸君が日吉で学んできた標準的価格理論をより発展させ、ヒト、モノ、カネの資源配分メカニズムをそれらが取引される市場の競争性との関連から説明する。

テキスト:

黒田昌裕・中島隆信『テキストブック 入門経済学』(東洋経済新報社), 2001年

理論経済学各論 (障害者の経済学) (秋学期)

教授 中島 隆 信

授業科目の内容:

障害者の問題はこれまで福祉の領域として経済学の研究対象からは除外されてきた。こうした扱いが福祉サービスの質的向上を妨げるとともに、結果として障害者の自立を遅らせてきたと考えられる。本講義では、経済学の視点から障害者問題をながめることにより、家族、教育、福祉、就労、法務の分野における現状の問題点を明らかにし、障害者をめぐる望ましい仕組み作りについて学生諸君とともに考えてみたい。

テキスト:

『障害者の経済学』(中島隆信著, 東洋経済新報社)

参考書:

- ・『こどもをナメるな』(中島隆信著, ちくま新書)
- ・『獄窓記』(山本譲司著, ポプラ社)

理論経済学各論 (マクロ・エコノミクス) (春学期)

准教授 渡部 和 孝

授業科目の内容:

標準的な学部生向けの中級教科書を用い、経済成長、マクロ経済学のミクロ的基礎付けについて学ぶ。

テキスト:

N. グレゴリー・マンキュー著, 足立英之他訳「マンキュー マクロ経済学」, 東洋経済新報社

理論経済学各論 (マネタリー・エコノミクス) (秋学期)

准教授 渡部 和 孝

授業科目の内容:

金融政策の理論と実務, 銀行経営, 銀行規制などについて, 米国の実践的テキスト, 日本の政策エコノミストが執筆したマクロ経済学の上級テキストをベースにした講義を行う。

テキスト:

講義の大部分は参考書に沿った形で進みます。二冊全範囲をカバーするわけではないので教科書には指定しませんが、参考書があると講義の理解は大幅に向上します。

参考書:

- ・ Frederic S. Mishkin and Stanley G. Eakins, "Financial Markets + Institutions sixth edition," Pearson Education, Pearson Education
- ・ 加藤涼著, 「現代マクロ経済学講義」東洋経済新報社

経済政策 (春学期集中)

教授 樋口 美 雄

授業科目の内容:

経済のグローバル化, 産業構造の変化, 少子高齢化の進展により, 日本経済は大きな変革に迫られている。日本経済の特質を理解し, 市場メカニズムと制度政策の関係について, マクロ経済学, ミクロ経済学の視点から考察し, これからの経済社会のあり方を検討していくのがこの授業の目的である。

参考書:

樋口美雄『雇用と失業の経済学』日本経済新聞社
その他は授業中に指示する

【05】経済統計 (春学期) / 経済統計 (秋学期)

【99】経済統計 (通年) 経済学部 教授 辻 村 和 佑

授業科目の内容:

[春学期]

もとより計量経済学は、現実の経済事象を観察してそこに法則性を発見し、これをもとに理論仮説を設定して、この仮説を検証し、必要に応じて仮説を修正するといった、一連の作業に立脚した学問領域である。この際に重要な役割を果たすのが統計資料であることは言うまでもない。たとえばミクロ経済学の消費者行動理論はエノゲル法則という素朴な観察事実とその原点がある。このような消費者行動の経験法則を理論化するための用具として開発されたのが限界効用理論であり、効用関数を特定化することで、ここから導出された需要関数が観察事実と整合的であるかどうかを統計的に検証する。いかに統計的検定の方法が精緻なものであろうとも、検証に利用する統計資料がこれに見合うものでなければ、なんの意味も無い。たとえば家計の所得や支出配分に関する資料を収集する場合にも、収支が均衡しているかどうかを精査する必要がある。しかし家計が貯蓄をしたり、これを取り崩したりしている場合には、なにを貯蓄と定義するかといった問題を抜きにしては、収支の均衡を語ることはできない。春学期の授業では、主として経済統計の基礎概念を、具体的な統計資料を例として講義する。

[秋学期]

たとえば「実質 GDP」といった用語は、専門の学術書ばかりでなく、新聞やテレビでもごく日常的に耳にする。しかし、それが厳密にどのような意味を持ち、さらにはそれがどのようにして測定されているのかわかる人は、驚くほど少ない。実は「実質 GDP」という用語ひとつを理解するためにも、国民経済計算体系 (SNA) の 5 勘定のひとつである産業連関表についての、かなり深い理解が必要である。その反面、産業連関表のみならず、国民経済計算体系全体を理解すれば、経済のさまざまな事象の相互依存関係を体系的に知ることができる。とくにこの統計が優れているのは、パブルとその崩壊、あるいは恐慌といった実物事象と金融事象の相互依存の結果として生ずる経済事象を分析できる点にあり、これは他の統計資料には見られない特徴である。秋学期の授業では、他部門勘定体系としての国民経済計算の全体像を、主体の内部均衡、主体間均衡、異時点間均衡という、主として 3 つの視点から講義する。

参考書:

参考文献については、テーマごとに指示する。

経済統計各論 (指数論) (秋学期)

産業研究所 准教授 野村 浩 二

授業科目の内容:

経済変数としての数量と価格、その把握を適切におこなうためには様々な課題が検討されてきた。集計量としての金額変化は、数量と価格の変化へどう分離したら良いだろうか。消費者物価指数 (CPI)、国内総生産 (GDP)、購買力平価 (PPP) など、各種の経済指標はどのように構築されるべきなのか。数量と価格の認識において、財の品質の変化をどう扱うことができるだろうか。経済現象の理解と実証分析のためには、指数の理解は不可欠な共通言語となっている。ここでは指数の理論と実際、そしてその応用に関して講義をおこなう。

テキスト:

授業において適宜指定。

参考書:

- ・ 森田優三『物価指数理論の展開』(東洋経済新報社)
- ・ G. ステューヴェル『経済指数の理論 指数問題とその解』(同文館)

経済統計各論 (数理統計基礎) (春学期) 教授 早見 均

授業科目の内容:

分布理論を軸に期待値の計算や不等式など基礎的なことがらを学習する。さまざまな統計的モデルに応じた分布の計算ができるようにすることが目標である。秋学期に開講される「経済統計各論 (統計的推論)」とつながっている。現在、最も標準的な統計学の教科書である Casella and Berger に準拠しておこなう。

テキスト:

講義メモは教育支援システム keio.jp ,

http://www.sanken.keio.ac.jp/staff/hayami,
http://news.fbc.keio.ac.jp/~hhayami から利用できるようにする。

- 参考書：
・ G. Casella and R. L. Berger (2002) Statistical Inference, 2nd ed., CA: Duxbury Thomson Learning.
・ 岩田暁一『経済分析のための統計的方法第 2 版』東洋経済新報社，1983 年。

経済統計各論(統計的推論)(秋学期) 教授 早見 均

授業科目の内容：

統計的推定・検定のやや進んだ内容を理解して、利用上の制約や最近の統計学で話題となっている分野がどのようにしてその制約を乗り越えようとしているかを概観する。

内容：漸近理論，十分統計量，最尤法，尤度比検定などを解説したのち，ブートストラップ推定法や最近の計算統計の簡単な話題，確率過程のパラメータの推定方法など時間があるかぎり紹介していきたい。

この授業は単独でも履修可能だが，春学期の「経済統計各論(数理統計基礎)」の続きである。そのため数理統計基礎のシラバスも参考にして欲しい。応用や具体例については，計量経済学やその他の講義で勉強すること。

テキスト：

講義メモは教育支援システム keio.jp,
http://www.sanken.keio.ac.jp/staff/hayami,
http://news.fbc.keio.ac.jp/~hhayami から利用できるようにする。

- 参考書：
・ G. Casella and R. L. Berger (2002) Statistical Inference, 2nd ed., CA: Duxbury Thomson Learning.
・ 岩田暁一『経済分析のための統計的方法第 2 版』東洋経済新報社，1983 年。

【05】計量経済学(春学期) / 計量経済学(秋学期)
【99】計量経済学(通年) 専任講師 藪 友 良

授業科目の内容：

この授業では，経済変数間の関係を数量的に測る計量経済学を勉強します。例えば，金利が 1% 上がったら国内総生産が何% 減少するか，を評価する方法を身につけてもらいます。授業で，計量経済学の理論を丁寧に説明し，多くの実証研究を紹介していきます。また，みなさんに自分でテーマを選んでレポートを書いてもらいますので，実際に自分でデータを分析する力が身につけられます。

テキスト：

『計量経済学』(山本拓，新世社)

参考書：

『経済分析のための統計的方法』(岩田暁一，東洋経済)

計量経済学各論(応用計量経済学)(春学期)
産業研究所 准教授 野村 浩 二

授業科目の内容：

産業連関表は経済構造を描写する経済統計(加工統計)として，国民経済計算体系を構成する中核的な役割を担っている。一方，需要や価格変化，あるいは技術変化など産業間波及を通じてシミュレーションするための分析道具として，またより大規模なモデルとして一般均衡を描写する基盤としての役割も有している。ここでは産業連関に関する理論，作表の実際，各種一次統計との対応，国民経済計算体系における位置づけと役割，産業連関体系の拡張性(投資，貿易，環境など)，そして部分均衡的な分析モデルから一般均衡モデルの概略まで講義をおこなう。

テキスト：

授業において適宜指定。

参考書：

- ・ 尾崎巖『日本の産業構造』(慶應義塾大学出版会)
- ・ 宮沢健一『産業連関分析入門』(日経文庫)
- ・ W. レオンティエフ『経済学の世界』(日本経済新聞社)

計量経済学各論(マクロ計量経済学)(春学期)
准教授 山本 勲

授業科目の内容：

パソコンや統計パッケージの普及によって，実証分析を行うこと自体は容易になっているが，分析結果を正しく解釈し，適切な含意を導出するには，経済学や計量経済学の知識が不可欠である。そこで，この授業では，経済学や計量経済学の知識をもとに，実証分析の結果を適切に理解できるようになることを主な目的とする(実際に実証分析ができるようになることは目的としないため，他の科目の履修等で補うことが望ましい)。

具体的には，まず，実証分析を行うための基礎的な計量経済手法を学習する。そのうえで，様々な実証分析結果を題材に，分析手法や利用データの妥当性，推計結果を見る際のポイントや留意点等を解説する。取

り上げる題材は，マクロ変数等の時系列データを用いた経済分析であり，経済白書から学術論文まで多岐にわたる。

計量経済学の事前知識は必要としないが，履修者は経済学について中級程度の知識を持っていることを前提とする。

テキスト：

授業において適宜指定。

参考書：

授業において適宜指定。

計量経済学各論(ミクロ計量経済学)(秋学期)
准教授 山本 勲

授業科目の内容：

パソコンや統計パッケージの普及によって，実証分析を行うこと自体は容易になっているが，分析結果を正しく解釈し，適切な含意を導出するには，経済学や計量経済学の知識が不可欠である。そこで，この授業では，経済学や計量経済学の知識をもとに，実証分析の結果を適切に理解できるようになることを主な目的とする(実際に実証分析ができるようになることは目的としないため，他の科目の履修等で補うことが望ましい)。

具体的には，まず，実証分析を行うための基礎的な計量経済手法を学習する。そのうえで，様々な実証分析結果を題材に，分析手法や利用データの妥当性，推計結果を見る際のポイントや留意点等を解説する。取り上げる題材は，地域別データや個票データ等の横断面データを用いた経済分析であり，経済白書から学術論文まで多岐にわたる。

履修者は春学期の「計量経済学各論(マクロ計量経済学)」を履修しているか，同等の知識を有していることを前提とする。

テキスト：

授業において適宜指定。

参考書：

授業において適宜指定。

[D3 / F 金融・保険]

【05】金融論(春学期) / 金融論(秋学期)
【99】金融論(通年) 教授 辻 幸 民

授業科目の内容：

今日の経済では，家計が貯蓄をして企業が投資をするというように，貯蓄主体と投資主体が分かれてしまっている。貯蓄が投資と有効に結びつくためには，貯蓄主体から投資主体への資金の融通，すなわち金融が効率的になされることが必要不可欠であり，さもないと企業の投資は抑制され，経済の発展は著しく阻害されてしまうであろう。従って金融は今日の経済では極めて重要な役割を担っており，金融のメカニズムを中心に，資金(貨幣)面から現代経済の仕組みを解明していこうとするのが金融論である。

(春学期)では，金融の基礎概念の解説を主な目的とし，これを踏まえて(秋学期)では，ファイナンス理論 financial economics の導入的な講義をする。従って履修者(新学則適用者)は と をセットで履修することが望ましい。特に だけを履修しても，授業内容を理解できない可能性が大きい。

テキスト：

春学期については，必要に応じてプリントを利用(入手方法は授集中に指示)する。

秋学期については，主に辻 幸民著『企業金融の経済理論』(創成社)を利用する。

参考書：

必要に応じて授集中に指示する。

金融各論(資本市場論)(春学期) 教授 和田 賢 治

授業科目の内容：

このコースでは企業財務理論について講義を行う。一般事業法人に就職するのか金融機関に就職するのか，またこれらの企業でどのような職種(営業，企画，財務，経理，法務等)につくのか，そしてそのためにはどのような観点(自分が投資する立場か，顧客に投資のアドバイスをする立場か，財務部等でリスク管理を行う立場か等)からファイナンスの理論の勉強が必要かを考えると，就職後に生きた知識となる。講義はある程度抽象的だが，このような視点を履修時も就職後も持ち続けてほしい。

テキスト：

資本市場とコーポレートファイナンス 中央経済社 ISBN4-502-34902-X
参考書：

必要に応じて指示する。Keio.jp の教育支援システムの授業欄は毎回授業前日にチェックして，資料がある場合はダウンロードすること。

授業科目の内容:

このコースでは資産価格理論(オプション理論, 債権理論等)について講義を行う。一般事業法人に就職するのか金融機関に就職するのか, またこれらの企業でどのような職種(営業, 企画, 財務, 経理, 法務等)につくのか, そしてそのためにはどのような観点(自分が投資する立場か, 顧客に投資のアドバイスをする立場か, 財務部等でリスク管理を行う立場か等)からファイナンスの理論の勉強が必要かを考えると, 就職後に生きた知識となる。講義はある程度抽象的だが, このような視点を履修時も就職後も持ち続けてほしい。

テキスト:

先物オプション取引入門 ピアソンエデュケーション ISBN4-89471-637-2

参考書:

必要に応じて指示する。Keio.jp の教育支援システムの授業欄は毎回授業前日にチェックして, 資料がある場合はダウンロードすること。

【05】財政学(春学期) / 財政学(秋学期)

【99】財政学(通年) 講師 三井 清

授業科目の内容:

春学期は, 政府の支出政策の役割, 市場メカニズムと政治メカニズムの機能, 費用便益分析などについて講義する。秋学期は, 社会全体のリスクを分散するための社会保障政策, 所得分配の公平性を確保する政策としての課税制度(所得税, 消費税, 資産課税, 法人税など)について講義する。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

特に指定しない。

証券経済各論(証券制度論)(秋学期) 講師 齊藤 壽彦

授業科目の内容:

公債・社債・株式の発行と流通の仕組みについてできるだけわかりやすく講義する。これらを理解することは今日の産業社会を理解する上できわめて重要である。信用論をふまえて証券制度について説明する。とくに日本の証券制度の歴史と現状について詳しく述べる。

テキスト:

齊藤壽彦『信頼・信認・信用の構造』第3版(泉文堂 2007年 3300円)

【05】保険学(春学期) / 保険学(秋学期)

【99】保険学(通年) 教授 堀田一吉

授業科目の内容:

国民生活に深い関わりのある保険業界は, 金融改革の進展の中でいま大きな環境変化を迎えている。本講義は, 特徴的な保険の構造を経済学的に解説すると同時に, 他の経済諸制度との関連性を図りながら, 現代社会の抱える諸課題を保険学の立場から見直してみる。そして, 現代生活において, 保険がいかなる機能を担っているかをできるだけ現状に即して多面的に検証してみる。

テキスト:

堀田一吉『保険理論と保険政策 原理と機能』東洋経済新報社

参考書:

- ・堀田一吉・岡村国和・石田成則編著『保険進化と保険事業』慶應義塾大学出版会
- ・庭田範秋監修(2002)『新世紀の保険』慶應義塾大学出版会
- ・下和田功編(2007)『はじめて学ぶリスクと保険(改訂版)』有斐閣
- ・庭田範秋(1995)『新保険学総論』慶應義塾大学出版会
- ・真屋尚生(2004)『保険の知識(第2版)』日本経済新聞社

保険学各論(生命保険論)(春学期) 講師 宮地 朋果

授業科目の内容:

生命保険の歴史は古く, 概念は, 古代ギリシャ(紀元前500頃)の宗教的慈悲組織にまで遡ることができるが, 諸科学の成果を取り入れた近代的保険制度は, 18世紀になってからのことであり, 比較的新しいともいえる。超高齢社会を迎え, 生活保障を支える上で, 生命保険の果たす役割は, 近年一段と大きくなっている。他方, 国民経済的には, 生命保険に対する需要の高まりが, 生命保険業の金融業としての地位を高くしている。本講義では, 現代社会において生命保険がいかなる機能を果たしているかを単なる技術論ではなくて, 社会保障や企業保障など他の関連制度と関係づけながら, 多面的に論じるつもりである。

テキスト:

堀田一吉・岡村国和・石田成則編著『保険進化と保険事業』(慶應義塾大学出版会)

参考書:

- ・堀田一吉『保険理論と保険政策』(東洋経済新報社)
- ・堀田一吉編著『民間医療保険の戦略と課題』(勤草書房)
- ・山中宏編『生命保険読本』(東洋経済新報社)
- ・ニッセイ基礎研究所『生命保険の知識』(日本経済新聞社)

保険学各論(損害保険論)(春学期) 講師 岡村 国和

授業科目の内容:

本講義の目的は, 損害保険に関する保険理論の理解と現実の保険現象を分析する能力を修得することにあります。さしあたり, 保険の概論と, リスクと保険の関係を整理することから始めます。次いで, 近代保険業の生成・発展を概観するために, 産業革命期前後保険の歴史および明治期以降の保険の歴史を簡単に整理します。現代保険の複雑な現象を解明するためには近代保険業の生成・発展の歴史的分析は欠かせません。

保険の基本構造は理論的には単純明快ですが, 実際には多様な応用が施されているために, 一見して複雑な感じがすると思います。こうした複雑に見える保険の理論的構造を分解して単純化した後に再構築することにより, 損害保険のさまざまな特徴を浮き彫りにすることができるのです。保険の基礎的・技術的特徴を理解することなしには, 実社会における損害保険市場の諸問題を理解することは困難なものになるでしょう。

なお, 損害保険市場の分析に関しては産業組織論からのアプローチを用います。具体的には市場構造, 市場行動, 市場成果の各ブロック間の相互関係の説明, および保険規制がこれら各ブロックに及ぼす影響を与えるかなどについて講義します。

これらを理解した上で, 最終的には, 損害保険会社の倒産と消費者保護について講義します。その骨子は, 保険企業の存続保証を前提とした契約者保護(いわゆる船団体制)と保険市場の効率性の両立を考えることであり, また「契約者の直接保護を前提とした契約者保護システム」(いわゆるセーフティネットの張り替え)を考察することによって, 保険市場の効率性と保険契約者の保護を整合的に接続するシステムを模索することです。

テキスト:

分量がかなり多くなることが想定されますので, 使用しません。要点をパワーポイントなどを使用して説明します。場合によっては資料なども配付することがあります。

参考書:

- ・庭田範秋編『保険学』成文堂。
- ・その他, 講義中に適宜指示します。

保険学各論(保険経営論)(秋学期) 講師 岡村 国和

授業科目の内容:

保険業を取り巻く環境変化のスピードは加速されてきています。保障業務を本来業務としつつも同時に肥大化・拡大化しつつある金融業務(これまでは派生業務としてかつて位置づけられていた)は, 今や本来業務の中に取り込まれつつあり, 保険業及び保険経営を質的に変化させようとしていっています。保険経営の質的变化が保険業の本質的性格に及ぼす影響は計り知れないものがあります。また金融業の業態間の垣根問題をめぐる緊張関係が今や無視しえないレベルにまで達していますので, ここで保険業の本質的性格を再度検討することの意義は決して小さくはないと確信しています。

本講で講義される「保険経営論」は, 広義には経済学の一学科としての経営学に属し, 狭義には特殊(業種別)経営学の一部としての「保険経営論」に位置づけられます。さしあたり, 総論として保険経営の諸特徴を概観し, その後, 企業形態について, とくに相互会社と株式会社の比較検討を行います。

本講義の中心課題は, 保険業の収益構造の理解にあります。生命保険と損害保険では収益構造に大きな違いがありますので, その点を十分理解するように心がけてください。

なお, 最終的には規制緩和の環境変化の下での保険業の行動原理と競争をめぐる諸問題について「多様化する行動原理と経営目的」を念頭に置きつつ講義を進めていくことを予定しています。

テキスト:

使用しません。オリジナルのパワーポイントのスライドを使用します。

参考書:

- ・堀田一吉・岡村国和・石田成則共編著『保険進化と保険事業』慶應通信。
- ・庭田範秋編著『保険経営論』有斐閣。
- ・庭田範秋編著『保険学』成文堂。
- ・その他, 補足資料などを配布することがあります。

【05】リスク・マネジメント各論(現代社会とリスク)(秋学期)

【99】リスク・マネジメント各論(現代社会とリスク)(秋学期)

教授 堀田一吉

授業科目の内容:

現代社会において, われわれが直面するリスクは巨大化, 多様化, 複雑化している。こうした中で, 安定的かつ効率的な経済発展のために,

近年、リスクマネジメントのあり方についての関心が急速に高まってきている。本講義では、主として、企業活動の観点から、実際の事例を交えながら、リスクマネジメントの考え方ならびに課題を論じる。

テキスト：

特定のテキストは指定しないが、参考書を随時紹介する。

参考書：

- ・亀井利明『リスクマネジメント総論』同文館
- ・甲斐良隆・加藤進弘『リスクファイナンス入門』金融財政事情研究会
- ・新日本監査法人『統合リスク管理』金融財政事情研究会
- ・インターリスク総研『実践リスクマネジメント』経済法令研究会
- ・武井勲『リスクマネジメントと危機管理』中央経済社

[D4 交通・公共政策・産業組織 / G 産業 ・ 交通]

産業組織論(春学期集中)

教授 井手秀樹

授業科目の内容：

産業組織論は応用ミクロ経済学の一分野です。この講義では、なるべく具体的な事例を取り上げながら、現実の様々な企業行動が経済厚生に与える影響(独占・寡占問題)、さらには独占禁止政策・公共政策の必要性を論じます。なお、独占禁止法に関しては、専門の科目として「経済法」があります。

テキスト：

「入門・産業組織」有斐閣

参考書：

植草・井手他「現代産業組織論」NTT出版

産業組織各論(規制の経済学)(春学期)

教授 中条 潮

授業科目の内容：

この講義では、社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習に関する課題を経済学的に検討する。

あらゆる社会・経済活動は多かれ少なかれ規制を受けているが、これは「公共性」、すなわち市場の失敗・欠落の議論によって説明することができる。交通や通信の公共性、金融や保険の自由化、農業保護、流通規制、外国人労働者規制、住宅問題、発展途上国への経済援助といった様々な経済問題は、市場の失敗の視点から分析することによって政策判断に寄与することが可能である。したがって、商学部の産業・経済分野を学ぶ者にとっては、政府規制の問題は必須的バックグラウンドであると言える。

また、経営・会計分野の学生にとっても、企業の経営分析や財務分析を行なうにあたって、政府規制は少なからず影響を与える変数である。たとえば、規制下にある企業の経営指標は一般的に安定的であるが、それは政府の保護によるものであって経営政策に基づく安定度ではないかもしれない。

さらに、規制は経済上の規制にとどまらない。我々の日常生活は多くの規制にとりかこまれている。たとえば、麻薬の所持・使用、一方的な離婚、希少動物の捕獲、プロ野球球団の自由な選択等は禁止されている。これらの規制は一見、社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののようにみえるが、人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実を照らせば、これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能である。

それゆえ、医療、自然保護、公害、教育、国防、福祉、死刑廃止論議など、社会的問題とされている様々な問題についても、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会問題の解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論することが可能である。

このように、市場介入の意義・妥当性を研究することによって、経済制度・社会制度を経済学的に分析するのが本講義の目的である。

テキスト：

- ・中条潮『規制破壊』(東洋経済新報社)
- ・藤井・中条編『現代交通政策』(東大出版会)第4章

参考書：

必要があればその都度指示する。

産業組織各論(産業組織と企業戦略)(春学期)

教授 高橋美樹

授業科目の内容：

産業組織論は、他の学問分野と密接な関連をもって発展してきました。本講義では、関連分野の中でもとくに企業戦略論との関連に注目し、企業のとる様々な戦略的行動、また、企業競争力の源泉について議論したいと思います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

D. ベサンコほか[2002]『戦略の経済学』ダイヤモンド社

このほかの参考書は、必要に応じて、講義中に紹介し、またプリントを配布します。

産業組織各論(社会問題の経済学)(秋学期)

教授 中条 潮

授業科目の内容：

この講義では、社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習に関する課題を経済学的に検討する。

あらゆる社会・経済活動は多かれ少なかれ規制を受けているが、これは「公共性」、すなわち市場の失敗・欠落の議論によって説明することができる。交通や通信の公共性、金融や保険の自由化、農業保護、流通規制、外国人労働者規制、住宅問題、発展途上国への経済援助といった様々な経済問題は、市場の失敗の視点から分析することによって政策判断に寄与することが可能である。したがって、商学部の産業・経済分野を学ぶ者にとっては、政府規制の問題は必須的バックグラウンドであると言える。

また、経営・会計分野の学生にとっても、企業の経営分析や財務分析を行なうにあたって、政府規制は少なからず影響を与える変数である。たとえば、規制下にある企業の経営指標は一般的に安定的であるが、それは政府の保護によるものであって経営政策に基づく安定度ではないかもしれない。

さらに、規制は経済上の規制にとどまらない。我々の日常生活は多くの規制にとりかこまれている。たとえば、麻薬の所持・使用、一方的な離婚、希少動物の捕獲、プロ野球球団の自由な選択等は禁止されている。これらの規制は一見、社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののようにみえるが、人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実を照らせば、これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能である。

それゆえ、医療、自然保護、公害、教育、国防、福祉、死刑廃止論議など、社会的問題とされている様々な問題についても、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会問題の解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論することが可能である。

このように、市場介入の意義・妥当性を研究することによって、経済制度・社会制度を経済学的に分析するのが本講義の目的である。

参考書：

必要があればその都度指示する。

[05] 交通経済論(春学期) / 交通経済論(秋学期)

[99] 交通経済論(通年)

[春学期] 交通市場 / [秋学期] 交通政策

准教授 伊藤規子

授業科目の内容：

講義は、

交通分野の産業に属する企業の構造と行動の一般的な理論、

および、

国土政策も含めた交通政策を分析する際のベンチマークがどのようなものであるか、

を理解してもらうことを目的とする。

交通サービスは社会的生活に不可欠であり、また交通インフラは社会資本であるがゆえに、一般的に、供給が競争市場に任せられることが稀な領域として受け入れられてきた。

しかしながら、近年では資源配分の効率性からの視点での見直しが行われ、交通分野での規制の緩和は徐々に日本でも導入されてきた。経験的に形成されてきた理論の見直し、実際の交通機関分担バランス変化の反映、中央・地方政府のあり方の転換といった要素が、こうした動きの基となっている。

春学期では、交通市場の特徴をカバーしながら、交通企業の経営とミクロ経済学の整合性に焦点をおく。秋学期は、社会資本投資および交通政策に重きを置いた形で話を進める。

テキスト：

特に指定はしません。授業でプリントを配布します。また、授業中に適宜スライドを使用します。「教育支援システム」も使用します。

参考書：

- ・竹内健蔵著『交通経済学入門』(有斐閣ブックス)
 - ・竹内・山内『交通経済学』(有斐閣アルマ)
 - ・藤井・中条編『現代交通政策』(東大出版会)
 - ・岡野行秀『交通の経済学』(有斐閣)
 - ・永井・藤井・阪本他著『経済政策入門(2)』(有斐閣)
 - ・ウォーターソン著、木谷・新納訳『企業の規制と自然独占』(見洋書房)
 - ・山谷修作編著『現代日本の公共料金』(電力新報社)
 - ・前田義信『交通経済要論』(見洋書房)
- その他、必要に応じて授業中にアナウンスします。上記の参考文献は旧図書館内に設置のリザーブブックにあります。

交通経済各論(公益事業論)(春学期) 准教授 田邊勝巳

授業科目の内容：

公益事業論は電力・ガス・水道・電気通信・鉄道・航空などの産業分野を対象とする応用経済学の一分野です。一般的に公益事業分野は、市

場の失敗が発生しやすい市場構造であり、パレート効率的な市場成果の実現が困難になるため、公的部門が何らかの政策介入をしています。この講義では各公益事業の具体的な問題を論じるだけではなく、公的介入に関する様々な経済理論を学びます。春学期では、公的規制の根拠、規制の仕組み、代表的な規制手段である料金規制の理論モデルを学びます。テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・植草益 (2000) 『公的規制の経済学』 NTT 出版
- ・K. E. トレイン (1998) 『最適規制』 文真堂
- ・S. J. ブラウン, D. S. シプレー (1993) 『公益企業の料金理論』 日本評論社
- ・江副憲昭 (2003) 『ネットワーク産業の経済分析』 勁草書房
- ・依田高典 (2001) 『ネットワーク・エコノミクス』 日本評論社
- ・清野一治 (1993) 『規制と競争の経済学』 東京大学出版会

交通経済各論 (公益事業論) (秋学期) 准教授 田 邊 勝 巳

授業科目の内容：

公益事業論は電力・ガス・水道・電気通信・鉄道・航空などの産業分野を対象にする応用経済学の一分野です。一般的に公益事業分野は、市場の失敗が発生しやすい市場構造であり、パレート効率的な市場成果の実現が困難になるため、公的部門が何らかの政策介入を行っています。この講義では各公益事業の具体的な問題を論じるだけではなく、公的介入に関する様々な経済理論を学びます。秋学期では春学期の議論を踏まえ、規制下でも一定の競争効果を狙うインセンティブ規制、ネットワーク産業特有の問題と解決策、公企業と民営化の問題、そして公益事業の各論と諸外国の政策を学びます。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

- ・植草益 (2000) 『公的規制の経済学』 NTT 出版
- ・K. E. トレイン (1998) 『最適規制』 文真堂
- ・S. J. ブラウン, D. S. シプレー (1993) 『公益企業の料金理論』 日本評論社
- ・江副憲昭 (2003) 『ネットワーク産業の経済分析』 勁草書房
- ・依田高典 (2001) 『ネットワーク・エコノミクス』 日本評論社
- ・清野一治 (1993) 『規制と競争の経済学』 東京大学出版会

交通経済各論 (国際交通論) (秋学期) 講師 遠 藤 伸 明

授業科目の内容：

海運会社や航空会社の企業行動・戦略は、近年、経済の国際化や規制緩和の進展などに伴い、大きく変化しています。その特徴として、グローバル化、多様化、規模の拡大などがあげられます。本講義では、ミクロ経済学の観点から、外航定期船海運ならびに国際航空を対象に、国際交通サービスにおける企業行動・戦略とそれにかかわる経済的要因・影響について解説します。また、寡占的企業行動への対応、自国籍船の確保、環境対策など国際交通サービスにおける政策・制度設計とそのあり方について解説します。

テキスト：

特に指定しません。必要に応じて、プリントを配布します。

参考書：

- ・吉田・高橋編 『国際交通論』 世界思想社
- ・村上英樹他編著 『航空の経済学』 ミネルヴァ書房
- ・山岸寛 『海上コンテナ物流論』 成山堂書店

[D 5 / H 労働・社会]

【05】労働経済学 (春学期) / 労働経済学 (秋学期)

【99】労働経済学 (通年)

[春学期] 労働経済学の基本枠組

[秋学期] 雇用と労働市場の実証分析

教授 清 家 篤

授業科目の内容：

[春学期]

現在の労働市場で起きていることを経済学の枠組みを使って理解、分析できるようにするための基本枠組を理解してもらうことを目的としています。内容は次の通りです。

[] 労働経済分析の枠組み

- (1) 労働経済学とは何か
 - (i) 労働経済学とは何か
 - (ii) 2つの均衡概念
 - (iii) 経済学における労働概念
- (2) 労働力の観測
 - (i) 労働力とは何か

- (ii) 労働力の観測指標
- (3) 労働統計
 - (i) 労働統計の概略
- [] 労働の需給
 - (1) 労働供給
 - (i) 性・年齢別労働力率の観測
 - (ii) 就業・最適労働供給時間の決定
 - (iii) 労働供給曲線の導出
 - (2) 労働需要
 - (i) 労働需要の決定要因
 - (ii) 産業別労働需要の変動
 - (iii) 最適労働需要の決定
 - (iv) 労働需要曲線の導出
- [] 労働市場
 - (1) 失業
 - (i) 失業とは何か
 - (ii) 失業にかんする経験法則
 - (iii) 日本の失業構造
 - (2) 労働力のフロー表
 - (i) 労働力のフローとは何か
 - (ii) フロー表を使った分析
 - (3) 労働市場における情報の役割
 - (i) 情報の不完全性
 - (ii) 情報の不完全性ゆえに生じる経済主体の行動
 - (iii) 情報の不完全性と企業組織
- [秋学期]
 - 労働経済学の枠組みを使って、現在の労働市場の構造変化や、それに応じた雇用制度の変革について分析できるようにすることを目的としています。内容は次の通りです。
 - [] 経済の構造変化
 - (1) 雇用のあり方を変える構造変化
 - (i) 人口の少子高齢化
 - (ii) グローバル競争の激化
 - (iii) 技術革新
 - (2) 大きくなる市場の力
 - (i) 基本は市場圧力
 - (ii) 企業内に浸透する市場圧力
 - (3) 市場の枠組み
 - (i) 労働市場の特性
 - (ii) 労働ビッグバンでよいのか
 - (iii) 労働市場機能を高める
 - [] 変化する雇用制度
 - (1) 多様化する雇用制度
 - (i) パートタイマー・契約社員・派遣社員の増加
 - (ii) 非正規労働者増加の背景
 - (iii) 正規労働者を念頭においた現行制度との矛盾
 - (2) 柔軟になる賃金制度
 - (i) 年功賃金制度の理論
 - (ii) 年功賃金制度の変化
 - (3) 労働時間短縮への道のり
 - (i) 長時間労働の背景
 - (ii) 長時間労働で失われるもの
 - (iii) 労働時間短縮の条件
 - (4) 人的資本投資
 - (i) 人的資本理論の概要
 - (ii) ますます重要になる人的資本投資
 - [] 少子高齢化への対応
 - (1) 高齢者就業促進の必要
 - (i) 高齢化は成功の証
 - (ii) ピラミッド型人口構造の下で作られた制度との乖離
 - (iii) 恵まれた条件を活かす
 - (2) 高齢者の労働供給
 - (i) 高齢者の労働供給のトレンド
 - (ii) 高齢者の労働供給の規定要因
 - (3) 必要な制度変革
 - (i) 定年退職制度
 - (ii) 公的年金制度
 - (iii) 雇用保険制度
 - [] 雇用と生活を巡る課題
 - (1) 集団的労使関係
 - (i) 集団的労使関係の意味
 - (ii) 日本における労使関係の史的展開
 - (iii) 春闘の見直し
 - (2) ワーク・ライフ・バランス
 - (i) なぜワーク・ライフ・バランスは崩れやすいのか
 - (ii) ワーク・ライフ・バランスの崩れで失われるもの
 - (3) 大切な国民の選択
 - (i) 規制緩和をめぐる議論
 - (ii) 格差是正をめぐる議論

(iii) 重要になる実証分析

テキスト:

清家篤『労働経済』(東洋経済新報社)

参考書:

生産性労働情報センター『活用労働統計』(社会経済生産性本部生産性情報センター)

その他の資料もそのつど適宜指定します。

【05】産業関係論 (春学期) / 産業関係論 (秋学期)

【99】産業関係論 (通年) 講師 菊野 一 雄

授業科目の内容:

近代以降の工業化社会を、我々は「インダストリアル・ソサエティー」ないし「ビジネス・ソサエティー」と呼び、豊かな生活を約束された素晴らしい社会と思い込んできた。しかし、インダストリーは「勤勉」、ビジネスは「忙しい」(ビジー)であり「物的豊かさ」を求めて「物の加工」に忙しい時代であった。「忙しい」とは「心を亡ぼす」ことである。事実、我々は物的に豊かになればなる程、心を亡ぼしてきたように思う。だが、それは何故か。

何故、物的豊かさを求めて工業を興し、労働の細分化(分業)と機械化を推進すればする程、雇用をめぐる諸関係(産業関係)にさまざまな矛盾(副作用)が生じてきたのか。商(ビジネス)学部において産業(インダストリー)関係論を学ぶ意義はまさにこの点の解明にある。

産業関係(Industrial Relations = IR)という用語は1910年代頃から英米において使われてきたが、いまだ研究者の間で共有できる統一的概念や理論体系を有していない。産業関係(IR)は広義には「雇用関係から派生する全ての行動、ないし雇用過程に関連する全ての行動」(D. ヨーダー)であるが、本講義では労働市場と雇用管理の接点に焦点をあてていきたい。

テキスト:

- ・菊野・八代編著『雇用・就労変革の人的資源管理』中央経済社
- ・菊野一雄『現代社会と労働』慶應義塾大学出版会

参考書:

- ・菊野一雄『Humanization of Work and Japanese Personnel Management』(英文) 楽出版
- ・菊野一雄『模索時代の人間と労働』中央経済社
- ・菊野他編著『雇用管理の新ビジョン』中央経済社
- ・今村仁司『仕事』弘文堂
- ・今田高俊『自己組織性』創文社
- ・加藤尚武『環境倫理学のすすめ』丸善
- ・二神恭一編『戦略的人材開発』中央経済社

産業関係各論(労務管理論)(春学期集中)

教授 八代 充 史

授業科目の内容:

労務管理とは、市場経済において最大利潤の獲得という目的の下に企業が行うヒトの管理についての諸活動を総称したものです。

この講義では、昇進・昇格、人事考課といった労務管理の諸活動についての基本知識を与えることを重視します。ただこうした労務管理の諸活動の背景にある理論的な意味や歴史的な経緯も、この講義の重要な課題です。

テキスト:

- ・佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理(第3版)』有斐閣アルマ, 2007年。
- ・佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル人事労務管理』有斐閣, 2000年。

参考書:

- ・白井泰四郎『現代日本の労務管理(第2版)』東洋経済新報社, 2007年。
- ・八代充史『管理職層の人的資源管理 労働市場論的アプローチ』有斐閣, 2002年。
- ・菊野一雄・八代充史編『雇用・就労変革の人的資源管理』中央経済社, 2003年。
- ・守島基博『人材マネジメント入門』日本経済新聞社, 2004年。
- ・佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学』有斐閣ブックス, 2004年。

【05】産業社会学 (春学期) / 産業社会学 (秋学期)

【99】産業社会学 (通年)

[春学期] 理論編 / [秋学期] 実態編

名誉教授 三 浦 雄 二

授業科目の内容:

[春学期]

2009年度の春学期は、高度産業社会(現在の日本はその一つである)の構造的仕組みを中心に、内外で明らかにされてきている、その特徴と問題点を整理し、それが人間に及ぼす影響を、更に考えていく足がかりを提供したい。世界が産業化(より具体的には企業活動)の高度化を巡って激しく競い合っているのは周知のところで、日本も当然のことだが、その只中にいる。産業化の先端になりたっている高度産業社会は、表面的には

豊かさ を誇示して華やかだが、そのための仕組みを強化させ、更にその効率化を押し進めなければならない。それは、その先端で生きる人々にとって、少なからぬ問題を提起してくるものである。そうした問題を中心に、高度産業社会という社会の在り方に今一度スポットを当ててみたい。

[秋学期]

秋学期は、実態編として、現代日本の高度産業社会としての問題点を制度的構造(仕組み)を中心に明らかにする。簡単にいえば、大企業を核とする産業活動の制度的展開の仕組みである。今の我々の社会は、間違いなく、この仕組みによって支えられているし、我々の殆ども、人生の大半をその仕組みの中で働くことで費やしていく。その仕組みの中で、どのような位置を占め、どのような働きかたをしていくかは、我々の生涯にとって極めて重要な意味を持つ。高度産業社会は 豊かさ を提供してくる社会ではあるが、当然、その提供には「条件」がついており、我々を仕組みに取り込んでいく力も強い。そこに潜んでいる様々な社会的問題を事実面に即して説明し、今後の更なる追究の突破口を示したい。

テキスト:

テキストは使用せず、講義を中心としている。

参考書:

講義の中で紹介している。

産業社会学各論(経営社会学)(春学期)

講師 塚 本 成 美

授業科目の内容:

経営社会学の特徴は、企業経営を社会不安や社会問題のひとつの源泉として認識するところにある。企業経営は利益を追求する経済団体でありながら、従業員(人間)の社会組織によって活動し、生活(社会)にたいして財やサービスを 제공하는ことで事業をささえる。企業経営は、経済性と社会性の両方を要求される本質的に矛盾をはらんだ存在なのである。この矛盾が、様々な社会不安や社会問題をひきおこす要因となることがある。

本講義では、以上のような経営社会学の視点から、経営の社会的問題性の根底にある経済性と社会性の矛盾をあきらかにしつつ、現代の社会問題と企業経営の関係性を追究したい。企業活動に携わるものは、経済的合理的思考だけでなく、経営の社会的影響力にたいする深い洞察力を必要とする。

テキスト:

なし(講義のなかでプリントを配布します)

参考書:

- ・安田尚道『持続的発展の経営学: 企業と市民の共生を考える』唯学書房 2006年
- ・石坂巖編著『文明の実業人』巖書房 1998年
- ・その他

産業社会学各論(経営社会学)(秋学期)

講師 塚 本 成 美

授業科目の内容:

現代人は何らかの職業をもって、具体的な企業経営の職場に配属され、同僚や上司や部下との社会関係の現実のなかで、仕事上の義務をはたすことを余儀なくされている。経営生活の現実には、勤労者の人格やもの考え方に影響をおよぼすとともに、経営の在り方は社会の在り方をきめる。勤労者にとっての経営の現実には、労働特性と職場社会関係によって規定される。とくに、職場社会関係は、一方で、企業の管理組織の支配下であり、他方で、組織とは別に経営や職場の集団的統一性や凝集性、集団意識を醸成する。組織管理と職場集団の間でおくる生活こそが、勤労者にとって経営の現実を構成し、その性格構造と人格の独立性の基礎となる。

本講義では、ドイツ経営社会学の形成過程をたどりながら、経営と職場の社会的側面をあきらかにしたい。それにより、経営あるいは職場とは何かを考え、職業生活の社会的現実を洞察するための素材を提供したい。

テキスト:

なし(講義のなかでプリントを配布します)

参考書:

講義の中で提示。

【05】組織心理学 a (春学期) / 組織心理学 b (秋学期)

【99】組織心理学 (通年) 准教授 吉 川 肇 子

授業科目の内容:

組織と個人の適応的關係について、心理学的視点から検討します。そのために、組織心理学の基本的な知識を学びます。講義とともに、授業内に実習やLTD学習を行い、体験的に理解を深めることをねらっています。

テキスト:

外島裕・田中堅一郎(編著)産業・組織心理学エッセンシャルズ ナカニシヤ出版

参考書:

レイボー・チャーネス・キッパーマン・ベイシル(著)丸野・安永(訳)討論で学習を深めるには LTD 話し合い学習法 ナカニシヤ出版

【05】社会保障論（春学期） / 社会保障論（秋学期）

【99】社会保障論（通年）

再分配政策の政治経済学

教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

オムニバス形式の寄附講座に出席しては、実業界をはじめとした人たちの話のノートをとるのに忙しく過ごしたりしている三田での生活の中、週にコマくらいこういう講義があってもいいのではないかなというような授業を行う。

この国で生きていくために知っておくことは必須であるはずなのに、実はほとんどの人が知らない社会保障、この国の進路を考えるうえで決定的に重要な役割をはたしているのに、そういうことさえ何も知らないでノホホンと生きている人たちからなる今の社会、大学、三田のキャンパス。そういう中、まじめにこの国の未来や公の出来事について深く考えてみるという、ビジネスなどはほど遠く金銭的な御利益がいかにもなさそうなことを考えてもらうというのがこの講義の趣旨である。

今年、いろいろとおもしろい映画やドキュメントのDVDが手に入りそうである。できる限り、講義の中でそうした映像を鑑賞し、金曜日の午前中、三田のキャンパスの一角で君たちに非日常を味わってもらおうと思う。

また、社会保障関連の文献を読んでもらっては、レポートを書いてもらう、そういう一昔も二昔も前であれば当たり前だったはずの学生生活を味わってもらいたい。

文献は、できるだけ、旧図書館リザーブブックコーナーに置いておく。

暇があれば、趣のある赤煉瓦の旧図書館にこもり読書をする。そういう粋でレトロなライフスタイルも味わってもらおう。

講義といえば、時機にあった社会保障関連の題材を使っている話をしているために、講義で話している内容は毎年大きく異なっている。よって、最近では、3年次に履修して単位を取得した4年生が飛び入りで講義に出席する傾向もでてきており、個人的には、この傾向を大いに歓迎している。昨年度履修した学生も、時間があれば顔を出すことをすすめたい。特に今年は、社会保障を中心として世の中が大きく動くことは確実である。その動きをほとんど実況中継的雑談で説明することになるだろう。

テキスト：

旧図書館リザーブブックコーナーに配置している

- ・権丈善一（2007）『医療政策は選挙で変える 再分配政策の政治経済学』
 - ・権丈善一（2006）『医療年金問題の考え方 再分配政策の政治経済学』
 - ・権丈善一（2005）〔初版、2001〕『再分配政策の政治経済学 日本の社会保障と医療』
 - ・権丈善一（2004）『年金改革と積極的社会保障政策 再分配政策の政治経済学』
- および、随時更新される下記ホームページに掲載される文章。
<http://kenjoh.com/>

参考書：

講義のなかで適宜指示する。

社会保障各論（人口・労働問題と社会保障）（秋学期）

講師 権 丈 英 子

授業科目の内容：

現在、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）やフレキシビリティ（雇用の柔軟性と保障）に関する活発な議論が行われている。その議論には、少子高齢化の進展や経済社会環境の変化によって生じてきた新たな人口・労働問題が根底にある。この講義では、現在の日本における人口・労働問題、そしてこれに関連する社会保障についての議論を、受講生が理解し、自ら考え、評価できるようになることを目標とする。

初めに、日本の社会保障制度の歴史と概要を学んだ後、人口構造の変化 特に少子化の現状とその要因 に関する経済理論や実証分析による研究成果を学ぶ。さらに、女性雇用、若年雇用や高齢者雇用と社会保障や、格差問題と社会保障について考え、これからの働き方・暮らし方と政策との関わりを考察する。

折りに触れて、類似の問題を抱える他の先進諸国の例を紹介して国際比較を行うことにより、理解を深めてもらうつもりである。

テキスト：

なし

参考書：

講義時に、適宜、指示する。

〔 D 6 / I 産 業 史 ・ 経 営 史 〕

産業史（春学期）

教授 牛 島 利 明

授業科目の内容：

この講義では明治期から戦時期にいたる日本の産業発展とそれを支えた制度的要因を事例としてとりあげ、産業の発展・衰退の過程、産業間

の相互依存関係、個別産業と経済全体との関連について理解を深めることを目的とする。

テキスト：

浜野潔ほか『日本経済史』慶應義塾大学出版会（近刊）を適宜参照します。

参考書：

参考文献は必要に応じてその都度指示するが、さしあたり下記の文献を参照されたい。

西川俊作ほか編『日本経済の200年』日本評論社、1996年。

産業史各論（比較小売業史）（秋学期）

教授 平 野 隆

授業科目の内容：

本講義は、19世紀後半以降の日本、イギリスおよびアメリカにおける近代小売業の成立・発展過程を比較検討し、各国の異なる社会的・歴史的背景要因が、小売業の発展パターンにどのように反映したかを考察する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

講義中に適宜指示する。さしあたり、以下の文献を参照されたい。

- ・J. ベンソン, G. ショー編, 前田他訳（1996）『小売システムの歴史的発展』中央大学出版部。
- ・山本武利・西沢保編（1999）『百貨店の文化史 日本の消費革命』世界思想社。

経営史（春学期）

教授 平 野 隆

授業科目の内容：

今日の企業が直面している諸問題の本質を把握するためには、それらが歴史的に形成されてきた過程を理解することが不可欠である。

この講義では、まず経営史学の基本的な考え方と方法について解説し、つづいて18世紀以降のイギリス、アメリカおよび日本におけるモダン・ビジネスの形成・発展と企業経営の展開過程を概観する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

参考文献は講義中に適宜指示する。さしあたって以下の文献をあげておく。

- ・大河内暁男『経営史講義』（第2版）東京大学出版会、2001年。
- ・宮本又郎ほか『日本経営史』（新版）有斐閣、2007年。
- ・鈴木良隆ほか『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。

経営史各論（アメリカ経営史）（秋学期）

講師 安 部 悦 生

授業科目の内容：

企業と企業家の発展を理解する。産業史、経済史、経営学、経営組織論、経営戦略論、ミクロ理論などをすでに勉強したか、それらと並行して、勉強することが望ましい。

テキスト：

『ケースブック アメリカ経営史』有斐閣、2002年

参考書：

- ・安部悦生『経営史』日経文庫、日本経済新聞社、2002
- ・『経営学のすべてがわかる本』学習研究社、2004

経営史各論（日本経営史）（秋学期）

名誉教授 吉 田 正 樹

授業科目の内容：

この講義は、わが国の急速な工業発展を理解するため、近代動力技術の導入と普及過程を考察していく。考察は電気利用を中心として、電力産業と電気機械産業の生成と発展、さらに産業発展のキーパーソンとなった技術者、経営者の行動と思想に触れていく。電力産業については供給効率化と市場統一を中心に説明をすすめ合同から国家管理にいたる過程を考察していく。電気機械産業の考察では競争と技術開発に触れながら、戦前・戦後の国内企業の経営戦略と組織再編に言及していく。

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜指示していく。

【05】専攻科目 類

【99】専攻科目 類

1. 目的および概要

専攻科目 類(【99】専攻科目 類)に配当された科目は、いずれも商学部の専門的な内容を少人数クラスでセミナー形式または演習形式で学び研究するための科目です。専門の研究をセミナー形式ですすめていく科目もあれば、専門のバックグラウンドとなるような知識を外国語で書かれた原書で演習する科目もあります。それぞれの科目の大きな内容は、次のとおりです。

- * 専門外国語研究(【99】 語専門書研究):
高度な専門的研究を、原書を教材に演習形式で行う科目です。
- * 専攻演習:
研究会に属さない学生のために、専門科目の基礎を演習形式で勉強する科目です。
- * 外国語演習:
三田へ来てからも外国語を学びたい学生諸君を対象に設けられた、中・上級向けの演習形式の授業です。
- * 関連課題研究:
これまで学んできた知識を専門分野と関連づけながら、小人数のゼミ形式で深めていく科目です。
- * 研究会:
2年間にわたって、特定分野の研究を演習形式で行う科目です。

専攻科目 類(【99】専攻科目 類)に属する以上の科目の中から、1科目2単位以上を履修しなければなりません。ただし、同一科目内では原則1クラスしか選択できません。また、研究会を選択する場合は、担当教員の承認を得て、第3・第4学年にわたって履修しなければならず、専攻科目 類(【99】専攻科目 類)として専攻演習を履修することはできませんので、注意してください。

2. 担当者間の取り決め

成績評価の方法や出席の取扱いに関する担当者間のバラツキや、情報の不徹底からくる不満を少しでも解消するため、原則として、担当者間で次のような取り決めをしてあります。

(なお、以下の取り決めはあくまでも原則であって、実際の授業は担当者の裁量によって運営されます。)

- イ) 成績評価について:
各人の基本方針をあらかじめ講義要綱に明記する。
- ロ) 出席の取扱いについて(共通ルール):
年間3分の1程度を超えて欠席した場合は不合格とする。共通ルールを採用しない場合は、それと同等以上の負担を課す。

3. 履修希望クラスの選択・申告

本冊子の「第8・9履修要項」の「3 履修上の注意」で確認してください。

【専攻演習】

専攻演習 D (経営学)(通年)

企業倫理と CSR

准教授 梅 津 光 弘

授業科目の内容:

企業倫理、コンプライアンス、CSRなどの分野における基本的課題事項について理論、実践、制度等の考察を行う。授業は講義、発表、ケースディスカッションを適宜併用して行う。

テキスト:

『企業倫理学』T. ピーチャム, N. ボウイ著 第1巻~第3巻(見洋書房)

専攻演習 D (経営学)(秋学期集中)

准教授 神 戸 和 雄

授業科目の内容:

企業経営に関する基本的な知識を習得するとともに各自が興味をもった企業および産業に関して調査、発表を行い質疑応答を通じて実際の企業経営に関する理解を深めることを企図している。

テキスト:

必要に応じて資料を配布する。

参考書:

必要に応じて紹介する。

専攻演習 D (経営学)(通年)

教授 前 田 淳

授業科目の内容:

経営学、経済に関する基本的問題と知識についての理解を深めてもらう。企業経営、日本経済、さらには世界経済についての問題意識を持ち、現代的意義をも把握できるよう指導していきたい。

テキスト:

経営学、経済学の基本的問題を扱うものをテキストとするが、書名についてはガイダンスの際に説明する。(年間3冊程度)

参考書:

授業の中で随時紹介する。

専攻演習 D (商業学)(春学期集中)

准教授 小 野 晃 典

授業科目の内容:

マーケティング実務家は、企業目的に合致した最適なマーケティング活動を行うために、何らかの根拠で戦略策定し、さらに、その成果を観察することによって次なる戦略策定にフィードバックさせる。(これは、古くから Plan-Do-See として知られる営みである)。同様に、マーケティング研究者もまた、マーケティング現象を説明するために、何らかの理論モデルから仮説を導出し、さらにはそれを実証(反証)することによって次なる仮説導出にフィードバックさせる。本講は、こうした営みを総体的に捉え、実際にその一端を体験することを目的とする。

毎週の授業は基本的に次のフェーズの繰り返しとなる。1 コマ目は講義形式である。データ解析技法(多変量解析技法)とその使い方を学ぶ。

2 コマ目はパソコン実習形式である。実際にデータを解析して次なる戦略策定を行う仕方を体得する。実習を終えたら、データを解析して結論として戦略を得るプロセスを報告書(レポート)の形にまとめてもらう。なお、実習の進捗度には個人差があり、ホームワークになることもある。

次週の授業前にその報告書を提出してもらう。それをもって成績評価を行う。

テキスト:

使用しない。

専攻演習 D (経済・産業)(通年) 助教(有期) 齊 中 凌

授業科目の内容:

この授業では、計画経済体制から市場経済体制へ移行し、市場メカニズムが浸透しつつある中国経済を取り上げる。経済学的視点から中国の金融システムおよび金融政策の問題点などを検討し議論することによって、金融政策と国際金融理論に対する理解を深めることを目標とする。教材の輪読に加え、履修者には自分が関心のある中国経済関連のテーマを選び、レポートを作成して提出してもらう。

テキスト:

Armelle Guizot (2007), "China's Economy - The Financial and banking system, foreign exchange and interest rate risk policies", Harriman House 参考書:

授業において適宜指定。

質問・相談:

授業終了後に直接か、電子メールで受け付ける。

専攻演習 D (経済・産業)(春学期集中) 准教授 田 邊 勝 巳

授業科目の内容:

身近な経済現象に関するテキストを輪読しながら、経済学的な考え方を養います。テキストについては第1回目の授業時に受講者と相談した上で決めます。報告者は担当する章について発表し、討論者や授業参加者からの質問に答える形で授業を進めます。

テキスト:

・ Roger Miller et al. "The Economics Of Public Issues", Addison-Wesley
・ ティム・ハートフォード『まっとうな経済学』ランダムハウス講談社 他

参考書:

必要に応じて授業中に紹介します。

専攻演習 D (経済・産業)(秋学期集中) 准教授 山 本 勲

授業科目の内容:

この授業では、金融経済に関する分析(特に労働市場分析)を英語で記述した論文・本・記事等を履修者による輪読形式で読み進める。授業では、難しい英単語や英語表現を詳細に理解することよりも、要旨や主張を効率的に理解することや、英文としての論旨の立て方や英語論文の形式を学習することを優先する。また、教材は主に経済学の分野から選定するため、数式や図表の読解も授業内容に含まれる。

テキスト:

授業において適宜指定。

参考書:

授業において適宜指定。

専攻演習 D (経済・産業)(秋学期集中) 准教授 渡部 和孝

授業科目の内容:

学部と大学院のマクロ経済学の接続を目的とした基礎的な動学的マクロ経済学を英文テキストを用いて学ぶ。

テキスト:

Stephen D. Williamson, "Macroeconomics, 2nd edition"

専攻演習 S (会計学)(春学期) 教授 永見 尊

授業科目の内容:

公認会計士による財務諸表監査を理解し、粉飾決算の構造と事例を研究します。前半は財務諸表監査の役割や不正、粉飾および監査の失敗に関する理論的な側面を学びます。後半はそれぞれが関心を持った日米の粉飾事例を取り上げて報告と議論をしていきます。

テキスト:

最初の時間に指定します。

専攻演習 S (会計学)(秋学期) 准教授 前川 千春

授業科目の内容:

英語で書かれた財務会計のテキスト(中級レベル)を使用して、財務会計の基礎概念を理解すると同時に財務会計の専門用語を習得し的確に訳出する力を養う。

テキスト:

財務会計(英語)の中級テキストを使用する(書名・入手方法についてはガイダンスの際に指示する)。

参考書:

授業の中で随時紹介する。

専攻演習 S (商業学)(秋学期) 助教(有期) 高田 英亮

授業科目の内容:

マーケティング研究における1つの研究パターンは、マーケティング現象の説明を目的として、(1)既存研究のレビューを行い、問題状況を把握し、(2)その問題状況を克服すべく、何らかの理論ないし枠組に基づいて仮説を提示し、(3)その仮説の経験的妥当性を検討すべく、実証分析を行い、そして(4)その実証分析の結果を踏まえて、研究の成果や課題を述べるというものである。本演習の目的の1つは、この研究パターンに沿って行われているマーケティング研究の論文の輪読を通じて、その基本的なプロセスの意味や重要性を理解することである。

また、本演習では、マーケティング研究として、市場志向に関する議論を取り上げる。市場志向とは、市場知識の生成、普及、そしてそれへの反応に関する組織活動(Kohli and Jaworski 1990)、または優れた顧客価値を最も効果的・効率的に創造する企業文化(Narver and Slater 1990)として捉えられるものであり、既存研究ではこれまで、市場志向と企業成果の関係、市場志向の先行要因、そして市場志向と企業成果の間のプロセス要因をめぐってさまざまな議論が展開されている。こうした市場志向に関する論文の輪読を通じて、その考え方に関する理解を深めることが本演習のもう1つの目的である。

テキスト:

本演習では、*Journal of Marketing* や *Strategic Management Journal* に掲載された英語論文を取り扱う予定である。具体的な論文名については、最初の授業において紹介する。

【外国語演習】

外国語演習 D (フランス語)(通年)

フランス語会話の実践

訪問講師(招聘) アブリアル, ジャン・ピエール

授業科目の内容:

会話を通して、1・2年生で学んだフランス語の知識をコミュニケーション・ツールとして活用するトレーニングをします。

テキスト:

プリントを配布します。

外国語演習 D (フランス語)(通年)

フランス語講読(他者と表象)

専任講師 原 大地

授業科目の内容:

フランス語の総合的な読解力を鍛えるために、様々な分野から短いテキストを選んで読んでゆきます。その過程で、文法・発音などの総合的訓練も積みましょう。用いる文章はなるべく皆さんの興味関心に合わせて選びますが、授業に緩やかなまとまりを持たせるために、「他者と表象」というテーマを設定するつもりです。

テキスト:

プリント配布。

参考書:

仏和辞典、および初等文法を習ったときの教科書。

外国語演習 D (中国語)(火曜1限クラス)(通年)

中国語読解

教授 許 曼麗

授業科目の内容:

この授業は、中国語の文章を正確に翻訳する練習が中心となる演習授業である。文学、政治、経済、文化習慣等様々な分野の文章を精読する。言葉の表面的な意味を理解するのみならず、時代背景を理解し、書き手のメッセージも読みとれる読解力を養うことがこの授業の目標である。文章を訳すプロセスを通して、文法事項を再確認し、定着を図りたい。テキストの他に、時の話題に関する記事なども随時取り上げる予定である。

テキスト:

未定

テキストのほかプリントを配布

外国語演習 D (中国語)(金曜2限クラス)(通年)

中国語ヒアリング

教授 許 曼麗

授業科目の内容:

この授業は生活にまつわる会話文を中心に、ヒアリング練習を行なう演習授業である。

生活一般の様々な場面において、必要な言い回しや、人々のやり取りを繰り返して聞くことを通して、内容を把握し、同じ場面に出会う時に使えるように学習する。

各場面について、先ず新出単語を学習してから、会話文を数回聞く。次に、聞いた会話の内容について、問答や穴埋め練習などの練習をした上、発展練習を行なう。

最後に、学習した会話文を暗記して、発表する。

テキスト:

プリントを使用

参考書:

必要に応じて指示する

外国語演習 D (中国語)(月曜4限クラス)(通年)

作文

講師 張 明傑

授業科目の内容:

基本的文法をふまえながら、文章の読解と作文の練習を実践する。これにより、中国語の文章表現を習得し、応用できることを目的とする。

秋学期は仕事に役立つビジネス文書の作成にもチャレンジする。

テキスト:

『アクティブ 中国』(胡金定他著,朝日出版社)

参考書:

プリントを配布する。

外国語演習 D (中国語)(月曜5限クラス)(通年)

ビジネス中国語会話

講師 張 明傑

授業科目の内容:

ビジネスの場におけるスムーズなコミュニケーションに役立つことを目的とする。実際のビジネス場面会話を学習し、中国語の基礎表現力と応用力を向上させることに重点をおいて練習を行う。

テキスト:

『実用中国語会話』(張明傑著,金星堂)

参考書:

副教材として、『実用ビジネス中国語会話』(大内田三郎著,駿河台出版社)を使う。(必要に応じてコピーして配布する)

外国語演習 D (スペイン語)(通年) 教授 横山 和加子

授業科目の内容:

1,2年で学習した文法知識を踏まえて、新聞、雑誌、小説など、さまざまなジャンルの文章を講読する授業です。ある程度ボリュームのある文章を読んで大意をつかむことに慣れ、実践的なスペイン語の能力を養うのが目的です。

テキスト:

『Viajeros』東京大学出版会 2008年(2800円+税)

参考書:

特になし

外国語演習 D (スペイン語)(通年)

講師 ヨルディ, マリア C.

授業科目の内容:

TEMA: PERFECCIONAR EL ESPAÑOL Y ESTUDIAR PARA EL EXAMEN DE "DELE"

En esta clase al tratarse de estudiantes que tienen un nivel superior del español, a la vez que es un repaso de lo estudiado hasta ahora, se desea que sea a su vez una mayor profundización y que también se pueda conseguir pasar el examen de "DELE".

En esta metodología de la clase se consigue COMPRENSIÓN DE TEXTOS

Hay una serie de condiciones para poder tomar esta clase:

1) No se pueden matricular los alumnos que hayan sacado uno o más "C" en los años anteriores.

Pero, sin embargo, aquellos alumnos que hayan sacado uno o más "C" en el Español I y II, pero que hayan sacado "A" y "B" en el Español III y IV PUEDEN MATRICULARSE.

2) Sólo se admiten a los alumnos que hayan aprobado en el 5 o algún grado superior en el "Kentei" de español.

3) La asistencia a la presentación (gaidansu) es obligatoria. Aquellos que no se presenten ese día no se aceptan.

También se necesita que los alumnos estén dispuestos a realizar las tareas que cada semana se les dará, así como a preparar y repasar para la clase.

テキスト:

LIBRO DE TEXTO:

PREPARACIÓN AL DIPLOMA DE ESPAÑOL NIVEL INICIAL, DELE Inicial

Edt: 出版社: EDELSA

著者: Mónica García -Vió Sánchez

外国語演習 S (英語)(春学期)

環境問題を考える

教授 浅川 順子

授業科目の内容:

英語で読み, 考え, 発信する力をつけることがこの授業の目的です。テーマは環境問題です。気候変動, 地球温暖化に代表される環境問題は我々が取り組むべき最重要の課題として認識されつつあります。この授業では, 環境問題の現状, 提案されている対策とそれに伴い克服されるべき問題について, 資料を調べ, 論説文を読み, 発表, 討論を通して共に考えて行きます。

テキスト:

授業時に配布または入手方法を指示します。

外国語演習 S (英語)(秋学期)

グローバル化とその問題を考える

教授 浅川 順子

授業科目の内容:

英語で読み, 考え, 発信する力をつけることがこの授業の目的です。テーマはグローバル化です。経済のグローバル化が否応なく進む中, それに伴う問題への取り組みは必ずしも十分でないと言われています。日本国内で, また世界でどのような問題が発生しているのか, そして, それへの対応は今後どうあるべきなのか。英語で資料を調べ, 論説文を読み, 発表, 討論を通して共に考えて行きます。

テキスト:

授業時に配布または入手方法を指示します。

外国語演習 S (英語)(春学期)

英語で学ぶ環境問題

准教授 大矢 玲子

授業科目の内容:

急速なグローバル化が進む社会のなかで, 英語で情報を収集, 理解し, 自分の意見を発表する能力はますます重要になっています。この授業では環境問題を題材とし, 英語で書かれたさまざまな論説文の読解とディスカッション, また学生自身の関心にもとづくプレゼンテーションなどを通して, 総合的な英語力を養うことを目標とします。また新聞記事に基づいたエクササイズも随時取り入れます。

テキスト:

講師が編纂したテキストを毎回の授業中に配布します。

外国語演習 S (英語)(秋学期)

英語で学ぶアジア

准教授 大矢 玲子

授業科目の内容:

急速なグローバル化が進む社会のなかで, 英語で情報を収集, 理解し, 自分の意見を発表する能力はますます重要になっています。この授業では, アジアの国々の政治, 経済, 文化に関わる最新の話題を題材とし,

英語で書かれたさまざまな論説文の読解とディスカッション, また学生自身の関心にもとづくプレゼンテーションなどを通して, 総合的な英語力を養うことを目標とします。また新聞記事に基づいたエクササイズも随時取り入れます。

テキスト:

講師が編纂したテキストを毎回の授業中に配布します。

外国語演習 S (英語)(春学期)

Effective Presentation and Cognitive Scientific Approach to Language
准教授 深澤 はるか

授業科目の内容:

This course gives students the opportunities to investigate how to make an impressive and effective presentation in English through studying the topics on cognitive scientific approach to Language, i.e. when people are using language (speaking, listening, reading, and writing) how their brains are working.

テキスト:

To be announced by the instructor.

参考書:

To be announced by the instructor.

外国語演習 S (英語)(秋学期)

Psychological Approach to Effective Presentation in English.
准教授 深澤 はるか

授業科目の内容:

The purpose of this course is two-fold. First, it will investigate gender differences from the viewpoint of cognitive science: (1) how men and women's brain structures are different. (2) whether the differences actually affect on human's behavior such as thinking, memory, language, decision making, etc. Second, it will give students the opportunity to study how to make an impressive and effective presentation from the psychological viewpoint.

テキスト:

To be announced by the instructor.

参考書:

To be announced by the instructor.

外国語演習 S (ドイツ語)(春学期)

ドイツ語を話し, 読み, 聞き, 書く。

教授 フォーグル, ヴァルター

授業科目の内容:

すでに 2~3 年ドイツ語を履修した学生を対象にした本授業は, そこで習得したドイツ語の基礎能力をさらに発展, 充実することを目指しています。ドイツ語圏で出版されている目下最も新しい教科書のひとつを用いて, 学生は毎回システムチックにドイツ語を「話し, 読み, 聞き, 書く」能力を鍛えられるしくみです。

テキスト:

Schritte International 3 著者: Silke Hilpert, Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Franz Specht, Monika Reimann, Andreas Tomaszewski, Marion Kerner, Dr. Dörte Weers

ISBN3-19-001853-7 出版社: Max Hueber Verlag

参考書:

なし

外国語演習 S (ドイツ語)(秋学期)

ドイツ語を話し, 読み, 聞き, 書く。

教授 フォーグル, ヴァルター

授業科目の内容:

すでに 2~3 年ドイツ語を履修した学生を対象にした本授業は, そこで習得したドイツ語の基礎能力をさらに発展, 充実することを目指しています。ドイツ語圏で出版されている目下最も新しい教科書のひとつを用いて, 学生は毎回システムチックにドイツ語を「話し, 読み, 聞き, 書く」能力を鍛えられるしくみです。

テキスト:

Schritte International 3 著者: Silke Hilpert, Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Franz Specht, Monika Reimann, Andreas Tomaszewski, Marion Kerner, Dr. Dörte Weers

ISBN3-19-001853-7 出版社: Max Hueber Verlag

参考書:

なし

【専門外国書研究 / 語専門書研究】

【05】専門外国書研究(独書)(通年)

【99】ドイツ語専門書研究(通年) 教授 前田 淳

授業科目の内容:

アメリカの政策決定に大きな影響力を与えた「ネオコン」について扱うテキスト、『Neokonservatismus, Think Tanks und New Imperialism』を読んでいく。「ネオコン」の思想とその影響力拡大のための方法を理解して欲しい。

テキスト:

テキストの目次は以下のとおりです。

1. Neokonservatismus in den USA
 2. Think Tank - Annäherung an einen Begriff
 3. Wissenproduktion und herrschende Klasse in den USA: Theorien zur Analyse des Think Tank - Phänomens
 4. Neokonservative Think Tanks in den USA
 5. Agenda - Setting durch Think Tanks: zum Verhältnis neo konservativer Wissensproduktion und Richtlinien
 6. Neokonservative Hegemonie und New Imperialism
- このうち 2. Think Tank から読み進めていきます。

参考書:

授業の中で随時紹介する。

【05】専門外国書研究(仏書)(通年)

【99】フランス語専門書研究(通年) 講師 大井 正博

授業科目の内容:

フランス語の基礎を学んだ人に対して、経済記事や専門書を読むために必要な手引きをするのがこの講座の目的である。テキストとしては下記のものを使用し、日本人にはあまりなじみのないフランス経済の諸問題に対する知識を学ぶとともに、慣用的なフランス語の経済用語のマスターに努める。

テキスト:

J. et G. Grémond, "L'économie française face aux défis mondiaux", Hatier

【関連課題研究】

関連課題研究 D (英語)(通年)

SEMINAR IN GLOBAL BUSINESS STRATEGY & ENTREPRENEURSHIP 教授 トビン, ロバート I.

授業科目の内容:

This course examines current issues related to global business strategy and entrepreneurship including positioning, assessment of corporate strengths and weaknesses, identification of opportunities and risks technological innovation, localization, marketing, joint ventures, and global leadership styles. The first half of the course focuses primarily on strategy. The second half of the course focuses primarily on entrepreneurship and students will prepare a business plan for starting a business of their own.

The course will be conducted as a seminar with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

This course is conducted entirely in English and enrollment is limited to 15 students. See the website, www.tobinkeio.com for additional information.

テキスト:

Texts and materials will be assigned in class and listed on the instructor's homepage.

関連課題研究 D (英語)(通年)

Seminar Related to Business Issues Global Trends: Implications for Business 教授 ハンリー, マシュー M.

授業科目の内容:

This course will examine the challenges and opportunities presented to business by the mega-trends of the 21st century. Journal articles and excerpts from books by Tom Friedman, Francis Fukuyama, Kenichi Ohmae, Michael Porter, Robert Reich, and George Yeo, among others, will provide an introduction to the trends. Internet presentations by Malcolm Gladwell, Al Gore, and Bill Joy, among others, will round out our overview. What are the implications for business of climate change, the scarcity of natural resources, outsourcing, the IT revolution, changing demographics, the current financial crisis, knowledge-based workforces, and global power shifts? Are we entering a brave new world or have we experienced some of these trends in the past? If so, what does past experience teach us? After study and group discussions, you will be expected to answer

these questions in short reaction papers and in-class presentations. The aim is to study these issues through the medium of English in order to give you the language—and all that it implies—to view them and discuss them in new ways.

テキスト:

Texts will include handouts provided by the instructor, Internet-based materials, library books, and journal articles (see examples above). Students should also be prepared to locate and/or buy books related to their chosen area of research.

参考書:

Students will need a good college-level English dictionary in either print or electronic format. In addition, Internet access through a Keio ITC account and a working e-mail address (not an account associated with a cell phone) are absolutely essential.

関連課題研究 D (英語)(通年)

Culture's Influence on Business 准教授 吉田 友子

授業科目の内容:

多くの企業が海外進出をするに伴い様々な問題に直面する。この授業では文化がどのようにビジネスに影響していくかを様々な角度からみていきたい。授業ではシミュレーションに参加したり、ディスカッションをしたりする、学生主体型の授業です。授業はすべて英語で行われ、学生の積極的な参加を求めています。

テキスト:

プリントを授業で配ります。

参考書:

適宜指摘します。

関連課題研究 D (フランス語)(通年)

フランスと日本 専任講師 原 大地

授業科目の内容:

フランスと日本の比較を行います。比較、というのは議論の最も基本的な型ではありますが、たとえば日本とフランスというように、歴史・文化的背景から社会制度まで、何もかもが異なるものを比べる場合、どのような土俵を作るのが妥当かつ有効なのか、一筋縄ではいかない困難を孕んでいます。この授業では、比較の際の参照点の絞り方、調査・提示の方法を学び、同時にフランスと日本の文化・社会への理解を深めることを目的とします。

テキスト:

とくにありません。

参考書:

授業中に適宜指定します。

関連課題研究 D (中国語)(通年)

准教授 孟 若燕

授業科目の内容:

この授業は皆さんの中国経済リサーチの第一歩とします。中国経済を全般的に理解するうえで、履修者各自の研究テーマを絞り、発表・討論し、最終的に論文にまとめていきます。

テキスト:

履修者の興味やニーズに応じて最初の授業時に指示します。

参考書:

随時指示します。

関連課題研究 D (スペイン語)(通年)

准教授 安井 伸

授業科目の内容:

この授業は、スペイン、ラテンアメリカ、カリブ地域などのスペイン語圏に関する理解を深め、専門的な地域研究の知識と技能を身につけることを目的とする、セミナー形式の授業である。日吉でスペイン語を履修しスペイン語圏への関心を深めた学生や、日吉の総合教育セミナーでこの地域について学んだ学生の参加を歓迎する。

「地域研究」とは、学問分野の枠にとらわれず、その地域に見られる現象や特徴を理解する、あるいはその地域の問題に対処するために、必要と思われるさまざまな方法を駆使して行う「地域」密着型の研究といえる。履修者は一年間を通じて、スペイン語圏に関する何らかのテーマを定め、それに迫るための方法を考えながら、情報を集め、関連分野の知識を広げ、最終的にアカデミックな論文技法に則った小論文(400字×30枚以上)の作成を行う。

同じスペイン語圏とはいえ、スペイン、ラテンアメリカ、カリブ地域、それぞれの歴史や現状は大きく異なる。また、上記のような地域研究の学際的性格に鑑み、履修者は、経済、社会、政治、文化、歴史、民族、大衆芸能からスポーツまでと多岐にわたる分野から、一年間をかけて研究するに値するテーマを選ぶことができる。たとえば、ゼミや専攻科目と合わせて、将来の自分のキャリアにとって有意義と思われるテーマを選ぶこともできよう。総合教育セミナーで扱ったテーマをさらに掘り下げることでもできよう。いずれの場合にも、要求される専門性に見合った

文献を集めたり、自ら調査を行うという自発的な努力が求められる。テーマによっては日本語文献が乏しいことが考えられるため、必要に応じてスペイン語や英語などの文献にも挑戦してもらいたい。担当教員は、履修生が、自らの希望と能力に応じたテーマ設定をし、適切な資料収集ができるよう助言し、専門的な論文作法の習得ができるよう指導する。

なおこの科目は、「強化プログラム（スペイン語）」の単位認定科目のひとつである。「強化プログラム」を通じてスキルアップを目指す学生諸君には是非履修してもらいたい。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に指示する。

関連課題研究 S (ドイツ語)(春学期)

やさしく書かれたドイツ語でドイツの最新ニュースを！

教授 フォーグル、ヴァルター

授業科目の内容：

毎年好評のやさしく学べる時事ドイツ語の最新版です。2008年にドイツで起きた出来事をアクチュアルに紹介しています。興味を引く日本語解説文、わかりやすいドイツ語による本文、充実した訳注、内容・文法を同時に再確認できるバランスのとれた Übungen から成っています。やさしいドイツ語で書き直された本文は、スポーツ、文化、経済、社会、国内政治の分野からさまざまな時事テーマで構成されています。

テキスト：

石井寿子, Andrea Raab: 時事ドイツ語 '08 年トピックス(朝日出版社, 定価 1900 円) ISBN978-4-255-25324-4

関連課題研究 S (ドイツ語)(秋学期)

教授 フォーグル、ヴァルター

授業科目の内容：

前著『こんにちは！ドイツです』の姉妹篇で、全 15 課でドイツ人の生活習慣を誕生から晩年まで紹介します。ドイツ人にはあたりまえで普段気にもとめないことでも、日本人にはめづらしい情報を、平易なドイツ語で満載しました。理解の助けとなるような、文法に関する注もついています。著者提供の写真はいずれも興味深いものばかりです。

テキスト：

Andrea Raab, 石井寿子: Deutschland im Laufe des Lebens 朝日出版社, 定価 1995 円 ISBN978-4-255-25233-9

関連課題研究 S (数学)(秋学期)

厚生経済学の数学的基礎

教授 白旗 優

授業科目の内容：

日吉での微積分、および中級微積分程度の知識だけを前提にして、ミクロ経済学の基礎的部分での数学的内容を、セミナー形式で丁寧に辿っていくことを目的とします。主に必要になるのは、ラグランジュの未定乗数法で、もう少し進んだ話は授業内で学んでいきます。さしあたり、パレート最適性に関する厚生経済学の第一基本定理に到達することが目標です。また、数学的内容のみならず、それを適用する際に想定されている経済学的前提についての議論も歓迎します。

テキスト：

参考書の該当箇所をコピーし、数学的な補足説明を加えながら、内容を丁寧に敷衍する形で授業を進めていきます。そのため、テキストにあたるものは指定しません。

参考書：

・塩澤修平・石橋孝次・玉田康成(編著)「現代ミクロ経済学」有斐閣、2006年。

・A. Mas-Colell, M. D. Whinston and J.R. Green, "Microeconomic Theory," Oxford University Press, 1995.

【研究会】

研究会(通年)

准教授 安藤 光代

授業科目の内容：

本研究会では、国際経済学のうち実物面を扱う国際貿易論(直接投資を含む)を中心に、発展途上経済を分析する開発経済学とあわせて、経済理論、実証・政策研究の両面から学んでいく。国際経済のグローバル化が急速に進展する中、現実経済の分析に役立つ理論はどれか、あるいは逆に理論に立脚した実証・政策分析はいかに行えばよいのかについて議論し、現代の国際経済が抱える諸問題について経済学視点から理解を深めていきたい。

テキスト：

一回目の授業で指定する。

研究会(通年)

教授 井手 秀樹

授業科目の内容：

産業組織論に関する基本的文献の輪読と最近のトピックについて、産業組織論の観点から分析する能力を養う。

研究会(通年)

准教授 伊藤 規子

授業科目の内容：

本研究会は、形式上は「交通・公益事業論・規制の経済学」をタイトルに掲げています。インフラストラクチャー(社会資本)・交通・公益事業といった産業分野に対する介入や規制が社会にどんな影響を及ぼすか、また実際にどういう成果を与えてきたか、といったテーマを追求することが中心になっています。

ただ、そういった方面においてリサーチを深めれば深めるほど、日本における政府の役割・政策の方向がいかに特殊であるのかが浮かびあがってくるのも事実です。そして、公的介入の程度・方法を研究しようとする場合に、同時に日本経済・社会の特殊性も見えてきます。契約社会である西欧で元々発展してきた経済理論を、そのまま現実の日本の経済活動に適用して考えるのは少々難しいのですが、日本がどう特殊なのかという点をあえて考えることで、表面的な学習だけでなく幅広く批判的に考える力をつけていくメンバーが最近多くなっています。ですから、本研究会では交通や公益事業というような狭い分野だけではなく、日本における市場の働き方全般について考察することも一つの目的です。

研究に必要な分析方法を学ぶための導入として、まず春学期に3年生には経済学的なものの考え方、ミクロ経済学、産業組織論に取り組んでもらうこととなります。そして、秋学期に三田祭で発表するプロジェクトを進めながら、プロジェクト・テーマにそくした形で、他にも何らかの応用的な分野 例えば公共経済学、財政学、公共選択論などの考え方にもなじむこととなります。

もう一つ、ゼミのメンバーに「独立心」を持ってもらうことも本研究会の目的です。自ら疑問を投げかけ、何が問題なのか、なぜ問題なのか、どのように問題なのかを徹底して考え抜き、独自のものの考え方ができることをめざしています。大上段に振りかぶって言うなら、自分で自分を教育するという意味での「独立自尊」の精神をメンバーに持ってもらうことが本研究会の理想とも言えます。

知識・考え方がネットワークとしての広がりをみせてこそ「研究会」の役割があると考えられるので、担当教員は強制的に何かを「教え込む」ことは基本的には行いません。また、何かを誰かから与えられてくるまで待ていようなスタンスも期待していません。「自分のプロジェクト」、「自分の卒論」という意識で責任を持って、各メンバーにリサーチをしてもらいます。

研究会(3年)(通年)

金融商品会計論

教授 伊藤 眞

授業科目の内容：

この研究会の研究対象は、金融商品に関する会計である。金融商品とは何か。金融資産/負債に係る発生認識、消滅認識、評価、そしてヘッジ会計の会計処理方法の検討(日本基準を主軸として、必要に応じて、米国基準も探る)を通じて、分析と総合、論理的思考方法、発表方法、討論方法を学ぶ。

金融商品会計の原点である、金融商品に関する会計基準、金融商品会計に関する実務指針、および金融商品会計に関する Q & A 等の輪読を行い、設例を解く。毎回担当者がレジュメを作成し、解説し、質疑応答・討論する。なお、卒論については、各自が自由なテーマを選定し、執筆する。

テキスト：

金融商品に関する文献(金融商品に関する会計基準、金融商品会計に関する実務指針、金融商品会計に関する Q & A 等々の原典)

参考書：

「金融商品の完全解説 - 7 訂版」伊藤・萩原編著、財経詳報社、2008

研究会(4年)(通年)

金融商品会計論その2

教授 伊藤 眞

授業科目の内容：

卒論(テーマは各自が自由に選定)については、最初に研究テーマ・方針を報告し、研究途中で 2~3 回程度および最終段階で、その内容を報告する。

卒論テーマの報告以外のときは、複合金融商品・組込デリバティブの会計処理を通じて、分析と総合、論理的思考方法、発表方法、討論方法を学ぶ。

毎回担当者がレジュメを作成し、解説し、質疑応答・討論を行う。会計関連のトピックスについて解説し、質疑応答を行う。

テキスト：

金融商品に関する文献(金融商品に関する会計基準、金融商品会計に関する実務指針、金融商品会計に関する Q & A 等々 監査小六法(平成 21 年版)に掲載の原典)

参考書：
「金融商品の完全解説 - 7訂版」伊藤・萩原編著，財經詳報社，2008

研究会（通年）
企業の成長・衰退と戦略的マネジメント
教授 今口 忠政

授業科目の内容：

研究会は、経営問題に対して理論的考察ができる能力、創造的に対処できる能力、わかりやすくプレゼンテーション（発表）する能力を育成することが目的である。そのため、1) 戦略的なマネジメントに関する文献の輪読、2) 現実の企業動向をもとに分析する学習、3) 研究課題を解決するグループ実習と発表、4) 各自の研究課題に対する研究発表などを取り入れて進める。

具体的には、文献を輪読し発表しながら理論的な概念を学習することから始め、発表、質問、コーディネートの役割を体験できるようにする。夏休みの合宿（2泊3日を予定）では、研究課題に関する発表を中心とし、普段の研究会では時間的に実施が難しい問題解決の実習やケース研究を行う。秋学期は、研究課題に関するさらに高度な文献を輪読し、グループごとに課題の設定、資料の収集・分析、発表を中心とした研究会を行い、三田祭論文を作成する。他研究会、他大学ゼミとのインゼミも実施する。最終的に、1年間の内容をレポートにまとめて提出する。

テキスト：

上記タイトルに関連する書物を選んで輪読し、適宜、関連する論文や資料等を配布します。

参考書：

随時、研究会の場で紹介します。

研究会（通年）
教授 牛島 利明

授業科目の内容：

この研究会では、明治期から現代にいたる日本の産業・経営の「歴史」を研究分野とします。しかし、産業史・経営史研究は決して過去のみで完結するものではありません。その重要な課題のひとつは「いま現在」私達が抱える問題の歴史的な背景を読み解くことによって新たな展望を獲得する、ということにあります。ある問題がどのような社会的・経済的要因の相互作用の中で形成されたのか、さらに今なぜ変化しつつあるのか（またはなぜ変化しないのか）、その理由を歴史的な文脈の中で解き明かすことが研究上の重要な視角の一つなのです。

問題意識なしに歴史を見ても、それは無味乾燥な出来事の羅列にすぎません。今日的な問題を考える上で、できあいの説明、根拠のない通説を疑い、長期的な視野を持って考えることができるかどうか、ということが大切です。ゼミで扱うテーマは産業・経営の歴史にかかわるものであれば特に限定しません。共同研究や個々人の卒論作成を通じ、鋭い問題意識、的確な情報収集と分析をもとに議論を進める能力を培う。これをゼミの最終目的にしたいと考えています。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

必要に応じてその都度指示する。

研究会（通年）
准教授 梅津 光弘

授業科目の内容：

本研究会は企業倫理 (Business Ethics) および企業と社会 (Business and Society)、経営社会政策 (Corporate Social Policy) などの分野を研究する集まりであり、以下にあげる諸点をその研究目的とします。

- 1) 企業経営を経営学のみならず哲学・倫理的な視点からもとらえ、それらを理論、実践、制度の側面から分析、調査して課題事項の理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。
- 2) 企業経営を事業体を取りまく様々なステイクホルダーとの関係からとらえ、そこにあらわれる経済的、法的、倫理的、社会貢献的などの企業社会責任の理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。
- 3) 今後発展の予想される NGO、NPO などの非営利組織の在り方を考察し、そうした組織と企業との連携の可能性、企業の先導、経営者のリーダーシップのあり方などの理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。

3年生は企業倫理学、企業社会責任論に関する主要文献をテキストに使い、発表とケース討論を中心に進める予定です。

4年生は卒論中間発表を中心に進める予定です。

参加者はこうした分野に関心を持ち、2年間真剣に研究してみようという意志のあること、専門の論文が読める程度の英文の読解能力のあること、春学期に開講している「現代企業経営各論（企業倫理）」を同時履修することなどです。

テキスト：

Michael Blowfield, Alan Murray. Corporate Responsibility: A Critical Introduction (Oxford, 2008)

研究会（通年）
国際経済学
教授 遠藤 正寛

授業科目の内容：

この研究会では、様々な国際経済問題について、主に経済学の視点から分析することを目的とします。対象とする国際経済問題は問いません。卒業論文として、各自が習得した経済学の分析道具を用いて、課題に対して理論的にアプローチし、独自の結論を導き出すことを目指します。

テキスト：

Paul. R. Krugman and Maurice Obstfeld, "International Economics: Theory and Policy, 8th Edition." Addison Wesley, 2008

研究会（通年）
教授 岡本 大輔

授業科目の内容：

本研究会は日本企業の経営方法、行動、成果の評価分析を目的としている。これは通常言われる経営学研究に他ならない。ただしその方法として実証研究に重点を置き、各要因と成果との関係を計量的に評価する、という特色を持っている。

従来日本の経営学はアメリカの経営管理論、ドイツの経営経済学などを中心に発展してきた。しかし絶えざる日本経済の成長、発展の結果、いまや日本の経営は、良い意味でも悪い意味でも、世界の注目を浴びるようになった。そこで、日本の経営を対象とした日本独自の経営学を研究する必要が生じてきた。そのためには従来の文献研究に加えて、実際の日本の経営、企業行動を把握するための実証研究が不可欠なのである。

そこで本研究会では各種経営学の文献に触れ、経営学の基礎を学び、また実証研究の武器となる統計的手法を修得する、といった目的を持って活動を行なう。さらにこれらをもとに4年生修了時には全員が卒業論文を書けるよう、指導する。

研究会（通年）
准教授 小野 晃典

授業科目の内容：

当ゼミで学ぶことは、以下に列挙されるとおりである。

マーケティング論

マーケティング論は、売手の対市場活動であるマーケティング活動、買手の消費者行動、および、両者の相互作用によって生ずる社会現象を研究対象とする学科領域と見なすことができる。具体的には例えば「なぜ消費者はこのブランドを選択したのか」、「なぜこの広告は効果的に売上に貢献しているのか」といった種々の課題に解答を与えるような理論の構築を目指す研究分野である。

広告論 + 消費者行動論

マーケティング論は広範な研究対象を持っているが、当ゼミ担当教員は広告論と消費者行動論を中心に研究している。製品情報に関わるコミュニケーション（売手の広告・プロモーション、買手の情報検索や口コミ活動）が関心対象である、ただし、多種の戦略を総合的に立案することを尊重するマーケティングにおいて、この主題のみがゼミ生に強調されることはない。

理論研究 + 実証研究

研究対象と並んで重要なのが、研究方法である。論理的な筋道を立てて思考するために、当ゼミでは「論証」が重視される。他方、現状を把握したり理論と現実の対応をチェックしたりするために、「実証」も重視される。

当ゼミでは、既存の理論や実例を知識として蓄積することを最終目標とはしない。古い理論の難点を指摘して新しい理論を創造すること、あるいは、実例のなかの諸要素を解析して次に起こる現象を説明・予測することが重視される。

自主性 + 社会性

当ゼミでは、ゼミ生の自主性が尊重される。高度な研究意欲と研究成果が維持されるかぎり、ゼミ生は教員から研究のテーマや内容を強制されることはない。普段のゼミ活動はゼミ生によって主導され、教員はそのコーディネーターないしコメントータの役割を演じることになる。

他方、当ゼミでの共同生活は、ゼミ生の社会性を養う。自分のアイデアを皆の前でプレゼンすることや、個性を發揮しつつも仲間と強調しあうことを学ぶ。その他、ゼミの組織運営や活動企画も社会性の向上に貢献すると見込まれる。

研究会（通年）
金融論・ファイナンス
教授 金子 隆

授業科目の内容：

金融に関する様々な事象を、経済学的な視点から理論的かつ実証的に分析する。新聞などで目にする金融的なトピックスについて、ただ表面的な知識を得るだけでなく、問題を発見し、背後にある本質を理解し、通説や政策の妥当性を検討する。そうした作業を通して、物事の是非を先入観抜きで客観的に判断し、自分の考えを論理的に述べる力を養ってもらう。これがゼミで私がかもっとも心掛けている点である。

テキスト：

今年度は3年生向けに企業金融論に関する以下のテキストを輪読する予定。

リチャード・フリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン著『コーポレートファイナンス(第8版)上・下』日経BP社、2007年

研究会(通年) 准教授 神戸和雄

授業科目の内容：

当研究会は経営学の領域一般を研究対象としているが、特に企業における情報の取り扱いに注目して研究を行う方向を企図している。

近年、インターネットの急速な普及に伴い、情報ネットワークに関する関心が高まりつつあるが、現実の企業における情報システムの導入は必ずしも円滑に行われているとは言い難い側面がある。情報システムの大規模投資に見合うだけの効果が得られるかどうかは個別企業の特性にどれだけ合致した情報システムを構築、運用できるかにかかっている。情報技術の進歩は目覚ましいものがあり、的確な方向性を見出すためにはある程度、技術的な側面を理解することも必要になってくるものと考えている。

着実な分析を行うために、まず経営学の基礎的な知識の確認を行うことが必要となる。3年生の前半は経営学の基礎的な知識を確認するための基本文献を輪読する。それと併せて、企業経営の評価を行うために財務データによる分析を3名程度の小人数グループにより行う。基本文献の輪読は主として授業時間中に、財務データに基づく企業分析は各グループが個々に進めてゆくこととなる。

研究会(通年) 教授 菊澤研宗

授業科目の内容：

「組織の経済学」あるいは「新制度派経済学」と呼ばれている取引コスト理論、エージェンシー理論、所有権理論や「行動経済学」あるいは「経済心理学」と呼ばれている限定合理性アプローチを徹底的に理解し、それを経営組織、経営戦略、コーポレート・ガバナンス問題に応用し、最終的に卒業論文を書き上げることを目的とする。

テキスト：

- ・菊澤研宗著『組織の経済学入門』有斐閣 2006年
- ・菊澤研宗編著『業界分析 組織の経済学』中央経済社 2006年
- ・菊澤研宗著『比較コーポレート・ガバナンス論』有斐閣 2004年
- ・菊澤研宗著『戦略学 立体的戦略の原理』ダイヤモンド社 2008年

研究会(通年) 准教授 吉川肇子

授業科目の内容：

この研究会では、人間の社会的な行動を、実証的な手法を用いて分析することを目的としています。

3年生では、(1)調査や実験をもとにした論文を批判的に読む訓練をします。(2)調査や実験の手法を身につけます。(3)英語の論文をもとに、卒業論文の計画を立てます。

4年生では、データをもとにした卒業論文の作成を行います。

テキスト：

- ・浜田麻里(著)大学生と留学生のための論文ワークブック くろしお出版
- ・吉田寿夫(著)本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
- ・他3冊(開講時に指示します。)

研究会(通年) 准教授 木戸一夫

授業科目の内容：

この研究会では、システム・組織・制度に共通する相互作用、特に補完性、を数理的に研究します。

Machiavelli や孫子などの古典の教え、システムの法則から、企業組織における仕組み、世の中の仕組みまで、広く研究対象とします。頻りに観察される法則や仕組みには、必ず、理論的妥当性があるはずです。

ゲーム理論と、スーパーモジールの理論(補完性を定式化するための新しい理論)を武器に、モデル化という形で、理論的根拠を追求していきます。これに行動経済学の知見をスパイスとして加味すると、世の中が見えてきます。

「可能性の追求をモットーとして、なぜそうなっているのか? どうしたら現状を変えられるのか?あるいは逆に、どうしたら現状を維持できるのか?とことん追求します。

3年次は理論的文献の輪読が中心、4年次は個別研究が中心になります。

研究会(通年) 教授 工藤教和

授業科目の内容：

個別産業史、比較産業史、経済史、経営史などの分野から各自卒業論文の課題を設定し、完成に向けて努力することを基本とする。その上で、研究会構成員が討論を通じてそれを援助する。分析に必要な基本的な知識・手法などについては研究会のとくに初期に集中して身に付けることになる。また、現実社会に対する問題意識(それは歴史研究の出発点でもある)を磨くために現代の社会経済についてのディベート、産業別動向調査、時事問題討論を行なう。

テキスト：

輪読文献の指定は随時行なう。

参考書：

- ・武田晴人(編)『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会 1995年
- ・湯沢威(編)『イギリス経済史 盛衰のプロセス』有斐閣 1996年
- ・中川敬一郎『比較経営史序説』東京大学出版会 1981年
- ・ジェフリー・オーウェン(著)和田一夫(監訳)『帝国からヨーロッパへ 戦後イギリス産業の没落と再生』名古屋大学出版会 2004年
- ・大河内映男(著)『経営史講義 第2版』東京大学出版会 2001年

研究会(通年) 教授 黒川行治

授業科目の内容：

私の見るところ、会計とは、企業の経済的活動及びその結末を測定・伝達する人間の行為であり、また測定・伝達された情報を解釈・利用する人間の行為である。かかる見地に立つと、人間の行為を研究対象とする他の学問の方法論が会計を研究対象とする会計学においても用いられるのではないかと考えられる。学際的研究という言葉がいわけてから久しいが、事実、会計学は今や、行動科学、意思決定論、情報理論、財務論、社会学、政治学といった隣接諸科学の影響を受けて、非常に多様な学説あるいはアプローチが乱立する時代を迎えている。

かかる会計学の現状の中で、私自身の目標は、学際的アプローチによって会計行為を再解釈すること 時には理論モデルを使った演繹、また時には統計手法を使った実証 であった。何故ならば、かかるアプローチにもとづく解釈結果が既存の解釈を補強し、あるいは凌駕するような新発見となるかもしれないからである。

私がこれまで行ってきた研究は、キャッシュフロー計算書の有用性の検証と財務流動性の新指標の開発、企業の会計代替業選択行為および会計手続変更に関する実証的研究、意思決定論を用いたエージェンシーセオリーの探究、会計学の分野におけるプロセスセオリーの適用等の心理学的研究、株式評価と合併比率の決定に関する実証的研究、M & Aと連結・合併会計との関連、オフバランス取引と会計認識・測定、会計・監査の変容と市場の論理に関する研究等である。

もちろん、これらは私の個人的研究テーマであって、ゼミ生諸君の卒業論文のテーマとして固執するものではない。

テキスト：

3年生、4年生：

パレブ・バーナード・ヒーリー著 斉藤静樹監訳『企業分析入門』(第2版)東京大学出版会、2001年。

研究会(通年) 教授 権丈善一

授業科目の内容：

<http://kenjoh.com/> を参照してもらいたい。

研究会(通年) 准教授 斎藤通貴

授業科目の内容：

私の研究領域は、マーケティング戦略と消費者行動論である。P.ドラッカーは、マーケティングの目的は「セリング(販売・売込み)を不必要にすること」と述べている。これは、消費者(市場)のニーズをよく理解し、そのニーズに対して適切な製品をデザインし、広告や他のコミュニケーション手段によって、買手に製品のコンセプトやアイデアが良く理解され、適切な価格、場所で売られれば、売込みをしなくても消費者の満足をもたらして売れる、ということを表している。この売れの仕組み作りこそがマーケティング戦略だと言ってもいいだろう。このドラッカーの考え方の焦点となっているのは消費者であり、消費者の理解なくしては効果的なマーケティングの展開は不可能である。

では、消費者行動研究の対象とはどのようなものなのだろう。第一に、標的市場の選定に必要な研究が挙げられる。経済的な豊かさや物質的な充足は、モノの所有ではなく、製品やサービスの生活における意味やコンセプトを消費する成熟した市場を産んだ。つまり、モノを持つことによる満足から、生活を豊かにし、自己実現を達成する小道具、大道具として製品やサービスが買われるようになったのである。その結果、企業は特定のニーズやライフスタイルを共有する部分市場に狙いを定め、製品開発を行い、その他のマーケティング手段を用いて消費者の満足を得ようと努力する。こうした目標となる市場(標的市場)を決定するため

には、経済的要因、人口統計学要因、生活研究やライフスタイルからの分析を組み合わせて行うことが必要となる。

第二に、どのように消費者は購入ブランドを決めるか、といった選択行動の研究が挙げられる。消費者は、自らの経験や知識、知人や友人の話、広告や雑誌などの情報をもとに購入ブランドを決めていく。こうした情報の処理プロセスの理解は、有効なマーケティング戦略意思決定において非常に重要なテーマである。

この他にも、どんなタイプの人がおピニオンリーダーとなるか、文化や人種の違いが購買行動にどんな影響を与えるか、近未来の消費トレンドはどうなるか、などなど多様な研究がある。

いずれも、マーケティング戦略を考えていくうえで不可欠であり、消費者行動を理解との有効な戦略を策定するには、心理学、社会心理学、社会学、文化人類学をはじめ多くの学問分野の成果を援用したインターディシプリナリー（学際的）な視点が必要である。

以上、簡単に消費者行動研究について触れてきたが、こうした研究を中心に据え、ゼミ員の関心に基づいてマーケティング、流通についても広く考えていきたい。

研究会（通年） 教授 榊原 研 互

授業科目の内容：

当研究会は、経営学の学説的分析を主たる目的とする。経営学説史というと、過去の経営学説や理論を年代順に整理して紹介するだけの学問と思われがちだが、むしろ歴史を学ぶ本当の意味は、過去を通して現在を知ることにある。つまり経営学説史の意義とは、経営学の発展のために先人達が払ってきた多くの努力の成果を理解し、それらを正確に位置づけることでこの学問の現状を知り、またそれによって将来の発展のための手掛りを得ることにある。

経営学は学問としてすでに1世紀の歴史をもち、今日では社会科学の1学科として確固たる市民権を獲得している。しかし近年における対象領域の拡大や研究分野の細分化は、隣接諸科学との境界をますます不明確にし、今や経営学は「セオリー・ジャングル」と形容されるほど錯綜した様相を呈している。それだけに、目下の経営学にさらに実り豊かな発展を望もうとすれば、既存の諸理論、諸学説の体系的な整理が何よりも急務な課題となる。とりわけ新しい理論が次々と唱えられる今日、学説史の理解なしにそれらの真価を見極めることは不可能であろう。

もっともその場合、観点の選択次第で多様な学説史が描けることを知ることが重要である。したがって学説史の研究にあつては、「科学の進歩とは何か」「理論の真の理解とは何か」といった根本的な問題を避けて通ることはできない。それには単に経営学の知識のみならず、方法論や哲学などの幅広い知識が必要とされるのである。

本研究会ではこのような問題意識に基づき、まず学説分析に必要な基礎知識の習得を目指す。とくに方法論の習得は決して容易なものではなく、多くの努力と忍耐を要するが、研究会ではこうした思考のトレーニングを通して、幅広いものの見方、考え方を養成してゆくつもりである。

研究会（通年）
連結財務諸表会計の比較研究
商学研究科 教授（大正製薬チェアシップ基金） 坂 本 道 美

授業科目の内容：

最近の連結範囲をめぐる様々な会計問題を踏まえ、当研究会は連結財務諸表に係る幅広い会計処理を日米及び国際会計基準を参考に比較研究することを目指す。連結会計は、連結財務諸表の目的、連結範囲、企業結合、のれんの処理とその後の測定、未実現利益の消去等の諸問題をかかえている。日本の会計基準と国際会計基準のコンパジェンス、米国FASBと国際会計基準審議会（IASB）との連結に係る審議の動向を調査研究することによって、日本の会計基準における課題の分析とその解決方法を討論する。

具体的な研究テーマの主要内容は以下の通り。

- ・連結の範囲、SPC、投資事業組合の連結範囲
- ・資本連結手続、少数株主持分
- ・外国子会社財務諸表の換算
- ・親子会社間の会計処理統一
- ・企業結合
- ・のれんの会計処理
- ・減損会計、無形資産
- ・税効果会計
- ・関連会社に対する投資

3年生は、連結財務諸表原則、企業結合等に係る基準の原典（日本語又は英文）の論読を行い、設例を解く。毎回担当者がレジュメを作り、解説し、質疑応答・討論する。

4年生は、卒論の中間発表を中心に進める。

テキスト：

日本の連結会計原則及びその実務指針、企業結合に係る会計基準及びそれに係る適用指針等の原典を含む監査小六法（平成21年度版）を入手のこと

- ・IFRS 3 “Business Combinations”, IAS 27 “Consolidated and Separate Financial Statements”

- ・FAS 141R “Business Combinations” FAS 142 “Goodwill and Other Intangible Assets” FAS 160 “Noncontrolling Interests in Consolidated Statements”
- ・“International Financial Reporting Standards 2008”（2009版は2009年3月又は4月発行予定）
- ・『国際財務報告基準書2007』IASB、企業会計基準委員会訳、発行元：雄松堂出版
監査小六法以外の必要な資料は配布する。

参考書：

- ・『連結会計ハンドブック第3版』監査法人トーマツ編、中央経済社
- ・『国際財務報告基準ハンドブック第2版』みずび監査法人、中央経済社、2006

研究会（通年） 教授 桜 本 光

授業科目の内容：

当研究会の研究領域は、計量経済学であるが特に、国際産業連関表を用いた世界経済と日本との相互依存関係を分析する産業連関分析を専攻する。本ゼミでは、専攻分野の研究は勿論、より広く現代の経済現象を実証科学的立場で正確に理解し、自ら判断し行動できるような一般的知性をも養成する。サブゼミでは、計量分析の基礎知識を確保するのに必要な書物、論文等を適時輪読する。過去の卒業論文は、原則として統計資料を使った計量分析を伴う研究が多いが、テーマおよび分析手法は各自自由である。

テキスト：

必要に応じて、授業中に指示する。

研究会（通年） 教授 佐 藤 和

授業科目の内容：

本研究会は、現代企業経営についての実証研究の方法を学び、卒業時までに全員が各自の研究を卒業論文としてまとめることを目標としている。

実証研究とは、理論だけを単独で研究したり、逆にただ単に事例（ケース）を集めたりするだけではなく、両者を組み合わせることによって、企業経営を理論から導かれた仮説を通して考え、データや事例によって検証してゆく方法論である。

そして計量経営学（Manage-metrics）の研究会として、少なくとも「数字」には強くなってもらいたい。まず企業に関するデータの収集・分析の方法を体系的に学び、さらにその実習を通じて統計的な分析の「結果」を吟味できる能力を身につけてもらいたい。そこでは必ずしも数学的な「知識」は要求されないが、統計的な「センス」を磨いてほしいのである。

そして各人の問題意識に合わせて、3年でのグループ研究及び4年での卒論の研究テーマは、広く経営学全般から自由に選んで取り組んでほしい。

研究会は一般の授業とは異なり、各メンバーのより能動的な参加が要求される。研究会の活動内容や雰囲気、自分たちで積極的に創り出していこうと考えている学生を希望したい。

研究会（通年） 教授 清 水 聡

授業科目の内容：

本研究会の目標は2つある。一つは消費者の考え方に基づくマーケティング戦略を学ぶことで、世の中の諸現象を論理的に概観する力を身につけること、もう一つは、ゼミの活動を通じて一生付き合える友人を作ることである。この目標を達成するために、本研究会では、1) マーケティングおよび消費者行動研究の専門書を読み知識を習得すること、2) 課題を分析する計量的な分析方法（具体的にはSPSS）の習得をすること、3) グループ学習による討論でチームワークとプレゼンを学ぶこと、の3つを中心に行い、その集大成として4) 三田祭研究報告、および関東12ゼミ討論会での報告をする。これらの活動を通じて、自分たちで興味を持った課題について現状を調べ、問題点を抽出し、その問題点を解決する消費者行動の理論に基づく仮説をつくり、実際のデータを収集し、仮説を検証し、具体的な戦略について考察する、そのような力を身につけてもらう。

テキスト：

- ・清水聡（1999）「新しい消費者行動」 千倉書房
- ・清水聡（2006）「戦略的消費者行動論」 千倉書房

研究会（通年） 准教授 鄭 潤 澈

授業科目の内容：

本研究会は、近年の日本そして全世界の企業経営、産業、経済の様々なホット・トピックの中から興味を引く課題を選んで実態調査と分析を行い、その結果を発表する形式で行われます。「企業、産業の変化・変革」を基本テーマとして、様々な企業、産業の歴史 現状 今後の調査を行い、産業経済学等の理論分析に照らして、現実に役に立つインプレーションを構築することを目標とします。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に必要に応じて紹介します。

授業科目の内容:

この研究会では、自分の頭でものを考えられる人間を育てることを目的にしています。そのときどきの環境のもとで大切なことは何かを判断し、行動できる知性を身につけるといことです。これは意識して磨かないと身につけません。

そのためには、自分の身の回りのことや社会現象にいつもみずみずしい関心をもつことがまず必要です。そのうえで、その自分の関心のあることを、できるだけ論理的に説明するトレーニングをしなくてはなりません。

具体的には、ゼミ員に卒業論文を書いてもらうことによってこのトレーニングを行います。論文のテーマはおよそ世の中に存在するものであれば何を選んでかまいません。またそれを、説明する方法も、論理的であるかぎり特に限定はしません。要は、私や他のゼミ員を納得させられるかどうかということ、そして社会に新たな叢智をもたらすものであるかどうかということです。

3年生は、まず最初に、卒業論文を書くための基礎能力、すなわち問題発見能力、分析能力、表現力を身につけるために、毎回1~2名のレポーターに課題を与えて報告してもらいます。また4年生は卒業論文の中間報告を中心に活動します。いずれも報告者以外のゼミ員は、必ずひとつは質問ないしコメントをする義務を負うということにしています。またゼミ員全員で分担を決めて参加する三田祭の共同研究や、野外の企業見学といったことも行っています。

授業科目の内容:

私の研究分野は管理会計論です。管理会計は、企業を経営するために必要な会計情報を、経営者・管理者・現場の作業員に提供します。管理会計を理解するためには、その前提として広く企業活動全般について理解する必要がありますので、本研究会ではそれらについての学習も補足的に行います。

テキスト:

最初の時間に指定します。

参考書:

最初の時間に指定します。

授業科目の内容:

本研究会では、租税法および税務会計を研究対象とするが、特に国際課税(国際租税法)に焦点を当てて研究することを目的としている。

近年、企業活動のより一層の国際化、企業組織形態の多様化等を背景に、クロスボーダー取引が拡大かつ複雑化してきている。この結果、各国の課税権が衝突し、国際的の二重課税が生じる可能性が高くなっている。企業にとっては、どの国へどのような企業形態で進出するかは重要な経営判断項目となっており、国際税務戦略の必要性が高まっている。一方、国家にとっては、他国の課税権との競争を調整しつつ、課税の空白を防止することにより、自国の課税権を確保しなければならない。

こうした状況下、租税条約、租税法といった国際租税法及び国際課税の実務を理解することを目標とする。

授業では毎回学生によるプレゼンテーションを行い、その後全員で議論する。

テキスト:

藤本哲也「国際租税法」中央経済社

参考書:

- ・高久隆太「知的財産をめぐる国際税務」大蔵財務協会
- ・佐藤正勝「Q & A 移転価格税制 - 制度・事前確認・相互協議 - 」税務経理協会

授業科目の内容:

当研究会は商業学・マーケティング分野に属し、様々なマーケティング現象を理論的・実証的に解明するための基礎知識とその方法を習得することを目標としている。その上で、マーケティング戦略の立案等の応用面にも目を向け、マーケティング的なものの見方を養うことも重視している。

具体的な研究方法としては、学術書および論文の講読に加え、コンピュータによるマーケティング・データの解析、ケース・メソッド、ディベート、合宿研修等を適宜取り入れる。2年間の総合的な学習を通じて、マーケティングに対する専門的知識と企画提案力が身につくように指導して行きたい。

テキスト:

高橋郁夫(2008)『消費者購買行動 小売マーケティングへの写像【三訂版】』千倉書房。

授業科目の内容:

私の研究会では、市場・産業内部での企業間競争の分析を基本とします。各自の研究テーマは、なんらかの形で「市場 (Market)」、「競争」が関連する限り、自由に選択できます。研究会での活動を通じて、専門分野の基礎的知識、問題発見・分析・解決の能力、発表・討論の仕方など様々なことを身につけてもらいたいと思います。

具体的な研究対象としては、多角化、広告、研究開発、海外進出などの企業戦略、製造業にとどまらず、流通分野、公的規制分野等も含む個別産業分析、企業集団・系列などの日本経済・産業の制度分析などが考えられ、その範囲は非常に多岐にわたります。ちなみに、ここ数年の三田祭研究のテーマは「環境問題と中小企業」「ベンチャービジネスの資金調達」「商店街の活性化戦略」「中小企業の戦略的連携」「中小企業の人材活用戦略」「地域活性化と中小企業」「中小企業再生支援と金融機関」「中小製造業の経営革変」などでした。

なお、本研究会での学問的基盤をなす産業組織論は、元来、独占禁止政策・公共政策の理論的なバックグラウンドとして展開されてきました。つまり、産業組織研究の最終的な目的は、企業だけでなく、消費者や政府の立場をも視野に入れ、具体的に公共政策を考察することにあるということです。私自身は、産業組織論の応用として、ベンチャー企業の戦略や中小企業政策の研究を進めています。

なお、研究会に関するより詳しい情報は、下記ホームページにありますので、参照下さい。

<http://www.fbc.keio.ac.jp/~takamiki/>

テキスト:

最初の授業までに入手方法を示します。

参考書:

必要に応じて、授業中に紹介します。

授業科目の内容:

この研究会は公的部門による何らかの介入が必要になる市場や産業、及びその関連領域が中心的な研究テーマとなります。具体的には産業組織論や交通・公益事業分野、地域経済学、都市経済学、観光論など幅広い分野が対象になります。分析ツールは主にミクロ経済学とその応用ですが、簡単な実証分析も合わせて勉強します。

テキスト:

特に指定しません

参考書:

必要に応じて授業中に指示します。

授業科目の内容:

現代企業は、さまざまな制度(組織構造、戦略、文化、ガバナンス・システム、ビジネス・モデルなど)によって構成されたまとまりをもつシステム(制度の複合体)としてとらえることができる。とくに近年、企業は経済のグローバル化やICT(情報・通信技術)の発展による環境変化のなかで、ドラスティックに変化している。本研究会は、比較制度分析、企業制度論、そして戦略経営論の研究成果をふまえたうえで、現実世界で進化を遂げている企業のさまざまな制度的特徴にフォーカスをあてて研究を進めていく。

テキスト:

- ・谷口和弘(2008)『組織の実学:個人と企業の共進化』NTT出版。
- ・谷口和弘(2006)『戦略の実学:際立つ個人・際立つ企業』NTT出版。
- ・J. ロバーツ(谷口和弘訳)(2005)『現代企業の組織デザイン:戦略経営の経済学』NTT出版。

参考書:

- ・谷口和弘(2006)『企業の境界と組織アーキテクチャ:企業制度論序説』NTT出版。
- ・R. ラングロウ・P. ロバートソン(谷口和弘訳)(2004)『企業制度の理論:ケイパビリティ・取引費用・組織境界』NTT出版。
- ・青木昌彦(瀧澤弘和・谷口和弘訳)(2001)『比較制度分析に向けて』NTT出版。
- ・P. ミルグロム・J. ロバーツ(奥野正寛・伊藤秀史・今井晴雄・西村理・八木甫訳)(1997)『組織の経済学』NTT出版。

授業科目の内容:

自由経済体制の中にあっても、我々の日常生活は多くの規制にとりかまれている。たとえば、麻薬の所持・使用、一方的な離婚、希少動物の捕獲、プロ野球球団の自由な選択等は禁止されている。これらの規制

は一見、社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののようにみえるが、人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実を照らせば、これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能である。

この研究会では、社会的問題とされている様々な問題について、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会問題の解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論する。

また、上記の政府規制が特に多く関係している分野が交通と公益事業（電力、ガス、通信等）である。この分野については、上記と同様の公共経済学的なアプローチを行うとともに、交通・公益事業に固有の経済的特徴・問題についても研究する。

したがって、本研究会の論文の過去のテーマ例は、教育自由化、医療保険の民営化、地方分権、農業保護の撤廃、上下水道・電気通信・電力など公益事業の規制緩和、金融規制緩和、外国人労働者問題、政府開発援助、大型店舗規制の廃止、自然保護、ゴミ処理、レンタル CD 問題、刑罰の経済学的考察、芸術保護、性表現、プロ野球、オリンピック、航空、大都市鉄道、新幹線等多岐にわたっている。

研究会（通年） 教授 辻 幸民

授業科目の内容：

当研究会の研究対象は、金融に関するものであれば何でも構わないが、分析のための手法は経済学をバックグラウンドとするものに限定する。当研究会の目的は、金融の現象を経済学の観点から分析する基本的な手法を習得することにあり、そして各自の問題意識に応じて問題を設定し、習得した分析手法を応用することで見出される答を、卒論としてまとめている。

具体的には資本市場や企業金融、デリバティブといった分野で使われる基本的な分析手法を勉強していく。この結果、2年後に卒論を完成させることが出来た者は、「ファイナンス」という分野の基本的な知識と分析手法を身に付けていることになる。そのためには、経済学と統計学および数学が必要不可欠であり、また実証的な問題解決のための道具としてコンピューターの利用も欠かせない。これらは各自の必要に応じて補習していく。

テキスト：

- 今年度のテキストは、
- ・砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』（日経文庫）
- ・辻 幸民『企業金融の経済理論』（創成社）

参考書：

必要に応じて指示する。

研究会（通年） 教授 友岡 賛

授業科目の内容：

本研究会は会計学の研究会であって、その研究対象は、会計にかかわる問題でありさえすれば、とくに限定しないが、いずれの問題についても、基本的な思考に立ち返って考える研究姿勢を肝要視する。そしてまた、思索と議論とによって理論を構築することの甘苦を共にする。

研究会（通年） 教授 中島 隆信

授業科目の内容：

本ゼミの目的は、実証科学としての経済学の分析手法を身につけることである。大学卒業後、社会人となる学生諸君にとって最も必要となるのは、社会が様々な問題に直面したときに正しい判断を下せる能力を身に付けておくことである。そして、正しい判断の拠り所となるのは、事実に対する鋭い観察眼と、それを解析するための経済学の理論である。本ゼミは、学生諸君個々人の問題意識を引き出すとともに、それら問題点を実証分析の手法に則って解明し、研究成果をゼミ員との活発な議論を通じて磨き上げて2年後の卒業論文の形で完成させるという順序で進めていく。

研究会（通年） 教授 永見 尊（春）

監査論 教授 永見 尊（春）
商学研究科 教授 大正製薬チェアシップ基金）坂 本 道 美（秋）

授業科目の内容：

この研究会は、「監査論」を中心とし、監査人の独立性とは何か、証拠とはどのような構造となっているのか、最新のリスクアプローチはどのような要素が取り込まれているのか、近年開始されたゴーイング・コンサーン問題（決算日後1年の間に企業が倒産の危機に直面している状態）はどのように実施されているのか、といったテーマが研究対象となります。しかしそれだけではなく、企業のコントロールという視点から、現実の経済社会で起きているさまざまな動き、事件あるいは問題などを検討していきたいと思っております。

テキスト：

最初の時間に指定します。

研究会（通年） 産業研究所 准教授 野村 浩 二

授業科目の内容：

この研究会では、生産性、産業連関、物的・人的資産、エネルギーやイノベーションなど、経済成長および構造変化に関する研究をメインとして研究を行います。経済理論から、計量分析、経済統計、統計調査、企業と社会における会計、法制度まで、学問を通じて論理的に考え、経済の理論と観察を包括的にバランスよく理解することを目的とします。本年度に開始する新しい研究会ですので、一緒に形を考えていきたいと思いますが、自分で問題を敏感に発見し、理論的に思考し、よく議論しようとする前向きな姿勢、そしてヘコタレナイ鈍感さを併せ持つ学生の参加を希望します。

研究会（通年） マーケティング・サイエンス 教授 濱岡 豊

授業科目の内容：

このゼミでは、複雑に見える「市場」における現象の本質的な部分をみだし「論理」「モデル」を組立てて、「データ」を用いて検証し、それを実際に「マネジリアル」に役立てようというアプローチ、つまりマーケティング・サイエンスの視点から分析できるようになることを目的とする。

テキスト：

特に指定しない。資料は濱岡のホームページよりダウンロード可能。

<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka/>

参考書：

上記を参照

研究会（通年） 教授 早見 均

授業科目の内容：

卒論となる研究論文ないしはそれに類する創作物を仕上げるのが研究会の到達目標である。そのためには、研究テーマの選択、構成、必要な資料の収集、適切な分析、類似研究のサーベイ、文章作成上の留意点や論文としての体裁、効果的な発表方法などを身につけていく必要がある。

各自の研究テーマはさまざまで、担当者自身、これまで労働経済や環境問題の分野で、統計的手法を応用して、労働時間短縮、リンクしたマイクロデータによる雇用分析、工学的データや貿易データを産業連関表とリンクさせた環境影響評価、中国と日本の多部門マクロモデルとエネルギーバランスシミュレーションなど分野横断的研究をおこなってきた。この研究会の得意とする内容は 統計的な手法を利用し、さまざまなデータを加工して、仮説を検証していく計量経済学の領域、技術や新製品などの情報と産業連関表を利用した環境影響評価、分析に応じて必要とされる統計学、計算手法、コンピュータ利用など方法論的な課題である。研究分野の内容にこだわらず、重要な意義のあるテーマをいくつか選んで履修者全員で検討したい。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・S. Ross (2006) Simulation, Academic Press.
- ・D. Williams (2001) Weighing the Odds, Cambridge University Press.

研究会（通年） 教授 樋口 美雄

授業科目の内容：

このゼミでは、まず経済現象の変化や政策の有効性に関する議論に着目し、つづいてそれらの背景を知る上で必要となる分析ツールを勉強する。そして最終的にはそれらを援用して、自分の興味のある現象を実証的に分析し、政策の是非を評価できるまでになれるよう目指す。研究対象となるテーマは社会現象であれば、とくに問わない。

研究会（通年） 教授 平野 隆

授業科目の内容：

この研究会は、おもに二つの分野を領域とする。近代日本経済史・経営史：幕末・明治維新から現在に至る日本の経済・経営・社会の歴史的研究、および日本と欧米あるいはアジア諸国との比較的研究。消費社会論：消費文化と小売業、広告、マスメディアなどの関係についての歴史的・社会学的研究。

3年次では、専門基本文献の輪読、あらかじめ与えられたテーマによるディベート、各自が選んだ文献・論文のレビューなどにより、経営史・消費社会論の基礎知識、分析方法やプレゼンテーションなどの基本的なアカデミック・スキルの修得を目指す。夏休み以降は、卒論作成のための個別指導（テーマの設定、研究文献・資料の探索、論文構成、執筆の技法など）を併行して行う。4年次は、主に卒論の中間報告を中心とし、私を含めたゼミ員全員との質疑応答を通じて、より完成度の高い論文に仕上げることを目指す。

研究会(通年)

国際経済(国際金融論とコーポレート・ガバナンスの国際比較)
教授 深尾 光 洋

授業科目の内容:

大学での勉強は、試験対策のための短期決戦型になりがちで、陸上競技で言えば、短距離競争のようなものであることが多いように思います。しかし就職してからの社会生活での競争は、むしろ自分でペースを作って自らの市場価値を維持し高めていく、マラソン型のものになります。会社で上司からの仕事を必死にこなしているだけでは、短期的な評価は上がっても、長い目で見ると競争力をなくしてリストラ対象になりかねません。終身雇用・年功序列の日本型人事制度は崩れて行く方向にあり、そうすると自分自身に投資を続け、市場価値を維持できる人と、そうでない人の格差は、長期的には大きなものになることが予想されます。そこで私のゼミでは、就職してからも自分の市場価値を維持し高めていくサバイバルのノウハウを身に付けることを大きな目標にしたいと思えます。そのために、読書の仕方、情報整理の仕方、パソコンを使った情報収集や情報交換のやり方について、実践的に学ぶことを目標にします。具体的には、国際金融とコーポレート・ガバナンスの国際比較という金融のマクロとミクロの側面を毎年交互に勉強し、二年間のゼミを通して学ぶことにより、現実の金融・経済動向を見る目を育ててゆきたいと思っています。

研究会(通年)

保険学・保険政策論
教授 堀 田 一 吉

授業科目の内容:

本研究会は、保険学および保険政策論を研究する。国民生活が豊かになるにつれて、保険制度は、我々の生活に深く浸透し、身近な存在になってきた。我々の安定した生活は、多くの人々との関わりの中で、広い意味で、さまざまな保険制度に支えられているといえることができる。したがって、我々の研究対象は、生命保険や損害保険に限らず、公的年金や医療保険などの社会保険の分野をも含んでいる。しかも、それぞれに他の制度とのつながりを深めていることから、一つの問題を取り上げる上で、保険制度全体の理解が必要とされる。我々の最終的な課題は、経済活動をより安定的かつ発展的に営むためには、保険制度がどの程度有効に機能するか考究すると共に、その限界を把握することにある。そうした研究過程を通じて、さまざまな社会問題に対する本質的理解と、その解決策を追究する。

テキスト:

- ・堀田一吉『保険理論と保険政策 原理と機能』東洋経済新報社
- ・Harrington and Niehaus, Risk Management and Insurance, McGraw Hill.

参考書:

- ・堀田一吉・岡村国和・石田成則編著『保険進化と保険事業』慶應義塾大学出版会
- ・ニコラス・バー『福祉の経済学』光生館

研究会(通年)

教授 堀 越 比 呂 志

授業科目の内容:

本研究会は、マーケティング論の研究会であるが、私の主たる研究領域がマーケティング方法論とマーケティング学説史であるということから、マーケティング論だけでなく、科学哲学および関連諸学科の文献も題材として取りあげられる。本研究会では、このより広い領域の基本的知識の概要を提示した上で、そこから自分のテーマを選定してもらい、論文作成を指導する。

本研究会の目的は、このプロセスからの知識修得よりも、むしろそのプロセスにおける要約力・批判力・構成力という知的技法を磨くことにある。それゆえ、自分の中に表現したい熱いものを持ち、どんなテーマでも自分とつながりがあるのだという気持ちで、積極的に討論に参加できる人をゼミに迎え入れたい。

参考書:

堀越比呂志著『マーケティング・メタリサーチ』千倉書房 I3800+税

研究会(通年)

准教授 前 川 千 春

授業科目の内容:

一般に企業会計は、株主や債権者など企業外部の利害関係者に損益計算書・貸借対照表・キャッシュ・フロー計算書等の財務諸表を通じて企業の経営成績および財政状態を報告することを目的とする財務会計と企業内部の管理者各層に意思決定を行いまたは業績を評価するのに有用な会計情報を提供することを目的とする管理会計の2つに大別されるが、当研究会は前者の財務会計を研究対象とする。外部利害関係者に提供される会計情報は法律等の規制を受けることが多いため、財務会計の勉強といえは専ら会計処理や表示に関する現行の諸基準・諸規則を覚え込むことであるかのように思われがちであるが、研究会では、単なる知識の習得ではなく、常に、何故そのようになっているのか、果たしてそれで

よいのか、といった問い掛けをし、自分で答えを見出そうとする姿勢を身につけることを目標とする。

3年の本ゼミでは財務会計の基本書を2~3冊選んで輪読を行う。前もって割当てを決め、レジュメの作成・発表という形を採って進めていくが、ゼミそのものは担当者の発表に基づいて全員で議論することが中心となる。4年の本ゼミは主に卒業論文作成のための発表に充てられ、各自2~3回の中間報告を行って最終的な完成を目指す。その他にサブゼミ・合宿・三田祭発表なども行う予定である。

テキスト:

- ・平野皓正・鉄耀造訳『アメリカ会計セミナー』シュプリンガー・フェアラーク
- ・岸本光永監訳『ヘルファート企業分析(第2版)』中央経済社
- ・武田隆二『最新財務諸表論』中央経済社
- ・広瀬義州『財務会計』中央経済社

参考書:

- ・田中茂次『現代会計学総論』中央経済社
- ・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

研究会(通年)

教授 前 田 淳

授業科目の内容:

企業経営と、企業を取り巻く経済についての基本的知識と分析力の充実を目指す。その上で、現状の激動する企業と経済の本質を把握できる能力を養成したい。そのためのメニューとして、第1に基本的な経営学、経済学の文献の輪読を行なう。内容の理解力と論評力の発展を期待する。第2に、卒論の作成である。論文のテーマは各自が自由に設定する。

テキスト:

授業の中で指定する。

参考書:

授業の中で随時紹介する。

研究会(通年)

名誉教授 牧 厚 志

授業科目の内容:

この研究会では「経済を見る目」を養い、複雑な経済現象を自分なりにわかりやすい言葉で説明できるような能力を開発していきたいと思えます。

研究会(通年)

准教授 三 橋 平

授業科目の内容:

この研究会では、組織レベルの行動に関する法則性の発見を目的とした領域学である「マクロ組織論」を研究分野とする。この研究会の目的は、「組織・ネットワーク・産業に関する理論、特に関係性、社会的インターアクションに関する理論・モデルを学び、関係性の形成、発展について、もしくは、関係性がもたらす行動変容、価値形成についての定量的・定量的データの分析を通じ、実証的研究を行う」ことである。

テキスト:

適宜指定します。

研究会(通年)

教授 八 代 充 史

授業科目の内容:

この研究会では、労務管理論、特に企業の労務管理の実態面に關心を持つ学生を対象に、専門課程の2年間で卒業論文をまとめるために必要な指導を行います。

労務管理の実態については、新聞、雑誌、単行本、テレビ、インターネット等で日々洪水の様に情報が供給されています。こうした「圧倒的」な事実と埋没しないためには、理論的・歴史的視座を持つことが不可欠です。こうした複眼思考で労務管理をとらえることに關心のある学生の参加を歓迎します。

ゼミの活動について触れると、本ゼミでは基本文献を何冊か定めて、その輪読を行い、年度の後半には、卒業論文の指導に入ります。また、研究会の参加者には、關心のあるテーマごとにいくつかのサブゼミに分かれてもらい、そこで文献に目を通し、討論を行いながら労務管理について「頭」と「体」で勉強して頂きます。

その他、工場見学などの「野外実習」なども行いたいと考えています。

テキスト:

適宜指示する。

参考書:

適宜指示する。

研究会(通年)

准教授 山 本 勲

授業科目の内容:

この研究会では、経済学のツールとデータを用いて、現実社会で起きている諸問題を研究する。取り上げるテーマは、金融・経済・社会問題の中から、履修者の関心に合わせて選定する。研究のゴールは、問題

の現状把握， 経済学での解釈， データを用いたファクト・ファインディング， 問題点の指摘・政策提言とする。原則として研究は2人以上のグループで行い，研究成果の発表はプレゼンテーションと論文執筆によって行う。研究会の運営は，履修者の希望等に合わせて弾力的に行い，履修者の自主性を重視する。このため，履修者には，受身ではなく積極的に研究会へ参加することが期待される。

研究会(通年) 教授 横田 絵理

授業科目の内容:

このゼミでは経営と会計という視点で研究を進めていく予定です。私の研究の関心は管理会計のほか，組織，組織行動の分野にあります。つまり，会計情報と組織および人に興味を持っています。管理会計はマネジメントに役立つための会計ですから会計についてのみならずマネジメントについても理解を深めなくてはなりません。マネジメントの立場から管理会計を学ぶには，知識のみならず「考える」ことが重要です。そこで，理論および，事例などの検討から自分ならどのように考えるか，ゼミ生同士や他ゼミ，他大生とのディスカッションを中心に運営します。

テキスト:
授業内で提示します。

参考書:
授業内で提示します。

研究会(通年) 准教授 吉田 栄介

授業科目の内容:

本研究会は，管理会計(会計情報を中心とした経営管理)を対象とします。日本企業では典型的に経理や経営企画部門などが管理会計を担当しています。つまり利益管理，原価管理，業績評価など組織設計・運営に関わる仕組み・仕掛けを対象に，組織，人，業績への影響などを探求する学問です。

管理会計研究には，少なくとも経営学と会計学の知識が必要です。研究会において，簿記・原価計算の演習は行いません。輪読，ケース研究，調査・分析，発表・質疑などを通じて，組織設計・運営のための管理会計の習得を目指します。

テキスト:
授業内に提示。

参考書:
授業内に提示。

研究会(通年) 教授 和気 洋子

授業科目の内容:

国境をこえた経済取引にかかわる問題発見とその解明を研究領域とする。したがって，今日では，外国貿易，通商政策，直接投資(多国籍企業)，国際金融，国際マクロ運営，開発途上国問題そして地球環境問題とその研究テーマは多岐にわたっている。

当研究会では，経済分析のための理論的素養と，グローバルな視点からの現実認識を2つの基本方針として，グループを中心とした作業や報告，そして討論を通じて自己を磨くことを主眼としている。また，最終的には独自の問題意識にそって各自テーマを絞り，理論と実態を体系的に整理・分析し，卒業論文の作成にあたることになる。

研究会(通年) 教授 渡部 直樹

授業科目の内容:

私達のゼミナールの研究領域は，大きく分類すれば「経営学」ないし「企業研究」といったジャンルに入る。しかし，このようなことはゼミナールのメンバーが，この領域に属する研究のみに従事することを意味している訳ではない。

つまり私のゼミの各メンバーには，各々が主体的に自分達の領域及び課程を見つけ，これらを深化させていくことが望まれている。各メンバーは自分達の関心に従って，自分自身の問題を自らの方法によって探究し，それを発展させることが常に求められている。そのため各メンバーの研究テーマが，従来の「経営学」の領域からはみ出してしまふことは，当然のことである。

ゼミナールの各メンバーに望まれることは，より具体的には，三田の2年間という短い時間の中で，いかに自ら問題を深め，他の人とは一味も二味も違った卒業論文を書きあげるかということになる。

しかし，このことは言う程は易しいことではない。私達が皆さんにできることは，この分野の問題はこの様なものであり，これを解決するのはいくつかのやり方が考えられる，といったこと(=いわば料理のレシピ)を提示することと考えている。どのレシピを選ぶのか，そしてそれをどのように使うのかは，皆さんゼミの各メンバーの仕事なのである。

テキスト:
テキストは授業の進行にあわせて示すが，今年は以下のもの考えている

- ・青木昌彦著『比較制度分析に向けて』NTT出版
- ・ダウマ=シュルダ「組織の経済学入門」文真堂

参考書:

参考書は経営学，経済学，ゲーム理論の入門書を使用する予定である。

研究会(通年) 准教授 渡部 和孝

授業科目の内容:

金融政策，金融監督政策，中小企業政策等，政策の経済効果を中心に広く金融・経済現象について，データを用いて実証的に分析，ディスカッションします。

テキスト:

- ・宮尾龍造著，新生社，「コア・テキスト マクロ経済学」
- ・Frederic S. Mishkin and Stanley G. Eakins, "Financial Markets + Institutions fifth edition," Pearson Education
- ・Jeffrey M. Wooldridge, "Introductory Econometrics," South Western, Division of Thomson Learning

参考書:

- ・小国力著，サイエンス社「MATLAB 利用の実際」
- ・Alan C. Acock, Stata Corporation, "A Gentle Introduction to Stata," STATA Corporation
- ・加藤涼著，東洋経済新報社「現代マクロ経済学講義」
- ・小野有人著，東洋経済新報社「新時代の中小企業金融」
- ・小林慶一郎著，日本経済新聞社「逃避の代償」
- ・筒井淳也他著「STATA で学ぶ計量経済学入門」，ミネルヴァ書房
- ・Xavier Freixas and Jean-Charles Rochet, "Microeconomics of Banking second edition," The MIT Press

研究会(通年) 教授 和田 賢治

授業科目の内容:

ファイナンスには分野では資産価格理論と企業財務，分析方法では理論分析と実証分析がある。ゼミではファイナンスの両分野および両分析方法を身につけ，卒業論文を執筆することを目標とする。

テキスト:

- ・新井・渡辺・太田 資本市場とコーポレートファイナンス 中央経済社
- ・渡辺，井上，佐山 M & A とガバナンス 中央経済社

参考書:

初回に配布する。

【05】商学関連科目

【99】専攻科目 類〔Jその他〕

【05】経済数学基礎（春学期）

【99】数学各論（経済数学基礎）（春学期）

教授 小宮英敏

授業科目の内容：

第1学年配当の「微積分」、「微積分」と「線形代数」の履修を前提として、それを補完し経済数学の理論展開を理解するために必要な知識を与えることを目標とする。時間の関係で重要な数学的結果の細かい証明まで扱うことはできないが、その結果の意味の理解と運用ができるよう授業を進める。

テキスト：

使用しない。授業中に資料を配布する。

参考書：

- ・ K. Binmore and J. Davis, Calculus, Cambridge Univ. Press 2001.
- ・ R. K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge Univ. Press 1996.

【05】経済数学（秋学期）

【99】数学各論（経済数学）（秋学期）

教授 小宮英敏

授業科目の内容：

「経済数学基礎」または第2学年配当科目の「中級微積分」と「中級線形代数」の履修を前提とし、最適化理論としてまとめられているトピックスの中で基本的なものを学ぶ。経済学における効用最大化、利潤最大化、ゲーム理論における利得最大化などの数学的構造を正確に理解することを目的とする。

テキスト：

使用しない。授業中に資料を配布する。

参考書：

- ・ R. K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge Univ. Press 1996.
- ・ K. Binmore and J. Davis, Calculus, Cambridge Univ. Press 2001.

【05】経済数学（秋学期）

【99】数学各論（経済数学）（秋学期）

数理ファイナンス入門

准教授 安田公美

授業科目の内容：

証券市場における金融商品の価格付け理論について学びます。

テキスト：

最初の授業の時に指示。

参考書：

最初の授業の時に指示。

【05】ゲーム理論（春学期）

【99】数学各論（ゲーム理論）（春学期）

数理ファイナンス入門

准教授 木戸一夫

授業科目の内容：

無視し得ない力を持つ複数の主体に係る最適化問題としてゲーム理論を学ぶ。いろいろなタイプのゲームがあるが、この授業では、展開形ゲームとスーパーモジュラー・ゲームを学ぶ。ゲーム理論の前提条件・基本概念・定理および含意を、身近にあるわかりやすいゲームや仕組みと対比させながら学ぶことにより、「使えるゲーム理論」を身につけることを目指す。

テキスト：

ミラー著『仕事に使えるゲーム理論』阪急コミュニケーションズ

参考書：

中山幹夫著『はじめてのゲーム理論』有斐閣ブックス

法学各論（経済法）（春学期）

法学部 教授 田村次朗

授業科目の内容：

経済法は、資本主義経済を支える経済憲法である独占禁止法を中心として構成されている。本講義では、経済法について、その理論的支柱である独占禁止法を中心に、法的論点について具体的事例を使い解説する。ただし、本講義では、経済法の理論的側面だけでなく、企業法務など実務において、実際に経済法がどのような機能を果たしているのか、実務特有の問題意識もあわせて解説する。

テキスト：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法 第二版』（弘文堂 2006）

参考書：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』（弘文堂 2006）

法学各論（経済法）（秋学期）

法学部 教授 田村次朗

授業科目の内容：

本講義は、「法学各論（経済法）」においてとりあげた経済法に関する基本的な理解を前提として、資本主義経済体制を支える経済法に関する最新の論点を取り上げる。特に、経済法を理解するうえで重要となる関連分野とのインターフェースなどを重視し、多角的視点から、経済法が経済活動に与えている影響を整理する。たとえば、企業戦略と独占禁止法の関係、経済法分野において浸透しつつある「法と経済学」的な分析手法の現状とその限界、さらに、近年話題となっている企業倫理・企業の社会的責任との関係で重要となるコンプライアンス（法令遵守）などを取り上げる。

テキスト：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法 第二版』（弘文堂 2006）

参考書：

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』（弘文堂 2006）

法学各論（商法 A）（春学期）

会社法講義（前半）（春学期） 法学部 教授 高田晴仁

授業科目の内容：

会社法の構造と解釈について講義する。会社法が商法から分離する形で、かつ有限会社法などを統合する形で制定・施行されてからまだ日も浅く、その理解も容易とはいえないが、伝統的な法律論の枠組みを前提として現行法を（場合によっては批判的に）分析していくこととしたい。

テキスト：

指定しない。

参考書：

講義中に必要に応じて指示する。

法学各論（商法 B）（秋学期）

会社法講義（後半）（秋学期） 法学部 教授 高田晴仁

授業科目の内容：

*「法学各論（商法 A）」の続きとなるので当該項目を参照のこと。

テキスト：

指定しない。

参考書：

講義中に必要に応じて指示する。

法学各論（商法 A）（春学期）

法学部 教授 高田晴仁

授業科目の内容：

商法の中に位置づけられるところの「手形・小切手法」について、体系的に解釈論の解説を行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、法律行為論の本質的な要素をとらえるには絶好の素材といえる。具体的には、主に約束手形を対象として講義を進めていく。

テキスト：

指定しない。

参考書：

講義中に必要に応じて指示する。

法学各論（商法 B）（秋学期）

法学部 教授 高田晴仁

授業科目の内容：

商法の中に位置づけられるところの「手形・小切手法」について、体系的に解釈論の解説を行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、法律行為論の本質的な要素をとらえるには絶好の素材といえる。具体的には、主に約束手形を対象として講義を進めていく。

テキスト：

指定しない。

参考書：

講義中に必要に応じて指示する。

法学各論（租税法）（春学期）

法務研究科 教授 吉村典久

授業科目の内容：

所得税は、租税の中でも最も基幹とされる税目であり、研究の蓄積も一番多い科目です。したがって、租税法の基礎理論をマスターするには最も適切な科目であり、他の税目への導入科目としても最適です。また、サラリーマンについては源泉徴収と年末調整、個人事業を行う者につい

では確定申告，高額所得者にとっては配当所得と利子所得についての特別措置，低額所得者にとっては各種の所得控除や課税最低限，というような様々な点で我々の生活に密接に関連している税目でもあります。特に，今後，少子高齢化社会の到来による社会保障費支出の増大や財政再建のため，所得税の増税も密かに計画されていることに鑑みれば，これから大学を卒業して，社会人となる皆さんにとって所得税の意義はますます高まるであろうことが予想されます。この所得税の法理論を勉強することによって，今後の日本の税制のあり方を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

教科書 岸田ほか『現代税法の基礎知識』（ぎょうせい），または，金子宏『租税法』（弘文堂）いずれも最新版
必携 『判例六法 Professional（平成 21 年版）』（有斐閣）
講義レジュメ keio.jp で随時に提供
参考書：金子宏編『租税判例百選（第四版）』（有斐閣）

法学各論（租税法）（秋学期）
法人税法と消費税法の基本構造 講師 岩崎 政明

授業科目の内容：

企業活動に関連の深い租税（法人税と消費税）について講義する。法律の講義なので，特に企業会計に関する知識の有無を問わない。

テキスト：

水野忠恒『租税法』（第 3 版，有斐閣，2007 年）

参考書：

特になし。

法学各論（民法 A）（春学期）
民法「物権法」 講師 河原 格

授業科目の内容：

物権・担保物権

日常生活の一部は民法の適用される領域であると思って間違いのないほど，その適用範囲は広い。この講義では，金融取引の分野で重要とされる物権法を勉強する。金融分野で活躍したいと思う諸君はぜひ一度聞かねばならない分野である。

テキスト：

河原格『入門 物権法』八千代出版（2004 年）2300 円

参考書：

いずれも図書館に入っている。

平野裕之「民法（第 2 版）総則・物権法」（2002）新世社

法学各論（民法 B）（秋学期）
民法総則 講師 河原 格

授業科目の内容：

「民法総則」

日常生活の一部は民法の適用される領域であると思って間違いのないほど，その適用範囲は広い。この講義では，民法の中で最もとつきにくいとされる民法総則を勉強する。

テキスト：

斉藤和夫編『レアブーフ 民法【総則】<第 3 版>』中央経済社（2007 年）2500 円＋税

参考書：

いずれも図書館に入っている。

平野裕之「民法（第 2 版）総則・物権法」（2002）新世社

法学各論（民法 A）（春学期）
民法「契約，不法行為」 講師 河原 格

授業科目の内容：

契約，不法行為法

日常生活は契約によって規律され，契約によって日々債権・債務（内容）が発生している。このことから債権そのものは，非常に重要な法律内容と言える。ここでは日常生活に密接な貸借債，消費貸借，不法行為を中心に講義するので心して勉強してもらいたい。

テキスト：

河原格編著『契約・不法行為入門』（泉文堂）2005 年 2400 円

参考書：

平野裕之『民法』新世社 2002 年

法学各論（民法 B）（秋学期）
民法 債権総則 講師 河原 格

授業科目の内容：

民法「債権総論」

日常生活は契約によって規律され，契約によって日々債権・債務（内容）が発生している。このことから債権そのものは，非常に重要な法

律内容と言える。特に金融関係に進む希望のある諸君にとり，債権譲渡，弁済などの内容は，大変役に立つものである。だから心して勉強してもらいたい。

テキスト：

河原格『入門 債権総論』（八千代出版）2003 年

参考書：

平野裕之『民法』新世社 2002 年

法学各論（労働法）（春学期）
雇用される労働者（サラリーマン）をめぐる法的問題を分析する
法学部 教授 内藤 恵

授業科目の内容：

労働法とは，賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して，労働市場法（雇用保障と求人・求職に関する領域），個別的労働関係法〔使用者と労働者（サラリーマン）の間に生ずる法的問題を議論する領域〕，そして集团的労使関係法〔憲法 28 条をうけて，使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域〕に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし，春学期は，個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結，労働条件のあり方，労働契約内容の変更，そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては，下記授業計画をご参照下さい。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償，および集团的労使関係の領域は，で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら，話題となる新しいテーマや法改正についても，随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストとしては，神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法（仮題）』（法律文化社，2009 年春出版予定）を使用する予定です。

その他必要に応じて Web に講義レジュメをアップロードして進めます。URL は初回講義の中でお話しします。講義には，六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣 2002）

参考書：

初心者向けの参考書として，

・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』（有斐閣，2006）

・西村健一郎・安枝英『労働法（第 10 版）』（有斐閣プリマシリーズ，2009）

大部の概説書に，菅野和夫『労働法（第 8 版）』（弘文堂，2008）

法学各論（労働法）（秋学期）
雇用される労働者（サラリーマン）をめぐる法的問題を分析する
法学部 教授 内藤 恵

授業科目の内容：

労働法とは，賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して，労働市場法（雇用保障と求人・求職に関する領域），個別的労働関係法〔使用者と労働者（サラリーマン）の間に生ずる法的問題を議論する領域〕，そして集团的労使関係法〔憲法 28 条をうけて，使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域〕に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし，春学期は，個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結，労働条件のあり方，労働契約内容の変更，そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては，下記授業計画をご参照下さい。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償，および集团的労使関係の領域は，で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら，話題となる新しいテーマや法改正についても，随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストとしては，神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法（仮題）』（法律文化社，2009 年春出版予定）を使用する予定です。

その他必要に応じて Web に講義レジュメをアップロードして進めます。URL は初回講義の中でお話しします。講義には，六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣 2002）

参考書：

初心者向けの参考書として，

・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』（有斐閣，2006）

・西村健一郎・安枝英『労働法（第 10 版）』（有斐閣プリマシリーズ，2009）

大部の概説書に，菅野和夫『労働法（第 8 版）』（弘文堂，2008）

授業科目の内容:

資本制生産様式の経済法則の解明としての経済思想の歴史を、主に 17~19 世紀を中心にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、受講者諸君とともに考えながら講義をすすめていく。

経済学 a では、とりわけ、近代の経済学史の出発点と考えられる重商主義から、その批判としての重農学派とアダム・スミスまでを中心に講ずることによって、近代市民社会の科学としての経済学の成立を解明し、又、それが、政策論や経済思想(経済倫理や市民社会の思想を含む)とどう関連しているかを明らかにしたい。

経済学 b では、とりわけ、アダム・スミスを創始者としてリカードゥにおいて頂点に達した、古典派経済学とりわけリカードゥとリカードゥ学派が、その後、イギリス近代資本主義内部の矛盾とイギリスとより後発的なヨーロッパ大陸の資本主義との矛盾の中で、経済思想史的にどのような形で批判を生じたかを、イギリスにおけるリカードゥ学派の分解過程、初期の社会主義経済思想、大陸とりわけ、ドイツの国民経済学や歴史学派を通じて、学説史的にも、方法論的にも解明し、更に「経済学批判」としてのマルクス『資本論』体系の性格をも明らかにしたい。それらを通じて、今日の経済学のあり方をも考えられれば有意義だと思われる。

テキスト:

特にスタンダードなテキストはない。担当者である私の講義内容そのものが、テキストに該当するものであるからして、履修者は必ず出席をし、自らノートを執ること。参考書は学生諸君の理解の補助にはなるが、いかなる通史のテキストにも一長一短はあることを忘れないでほしい。

参考書:

- ・内田義彦『経済学史講義』未来社、1968年(同社の復刻版もあり)または『内田義彦著作集』第2巻 岩波書店、1989年(2001年より増刷)
- ・馬渡尚憲『経済学史』有斐閣、1997年
- ・早坂忠編『経済学史 経済学の生誕から現代まで』ミネルヴァ書房、1989年
- ・高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社、1952年 又は泉文堂(16刷)

経済広報センター寄附講座

「ラボから市場へ: ロボット社会とビジネス・パーソン」(春学期)
コーディネーター 准教授 三橋 平

授業科目の内容:

イノベーション社会において、エンジニアやサイエンティスト以外の人間(=ビジネス・パーソン)に寄せられる期待と役割とは何か? 文科系、商学部のバックグラウンドを持つ人間は、どのようにイノベーション社会の構築と発展に貢献することができるのか? これらの問いを考えるためには、企業が開発した技術が社会に受け入れられ浸透していくプロセスや、技術の商業化において企業が直面する制約や障害を乗り越えていくプロセス、そして、広く社会に普及するための顧客に対する教育や啓蒙の仕組み、生産システムの効率化によるコストの低減メカニズムなどを理解する必要がある。企業のこれらに対する具体的な取り組みを知り、イノベーション社会におけるビジネス・パーソンに対する期待と役割を明確にしていくことが本講義の目的である。様々なテクノロジーに関する講義に触れても、バックグラウンドとなる科学的、工学的な知識不足から理解が限られてしまうため、本講義では将来的な成長が期待されているロボット産業に焦点を当て、上の問題についての議論を進めていく。

テキスト:

特になし。

参考書:

必要に応じて講義の中で紹介する。

社団法人日本物流団体連合会寄附講座

「現代の物流の変革」(春学期)
コーディネーター 教授 井手 秀 樹

授業科目の内容:

毎回、物流関連企業・団体の経営トップの方々に講師としてそれぞれの専門分野についての講義を行う。基本的には以下のテーマを予定している。トラック運送、航空貨物、鉄道貨物、内航・外航海運、物流の諸問題など。

テキスト:

レジメやパワーポイントを使用。

参考書:

特になし。

授業科目の内容:

この講義では、東京証券取引所の上場・ディスクロージャー制度を中心に、証券市場と上場会社との関係について概観する。具体的には、投資者(証券市場)が日本のリーディング・カンパニーたる上場会社に対して要求または期待するものは何か、この点について、証券市場に関連する法律、経済、経営、会計の各方面における最新動向にも触れながら、証券取引所の制度と実務を通じてみていく。企業経営や企業財務等に開する実践的理解を深める観点から、適宜、具体的な事例なども紹介していく予定である。

参考書:

- ・「入門 日本証券市場」東京証券取引所編(東洋経済新報社)
- ・「こんぶらくんのインサイダー取引規制 Q & A(金融商品取引法対応版)」(東京証券取引所)

日本証券投資顧問業協会・投資信託協会寄附講座

「資産運用の理論と実務」(春学期)
コーディネーター 教授 堀 田 一 吉

授業科目の内容:

日本の社会が成熟し豊かになるにつれて、アセット・マネジメント(資産運用)の重要性が増しています。1500兆円の個人の金融資産の運用が、日本の経済の行方や国民の将来の生活設計を大きく左右することになっているのです。皆さん一人一人が個人として金融資産をどのように運用するかということに真剣に学び、理解し、応用できなければなりません。そればかりか、未来の職業人として金融機関に就職する場合は勿論のこと、その他のいかなる職業に就いたとしても、企業財務や年金を通じて資産の運用との関わりから逃れることは出来ません。

経済のグローバル化が進んで、経済を映す鏡である金融資本市場は、新しい経済ニーズに応じて複雑化・高度化しプロフェッショナルな世界になってきています。わが国でも、株主、企業価値、ヘッジファンド、不動産証券化、企業の社会的責任などの言葉が新聞紙上を賑わっています。このような中で、資産運用の本質とは何か、現場に何が起きているのか、今後どのような方向に進んで行こうとしているのか等について、金融資本市場の最前線で活躍している専門家から生きた声を聞くことが有益です。

こうした時代の変化・社会的要請に答えるべく、本講座では、現代の社会に必要な資産運用の基礎から最先端までを概観します。資産運用の機能や社会的位置付けを踏まえつつ、金融資本市場や法制度などその取り巻く環境、資産運用における投資手法や経済記事の読み方からアセットマネジメント・ビジネスの実態に至るまで、金融知力として皆さんが個人としてあるいは職業人として身に付けるべきエッセンスを幅広く学ぶことにします。特に、資産運用の重要な概念である「リスク」についての正しい認識を進めます。適切なリスク管理なしにリターンは得られないのが資産運用の本質です。

資産運用ビジネスはめまぐるしく変化しています。数年前の非常識が今の常識に変わる世界です。新しい考え方を体得するために、講義の一部には最新のテーマ設定を行うこととします。

商学部の基本理念とする「経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想」こそが、資産運用の核となるものであることは、授業終了後に受講生諸君が実際に体得出来ることでしょう。

みずほフィナンシャルグループ寄附講座

「現代の企業金融」(秋学期)
コーディネーター 教授 深 尾 光 洋

授業科目の内容:

企業の経済活動において、その裏付けとなるのは企業の裁量で活用できる資金であることはいまも無い。わが国における企業の資金調達には、間接金融としての銀行借入と直接金融としての株式発行が中心であった。ところが、バブル崩壊後、各企業がバランスシートのスリム化を指向する中、資金調達手法は多様化の一途をたどっている。

本講義では、こういった金融システムの変遷を踏まえた上で、企業金融の総論をまず解説する。次に資金調達手法を、中小企業の調達(第3回)、市場型間接金融による調達(第4回~第8回) 直接金融による調達(第9回~第12回)、に区分し解説していく。この構成は企業のバランスシートの資産、負債、資本にそれぞれ対応しているところから、財務会計の基本的な知識があった方がよい。最後に多様化する金融ニーズに対応する新たなビジネスモデルを講義することで本講義の総括とする。

テキスト:

講義のレジメは生協で販売する。

授業科目の内容：

科学的知識と呼ばれる知識は、広大な様々な知識の中のひとつの形態に過ぎない。宗教、文学、超能力、占い、経験としての暗黙知等々、他の様々な形がありうる。こうした様々な知識の中から、科学的知識とはどのように生れ落ちてきたのか。その特徴は何か。社会科学の知識はそれとどのように関連して生じてきたのか。こうした問題に関する理解を深めることが、本講義の目的である。

知識は、対象を眺めているだけでは生み出せない。それをどのように見るか、どのようにアプローチするかといった方法が不可欠である。対象が同じでも、方法が異なれば、知識は異なってくる。そして、その生み出された知識の妥当性や客観性は方法に大きく依存している。それゆえ、科学的知識を他の形態の知識と区別する特徴は、まさにその方法にあるといえる。この点から、客観的知識を生産しようとする研究者ならば、自らが生み出す知識の方法を自覚し、その妥当性を常に吟味する必要がある。

このように、本講義で扱う方法論とは、データの収集方法やその処理といった技法のことよりも、その基礎にある基本的な態度や考え方のごとであり、世界観、人間観といった存在論、知識に対する態度としての認識論といった哲学的な議論の成果がその主たる内容となる。

テキスト：

堀越比呂志『マーケティング・メタリサーチ』千倉書房、2005

参考書：

- ・A. F. チャルマーズ著、高田・佐野訳『新版 科学論の展開』恒星社厚生閣、1985。
- ・K. R. ポパー著、久野・市井訳『歴史主義の貧困』中央公論新社、1961。

ジャパニーズ・エコノミー（秋学期）

商学研究科 教授（フジタ・チェアシップ基金） 柏 木 茂 雄

授業科目の内容：

The objective of this course is to discuss and understand the developments in the Japanese economy and its policies from a global perspective.

The course will provide opportunities for students, especially for those coming from abroad, to examine various policy issues that have arisen in Japan in the last three decades. The focus will be to understand the economic as well as political and social background of the specific economic actions taken during these years. Efforts will be made to enable students to understand the recent economic and political developments in Japan, based on my 34 years of experience with the Japanese government.

テキスト：

Cargill, Thomas F. and Takayuki Sakamoto, *Japan Since 1980*, (Cambridge University Press, New York, 2008)

参考書：

- ・Ito, Takatoshi, *The Japanese Economy*, (The MIT Press, Cambridge Massachusetts, 1997)
- ・Organization for Economic Co-operation and Development, *OECD Economic Surveys JAPAN*, (OECD, volume 2008/4, April 2008)

【大学院併設科目について】

「イノベーションの経営・商業」 「経済学と法制度」
「戦略の経営・会計」 「戦略の経済・商業」

以上の大学院併設科目については、以下の基準を満たした意欲のある学生のみ履修可能です。

3年生：2年生までの自由科目を除くAの個数が40個以上の者

4年生：3年生までの自由科目を除くAの個数が40個以上の者

いずれも原則として留年をしたことのある者を除く

以上の基準を満たさない場合の履修申告は無効となります。また基準を満たした場合でも、履修希望者多数の場合は人数調整を行う可能性もありますので、5月上旬に郵送する「履修申告科目確認表」でエラーメッセージが表示されていないか確認してください。

イノベーションの経営・商業（春学期）

教授 今 口 忠 政
教授 佐 藤 和
教授 濱 岡 豊
准教授 小 野 晃 典

授業科目の内容：

イノベーションについて経営学と商業学の立場からアプローチし、革新的な企業行動を総合的に理解することが目的である。1回目に簡単に

ガイダンスを行った後、経営学から6回の講義、商業学から6回の講義を行う。

テキスト：

適宜、資料を配布、もしくは keio.jp からダウンロード可能とする。

参考書：

講義で紹介する。

経済学と法制度（秋学期） 産業研究所 准教授 石 岡 克 俊

授業科目の内容：

経済学（殊にミクロ経済学）は、経済（の諸活動）に関連し、その資源配分に関する諸問題を主に理論的見地から解明・考察しようとする学問領域である。ここでいう経済の諸活動には、生産・交換・消費といった活動が含まれるが、これらはいずれも私有財産制や契約自由などの私法制度や私法原則によって支えられている。他方、前世紀における福祉国家の登場以来、国民国家単位での経済政策の必要性に応じ政府・公権力の経済活動への介入は日常的なものとなった。法治国家であるわが国においては、こうした権力作用を根拠づける法は不可欠であり、これまで社会政策立法として労働法・社会保障法などの社会法および経済政策立法として独占禁止法を中核とする経済法を構想してきた。しばしばわが国などの先進資本主義諸国の経済システムを指して「市場経済体制」との呼び名が通用しているが、この市場経済こそ私法制度によりその基礎を与えられたものであり、また、社会法・経済法は市場経済の「失敗」や「暴走」の修正・補完のためにこそ存在する。このように、法（学）の領域は、経済（学）の領域の全面を覆うわけではないが、その多くの部分において密接に結びついている。確かに、経済問題の分析や経済学の研究において、法や法制度は所与であり前提であり、そして、しばしば懸念の対象でもある。だが、法学者の目から見ると、経済分析の成果が法律論の枠組みと大きく乖離しているために、しばしばその成果の意義にも関わらず、無価値な容貌を呈することがある。モデルに用いられる変数が、法的判断の際に参照される諸要素と必ずしも一致していないためである。そこで、本講義では、かかる経済（学）と法（学）のギャップを埋めるべく、両学問分野に共通するいくつかの経済問題を設定し、経済学的方法論を身につけた受講生に対し、法的思考や方法論、また、経済法的新発想とはいかなるものかを説明していく。真の学際的な研究とは、互いの学問領域に精通した者との間の議論により成立するのではなく、互いの学問領域の方法論にまで踏み込んで（欲を言えば、相手方の学問領域の専門家になるほどに）互いが理解しあった上で成立するものと信じるからである（授業の進め方については講義初回のガイダンスにおいて説明する）。

テキスト：

講義全体をカバーする適当な教科書はないため、特に指定しない。本講義の構想と併せて簡単な文献紹介は講義初回に行う。講義資料プリントは毎時間配布する。

参考書：

テキスト同様、特に指定しないが、内容との関係で有意義と認められるものについては、講義中にその都度紹介する。

戦略の経営・会計（秋学期）

准教授 三 橋 平
講 師 西 村 優 子

授業科目の内容：

戦略について経営学と会計学の立場からアプローチし、総合的に考察することが目的である。1回目にオリエンテーションを行った後、経営学から6回の講義、会計学から6回の講義を行う。

参考書：

西村優子著『研究開発戦略の会計情報』白桃書房

戦略の経済・商業（秋学期）

准教授 木 戸 一 夫
准教授 鄭 潤 澈

授業科目の内容：

戦略の経済学的視点（第1回～第6回、計6回）担当 木戸 一夫

ごく目先の利益ではなく、長期的視点での利益を考えた時、どこにその利益を見出し、いかにしてそれを実現していくのか、といったことを考えるのが戦略的思考と言えよう。本講義では、その中でも、利益の源泉の部分に特に焦点を当て、コア・コンピタンスとなるような補充性の利益の数理的構造を学ぶ。

- ・さまざまな補充性（1回）
 - ・補充性の定式化と基本性質（2回）
 - ・補充性を示す方法（1回）
 - ・スーパーモジュラー関数の最適化と単調比較静学（1回）
 - ・スーパーモジュラー・ゲーム（1回）
- 6回目の授業終了後に課すレポートで成績を評価する。

相互依存関係から見た戦略（第7回～第13回、計7回）

担当 鄭 潤 澈

講義の後半では、応用ミクロ経済学の観点で経済主体の様々な戦略的行動プロセスを考察していく。特に、取引関係などにおいて、個別主体間の相互依存関係（競争と協力）が各自の最適化行動（戦略）にどうつながるのかを理解することを授業の目標とする。

- ・消費者と生産者との葛藤（1回）
- ・企業間の競争（2回）
- ・戦略的相互依存関係（1回）
- ・企業の最適化行動（2回）
- ・情報と戦略の関係（1回）

後半の成績は平常点（出席状況）と後半 13 回目の授業終了後に課すレポートで評価。

そして、最終成績は前半の成績と後半の成績と合算して総合評価をする。

テキスト：

各講義担当者が必要に応じて指示する。

参考書：

各講義担当者が授業中に適宜紹介する。

【05】商学関連科目

【99】自主選択科目

以下のイタリア語、ロシア語、朝鮮語、アラビア語、ギリシャ語、ラテン語については、文学部併設であるため、履修人数が多い場合は文学部生優先となる。

必ず履修申告前に、授業担当者の口頭承認を得ること。

イタリア語 a (春学期) / イタリア語 b (秋学期)
講師 フォルミサノ, カルラ

授業科目の内容:

Espresso 1 課 5 課

1 課: 挨拶

2 課: 自己紹介

3 課: 食事 (注文の仕方)

4 課: 余暇の過ごし方

5 課: ホテルの予約

初級文法

会話練習 (パターン/ロールプレイ)

テキスト:

「Espresso」Luciana Ziglio, Giovanna Rizzo 著 Alma 出版

参考書:

「ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典」小学館

【05】ロシア語 a (春学期) / ロシア語 b (秋学期)
【99】ロシア語 (通年) 講師 佐野 洋子

授業科目の内容:

このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし、一年間で現代文を読む上で必要なロシア語文法をすべて習得します。中級レベルの文を辞書を用いて読む力をつけることを目的とします。最終的には、各自の専門に従って、独学でもロシア語を続けていける基礎学力をつけたいと思います。

テキスト:

教材は、初回の授業で配布します。

参考書:

辞書が必要になりますが、初回の授業で説明します。

【05】朝鮮語 (初級) a (春学期) / 朝鮮語 (初級) b (秋学期)
【99】朝鮮語 (初級) (通年) 講師 崔 鶴山

授業科目の内容:

日常的に使う韓国語のための基礎文法知識を習得する授業です。まず、発音と文字体系、文の仕組みになれるようにします。「ハングル」という馴染みのない文字を使う韓国語は一見難しく見えますが、文の構造や語順、漢字語などは日本語のそれととてもよく似ているため、特に日本人には意外と早い上達が期待できる言語です。一年間の学習により、自己紹介、日常の簡単なやりとり、日記などの基本的な口頭表現および文章表現ができるようになります。平常点、出席を重視します。

テキスト:

「はじめての韓国語」崔鶴山著、白水社

【05】朝鮮語 (中級) a (春学期) / 朝鮮語 (中級) b (秋学期)
【99】朝鮮語 (中級) (通年) 文学部 教授 野村 伸一 (月5)

この科目は、月曜5限と金曜5限のセットになっていますので、両方を履修申告してください。

授業科目の内容:

中級レベルのこの授業では1学年に続き、日常的な場面をテーマにした各課のシチュエーションを学習することで、状況に応じた表現方法を習得するとともに、韓国人の会話スタイルについても理解を深めていきます。そのほか、時には映画やドラマ、新聞などを素材にして、生きた韓国語に慣れ、韓国の文化や社会事情に対する理解も高めていきます。

これと関連し、授業では受講生の発表の時間を取るようにします。

一週間に二回の授業は、講師は交代しても、同一教材を用いて順に進めます。各課修了ごとに小テストをして、達成度を測ります。

出席、応用問題の回答提出と小テストは一年時と同様に重要です。

授業進捗の詳細は初回の授業の時にプリントで示します。

テキスト:

慶應義塾外国語学校編『朝鮮語 - 初級 - 』(前年度、日吉における教科書)

慶應義塾外国語学校編『朝鮮語 - 中級 - 』

以下次項李泰文先生のシラバスと同じ

【05】朝鮮語 (中級) a (春学期) / 朝鮮語 (中級) b (秋学期)
【99】朝鮮語 (中級) (通年) 講師 李 泰文 (金5)

この科目は、月曜5限と金曜5限のセットになっていますので、両方を履修申告してください。

授業科目の内容:

中級レベルのこの授業では1学年に続き、日常的な場面をテーマにした各課のシチュエーションを学習することで、状況に応じた表現方法を習得するとともに、韓国人の会話スタイルについても理解を深めていきます。そのほか、時には映画やドラマ、新聞などを素材にして、生きた韓国語に慣れ、韓国の文化や社会事情に対する理解も高めていきます。これと関連し、授業では受講生の発表の時間を取るようにします。一週間に二回の授業は、講師は変わっても、同一教材を用いて進めます。各課ごとに小テストをして、達成度をはかります。

出席、応用問題の回答提出と小テストは一年時と同様に重要です。

授業進捗の詳細は初回の授業の時にプリントで示します。

テキスト:

慶應義塾外国語学校編『朝鮮語 中級』

【05】アラビア語 a (春学期) / アラビア語 b (秋学期)
【99】アラビア語 (通年) 講師 師岡カリーマ, エルサムニー

授業科目の内容:

アラビア語は、20 を超える国、2 億人以上の人々が話す国連公用語の一つです。この授業では、アラビア語で文章を読み、自分を表現する力を身に付け、アラブ世界の文化や芸術、常識、メンタリティー、人々の生活などについて幅広い知識を修得してもらう事を目的としています。

テキスト:

特に指定しません。プリントを配付します。

参考書:

・『アラビア語入門』本田孝一 (白水社)

・『恋するアラブ人』師岡カリーマ・エルサムニー (白水社)

・『アジア読本 / アラブ』大塚和夫編 (河出書房新社)

【05】ギリシャ語 a (春学期) / ギリシャ語 b (秋学期)
【99】ギリシャ語 (通年) 講師 我妻 勇樹

授業科目の内容:

古典ギリシア語の文法を学びます。

テキスト:

田中・松平『ギリシア語入門』(岩波全書)

参考書:

D. J. Matronarde, *Introduction to Attic Greek*, University of California Press, 1993.

【05】ラテン語 a (春学期) / ラテン語 b (秋学期)
【99】ラテン語 (通年) 言語文化研究所 専任講師 小池 和子

授業科目の内容:

ラテン語の初等文法を学びます。名詞などの変化・動詞の活用の習得が第一の目的ですが、中級レベルにスムーズにつながるよう、文章を読む練習もできる範囲でやりたいと考えています。

テキスト:

中山恒夫『標準ラテン文法』(白水社)

諸 研 究 所 設 置 講 座

教職課程センター
言語文化研究所
メディア・コミュニケーション研究所
斯道文庫
体育研究所
福澤研究センター
国際センター
保健管理センター
情報処理教育室
アート・センター
知的資産センター
外国語教育研究センター
グローバルセキュリティ研究所

教 職 課 程 セ ン タ ー

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表の「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 21 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	講 師	単位数
サンスクリット初級 (春)	土田龍太郎	半期 1 単位
サンスクリット初級 (秋)	土田龍太郎	
サンスクリット中級 (春)	土田龍太郎	
サンスクリット中級 (秋)	土田龍太郎	
アラビア語基礎 (春)	野元 晋	
アラビア語基礎 (秋)	野元 晋	
アラビア語現代文講読 (春)	榮谷温子	
アラビア語現代文講読 (秋)	榮谷温子	
アラビア語古典 (春)	岩見 隆	
アラビア語古典 (秋)	岩見 隆	
アラビア語文献講読 (春)	岩見 隆	
アラビア語文献講読 (秋)	岩見 隆	
ヴェトナム語初級 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語初級 (秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級 (秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読 (秋)	嶋尾 稔	
ペルシア語初級 (春)	関 喜房	
ペルシア語初級 (秋)	関 喜房	
ペルシア語中級 (春)	岩見 隆	
ペルシア語中級 (秋)	岩見 隆	
タイ語初級 (春)	三上直光	
タイ語初級 (秋)	三上直光	
タイ語中級 (春)	ボンシー, ライト	
タイ語中級 (秋)	ボンシー, ライト	
トルコ語初級 (春)	齋藤久美子	
トルコ語初級 (秋)	齋藤久美子	
トルコ語中級 (春)	齋藤久美子	
トルコ語中級 (秋)	齋藤久美子	
朝鮮語文献講読 (春)	野村伸一	
朝鮮語文献講読 (秋)	野村伸一	
カンボジア語初級 (春)	三上直光	
カンボジア語初級 (秋)	三上直光	
ヘブライ語初級 (春)	高井啓介	
ヘブライ語初級 (秋)	高井啓介	
ヘブライ語中級 (春)	高井啓介	
ヘブライ語中級 (秋)	高井啓介	
古代エジプト語初級 (春)	笈川博一	
古代エジプト語初級 (秋)	笈川博一	
古代エジプト語中級 (春)	笈川博一	
古代エジプト語中級 (秋)	笈川博一	
アッカド語初級 (春)	高井啓介	
アッカド語初級 (秋)	高井啓介	
アッカド語中級 (春)	高井啓介	
アッカド語中級 (秋)	高井啓介	

サンスクリット初級 (春)
サンスクリット初級 (秋)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。

参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト:

- ・ヤン・ホンダ著 鑑淳 訳「サンスクリット語初等文法(春秋社)
- ・辻 直四郎著「サンスクリット文法」(岩波書店)

授業の計画:

- ・サンスクリット語とはなにか
- ・アオリスト活用
- ・子音と母音
- ・完了活用
- ・名詞変化の基礎
- ・その他の動詞形
- ・動詞変化の基礎
- ・複合語等
- ・母音曲用
- ・子音曲用
- ・動詞現在組織
- ・未来及受動活用

随時、宗教・神話・歴史についても解説する。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

サンスクリット中級 (春)
サンスクリット中級 (秋)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

テキスト:

参加者の希望で決める。

授業の計画:

サンスクリット中級では、参加者と相談して決めたテキストを講読、文化史宗教史的事項と文法の解説を行う。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語基礎 (春)
文法入門 1

言語文化研究所 教授 野元 晋

授業科目の内容:

アラビア語の基礎文法をマスターするコースで今回はいわば前半部分を学びます。まず文字から始めて、名詞、「AはBです」の簡単な構文、前置詞、代名詞、形容詞、そして動詞の完了形まで学んでいきます。

テキスト:

佐々木淑子『新版アラビア語入門』(翔文社, 2005)

参考書:

本田孝一, 石黒忠昭編『パスポート初級アラビア語辞典』(白水社, 1997-2001) H. Wehr, *A Dictionary of Modern Written Arabic*, edited by J. M. Cowan, 4th ed. (Ithaca, NY: Spoken Language Service, 1994)
(他は授業中に適宜、指示します。)

授業の計画:

以下のような順序で教科書に沿って授業を行う予定です。しかし授業の実際の進行を見て、項目の入れ替え、一部省略、変更もあり得ます。小テストを行う日も授業の進行を見て決めます。

- 第一回目~二回目: 文字, 発音
- 第三回目~六回目: 名詞と簡単な文(「AはBです」など)
- 第七回目: 不規則複数
- 第八回目: 人称代名詞
- 第九回目: 前置詞
- 第十回目: 指示代名詞
- 第十一回目: 形容詞
- 第十二回目: 動詞完了形
- 第十三回目: 期末試験

履修者へのコメント:

最初は文字を書いたりしながら、アラビア語の世界に親しんでいきましょう。なるべく休まずに出席して下さい。

成績評価方法:

試験の結果による評価(学期中に二回ほど小テスト、最後の授業に期末テストを行う予定です。)

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

基本的に授業の後に受け付けます。

アラビア語基礎 (秋)
文法入門 2

言語文化研究所 教授 野元 晋

授業科目の内容:

「アラビア語基礎 I」のいわば続編にあたるコースです。今期は未完了形から始めて派生形までの動詞を中心に、アラビア語の辞書を引ながら文章を読むための、また会話のための文法知識を身につけていきます。時間に余裕があれば最後に簡単な読み物に挑戦したいとも考えています。

テキスト:

佐々木淑子『新版アラビア語入門』(翔文社, 2005)

参考書:

本田孝一, 石黒忠昭編『パスポート初級アラビア語辞典』(白水社, 1997-2001) H. Wehr, *A Dictionary of Modern Written Arabic*, edited by J. M. Cowan, 4th ed. (Ithaca, NY: Spoken Language Service, 1994)
(他は授業中に適宜、指示します。)

授業の計画:

以下のような順序で教科書に沿って授業を行う予定です。しかし授業の実際の進行を見て、項目の入れ替え、一部省略、変更もあり得ます。小テストを行う日も授業の進行を見て決めます。

- 第1回目: 動詞未完了形
- 第2回目: 受動態
- 第3回目: 分詞・動名詞・場所名詞・道具名詞
- 第4回目: Be 動詞 Kana と否定動詞 laysa
- 第5回目~7回目: 不規則動詞
- 第8回目: 関係代名詞
- 第9回目~10回目: 派生形
- 第11回目: 様々な文の形(条件文・that 構文など)
(調整回を一回程度)
- 最終日: 期末試験

履修者へのコメント:

春学期の「アラビア語基礎 I」を履修し修了したか、あるいは同等の文法の知識を習得していることが履修の前提条件です。「アラビア語基礎 I」未履修者は最初の授業のとき、担当教員と相談して下さい。

成績評価方法:

試験の結果による評価(学期中に二回ほど小テスト、最後の授業に期末テストを行う予定です。)

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

基本的に授業の後に受け付けます。

アラビア語現代文講読 (春)
アラビア語現代文講読 (秋)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して、アラビア語の基本的な文章構造の理解、さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社)
- ・黒柳恒男・飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林)

授業の計画:

初回には、辞書や文法書、授業の進め方を説明します。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。順次程度の高い文章の講読をしていき、最終的には母音記号のついていない文章を、自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。

(春) 第1回 第6回 母音記号がついた平易な短い物語の講読。

第7回 第13回 母音記号がついた長い文章を講読。

(秋) 第1回 第13回 要所のみ母音記号がついた文章から、最終的には母音記号がつかない文章の講読。

履修者へのコメント:

文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語古典 (春)	
アラビア語古典 (秋)	
アラビア語講読	言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト:

Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie
プリントで配ります

参考書:

井筒俊彦: アラビア語入門, 慶應出版社 1950.

授業の計画:

最初の日には、参考書や辞書の紹介などガイダンスをやりませう。春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしましょうと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント:

少くとも規則動詞原型の完了、未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。)

アラビア語文献講読 (春)	
アラビア語文献講読 (秋)	
アラビア語演習	言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文 (叙事の文) をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト:

受講者と相談して決めます。

参考書:

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962

授業の計画:

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思えます。

履修者へのコメント:

初等文法の諸規則や用語に慣れておくことが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席者は毎回必ずあてますから、そのつもりで来て下さい。)

ヴェトナム語初級 (春)	
ヴェトナム語初級 (秋)	
	言語文化研究所 教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

簡単なヴェトナム語が読めるようになることを目指します。前期は、下記の教科書を用いて、発音、基礎文法、基礎会話を学びます。

テキスト:

三上直光『ニューエクスプレス ベトナム語』(白水社, 2007年)

授業の計画:

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語中級 (春)	
ヴェトナム語中級 (秋)	
	言語文化研究所 教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

新聞記事程度のヴェトナム語が読めるようになることを目指します。前期は基礎的な文章を読みます。後期は、ウェブ上のヴェトナム語の新聞から面白そうな記事を拾って読みます。

テキスト:

初回に受講者と相談して決めます。

参考書:

小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語 666』(東洋書店, 2005年)

授業の計画:

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語文献講読 (春)	
ヴェトナム語文献講読 (秋)	
	言語文化研究所 教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

ヴェトナム語で書かれた学術論文を読みます。あるいは、もし希望者がいればチューノムで書かれたヴェトナム語の文章に挑戦します。

テキスト:

初回に受講者と相談して決めます。

参考書:

富田健次『ヴェトナム語の世界: ヴェトナム語基本文典』(大学書林, 2000年)

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ペルシア語初級 (春)	
ペルシア語初級 (秋)	
ペルシア語文法	言語文化研究所 講師 関 喜房

授業科目の内容:

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト:

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』(大学書林)

参考書:

黒柳恒男著『ペルシア語の話』(大学書林)

授業の計画:

講義計画は以下の通りです。

- 1 - ガイダンス
- 2 - 文字の習得
- 3 - 教科書を用いた文法の学習 (計 16 回)
- 4 - 易しい現代文を読む練習 (計 7 回)
- 5 - テスト

履修者へのコメント:

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

ペルシア語中級 (春)	
ペルシア語中級 (秋)	
ペルシア語講読	言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト:

受講する人と相談して決めます。

参考書:

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

授業の計画:

最初の日にはテキストを相談して決めるなどガイダンスをやりませう。

2回目以後はひたすらテキストを読みます。

履修者へのコメント:

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。)

タイ語初級 (春)	
タイ語初級 (秋)	
	言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

タイ語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語中級 (春)

タイ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 ボンシー、ライト

授業科目の内容：

タイの小学校二年生の教科書より短編ストーリーを用いて、タイ語の運用能力向上を目指します。

テキスト：

プリント使用。

授業の計画：

前期は文章表現と読解力、後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。

履修者へのコメント：

あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語初級 (春)

トルコ語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 齋藤 久美子

授業科目の内容：

トルコ語の基礎文法の習得を目指します。

テキスト：

東京外国語大学トルコ語専攻編『トルコ語 文法の基礎(新版)』(1,211円)

授業の計画：

(春) 初回の授業で辞書や参考書について説明します。

第2回 - 5回 文字と発音, 母音と子音, 名詞, 形容詞, 単数と複数, 人称代名詞と連辞

第6回 - 13回 動詞, 格助詞, 所有接尾辞, 存在文と所有文

(秋) 第1回 - 5回 動詞, 代名詞と指示詞, 後置詞

第6回 - 13回 動名詞, 副動詞, 形動詞, 接続表現, 複合時制

成績評価方法：

試験の結果による評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

トルコ語中級 (春)

トルコ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 齋藤 久美子

授業科目の内容：

基礎文法を学んだ人を対象としてトルコ語のテキストを講読します。

テキスト：

初回の授業で受講者と相談して決めます。

授業の計画：

トルコ語のテキストを講読します。文法事項を細かく確認しながら授業を進めます。

履修者へのコメント：

予習が必要です。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

朝鮮語文献講読 (春)

朝鮮語文献講読 (秋)

文学部 教授 野村 伸一

授業科目の内容：

朝鮮半島の歴史と社会を知るための授業です。

ふたつのことをめざします。ひとつは現代韓国社会の視点を学ぶことです。もうひとつは朝鮮の文化史を内外からみることです。

テキスト：

上記の目的にかなう素材として『ハンギョレ 21』に掲載されている連載コラムを取りあげます。ひとつは, 안대희의 조선의 비주류 인생, もうひとつは 박노자의 거꾸로 본 고대사です。前者は主として朝鮮王朝時代の社会史に関連するものです。後者は古代史を素材として朝鮮半島の位相を的確に述べていく文章です。いずれもウェブサイト上で公開されています。そのバックナンバーのなかから, 2009年度のものを中心に選び, keio.jp 上に掲載します(3月なかごろ掲載予定)。受講者は各自, ダウンロードして授業に臨んでください。

参考書：

野村伸一「翻訳の世界 - 朝鮮語と日本語のばあい」韓国・朝鮮文化研究会『韓国朝鮮の文化と社会』6, 風響社, 149 - 205頁。

授業の計画：

毎回, 原文で4.5頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。

履修者へのコメント：

朝鮮語を読む準備ができていないことが前提となります。ここでは口頭での会話能力はとくに必要ありません。ひとまず日本語にした上で, なお, それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ, 明らかに違うとおもえる表現に出会うことがたいせつです。その上で理由を考えると, 得るところ大です。

成績評価方法：

出席, 演習参加の度合いで評価します。

カンボジア語初級 (春)

カンボジア語初級 (秋)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容：

カンボジア語入門講座。発音, 文字の読み書き, 初級文法, 基本表現の習得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え, 後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

ヘブライ語初級 (春)

ヘブライ語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容：

旧約聖書ヘブライ語の文法を初歩から学びます。

基本的な文法事項を学習したうえで, 簡単な講読も行います。

テキスト：

小脇光男『聖書ヘブライ語文法』(青山社, 2001年)

参考書：

開講時に指示します。

授業の計画：

(春) 1 - 2 文字, 発音, 母音記号

3 - 6 名詞・形容詞, 前置詞, 関係詞・名詞文など

7 - 13 動詞カル形(完了形・未完了形, 不定詞, 分詞その他)

(秋) 1 - 13 動詞の派生形(ビエル, ヒトバエル, ニフアル, ヒフイル, オファル, プアル), 散文テキストの講読

履修者へのコメント：

練習問題の予習が必要となります。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

質問・相談があれば anisinin@gmail.com に連絡して下さい。

ヘブライ語中級 (春)

ヘブライ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容：

旧約聖書の散文を講読します。ルツ記及び士師記を読む予定です。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

開講時に指示します。

授業の計画：

初回はガイダンスをやりませう。

2 回目以降はテキストをだんだん読んでいきます。

履修者へのコメント：

初級文法を一通り習得していることが必要となります。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

質問・相談があれば anisinin@gmail.com に連絡して下さい。

古代エジプト語初級 (春)

古代エジプト語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川 博一

授業科目の内容：

文法体系が比較的良好に分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者をも想定している。

テキスト：

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書：

5 月ごろから辞書(約 ¥9000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画：

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1 年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント：

週 2 時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語中級 (春)

古代エジプト語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川 博一

授業科目の内容：

中期エジプト語の初歩。

テキスト：

テキストは受講者と相談して決める。

授業の計画：

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント：

週 2 時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語初級 (春)

アッカド語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井 啓介

授業科目の内容：

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

参考書：

開講時に指示します。

授業の計画：

以下のようなスケジュールを予定しています。

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞 コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形
7. 動詞 S 語幹とその派生形
8. 動詞 N 語幹とその派生形

9. アッカド文学の概観

10. ハンムラビ法典などのテキストを読みつつ文法事項を確認します。

履修者へのコメント：

古代メソポタミアの文化、歴史、宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば anisinin@gmail.com まで連絡してください。

アッカド語中級 (春)

アッカド語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井 啓介

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめているいろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：

読むテキストについては、初回に受講者と相談の上決定するつもりです。

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば anisinin@gmail.com まで連絡してください。

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所について

メディア・コミュニケーション研究所は、1946年に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、1996年に創立50周年を迎えました。それを機に、名称もメディア・コミュニケーション研究所となりました。その背景には、放送が急速に発展し、新聞とともにマス・メディアの中心に位置するようになったこと、そしてインターネット時代を迎えるようになったことがあげられます。

新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマス・メディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると伝えられております。

この目的は現在も継承されており、メディア・コミュニケーション研究所は、新聞、放送、通信社、出版、広告などのマス・メディア業界に就職を希望する学生のための教育機関として大きな役割を果たしてきました。また、メディアやコミュニケーションについて、教員と学生（この研究所では研究生と呼ばれています）が研究を進める機関でもあります。

実は、私も1979年にこの研究所（新聞研究所）を修了しました。私の研究生時代、研究所の規模は小さく、専任や非常勤の先生方に公私にわたって大変お世話になりました。文章作法では自分の作文力のなさを、研究会では基礎概念の理解不足を実感させられました。でも、そうした経験は、今貴重な財産になっています。現在の研究生も、私と同じような経験をしていることでしょう。

この研究所は、名前をあげれば誰でも知っているような著名なジャーナリストやメディア業界で活躍する人材を数多く輩出してきました。また、それほど目立たなくても個性的で優れた仕事をしているジャーナリスト、そしてマス・メディア企業の経営者になった修了生も多数います。こうした伝統は脈々と受け継がれています。もちろん、すべての修了生が、マス・メディアやその関連業界に進むわけではありません。しかし、この研究所で学んだこと、そして人とのつながりは、必ずやマス・メディア業界以外でも様々な形で生かされていくはずです。

研究生たちは今、従来型のマス・メディアだけでなく、様々なメディアを通じて情報を入手し、それを処理・加工し、情報発信をしています。でもその基本はやはり、入手した情報をもとに「考え」、そして「表現する」ことだと思います。特に、批判的に「考える」ことの重要性は、高度情報社会の今でも変わらないのは当然です。その力をぜひ、この研究所で磨くようにしてください。そして、その成果を社会に還元するようにして下さい。それが私の心からの期待であり、希望です。

カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

・基礎科目（オープン科目）

メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。

・研究会（研究生のみ対象）

研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。

・特殊研究（研究生のみ対象）

少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。

・基礎演習（研究生のみ対象）

メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならない、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

(1) 入所説明会（入所申込書配布）10月下旬～11月中旬に三田、日吉、藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。

(2) 入所試験（選考）12月6日（日）に三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

・基礎科目	10単位以上
・研究会	8単位以上
・特殊研究	4単位以上
・基礎演習	2単位以上
合計	28単位以上

[平成21年度2年生から以下の修了単位を適用]

・基礎科目	8単位以上
・研究会	8単位以上
・特殊研究	4単位以上
・基礎演習	4単位以上
合計	28単位以上

2～4年の春学期までに研究会 ～ を順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会（論文指導）を履修すること。すなわち、「研究会 ～ と研究会 は全員が履修するが、研究会 と は必修ではない。」

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 21 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所開設科目一覧

* 基礎科目（オープン科目） 研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史 ・（法学部併設）	春2/秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春2/秋2	内藤 耕
三田設置科目	メディア社会論（法学部併設）	春2	遠藤 薫
三田設置科目	メディア法制	春2	山田 健太
三田設置科目	ジャーナリズム論	春2	烏谷 昌幸
三田設置科目	ジャーナリズム論	秋2	伊藤 高史
三田設置科目	世論 ・	春2/秋2	井田 正道
三田設置科目	情報行動論 ・	春2/秋2	小城 英子
三田設置科目	異文化間コミュニケーション ・	春2/秋2	藤田 結子
三田設置科目	メディア文化論 ・	春2/秋2	小川 葉子
三田設置科目	メディア産業と政策	春2	菅谷 実
三田設置科目	メディア産業と政策	秋2	豊嶋 基暢
三田設置科目	ジャーナリズム総合講座（朝日新聞寄附講座）	春2	千葉・大石・伊藤
三田設置科目	ジャーナリズム総合講座（朝日新聞寄附講座）	秋2	嶋田・大石・伊藤
三田設置科目	コミュニケーション調査法	春2	有馬 明恵
三田設置科目	コミュニケーション調査法	秋2	金山 智子
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 テレビメディア論 ・	春2/秋2	池貝・根本・菅谷・豊嶋
三田設置科目	毎日コミュニケーションズ寄附講座 ・ メディアの再編	春2/秋2	河内 孝

* 研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	小川 葉子
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	李 光鎬
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	金 正勲
三田設置科目	研究会（～） 2年生のみ募集	春2/秋2	豊嶋 基暢
三田設置科目	研究会（～） 2年生のみ募集	春2/秋2	藤田 結子

* 特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義	春2	中村 美子
三田設置科目	放送特殊講義	秋2	横山 滋
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 特殊研究 ・（テレビ・ジャーナリズム）	春2/秋2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義 ・	春2/秋2	長谷部 剛
三田設置科目	広告特殊講義 ・	春2/秋2	小山 雅史
三田設置科目	メディア特殊講義	春2	坪田 知己
三田設置科目	メディア特殊講義	秋2	渡辺真由子
三田設置科目	特殊研究 ・（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究（通信・放送法制の現状と今後）	春2	豊嶋 基暢
三田設置科目	特殊研究（若者文化とメディア）	秋2	藤田 結子
三田設置科目	メディア産業実習 ・	春2/秋2	豊嶋・菅谷・藤田

* 基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語 ・	春2/秋2	宮川美樹子
三田設置科目	文章作法 ・	春2/秋2	稲井田 茂
三田設置科目	取材論 ・	春2/秋2	臼井 敏男
三田設置科目	時事問題 ・	春2/秋2	箕輪 幸人
三田設置科目	映像コンテンツ制作	春2	金山 智子
三田設置科目	映像コンテンツ制作	秋2	杉沼・田辺
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習 ・	春2/秋2	田辺 浩介

印に関しては、大学院法学研究科政治学専攻修士課程ジャーナリズム・コースの大学院生が履修する場合があります。

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論 (春)	
マス・コミュニケーションと政治	大石 裕

授業科目の内容:

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト:

大石裕「コミュニケーション研究(第2版)」(慶應義塾大学出版会)

参考書:

- ・マックームズほか「ニュース・メディアと世論」(関西大学出版部)
- ・大石裕「政治コミュニケーション」(勁草書房)
- ・大石裕編「ジャーナリズムと権力」(世界思想社)

授業の計画:

1回	コミュニケーションの種類
2 3回	大衆社会モデル:弾丸効果モデル
4 5回	限定効果モデル
6 7回	強力効果モデル
8 9回	強力影響・機能モデル
10回	批判モデル
11 12回	ジャーナリズム論再考

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論 (秋)	
ジャーナリズムとメディア言説	大石 裕

授業科目の内容:

ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など)、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト:

- ・大石裕「ジャーナリズムとメディア言説」(勁草書房)
- ・大石裕編「ジャーナリズムと権力」(世界思想社)

参考書:

- ・大石裕ほか「現代ニュース論」(有斐閣)
- ・大石裕「政治コミュニケーション」(勁草書房)
- ・大石裕・山本信人編「メディア・ナショナリズムのゆくえ」(朝日新聞社)
- ・大石裕編「ジャーナリズムと権力」(世界思想社)
- ・小林直毅編『「水俣」の言説と表象』(藤原書店)

授業の計画:

1 2回	マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
3回	アジェンダ設定メディアとしての新聞
4回	日本のジャーナリズム論の理論的課題
5 6回	ニュース分析の視点
7 8回	客観報道論再考
9 10回	集合的記憶とマス・メディア
11 12回	メディア・イベントの政治学

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史 (春)	
歴史(過去)との対話	大井 眞二

授業科目の内容:

以下の項目を「日本」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 不偏不党の「日本型」ジャーナリズム

テキスト:

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書:

- ・大井眞二他編「現代ジャーナリズムを学ぶ人のために」(世界思想社)
- ・大井眞二責任編集「メディアの変貌と未来」(八千代出版社)

授業の計画:

次の講義計画で講義を行います。

1. ガイダンス(1回)
2. 研究文献、先行研究の解題(1回)
3. 幕末維新期の新聞(計3回)
4. 明治政府の言論政策(計3回)
5. 政治ジャーナリズム(計3回)
6. 不偏不党のジャーナリズム(計2回)

履修者へのコメント:

テキストを使用しないため、ノートテキングの仕方を工夫してください。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・平常点(出席状況および授業態度による評価)

質問・相談:

授業の折に、受け付ける。また、適宜、機会を設ける。

マス・コミュニケーション発達史 (秋)	
歴史(過去)との対話	大井 眞二

授業科目の内容:

以下の項目を「外国」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 比較ジャーナリズム史

テキスト:

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書:

- ・大井眞二他編「現代ジャーナリズムを学ぶ人のために」(世界思想社)
- ・大井眞二責任編集「メディアの変貌と未来」(八千代出版社)

授業の計画:

1. ガイダンス(1回)
2. 研究文献、先行研究の解題(1回)
3. ヨーロッパ近代と新聞(計3回)
4. 党派的ジャーナリズムの位相(計3回)
5. 商業ジャーナリズムと公共圏(計3回)
6. 客観性とジャーナリズム(計2回)

履修者へのコメント:

テキストを使用しないため、ノートテキングの仕方を工夫してください。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・平常点(出席状況および授業態度による評価)

質問・相談:

授業の折に、受け付ける。また、適宜、機会を設ける。

国際コミュニケーション論 (春)	
国際報道の現状とニュースの流れの構造	内藤 耕

授業科目の内容:

本講義では国際コミュニケーションを諸国家間のコミュニケーションおよび国境を相対化するグローバル・コミュニケーションをめぐる問題構成としてとらえていきます。とくに、では、イラク戦争でクローズアップされた、戦争報道を中心とした国際報道の現状と問題点を考えていきます。戦争報道の歴史の変遷から始まって、報道を支えるシステムのはらむ問題やニュースの国際的な流れの構造にいたるまで概観していきます。事例研究と理論的議論をセットにして紹介します。あまり明るい話はできませんが、「世界」に対する批判的精神を養うと同時に、むしろ受講生自身の力でオルタナティブな道を見つけていただけるような問題提起ができればと思っています。

テキスト:

- ・特に指定しません。
- ・講義資料プリントは URL <http://www.hum.u-tokai.ac.jp/~tagayas/> からダウンロードできます。

授業の計画:

1. ガイダンス(学年歴によっては初回を休講とせざるを得ないので、掲示に留意してください)
2. 戦争報道の検証(1)
3. 戦争報道の検証(2)
4. 外交と報道
5. イスラム報道/アジア報道の構造
6. ナショナル・アイデンティティと報道
7. ニュースの流れの構造とその要因(1)
8. ニュースの流れの構造とその要因(2)
9. 通信社の役割と問題点

- 10. NWICOの理想と現実
- 11. 権威主義体制下のメディアと民主化
- 12. まとめ：メディア帝国主義論とその課題

なお、授業はパワーポイントを用いて行います。

履修者へのコメント：

あまり講師の話をするのみにしないで、講義といえども果敢に「？」を投げつけてきてください(ただし授業の流れは妨げないで)。十分対応できるかどうかは保証できませんが、できるかぎり誠実に対処するつもりです。

成績評価方法：

授業内試験の結果による評価

質問・相談：

原則として毎回の授業終了時をお願いします。

国際コミュニケーション論 (秋)

メディアのグローバル化と文化摩擦 内藤 耕

授業科目の内容：

グローバル化しつつあるメディアの現状とそれをめぐる問題について多面的に解説を試みます。講義は大きく二つに分かれ、前半が資本、コンテンツの流通等の側面からの分析となります。メディア資本の世界戦略、アジアにおける日本製アニメやテレビ番組の流通と受容などの事例を取り上げます。後半は、政策論として、文化交流政策と開発コミュニケーションについて概観していきます。受容する側の「したたかさ」についても理解できればと思います。全体的に、日本との関係、それから授業担当者の専攻領域の都合により、アジアの事例を多く取り上げるようになるでしょう。対象の性格上、春学期の内容と一部重複する部分があるかもしれませんが、を受講している必要はありません。

テキスト：

- ・特に指定しません。
- ・講義資料プリントは URL <http://www.hum.u-tokai.ac.jp/~tagayasu/> からダウンロードできます。

参考書：

授業時に適宜指示します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 理論的枠組：ソフトパワーと文化帝国主義
3. 国際メディア資本の展開
4. アメリカナイゼーションとコンテンツ
5. 日本のコンテンツの海外流通
6. コンテンツ流通とローカリゼーション：アジアの例から 1
7. コンテンツ流通とローカリゼーション：アジアの例から 2
8. 補論：ディアスポラのコミュニケーション
9. 文化交流政策の現状と課題 1
10. 文化交流政策の現状と課題 2
11. 開発政策のなかのメディア 1
12. 開発政策のなかのメディア 2
13. まとめ

授業はパワーポイントを用いて行います。

履修者へのコメント：

どっちがいいとか悪いとか善悪二元論的にはとらえきれない問題が多い領域ですが、現状から目をそらすことができないということと、どこかで自分たちの問題として引き受けてもらえればと思います。

成績評価方法：

学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価

質問・相談：

原則として毎回の授業終了時をお願いします。

メディア社会論 (春)

情報グローバル化と文化変容 遠藤 薫

授業科目の内容：

メディアとは人間/社会にとって何であるのか、という根元的問いをふまえて、グローバル・メディアの行き渡った社会における文化と個人の意識を考察する。

テキスト：

- ・遠藤薫「グローバル化と文化変容」(世界思想社, 2007年)
- ・遠藤薫「ネットメディアと コミュニティ 形成」(東京電機大学出版局, 2008年)

参考書：

- ・遠藤薫「間メディア社会と 世論 形成」(東京電機大学出版局, 2007年)
- ・遠藤薫「インターネットと 世論 形成」(東京電機大学出版局, 2004年)
- ・遠藤薫「電子社会論」(実教出版, 2000年)

授業の計画：

1. 社会とメディア
2. メディアとは何か
3. 現代メディア文化の諸相(1)
4. 現代メディア文化の諸相(2)
5. 現代メディア文化の諸相(3)
6. 現代メディア文化の諸相(4)

7. 現代メディア文化の諸相(5)
8. 現代メディア文化の諸相(6)
9. 現代メディア文化の諸相(7)
10. 現代メディア文化の諸相(8)
11. 文化 の時代としての現代
12. メディア複合文化の諸相
13. メディア複合と社会構造の変容

成績評価方法：

学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価

メディア法制 (春)

山田 健太

授業科目の内容：

表現の自由、メディアに関わる法体系を概観するとともに、ジャーナリズムの諸問題を法的側面からアプローチする。必要に応じ、ジャーナリズムを支えるメディア産業制度、メディア政策、およびメディア・ジャーナリストの倫理問題についても触れる。ただし、事前に法律的専門知識は不要。履修者数にもよるが、原則、講義形式で進める。

テキスト：

山田健太「法とジャーナリズム」(学陽書房)

参考書：

教室で指示

授業の計画：

おおよそ以下の項目に分けて講義を進めるが、発生ニュース等によって順序や講義の力点が異なることになる。

1. 表現の自由の歴史
2. メディアの自由(取材・報道の自由)
3. プレスの公共性と特恵的待遇
4. 情報化社会と知る権利
5. 立法・司法情報へのアクセス
6. 情報流通・頒布の自由
7. 放送の自由と放送政策
8. ネット上の表現の自由
9. 著作権と文化の保護

成績評価方法：

*履修者数によって変更があり得る。

・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム論 (春)

烏谷 昌幸

授業科目の内容：

多様な社会問題を事例としながら、ニュース報道の社会的役割、影響、意義、問題点について考えることを目的とします。また、比較的長い時間をかけて社会問題の全体像や知られざる核心部分に迫ろうとするドキュメンタリー映像、ノン・フィクション作品が持つ可能性についても考えてみたいと思います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- 大石裕 「新・コミュニケーション論」(慶應義塾大学出版会, 2006年)
 - 柏倉康夫 「マスコミの倫理学」(丸善株式会社, 2002年)
- その他重要な文献については授業内で紹介します

授業の計画：

1. ガイダンス：ジャーナリズムと現実/社会的現実
2. 報道の社会的影響(1)
3. 報道の社会的影響(2)
4. 報道の枠組み(1)
5. 報道の枠組み(2)
6. 職業倫理と一般道徳(1)
7. 職業倫理と一般道徳(2)
8. 報道被害
9. 報道写真の可能性
10. ドキュメンタリーの可能性
11. ノン・フィクションの世界(1)
12. ノン・フィクションの世界(2)
13. 試験

*内容や順番が入れ替えることがあります。

履修者へのコメント：

最近、ノン・フィクション作品、ドキュメンタリー映像、報道写真の魅力を表現するための言語を搾り出すことに腐心しています。こうした分野に興味のある方、歓迎します。

成績評価方法：

・試験の結果による評価(学期末に論述形式の試験を行います。持ち込みは可です。)

・平常点：出席状況および授業態度による評価

(可能な限り映像視聴を行います。映像についての感想及びコメントを提出してもらった場合、必ず平常点の一部にカウントします。)

ジャーナリズム論 (秋)

ジャーナリズムと権力：法社会学・政治社会学の観点から
伊藤 高史

授業科目の内容：

法社会学と政治社会学の観点から、ジャーナリズムと権力の関係を考察します。

テキスト：

伊藤高史『「表現の自由」の社会学』（八千代出版、2,600円税別）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. ジャーナリズムと「表現の自由」
3. ジャーナリズムと国家権力の関係を考えるための理論
4. 報道による人権侵害
5. 報道による人権侵害
6. 報道による人権侵害
7. 外交政策とジャーナリズム
8. 外交政策とジャーナリズム
9. 外交政策とジャーナリズム
10. スポーツ・ジャーナリズム
11. 情報源の保護
12. 情報源の保護
13. 試験

履修者へのコメント：

毎回小テストを行う予定です。

遅刻・欠席が成績に反映されると考えてください。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価（持ち込みは教科書やノートなど可です）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（毎回、小テストを行います）

世論 (春)

世論調査結果からみる現代社会
井田 正道

授業科目の内容：

はじめに世論調査の方法とデータ分析の手法について理解し、さらに世論調査の分析結果から現代の政治と社会を理解する。

テキスト：

井田正道「政治・社会意識の現在 自民党一党優位の終焉と格差社会」（北樹出版、2008年）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 世論調査の技法
3. データ分析の手法（1）
4. データ分析の手法（2）
5. 世論の形成過程
6. アメリカ人の世論と投票行動
7. 日本人の世論と投票行動
8. 先進諸国における政党 有権者関係の衰退
9. 55年体制と世論
10. 二大政党制と世論
11. 格差社会論と世論（1）
12. 格差社会論と世論（2）
13. まとめ

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

質問・相談：

授業時に受けます

世論 (秋)

日本人の世論 持続と変化
井田 正道

授業科目の内容：

主として政治に関する日本人の世論の変化に焦点を当て、その変化が選挙過程・政治リーダーの選出過程および政策決定過程にどのような影響を及ぼしたかを考える。加えて、メディアの選挙報道にも言及する。

テキスト：

井田正道「日本政治の潮流」（北樹出版、2007年）

参考書：

鈴木哲夫「政党が操る選挙報道」（集英社、2007年）
NHK放送文化研究所「現代日本人の意識構造 第6版」（日本放送出版協会、2004年）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 世論調査結果にみる日本人の変化 “緑”の崩壊？
3. 世論と政治 政治の大統領制化について
4. 政権と世論 内閣支持率の変遷
5. 政党と世論 政党支持率の変遷

6. 選挙と世論（1） 世論調査と出口調査
7. 選挙と世論（2） 小泉政権期の選挙と世論
8. 選挙と世論（3） 安倍政権と参院選
9. 選挙と世論（4） 2009年総選挙に表れた世論
10. 政策と世論 構造改革と世論
11. 選挙報道の実態と課題
12. 選挙報道と世論 - 政党のコミュニケーション戦略について
13. まとめ

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

質問・相談：

授業時に受けます

情報行動論 (春)

マス・メディアと受け手の相互作用
小城 英子

授業科目の内容：

私たちは、マス・メディアから多大な影響を受けています。従来のマス・コミュニケーション研究も、一方向コミュニケーションを前提とした理論が主流です。しかし、実は、受け手の方も能動的に関与し、当該イベントをセンセーショナルに煽ったり、流行現象を作り出したりしています。本講義では、「劇場型犯罪」と「ファン心理」を切り口に、マス・メディアと受け手の相互作用を学びます。

テキスト：

特になし。適宜資料を配布し、参考文献を紹介します。

参考書：

小城英子『「劇場型犯罪」とマス・コミュニケーション』（ナカニシヤ出版、2004年）
松井 豊『ファンとブームの社会心理』（サイエンス社、1994年）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 劇場型犯罪（1）劇場型犯罪とマス・メディア
3. 劇場型犯罪（2）事例
4. 劇場型犯罪（3）犯人像形成メカニズムの分析 識者によるプロファイリング
5. 劇場型犯罪（4）犯人像形成メカニズムの分析 目撃証言
6. ファン心理（1）ファン心理の構造
7. ファン心理（2）プロ野球ファン
8. ファン心理（3）アニメファンの心理 ディズニーとジブリ
9. ファン心理（4）アイドルファンの心理 親子ファンとオタク
10. ファン心理（5）カリスマモデルへの追従 vs マイナーファン
11. ファン心理（6）ファン心理が冷めるとき スキャンダルとファン離れ
12. 総括（1）
13. 総括（2）

履修者へのコメント：

身近なテーマをアカデミックに考えるトレーニングとしてください。全出席を原則とします。講義形式を基本としますが、ときどきリアクション・ペーパーなどで関心や理解度などを尋ねますので、積極的に参加してください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

情報行動論 (秋)

不思議現象の心理学
小城 英子

授業科目の内容：

UFO、超能力、占いなど、科学で説明できないような現象を「不思議現象」と呼びます。本講義では、不思議現象を信じる心理的メカニズム、不思議現象を信じる人と信じない人の違い、マス・コミュニケーションの影響などについて学びます。

テキスト：

特になし。適宜資料を配布し、参考文献を紹介します。

参考書：

菊池聡・谷口高士・宮元博章「不思議現象なぜ信じるのか」（北大路書房、1995年）
菊池聡・木下孝司「不思議現象 子どもの心と教育」（1997年）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 不思議現象を心理学で説明する
3. ブームとしての不思議現象
4. 不思議現象信奉に関する先行研究のレビューと問題点の整理
5. 不思議現象に対する態度の研究
6. 発達の視点から見た不思議現象に対する態度 - 高校生女子と大学生女子の比較
7. 科学か？不思議現象か？ 科学観と不思議現象に対する態度
8. 不思議現象とマス・コミュニケーション（1）不思議現象番組の歴史
9. 不思議現象とマス・コミュニケーション（2）番組の内容分析と視

聴者の反応の質的分析

10. 不思議現象とマス・コミュニケーション(3) テレビに対する態度・利用と満足研究
11. 不思議現象とマス・コミュニケーション(4) テレビに対する態度と不思議現象
12. 総括(1)
13. 総括(2)

履修者へのコメント:

不思議現象研究の最前線を紹介し、世俗的なテーマですが、アカデミックに理解する知的好奇心を要します。

講義形式を基本としますが、ときどき受講生を対象に調査を行い、その結果を授業内容に盛り込むなどして、現在進行形で進めていきます。全出席が原則です。積極的に参加してください。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価

異文化間コミュニケーション(春)

国境を越えるメディアとイメージ形成

藤田 結子

授業科目の内容:

この授業では、メディアの表象を通じた異文化間コミュニケーションに関する問題を考察していきます。とくに、国境を越えて流れる欧米・日本・アジアのテレビ番組や映画において、どのように異文化が描かれているのか、またそれがどのように人々の外国イメージ形成に影響を与えているのかについて考えます。

テキスト:

藤田結子「文化移民 越境する日本の若者とメディア」(新曜社, 2008年)

参考書:

授業時に指定します。

授業の計画:

1. イントロダクション
2. 文化・メディア帝国主義(計3回)
ディズニー映画やテレビドラマ『ダラス』によるアメリカ化について
3. グローバルな文化のフロー(計3回)
『東京ラブストーリー』『冬のソナタ』など国境を超えた大衆文化の流行の構造と意義について
4. オリエンタリズム(計3回)
『ライジング・サン』『キル・ビル』などハリウッド映画に描かれる日本人イメージを中心に
5. メディアの中の他者表象(計2回)
日本のテレビ番組、映画に描かれる「外国人」のステレオタイプの問題について
6. 総括

履修者へのコメント:

授業では、毎回、映像資料を用いて講義をする予定です。グループでの発表を割り当てるので、授業に出席できる学生に履修を勧めます。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(発表をもとにした期末レポート 50%)
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(授業での発表・発言や感想メモによる評価 50%)

異文化間コミュニケーション(秋)

「ナショナル・アイデンティティ」と異文化間コミュニケーション

藤田 結子

授業科目の内容:

この授業では、異なる文化を持つ人々が、「直接的に」または「メディアを媒介して」接触するときに、どのように「ナショナル・アイデンティティ」を形成・再形成するのかという問題について考察します。とくに、「日本人らしさ」というものがどのように表わされてきたのか、また、それがどのように再定義・再形成されるのかについて考えます。

テキスト:

藤田結子「文化移民 越境する日本の若者とメディア」(新曜社, 2008年)

参考書:

授業中に指定します。

授業の計画:

1. イントロダクション
2. 「ナショナル・アイデンティティ」とは何か(計3回)
「ネイション」「ナショナル・アイデンティティ」「日本人らしさ」の意味について
3. 人種・民族関係とナショナル・アイデンティティ(計3回)
多民族社会における「白人」「黒人」「アジア人」「日本人」の関係を中心に
4. ジェンダーとナショナル・アイデンティティ(計3回)
「日本人女性」「日本人男性」というイメージの形成や影響について
5. 国境を越えるメディアとトランスナショナリズム(計2回)
国境を越えるテレビ番組やインターネットが人々のアイデンティティに与える影響について

6. 総括

履修者へのコメント:

海外に関心のある学生、多民族社会の問題に関心のある学生に受講を勧めます。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(テキスト持ち込みによる期末試験 90%)
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(授業での発言や感想メモによる評価 10%)

メディア文化論(春)

映画コンテンツとクロス・メディア研究

小川 葉子

授業科目の内容:

メディアやジャンルを横断するような映画の名作を視聴し、ディスカッションをおこなうことで、クリエイティブなメディア文化の担い手を養うことを目的とする。

教員の指定リストのなかから、履修者の希望をきいて、毎回映画の上映、ディスカッション、レポート(数回)をおこなう。

最後の数回は、履修者自身がぜひ観てもらいたい映画の上映と解説、最終グループ・プレゼンテーションを予定している。

テキスト:

小川葉子他編『グローバル化の社会学:循環するメディアと生命』(恒星社厚生閣, 2008年予定), その他, 授業中に指示する。

参考書:

授業中に指示する。

授業の計画:

1. ガイダンスおよび導入
2. エンタテインメントの歴史(2~14は適宜選択)
3. ニュース
4. 新聞とジャーナリズム
5. 人種とエスニシティの表象
6. ドキュメンタリー
7. フィルム・ノアル
8. ミュージカル
9. スリラーとサスペンス
10. 古典物語
11. ポストモダニズム
12. 北欧映画
13. アジアその他の地域の映画
14. 映画上映と履修者による最終グループ・プレゼンテーション(3回)

履修者へのコメント:

そののちのディスカッションを充実させるため、映画上映中のPC、携帯電話等の使用は控えて下さい。

成績評価方法:

- ・平常点(出席, 授業態度, およびプレゼンテーション)
- ・数回の小レポート

質問・相談:

授業終了後、あるいは、履修者に指示するオフィス・アワーか、事前のアポイントメントにより受け付けます。

メディア文化論(秋)

映画コンテンツとクロス・メディア研究:クリティカルな批評からクリエイティブな企画立案へ

小川 葉子

授業科目の内容:

既存の映画コンテンツの批判から、新たなクリエイティブ・コンテンツの企画・立案につながる創造的な思考のプロセスをシュミレートすることを目的とする。

グローバルイゼーションや、文化(財)行政、企業の社会的責任(CSR)も視野に入れつつ、セミ・ドキュメンタリー、音楽映画等の特定のジャンルのほか、SF、アニメ等の考察を対象とする。

とりわけ、映像ジャーナリズム、オペラ、古典芸能などの他のメディア・ジャンルとの相互作用に注目する。

テキスト:

小川葉子他編『グローバル化の社会学:循環するメディアと生命』(恒星社厚生閣, 2008年予定), その他, 授業中に指示する。ハリウッド映画ジャンルに関するボードウェルの邦訳も含む。

参考書:

授業中に指示する。

授業の計画:

1. ガイダンスおよび導入
2. グループ分けと作業手順の説明
3. セミ・ドキュメンタリーと音楽映画(3回)
4. 各班による上映映画の選択とプレゼンテーションと批評, コメント
5. 前回の批評・コメントに基づいたオルタナティブな企画案の作成(4,5のペアにより各4回)
6. 最終レポートの作成とクリエイティブな思考プロセスの探索
7. 履修者個人へのフィードバックとまとめ

履修者へのコメント：

当該年度か前年度に「メディア文化論」(春)を履修しているか、あるいは映画を30本以前鑑賞している程度の知識を有していることを履修の前提とします。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(数回の授業小レポートおよび企画書)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(出席、授業態度、およびプレゼンテーション)

質問・相談：

授業終了後、あるいは、履修者に指示するオフィス・アワーか、事前の appointments により受け付けます。

メディア産業と政策 (春)

メディア政策基礎理論と映像産業政策 菅谷 実

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト：

菅谷・中村・内山編「映像コンテンツ産業とフィルム政策」(丸善、2009年3月刊予定)

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます。

オリエンテーション(1)

基礎理論(5)

1. メディア政策

2. 政府規制

3. メディア市場

映像コンテンツ産業(6)(テキストを使用)

4. 映像コンテンツと映画

5. 映画産業の発展

6. フィルム政策(欧州、北米、日本)

まとめ(1)

7. メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：

コンテンツ産業、映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価(基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。)

質問・相談：

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます

メディア産業と政策 (秋)

通信・放送融合時代の情報通信政策 豊嶋 基暢

授業科目の内容：

通信・放送産業を中心としたメディア産業に関する政策の動向と今後の課題について学習していく。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画：

(1)オリエンテーション

(2)通信政策(5回程度)

NTTのあり方

インターネット政策

モバイルビジネス政策

電波政策

消費者行政

(3)放送政策(4回程度)

放送のデジタル化

NHKのあり方

CATVの今後

衛星放送の今後

(4)通信・放送産業を取り巻く政策(2回程度)

情報通信法の策定

コンテンツ流通促進

(5)まとめ

各回の講義テーマは政策動向に応じて変更することがあります。

講義内容により、政策担当者による講義を実施する予定。

履修者へのコメント：

情報通信政策に関心のある学生の履修を歓迎します。

授業ホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/~toyoshima/>)を参照のこと。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価。
- ・平常点：出席状況、授業毎のブログ投稿による平常点。

質問・相談：

質問は、メール(m-toyo@mediacom.keio.ac.jp)で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

ジャーナリズム総合講座 (朝日新聞寄附講座)(春)

報道とメディアに関心がある人のための実践的講座

千葉 光宏

大石 裕

伊藤 高史

授業科目の内容：

ジャーナリズムの存在意義、責任、課題などについて、現場で活躍されているジャーナリストや他の関係者を招いて講義していただく。

授業の計画：

具体的にお呼びする講師については、メディア・コミュニケーション研究所のホームページで、2009年4月までに発表する。

講義テーマとして、「ジャーナリズムの責任と課題」「新聞の取材、編集過程の実際」「報道と人権」「政治・経済報道の現場」などを予定。

履修者へのコメント：

- ・外部から講師をお招きするので、くれぐれも失礼のないように。私語、遅刻はもちろん厳禁。
- ・メディアコム生以外の履修も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(レポートを1,2回提出、2008年度は1回。)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(毎回、授業について、感想文を提出)

ジャーナリズム総合講座 (朝日新聞寄附講座)(秋)

報道とメディアに関心がある人のための実践的講座

大阿久 修

大石 裕

伊藤 高史

授業科目の内容：

ジャーナリズムの存在意義、責任、課題などについて、現場で活躍されているジャーナリストや他の関係者を招いて講義していただく。

授業の計画：

具体的にお呼びする講師については、メディア・コミュニケーション研究所のホームページで、2009年4月までに発表する。

講義テーマとして、「インターネット時代のジャーナリズム」「グローバル化と地域報道」「グローバル化時代の経済・環境報道」などを予定。

履修者へのコメント：

- ・外部から講師をお招きするので、くれぐれも失礼のないように。私語、遅刻はもちろん厳禁。
- ・メディアコム生以外の履修も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(レポートを1,2回提出、2008年度は1回。)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(毎回、授業について、感想文を提出)

コミュニケーション調査法 (春)

内容分析によるテレビ研究 有馬 明恵

授業科目の内容：

この授業では、マス・コミュニケーションの研究法の1つである「内容分析」について学びます。具体的には、(1)内容分析から分かること、(2)内容分析の手順、(3)データの整理と分析、(4)報告書の作成を講義と実習を通して習得していきます。なお、研究テーマは初回の授業時に担当教員から複数の候補を示し、履修者と協議の上決定します。

テキスト：

有馬明恵 「内容分析の方法」(ナカニシヤ出版、2007年)

参考書：

萩原滋編 「テレビニュースの世界像」(勁草書房、2007年)

萩原滋・国広陽子編 「テレビと外国イメージ」(勁草書房、2004年)

岩男寿美子 「テレビドラマのメッセージ」(勁草書房、2000年)

小玉美意子編 「テレビニュースの解剖学」(新曜社、2008年)

岸学 「SPSSによるやさしい統計学」(オーム社、2005年)

授業の計画：

第1回 ガイダンス、研究テーマの決定

第2回 内容分析とは(1)：内容分析から分かること、内容分析における研究対象、内容分析の手順

第3回 内容分析とは(2)：コーディング・シートとコーディングマニュアルの作成

第4～第8回 内容分析実習

第9回 データの整理とデータ入力

第10回 データ分析

第11回 報告書の構成とまとめ方

第12・13回 報告書の作成

履修者へのコメント：

実習はグループで取り組むこととなります。授業外での作業も必要となりますので、グループ内での協力と連絡を徹底してください。また、第3回からの授業にはパソコンを持参してください。

実習が重要な授業ですので、遅刻・欠席は慎んでください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（学期末に提出してもらいます）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（実習が重要な授業であるため、遅刻・欠席には厳しく対処します）

質問・相談：

初回ガイダンス時（質問・相談）、授業中（質問）をお願いします。

コミュニケーション調査法（秋） 金山 智子

授業科目の内容：

本講義では、マスメディアが発信するメッセージの調査に用いられる内容分析法について学びます。講義では、TV ニュース、新聞記事、広告、雑誌、ポスター、写真、Web コンテンツなど、履修者が関心のあるメッセージを対象とし、手順にしたがって内容分析を実施します。最終的には、内容分析による調査結果を発表・報告します。内容分析法の習得を通して、メディア・メッセージのアクティブな「読み手」となることをテキスト：

関連資料を配布

授業の計画：

1. 内容分析とは
2. 調査テーマの決定
3. 研究課題・仮説の構築
4. 測定項目・カテゴリーの決定
5. サンプリング
6. コーディングテスト・調査の見直し
7. 中間報告
8. コーディング
9. 分析結果（集計と統計分析）
10. 分析結果（集計と統計分析）
11. 研究課題・仮説の検証
12. 分析テーマの考察
13. 報告・発表

履修者へのコメント：

本講義は、内容分析法を用いて実際に調査を行います。メディア・コンテンツの調査に興味のある学生やゼミで内容分析を使用する学生を希望します。また、統計分析にSPSSを使用します（大学でインストール可）。ラップトップ・コンピュータを持参できることが望ましい。

成績評価方法：

授業参加（30％）課題提出（30％）最終報告（40％）
（3回欠席した場合は自動的に履修を断念したものとみなされる可能性があります。）

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論（春） 池 貝 真 根本 学 菅 谷 実 豊 嶋 基 暢

授業科目の内容：

民間テレビ放送のコンテンツ・ビジネス戦略の要となるドラマやバラエティ番組のソフト制作や編成業務の実際、また映画事業の実際、権利ビジネスの展開例などについて、フジテレビの役職員が自らの実務経験に基づき、オムニバス方式で講義します。また、テレビ局がこれらの知的財産を利用しながらどのようなビジネスを展開しようとしているのかについても考えていきます。

テキスト：

ありません。

参考書：

「フジテレビ・全仕事」(扶桑社、2008年)

授業の計画：

1. ガイダンス（民間テレビ放送の成り立ちと現状）
2. 生活者にとってのテレビ（メディア環境と視聴量・質の捉え方）
3. 番組編成業務
- 4.～6. バラエティ番組の制作
- 7.～9. ドラマ番組の制作
- 10.～11. 映画事業
12. テレビ局の知的財産
13. 権利ビジネス

履修者へのコメント：

テレビ局をはじめとするメディアの研究やメディア業界への就職を志す方に限らず、「テレビ好き」の方ならばどなたの履修も歓迎いたします。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論（秋） 池 貝 真 根本 学 菅 谷 実 豊 嶋 基 暢

授業科目の内容：

テレビの番組ソフトのうち、春学期のエンターテインメントに対するもう一つの柱、報道、情報といったジャーナリズムと、ドキュメンタリーやスポーツといったノンフィクションの番組制作の実際について、フジテレビの役職員が自らの実務経験に基づき、オムニバス方式で講義します。また、デジタルメディアの普及環境におけるフジテレビのビジネス戦略や、従来のテレビ営業のあり方を紹介しながら、民間テレビ放送のビジネスの将来展望についても考えていきます。

テキスト：

ありません。

参考書：

「フジテレビ・全仕事」(扶桑社、2008年)

授業の計画：

1. ガイダンス（春学期のまとめ、民間放送の成り立ちと現状）
- 2.～4. ニュース・報道番組の制作
5. 情報番組の制作
6. ドキュメンタリー番組の制作
7. スポーツ番組の制作
8. イベント事業
9. 技術革新とメディアの変化（テレビの技術的進歩）
10. 企業広報と番組宣伝
11. 広告媒体としてのテレビ（テレビ営業）
12. デジタルメディアへの取り組み
13. 民間テレビ放送の将来展望

履修者へのコメント：

テレビ局をはじめとするメディアの研究やメディア業界への就職を志す方に限らず、「テレビ好き」の方ならばどなたの履修も歓迎いたします。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

毎日コミュニケーションズ寄附講座 ・ メディアの再編（春）（秋） 始まったメディアの再編成 河内 孝

授業科目の内容：

本講座は、広義のメディア産業（新聞、テレビ、出版、広告代理店、Docomo、KDDI、Softbankなど通信各社、Yahoo!などIT系情報通信産業、及びその関連事業）に就職を希望する諸君に、「メディアの今日と明日」を教えるための基礎知識を得てもらう。

講師は、毎日新聞社で政治部、ワシントン特派員、外信部長、論説委員、社長室長、メディア担当役員などを歴任した。

日本のメディア産業は、新聞、テレビといった縦割りの構造から、持ち株会社があらゆる媒体を包含するメディアコングロマリットへの道を歩み始めた。

そのリアルな進行状況を理解してもらう。

テキスト：

特になし。必要に応じて配布する

参考書：

河内 孝著「新聞社 破たんしたビジネスモデル」(新潮新書)

河内 孝著「YouTube 民主主義」(マイコミ新書)

授業の計画：

まず大状況としての「メディアのいま」を知るために2011年の地上波デジタル化、それを受けての「情報通信法」制定の流れ、つまり通信と放送の融合化について、総務省担当者をゲストに招きディスカッションする。それを受けて新聞、テレビ、出版、アニメ、映画、広告代理店の今日と明日について業界のプロを呼び、学生とのトーク方式で授業を進める。

- 1.～3. 提供社、マイコミ側あいさつ オリエンテーション 河内 孝 「ここまで来た通信と放送の融合」有富 寛一郎講師（前総務相審議官） 「なぜ新聞とテレビのビジネスモデルは破たんしたのか」(河内)
- 4.～6. 「攻める就職活動」マイナビ編集長 栗田 卓也講師 「生き残る出版社、残れない出版社」出版社現役部長を予定 「アニメ、マンガのグローバル・ビジネス展開」出版社現場責任者を予定 「テレビ持ち株会社化に見る日本メディア再編成の進展」(河内) 「電凸は、現代の消費者運動か？サイト攻撃に見る Web 状況」(メディア・ジャーナリスト、佐々木 俊尚) 第一回レポート提出
- 7.～10. 「コンテンツをどう流す」(経産省メディア・コンテンツ課長を予定) 「テレビ制作の現場から、報道、ドキュメンタリー、ドラマ制

作の現場責任者、製作プロダクション責任者の出席を予定
 11.~13.「メディア大融合時代の広告」電通 青沼 正講師
 「電波行政、どこで間違えたのか」(前 C-net 社長, 田中良紹)
 「究極のメディア・ツールとは」日本経済新聞 八田 亮一講師
 「Yahoo!は何を目指す」川邊 健太郎講師
 「講義総括」河内講師
 最終レポート提出

*このほか適時、中央官庁幹部、通信会社幹部などをお招きしてディスカッション方式の授業を行いたいと思います。

履修者へのコメント:

本講座は、就職支援のマイコミがスポンサーしていることでも分かるように、マスコミ産業への就職を希望する諸君に必要な情報方を流し、各段階で支援し、最終的に希望企業に就職してもらう、という実践的な目標設定をしています。ゲストは河内の長い記者生活での交友関係を生かした考えられるベストな顔ぶれをそろえました。アカデミックなマスメディア論としてもどこにも負けない大学院並みの内容と自負しています。やる気のある方の参加を求めます。

成績評価方法:

・レポートによる評価(評価基準、方法は前、後期第一回授業で説明する)
 質問・相談:
 教員室、授業の前後に受け付ける

【研究会】

研究会(～)(春)(秋)
 メディアと社会行動

萩原 滋

授業科目の内容:

本研究会は、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要があるが、基本的には、従来通りの個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト:

橋元良明(編著)「メディア・コミュニケーション学」(大修館書店、2008年)

授業の計画:

春学期

ガイダンス(1回)

テキスト講読(6回)

個人研究テーマの設定、発表(6回)

(夏合宿において各自の発表を継続して行う)

秋学期

三田祭論文に向けて(2,3年生の個人研究発表,6回)

修了論文に向けて(4年生の中間報告)

次年度に向けての研究計画発表(2,3年生,4回)

履修者へのコメント:

個人研究といっても、他の人の発表に対しても積極的にコメントをしてほしい。

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

研究室に来てくだされば(あるいはメールでも)、適宜、お答えします。

研究会(～)(春)(秋)
 メディア産業論を考える

菅谷 実

授業科目の内容:

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネット、映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめます。

例年、春学期は、共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表、秋学期は、三田祭で発表する共同研究報告書に関する調査と報告書作成、および4年生の修了論文発表を中心に進めます。(2008年度は、'ShifTVision'地上波テレビ局の未来についての共同研究でした。

また、夏合宿、OGOB会、異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会のホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm>)を参照してください。

授業の計画:

各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが、春学期は、授業でのレポートを中心とし、秋学期は、三田祭に向けた共同研究が中心となる。

履修者へのコメント:

履修者は、授業はもちろんこと、合宿、論文報告会、その他のゼミイベントにはすべて出席すること。

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価

(授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。)

・その他(なお研究会は修了研究の発表および論文による評価。)

研究会(～)(春)(秋)

グローバルイノベーションと持続可能なメディアのデザイン

小川 葉子

授業科目の内容:

本研究会では、比較映像分析とフィールドワークに基づく空間分析を含めて多様なメディアを対象にメディア・リテラシーを研究することを主目的とする。本年度は、環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。とりわけ、映画、ファッション、広告、ニュース、流通の未来をクリエイティブ産業、クリエイティブ都市論、文化政策との関連で検討し、プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって、デジタル・シネマやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ、健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを摸索したい。

テキスト:

カナダ、オンタリオ州教育省『メディア・リテラシー』(リベルタ出版、2006年)『ファッション中毒』(NHK出版、2004年)その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングテキストおよび各種白書等を使用予定。

参考書:

小川葉子他著「グローバル化の社会学:循環するメディアと生命」(恒星社厚生閣、2008年予定)、M.フェザーストン著、川崎賢一・小川葉子編著「消費文化とポストモダニズム」(上・下巻、恒星社厚生閣、2002年)伊藤陽一・河野武司編「ニュース報道と市民の対外国意識」(慶應義塾大学出版会、2007年)

授業の計画:

春学期

1. ガイダンスおよび導入(2~3回)

2. 輪読、フィールドワーク、研究プロジェクトに関する説明(2~3回)

3. 輪読、フィールドワーク、研究プロジェクトの分担決定とその遂行(6~8回)

4. 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(タイトル)設定と発表、春学期のまとめ(1~2回)

秋学期

1. 秋学期全体のスケジュールと作業プランニング(1~2回)

2. 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(タイトル)設定と発表(2回)

3. フィールドワーク(2回)

4. 個人あるいはグループプロジェクトによる作品の制作(2回)

5. 4.のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評(2回)

6. 三田祭発表とフィードバック(2回)

7. まとめ、未来のデザイン・コミュニケーションとは(1~2回)

履修者へのコメント:

フィールドワークは、映画関連イベント、文化施設、経済産業省、環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国の白書、ジャーナリズムや映画批評に親しんでください。

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価。

・レポートかそれにかかわる作品による評価。

質問・相談:

授業終了直後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会(～)(春)(秋)

ジャーナリズムを考える

大石 裕

授業科目の内容:

最初の数回は、ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み、それ以降は班分けし、新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト:

大石裕編「ジャーナリズムと権力」(世界思想社)

参考書:

田村紀雄ほか編「ジャーナリズムを学ぶ人のために」(世界思想社)

授業の計画:

〔前期〕

1~2回 基本的な文献の購読。

3~13回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

〔後期〕

1~10回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

11~13回 4年生の終了論文発表

履修者へのコメント:

新聞のみならず、ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法:

平常点による。

研究会(～)(春)(秋)
メディアコンテンツとその認知的・感情的影響 李 光 鎬

授業科目の内容:

本研究会では、様々なメディアコンテンツの内容・形式上の諸属性がどのような傾向を持っているのかに関する内容分析研究、そしてそのコンテンツが我々の認知的、感情的反応にどのような影響を与えるのかに関する実験・調査研究を行う。

テキスト:

本研究会のテーマに関連する研究書や論文を授業の中で適宜示す。

参考書:

Richard Jackson Harris (2004), *A Cognitive Psychology of Mass Communication*, London: LEA.

Jennings Bryant et. Al. eds. (2003), *Communication and Emotion: Essays in Honor of Dolf Zillmann*, London: LEA.

授業の計画:

春学期

関連研究書および論文の輪読(6回程度)

2・3年生のグループ研究および4年生の修了論文研究の計画発表(6～7回)

夏合宿

研究の進捗状況報告

秋学期

内容分析、実験、調査によるデータの収集・分析(5回～6回)

三田祭での研究発表

4年生の修了論文研究発表(4～5回)

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価

研究会(～)(春)(秋)
クリエイティブ・エコノミ 金 正 勲

授業科目の内容:

これからの創造経済におけるメディア産業の在り方について産業・政策面を中心に議論します。

テキスト:

特に指定しません

参考書:

特に指定しません

授業の計画:

毎回の学生による Newsclippingや講師によるレクチャー、ゲストスピーカーによるレクチャー、企業訪問、輪読等を行います。

履修者へのコメント:

知識を吸収するだけでなく、自ら問題意識をもち、発言することを大事にします。

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

kim@dmc.keio.ac.jp

研究会(～)(春)(秋) 2009年度2年生のみ募集
コミュニケーションの発達と市民社会の変化 豊 嶋 基 暢

授業科目の内容:

情報通信技術の発達により、携帯電話、インターネット、電子マネー、ワンセグ放送、IPTVなど様々なツールが出現しています。本研究会では、新たに出現するコミュニケーションツールを社会で有意義で活用されるためにどのような取組みが必要なのか考察・議論する。

テキスト:

授業の中で適宜指定します。

参考書:

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画:

1. 春学期

ガイダンスと導入(第1回)

NEWS CLIPPING(通年)

研究テーマの設定と関連する文献の輪読・発表等

2. 秋学期

三田祭に向けた研究成果のとりまとめ

なお、春学期・秋学期とも、適宜、施設見学や政策担当者の話を聞く機会を設ける予定です。

履修者へのコメント:

本研究会は議論中心ですが、他者の研究の議論にも積極的に参加し、自分の興味のある分野の研究を深めていって欲しいと考えています。情報通信に関心のある学生の履修を歓迎します。

授業ホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/~toyoshima/>)を参照のこと。

なお、本研究会は今年度限りです。

成績評価方法:

・平常点・出席状況及び授業態度による評価。

質問・相談:

質問は、メール(m-toyo@mediacom.keio.ac.jp)で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

研究会(～)(春)(秋) 2009年度2年生のみ募集
メディアと文化 藤 田 結 子

授業科目の内容:

本研究会では、メディア、コミュニケーション、または文化に関する社会現象について、各自の関心にもとづくテーマを設定し、調査研究を進めます。

春学期

・文献購読

・調査方法(内容分析、インタビュー、アンケート、参与観察、ビデオエスノグラフィー)

・個人研究計画発表

・三田祭共同研究テーマの設定

夏合宿

秋学期

・三田祭論文の調査・執筆・発表

・修了論文発表

そのほか街でのフィールドワークなど

履修者へのコメント:

いろいろな好奇心を持って、積極的にゼミに参加してください

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価

【特殊研究】

放送特殊講義(春)
放送と通信融合時代の公共放送のありかた 中 村 美 子

授業科目の内容:

公共放送制度と役割について、各国比較の観点で理解を深める。さらに、英国における放送通信融合政策の論点を学習し、日本における「情報通信法」論議を考察する。

テキスト:

・「放送制度の現代的展開」(有斐閣, 2001年, 5600円)

・「A New Future for Communications」(ガイダンス時にコピー)

参考書:

・「データブック世界の放送2009」(NHK, 2009年, 3800円)

・「放送研究と調査」(NHK放送文化研究所)適宜指定

授業の計画:

1. ガイダンス

2.～5. 「放送制度の現代的展開」から、日、英、仏、独のパート学習

6.～11. 「A New Future for Communications」第2章から第6章 各パート学習

12.～13. 日本における「情報通信法」論議

履修者へのコメント:

・基本的に学生の発表と教育の補足的説明という形式で進める。

・日本語、英語による講読を積極的に行う学生を歓迎します。

成績評価方法:

・レポートによる評価

・平常点:出席状況および授業態度による評価

放送特殊講義(秋)
メディア環境と放送のメディア特性の変化 横 山 滋

授業科目の内容:

「テレビには『同時性』がある」というふうに言われていますが、メディアの特性は時代の諸条件、とりわけ、技術的・経済的・社会的なメディア環境によって変化するものです。ラジオを含めた「放送」のメディア特性と人間の変化を、大きな歴史的視野の中でとらえ、メディアとの付き合い方に習熟することを目指します。

テキスト:

横山滋「脱テレビ時代の到来 清水幾太郎の論じたテレビと社会、半世紀後の再訪」(『NHK放送文化研究所年報2008〔第52集〕』開講時に教室で配付します。)

参考書:

E・H・カー『歴史とは何か』(岩波新書)

そのほかは、講義の中で紹介します。

授業の計画:

実際にメディア・テキストを見たり聞いたりしながら、小レポートや発表も交えてそれぞれのメディアの特性について議論することで理解を深め、概略、以下のように進めたいと考えています。

1. プロローグ 歴史を見る眼

- グーテンベルク革命
- 印刷メディアと「公論の場」
- 絵画とその含意
- 公衆に共有されるイメージ 写真, レコード, 映画
- メディア・リテラシー運動の始まり
- 電波メディアの発明 電信, 無線電信, 無線通信からラジオへ
- ラジオのメディア特性と変化
- テレビ時代(1)
- テレビ時代(2)
- 通信と放送の「融合」
- 脱テレビ時代の「放送」事業と社会 インターネットの与えたインパクト
- エビローク メディアと人間

履修者へのコメント:

レポートでも教室における議論でも, 本人も含めて全員の役に立つ間違いというものがあります。途中の段階における失敗はマイナスに判定はしませんから, 恥ずかしながら自分の考えや疑問を率直に述べ, 共同の吟味の末, 違う判断に至ったら, 潔く修正すべきところは修正するという態度で臨んでもらいたと思います。

成績評価方法:

- 試験の結果による評価
- 平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

講義内容に関するものは講義中に, 私事にわたるものは講義後にしてください。

フジテレビ寄附講座 特殊研究 (テレビ・ジャーナリズム)(春)
テレビの未来 安倍 宏行

授業科目の内容:

政治記者, 経済記者, 海外特派員, ニュース・キャスター歴任, 現報道局コメンテーターが, テレビニュース制作の裏側を紹介。実際に映像を制作します。

同時に放送業界が今後どのようなビジネス・モデルを取り入れていくのかなどもリアルタイムに解説します。

テキスト:

特に無し

参考書:

特に無し

授業の計画:

- ガイダンス, テレビと新聞の違い, テレビニュースの特質
- ニュースの伝え方(ストレートニュース・記者レポート・中継)
- ニュース原稿演習
- ニュース制作の現場(フジテレビ報道局見学)
- 記者・ディレクター・特派員・キャスターの仕事とは
- アナウンサーの仕事
- 情報番組・ドキュメンタリー制作
- 撮影技術, 映像企画の作り方
- 記者レポート制作 テーマ決め・リサーチ
- 記者レポート制作 スケジュール作成・アポ取り
- 記者レポート発表 評価
- 記者レポート発表 評価
- 予備

履修者へのコメント:

ニュースと情報番組はどう違うのか? 記者とアナウンサーの仕事の違いなど, 実際にディレクターやアナウンサーがゲストスピーカーとして登場。テレビ局の見学を行ないます。前期は, 5分程度の短い映像企画を制作, 放送記者が体験できます。テレビ局に就職したい人, ジャーナリストになりたい人は履修することを勧めます。

成績評価方法:

- 平常点: 出席状況および授業態度による評価
- その他(映像制作5分)

質問・相談:

講義内容など質問はメールにて受け付けます。フジテレビ報道局経済部長安倍宏行まで hiroyuki.abe@fujitv.co.jp

フジテレビ寄附講座 特殊研究 (テレビ・ジャーナリズム)(秋)
安倍 宏行

授業科目の内容:

政治記者, 経済記者, 海外特派員, ニュース・キャスター歴任, 現報道局コメンテーターが, テレビ報道の直面する様々な問題点を解説します。リアルタイムで, テレビを取り巻く諸問題を解説。ネットとの関係がどう変容していくかも考察します。

テキスト:

特に無し

参考書:

特に無し

授業の計画:

- 人権侵害と報道倫理 実名報道と匿名報道
- 模擬記者会見 取材する側, される側
- 取材源の秘匿
- 放送倫理問題 BPO 放送倫理検証委員会とは
- 名誉毀損問題
- 放送と通信の融合 テレビ局のネット戦略
- 放送と通信の融合 動画投稿サイト
- テレビ局の未来 地デジ, ワンセグ, 事業, 映画
- 映像企画制作 テーマ決め, リサーチ
- 映像企画制作 取材スケジュール決め, アポ取り
- 映像企画制作発表
- 映像企画制作発表
- 予備日

履修者へのコメント:

テレビ報道に対する眼は日増しに厳しくなっています。メディアスクラム, 取材源の秘匿, 実名報道等, 分かりやすく解説します。また, ネットとテレビの関係がどうなっていくのか, 考察します。将来テレビ局に就職したい人, 記者やディレクターになりたい人は是非履修することを勧めます。

成績評価方法:

- 平常点: 出席状況および授業態度による評価
- その他(映像制作10分)

質問・相談:

講義内容など質問はメールにて受け付けます。フジテレビ報道局経済部長安倍宏行まで hiroyuki.abe@fujitv.co.jp

新聞特殊講義 (春)(秋)

新聞報道と経済・社会

長谷部

剛

授業科目の内容:

新聞は社会についての広範で強い問題意識を提示する力を持ったメディアです。ネット時代になってもその役割はなくなるどころか, むしろ重要になります。新聞と経済・社会のかかわりを報道する側から考えていきます。

テキスト:

特に指定しません。新聞記事をベースに講義していきます。

参考書:

随時, 指定します。

授業の計画:

基本的に現実のニュースや報道に即して, 主に以下のテーマを取り上げます。随時, 日経新聞の第一線記者や編集委員を招き, 報道の現場がどう問題意識で新聞をつくっているか話してもらいます。

- 新聞はどう報道しているのか(ニュースの発掘, 連載企画, 社説)
- 新聞社による報道姿勢の違い
- 経済・社会の構造変化と報道
- ネット時代の新聞の役割
- 求められる記者像

履修者へのコメント:

新聞記者を志したくなるような講座を目指します。

新聞を読んで参加して下さい。(どの新聞でもかまいません)

成績評価方法:

- レポートによる評価
- 平常点: 出席状況および授業態度による評価

広告特殊講義 (春)(秋)

広告の今日的課題と可能性を探る。

小山

雅史

授業科目の内容:

広告とは, 「広告を作る」ことだけではありません。

広告とは, 企業がお客さまに商品・サービスを買っていただき, 喜んでいただけることをコミュニケーションの点からサポートするものです。

逆に言えば, 企業がお客さまに買っていただき, 喜んでいただくために関わるコミュニケーションは全て「広告」になる, ということです。本屋の手書きのPOPも, TVで流れる広告も, 家に送られてくるダイレクトメールも, 全て広告です。

情報量が飛躍的に伸びた昨今, その方法も複雑化しています。また, 企業がお客さまに買っていただき, 喜んでいただくために必要なステークホルダー(関係者)も多様化しています。この講座では今の時代に求められる広告とは何か, を考えていきます。

この講座は私が一方的にお話しする講座ではありません。受講するみなさんと一緒に考えていく講座です。なぜなら, みなさんは「今」の消費者です。だから, みなさんの中にこそ, 今の時代に求められる広告とは何か, という問いへの答えはあるはず。

一緒に考え, とともに創発し合い, 明日の広告とは何かを探しましょう。

テキスト:

特に使いません。資料は適宜配布します。

参考書:

授業内で適宜ご紹介いたします。

授業の計画：

春学期

1. オリエンテーション～コミュニケーションとは何か
2. 広告とはなにか～広告の基礎的理解
3. 広告代理店とはなにか～広告産業の基礎的理解
4. 変わる消費者，変わるマーケティング
5. 広告の今日的課題とは
6. マスメディアの可能性
7. インターネットメディアの可能性
8. モバイルの可能性
9. 情報の「信頼性」とは
10. ブランドとは
11. 「情報デザイン」という考え方
12. 情報を「デザイン」してみる
13. 情報を「デザイン」してみる

秋学期

1. ガイダンス～コミュニケーションにおけるアイデアって何だろう？
2. 「コミュニケーションアイデア」を考えてみる
3. 「コミュニケーションアイデア」を考えてみる
4. アイデアからメッセージングへ
5. 「企業の悩み」は解決できるのか？～複雑化する広告代理店の業務
6. 企業広告って何？
7. CSR と広告
8. 危機管理とマスコミュニケーション
9. 広告作りのフォロー
10. 実際に広告を作ってみよう
11. 実際に広告を作ってみよう
12. 実際に広告を作ってみよう
13. では、もう一度。広告の今日的課題とは

履修者へのコメント：

現在広告会社に勤め、広告コミュニケーションの最前線にいるものとして、広告コミュニケーションの面白さ、広告会社の課題などを現場の生の声を、実際の広告事例を交えながらお話していければと思っています。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・レポートによる評価

質問・相談：

授業中および電子メールにて適宜受け付けます。

メディア特殊講義（春）

メディアの未来～アナログからデジタルへ、メディアはどう変わるのか

坪田 知己

授業科目の内容：

新聞やテレビ，ラジオ，雑誌といったアナログメディアだけしかなかった時代から、インターネットに代表されるデジタルメディアが大きく発展する時代になりました。その変化の本質と将来への方向性を学びます。技術，社会，ビジネス，人間の4つの視野で、今後のメディア像を描いていきます。私の知識とビジネス経験を公開して、みんなで考えていく授業です。

テキスト：

講義資料は、プリントで配布します。

参考書：

アルビン・トフラー著「第三の波」(中公文庫)，ハワード・ラインゴールド著「新・思考のための道具」(パーソナルメディア)，相田洋ほか著「新・電子立国 1 ソフトウェア帝国の誕生」(日本放送出版協会)，相田洋ほか著「新・電子立国 6 コンピュータ地球網」(日本放送出版協会)，村井純著「インターネット」(岩波新書) など

授業の計画：

1. ガイダンス
2. メディアの変化について，総論とディスカッション
3. デジタルとは何か デジタルの原理，コンピュータの仕組みを概説します
4. 通信（特にインターネット）の仕組み
5. デジタルメディアを考えた人たちの系譜（MEMEX からの出発）
6. 中間総括 1
7. Web2.0 ブログ・SNS の可能性
8. デジタルメディアとマーケティング
9. ジャーナリズムとは何か（桐生悠々など）
10. 中間総括 2
11. デジタルに取り組む戦略（ゲスト講師を呼んで話を聞きます）
12. ユビキタス，アンビエントの時代の先にあるもの
13. 最終・まとめ

履修者へのコメント：

デジタルメディアの可能性について，広い視野で学んでいきます。技術の話はかみ砕いて説明しますので，文科系の人でも，よくわかるはず。議論をたくさんしますので，想像力を豊かにして，みんなで考えていきましょう。わくわくする授業を目指します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（学期の最後の最終レポートのほか，3 回ほどミニ

レポートの提出を要求します）

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（欠席は届けてください。出欠よりも，授業での発言内容を評価します）
- ・その他（メールでのやりとりが多いので，メールのチェックをきちんとやってください）

質問・相談：

質問・相談については，tomtsubo@gmail.com にメールをいただければ回答します。

メディア特殊講義（秋）

メディア・リテラシー

渡辺 真由子

授業科目の内容：

テレビ，新聞，広告などのメディアの作り手は，どのような「意図」のもとに情報を発信しているのか？メディアが社会の価値観に与える影響を認識し，情報を読み解くための能力（メディア・リテラシー）を，理論と実践を通して身に付けます。自らが情報の発信者となる場合も必要な能力です。

テキスト：

渡辺真由子著「オトナのメディア・リテラシー」(リベルタ出版)

参考書：

野沢尚著「破線のマリス」(講談社)

授業の計画：

(前半：理論編)

広告，報道，映画，インターネットといったメディアの背後にあるイデオロギーやジェンダー表現の問題を，先端のメディア・リテラシー理論に基づき読み解いていく。

(中盤：現場編)

マスコミ各界の関係者を招き，作り手としての「意図」を明らかにしてもらおう。

(後半：実践編)

企画の立て方，撮影やインタビューの仕方，編集テクニックなどを学び，自らが作り手となってミニ・ドキュメンタリーを制作する。

履修者へのコメント：

マスコミで働きたいですか？より良い社会を作るには，情報発信者にメディア・リテラシーが求められます。賢い受信者になりたい方も，ぜひ。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・その他（映像作品プレゼンテーションによる評価）

質問・相談：

授業終了時に受け付けます。

特殊研究（日本の近代化とマス・メディア）(春)

小川 浩一

授業科目の内容：

社会の状態を人々に伝え，市民の視点から権力批判を行う「ジャーナリズム」の機能が戦後日本の近代化に貢献したのか否かを現在の「ジャーナリズム」と現在の日本社会の問題点の検討を通じて明らかにしたい。

テキスト：

マクネア著 小川浩一 赤尾光史 監訳

「ジャーナリズムの社会学」(リベルタ出版)

橋本俊詔著「格差社会」(岩波新書)

参考書：

富永健一著「日本の近代化と社会変動」(講談社学術文庫)

橋本俊詔著「日本の経済格差」(岩波新書)

授業の計画：

- 1, 2. ジャーナリズムとマス・コミュニケーション
- 3, 4. ジャーナリズムの機能
- 5, 6. ジャーナリズムの今日的課題
- 7, 8. 日本ジャーナリズム略史
- 9, 10. 言論統制と言論自己規制
- 11, 12. テレビジョンの社会的機能
13. 現代日本におけるテレビと新聞の機能

履修者へのコメント：

テレビニュース，新聞記事を「分析」すること。批判は内容の分析が出来ないと意味がありません。想像力，創造力がないと権力に盲従することになります。

成績評価方法：

1. 試験の結果による評価
2. レポートによる評価
3. 平常点：出席状況および授業態度による評価
4. その他

授業科目の内容:

社会の状態を人々に伝え、市民の視点から権力批判を行う「ジャーナリズム」の機能が戦後日本の近代化に貢献したのか否かを現在の「ジャーナリズム」と現在の日本社会の問題点の検討を通じて明らかにしたい。

テキスト:

マクネア著 小川浩一 赤尾光史 監訳
「ジャーナリズムの社会学」(リベルタ出版)
橋本俊詔著「格差社会」(岩波新書)

参考書:

富永健一著「日本の近代化と社会変動」(講談社学術文庫)
橋本俊詔著「日本の経済格差」(岩波新書)

授業の計画:

- 14, 15. ポピュリズムと劇場型政治
- 16, 17. 現代日本の民主主義
- 18, 19. 日本社会の階層性
- 20, 21. 階層間格差とエリート
- 22, 23. ジャーナリストと階層
- 24, 25. 日本の近代化におけるジャーナリズムの貢献
26. 日本のジャーナリストの特徴

履修者へのコメント:

前期から引き続いた内容です。戦後日本のジャーナリズムの実感とそれが先進国では同様の事態になりつつあることを概観します。そして、ジャーナリズムの在り方を再考します。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・その他

授業科目の内容:

政府では現行の通信・放送法体系を見直し、新たに情報通信法を2010年の国会に提出すべく検討が進められている。

本授業は、この動きを参考にし、通信・放送の融合の進展に対応した通信・放送法体系の見直しの具体像について考察する。

テキスト:

次の資料は各自ダウンロードしておくこと。
「通信・放送の総合的な法体系に関する研究会報告書」
(http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/pdf/071206_2_bs2.pdf)
「通信・放送の総合的な法体系の見直しについて(中間論点整理)」
(http://www.soumu.go.jp/s-news/2008/080613_11.html)
その他適宜配布資料があります。

参考書:

多賀谷一照・岡崎俊一・岡崎毅・豊嶋基暢・藤野克著、「電気通信事業法逐条解説」(電気通信振興会, 2008年, 4935円)
金澤薫著、「放送法逐条解説」(電気通信振興会, 2006年, 5040円)
今泉至明著「電波法要説」(第6版改訂版)(電気通信振興会, 2008年, 3780円)

授業の計画:

1. オリエンテーション(1回)
2. 政府における情報通信法策定の状況(1回程度)
3. 現行の通信・放送法体系の習得(各自の発表, 講評, 討論による習得)(4回程度)
4. 通信・放送法体系の見直しの論点抽出(3回程度)
5. 情報通信法案骨子の策定(4回程度)
1, 2回程度, 政策担当者を交えた講義・討論を実施する予定。

履修者へのコメント:

本授業は本年度のみ行う。
本授業は現行の通信・放送の法体系を理解した上で、その見直しの方向性を研究することを主にします。

授業は各自の学習成果の発表を中心に授業を進めます。情報通信法制を積極的に学ぶ意欲のある学生の履修を期待します。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況及び授業での発表による平常点。
- ・レポートによる評価。

質問・相談:

質問は、メール(m-toyo@mediacom.keio.ac.jp)で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

授業科目の内容:

現代の若者文化におけるメディアの役割について考察します。社会学やメディア・スタディーズの先行研究にもとづく講義・発表を中心に、さまざまな事例についてディスカッションを行います。

テキスト:

授業中に指定します。

参考書:

授業中に指定します。

授業の計画:

1. 若者のナショナリズムとインターネット
2. 若者とファッション
3. 女性誌と女性像・結婚観の変化
4. ケータイ・コミュニケーション
5. ファンカルチャー
6. エコとライフスタイル

以上を中心に、受講生の関心にもとづくテーマを取り上げていく予定です。

履修者へのコメント:

受講者は自分の関心にもとづいて、フィールドワークを行います。参加型の授業なので、積極的な学生を歓迎します。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(個人またはグループ発表 70% ディスカッションへの参加 30%)

授業科目の内容:

本講義は、研究所主催のインターンシップである。
春学期は、討論形式による各産業の歴史、構造、動向及びインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。
秋学期には、インターンシップ参加の報告及びレポートを提出する。

なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習を登録し、インターンシップに参加できる。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画:

1. 春学期
オリエンテーション
産業別のグループ発表と討論
(映像ビジネス, 広告, 放送, 出版, 新聞, 通信等)
まとめ
(なお、研修先は、7月上旬頃に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているので履修者全員が研修に参加できるわけではない。)
2. 秋学期
夏休み研修期間での実習を10回分の講義と認定する。
研修成果報告会を行い、秋学期の平常点とする。

履修者へのコメント:

本年度はこれまでと授業の運営方法を一部変えます。詳細は、第1回目の授業で説明します。

履修希望者(前年度にメディア産業実習を履修し、本年度を履修する者を含む。)は、第一回目の授業で実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法:

- ・春学期:グループ発表及び討論への貢献度を含めた平常点による評価
- ・秋学期:夏休み期間中の企業研修と研修成果の発表及びレポートによる評価

【基礎演習】

授業科目の内容:

英字新聞を通して時事英語を学ぶとともに、英字新聞の仕組み、特徴などについても理解を深めることを目標とします。時事英語だけでなく、時事問題、英文ジャーナリズムについて学びます。春学期では、身近な題材を取り上げ、英字新聞に親しみます。

テキスト：

- ・小冊子「英字新聞を楽しもう デイリー・ヨミウリの魅力」
- ・日刊英字新聞「The Daily Yomiuri」(毎回配布予定)
- ・講義資料プリント

参考書：

- ・最新ニュース英語辞典 (東京堂出版, 2005 年, 2600 円)

授業の計画：

オリエンテーション

英字新聞のルール, 仕組み

英文記事の基本・読み方

基本的英文記事の作成

ニュース英語語彙の養成

まとめ

読売新聞社見学およびゲストをよんでの授業も計画

履修者へのコメント：

- ・授業には辞書を持参して下さい。
- ・英字新聞を読んだことのない方も是非チャレンジして下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業後およびEメールで受け付けます。

時事英語 (秋)

ニュース英語に親しむ (中～上級編)

宮川 美樹子

授業科目の内容：

日本で発行されている英字新聞および海外の英字新聞、雑誌を教材に時事英語、時事問題、英文ジャーナリズムについて学びます。秋学期では、分野別に記事を取り上げ、より高い記事読解力、ライティング能力の養成も目指します。

テキスト：

- ・小冊子「英字新聞を楽しもう デイリー・ヨミウリの魅力」
- ・日刊英字紙「The Daily Yomiuri」を主な教材に使用 (毎回配布予定)
- ・講義資料プリント

参考書：

- ・最新ニュース英語辞典 (東京堂出版, 2005 年, 2600 円)

授業の計画：

オリエンテーション

英字新聞のルール, 仕組み

英文記事の基本・読み方

英字新聞の授業を分野別に読む (政治, 経済, 社会, 環境など)

より高度な英文記事の作成

ニュース英語語彙の養成

まとめ

読売新聞社見学, ゲストを呼んでの授業も計画しています。

履修者へのコメント：

- 授業には辞書を持参して下さい。
- 春学期の簡単な復習から始めますので、春学期の授業を取っていない生徒も歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

講義後ならびにEメールで受け付けます。

文章作法

作文を書いてみよう

稲井田 茂

授業科目の内容：

受講生に作文を月1本のペース、年間8本執筆してもらい、添削する。「自分の考えを正確に伝える」「興味をもって読んでもらえる」文章を基本に日本語を書く上での特性、注意点を知らせよう。入社試験に活用できるものとする。

参考書：

- 記者ハンドブック (共同通信社)

授業の計画：

1. ガイダンス (1 回)

2. 月1本のペースで作文を執筆してもらい。5月, 6月, 7月, 夏休み, 10月, 11月, 12月, 冬休みで計8本。講義では添削した内容を説明するとともに、日本語を書く上での注意点、日本語の特性を知ってもらい。受講生は自分の作文を披露してもらい、他の人の書いた作文を批評してもらい。

3. ニュースとなっている時事問題について解説。学生は時事用語の解説を書く訓練もする。

4. 春期は基礎、秋期は応用となります。通年で授業を受講するようにして下さい。

履修者へのコメント：

作文を書くことから授業は始まります。自分の考えを文章で相手にう

まく伝える訓練の場としてとらえてください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価 (作文の提出による評価)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価 (時事用語の解説の提出による評価)

取材論 (春)

どのようにして情報を集め、どんな記事を書くのか。

臼井 敏男

授業科目の内容：

題材を選ぶ方法、情報の集め方、インタビューの仕方、原稿の書き方などを、新聞記者としての体験や失敗をまじえてお話しします。

テキスト：

講義のつどレジメや資料を配ります。

参考書：

日々の新聞を題材に話すこともあるので、新聞を丁寧に読んでください。

授業の計画：

1 回 記者の仕事の楽しさ、つらさ、むずかしさ。

2 回 「取材力のあるなし」とは何か。

3 回 記者の仕事は日々の出来事を記すのか、歴史を刻む作業なのか。

4 回 相手にだまされない取材とは何か。

5 6 回 取材の準備。どうやって題材を選び、問題を探すのか。どのようにして情報を集め、仮説を立てるのか。

7 9 回 取材から執筆へ。いいインタビュー、悪いインタビューとは何か。どのようにしてメモを取るのか。情報の取捨選択の仕方とは何か。どうやって書いていくのか。

10 11 回 取材の落とし穴はどこにあるのか。記者として、やっつけられないこととは何か。取材先との間合いをどう取るのか。

12 回 実際の記事から取材力のあるなしを読み取る。

13 回 全体のまとめ。

履修者へのコメント：

取材力とは、質問力であり、互いの意思を通じ合わせる力でもありません。一方的な講義ではなく、双方向的な時間にしたいと思っています。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

講義中の活発な質問を期待しています。それでも時間が足りなければ、講義後も引き続き、質問を受けます。

取材論 (秋)

どのようにして情報を集め、どんな記事を書くのか。

臼井 敏男

授業科目の内容：

春学期の講義を踏まえ、メディアの抱える問題にどう向き合うかを考えるとともに、模擬的な取材やインタビューを通して実際に原稿を書いてもらおうと思っています。

テキスト：

講義のつどレジメや資料を配ります。

参考書：

日々の新聞を題材に話すこともあるので、新聞を丁寧に読んでください。

授業の計画：

1 2 回 メディアスクラムやプライバシー侵害の批判にどうこたえるか。取材方法をどう変えていくのか。

3 回 「取材源を守る」とはどういうことか。

4 回 裁判員制度の下で、何をどう取材するのか。予断を持たせない記事をどのようにつくっていくのか。

5 回 ネット時代に取材はどう変わってきたのか。今後、どんな取材に力を入れていくべきなのか。

6 7 回 記者会見の記録や発表資料をもとに実際に原稿を書いてみる。

8 10 回 模擬的な取材やインタビューをもとに原稿を書いてみる。

11 12 回 優れた文章とは何か。その必要条件とは何か。文章論の側から、どんな取材が必要かを考える。

13 回 総括。

履修者へのコメント：

取材力とは、質問力であり、互いの意思を通じ合わせる力でもありません。一方的な講義ではなく、双方向的な時間にしたいと思っています。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

講義中の活発な質問を期待しています。それでも時間が足りなければ、講義後も引き続き、質問を受けます。

時事問題 (春)

現代社会を考える

箕輪 幸人

授業科目の内容：

事件・事故などの社会情勢を通じて、今を考える視点を学ぶ。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

授業の中で適宜紹介します

授業の計画：

授業の前の週におきたこと、授業の週におきたこと、もしくは、おきることに、基本的な事実をおさえた上で、問題点や課題を考えていく。

履修者へのコメント：

社会の動きに敏感な人、考え方の柔軟な人を歓迎します。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価

時事問題 (秋)

現代社会を考える

箕輪 幸人

授業科目の内容：

社会情勢を通じて、多面的な見方を学ぶ。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

授業の中で適宜紹介します

授業の計画：

授業の前の週におきたこと、授業の週におきたこと、もしくは、おきることに、基本的な事実をおさえた上で、問題点や課題を考えていく。

履修者へのコメント：

前期と同様に、社会の動きに応じて学習していきます。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

映像コンテンツ制作 (春)

映像を通して伝える。

金山 智子

授業科目の内容：

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきました。本講義では、(1) 映像メディアコンテンツの批評と(2) 制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身につけることを目標としています。

テキスト：

特に使いません。

授業の計画：

講義は大きく3つの部分から構成されています。

1. 映像撮影や編集機材の使用法を学ぶ。
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
2. 映像作品を読み解く。
普通の市民やアマチュアが制作した“すぐれた映像作品”を分析し、「誰に何をどのように伝えるか」という意味での、メッセージ伝達について考えます。
3. 映像コンテンツを制作する。
個人(または少人数グループ)で、企画、構成、取材、撮影、さらに編集加工といった一連の映像制作過程を体験してもらい、映像によるコミュニケーションを身につけてもらいます。

履修者へのコメント：

単なる映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、映像コンテンツ制作は、クラス授業時間外での作業が必要になります。

成績評価方法：

授業参加(50%) 課題作品(50%)

映像コンテンツ制作 (秋)

映像取材と伝送

杉 沼 浩 司

田 辺 浩 介

授業科目の内容：

取材形式の映像制作と、編集、伝送の基礎を学びます。特に、HDTV

時代の機材について、その能力を引き出し適切な使い分けを行うための基礎知識を座学と実習を通して習得します。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

CG-ARTS 協会「入門マルチメディア」

授業の計画：

1. 装置の基礎
2. 取材計画の構築
3. 取材実習
4. 編集の基礎
5. 伝送の基礎
6. 伝送実習
7. 編集実習
8. 発表と討論

上記内容を、各週または複数の週にまたがって実施します。

履修者へのコメント：

ドキュメンタリーではなく、現場レポート的な短編の制作を目指します。取材実習は学外環境での実施を計画しています。社会人としての行動が求められますので留意してください。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価(最終発表を経た作品があれば、それを加算要素とします)

質問・相談：

連絡方法は授業時に示します。

メディア・ネットワーク実習 (春)

コンピュータ・ネットワークの基礎知識

田 辺 浩 介

授業科目の内容：

現代において行われる個人や企業のさまざまな社会活動は、すでにコンピュータ・ネットワークなしでは成り立たなくなっています。この実習ではコンピュータ・ネットワークそのものについての基礎的な知識を身につけることによって、それらの活動への理解を深めることを目的とします。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に適宜指示します。

授業の計画：

- ・コンピュータの構造
 - ・ハードウェア・ソフトウェア
 - ・コンピュータ・ネットワークの仕組み
 - ・TCP/IP
 - ・DNS・Web・電子メール
 - ・デジタル化されたデータ
 - ・音声・画像
 - ・データの圧縮
 - ・セキュリティ
 - ・暗号化・署名
 - ・インターネットでの映像配信
 - ・企画と実習
 - ・まとめ
- 講義の中で数回、課題やレポートを出します。

履修者へのコメント：

コンピュータそのものについての知識は問いませんが、自分の関心のある分野とコンピュータ・ネットワークの関わりについて考える気持ちを持ってください。

成績評価方法：

・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時電子メール(tanabe@mwr.mediacom.keio.ac.jp)、ならびに授業のWeb ページで受け付けます。

メディア・ネットワーク実習 (秋)

Web アプリケーション制作の実習

田 辺 浩 介

授業科目の内容：

みなさんは日常生活において、ブログや SNS をはじめ、多くの Web アプリケーションを利用していると思います。この講義ではプログラミング言語 Ruby を用いて、Web アプリケーションを自分で制作するための実習を行います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・Dave Thomas ほか著・前田修吾監訳「Rails によるアジャイル Web アプリケーション開発 第2版」(オーム社)

授業の計画：

- ・Ruby でのプログラミングの基礎知識

- ・データの入力と出力
- ・データの制御
- ・データベースの操作 (SQL)
- ・自分の作るアプリケーションを企画する
 - ・掲示板・ブログ・SNS・ブックマーク
 - ・WebAPI
- ・各自の作品の発表とまとめ

講義の中で数回課題を出します。

履修者へのコメント：

- ・プログラミングの経験は問いませんが、一回あたりの進捗が早いので、欠席しないようにしてください。
- ・講義や課題でわからない点がありましたら、遠慮なく質問してきてください。「質問する」ことは授業への積極的な参加として評価します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価 (講義内での課題と最終発表)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時電子メール (tanabe@mwr.mediacom.keio.ac.jp), ならびに授業の Web ページで受け付けます。

斯道文庫

附属研究所斯道文庫は、日本および東洋の古典に関する資料の蒐集保管並びにその調査研究を行う研究機関として、慶應義塾創立 100 年に際し、麻生太賀吉氏より寄贈された財団法人斯道文庫の蔵書約 7 万冊をもとに、昭和 35 年に設立されました。現在では、文庫長の他、6 名の専任教員と、4 名の事務職員、研究嘱託若干名のスタッフを擁し、貴重な古典籍を数多く含む 14 万冊以上の蔵書を有しています。

文庫員は、日本国内はもとより海外まで和漢の書物のある場所に直接赴き、現物に当たって調査し、それらをマイクロフィルムカメラやデジタルカメラで撮影するなどして、書誌学的方法による研究を行っています。書誌学とは、書物を対象として、その形態や内容について科学的・実証的に研究する学問で、独立した存在ではありませんが、書物を利用する全ての学問の補助学としても応用できるものです。

近年のデジタル技術の発展に伴い、インターネット等を通して図書を画像によって提供することが一般化し、その画像の有する情報を正しく理解することが重要となってきましたが、そのためには書誌学の知識を有することが必要です。そこで、斯道文庫では、文学に限らず和漢の書物を利用する諸分野の研究にも役立つ、書誌学の基礎知識を身に付ける為の講座を開設することとしました。斯道文庫には、文学研究科の大学院生を対象として、書誌学的研究能力を養成するための講座も設けられていますが、この設置講座で主として学部生を対象とするのは、書誌学が経験学としての側面を有する学問であるだけに、できるだけ早い時期に学び始めることが望ましいからです。

古い書物は、その本が生まれた時代の文化を伝えるタイムカプセルであり、それらを直接手に取ることによって、その時代の人や文化を感じ取ることができます。そのような喜びを味わい、自分の勉強に活かしてみたいと考える学生の履修を斯道文庫では希望しています。

・履修上の注意 慶應義塾大学の各学部生・院生が対象ですが、履修の取扱いについては、所属する各学部・研究科の履修案内でよく確認のうえ、履修申告を行ってください。

書物と文化 (春学期)(2 単位)

日本の書物：その歴史と種類を学ぶ

斯道文庫准教授 佐々木 孝 浩

授業科目の内容：

古典文化は書物によって伝えられてきました。いわば書物は文化の器であるわけですが、その器の形状や種類によって、盛られるものに違いがあることは、あまり意識されることがありません。遠回りの様でも、書物の特徴や特性を学んでおけば、書物の内容を学ぶ際に、通常の視点では得られない多くの情報を得ることができます。この講義では、書物とはどういうものなのかを、特に日本の書物を対象として、その歴史と種類を理解することを目的として、できるだけ多くの現物に触れつつ、判りやすく講義していきます。

テキスト：

藤井隆『日本古典書誌学総説』(和泉書院, 2100 円)

参考書：

開講時に説明します。

授業の計画：

- 第 1 回 書物の扱い方についての注意
- 第 2 回 書物の歴史
- 第 3 回 書物と紙 1
- 第 4 回 書物と紙 2
- 第 5 回 日本の書物の種類 1
- 第 6 回 日本の書物の種類 2
- 第 7 回 日本の書物の種類 3
- 第 8 回 日本の書物の種類 4
- 第 9 回 日本の書物の種類 5
- 第 10 回 書物の変身 1

第 11 回 書物の変身 2

第 12 回 まとめ 1

第 13 回 まとめ 2

履修者へのコメント：

日本の紙や書物は世界でも類のない美しさと多様さを持っています。日本の本の美しさや面白さに興味のある方の履修を希望します。所属は無関係ですし、予備知識も特に必要ありません。ただし、書誌学の知識は相互に関連性を有していますので、欠席しないことを強く望みます。

成績評価方法：

レポートによる評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時受け付けます。

書物と文化 (秋学期)(2単位)

日本の書物：情報伝達媒体としての役割

斯道文庫准教授 佐々木 孝 浩

授業科目の内容：

書物は文化の器です。今日風に言うと、情報伝達媒体ということになります。フロッピーやCD、DVD、USBメモリー等々に様々な特性があるように、保存する内容に応じて、書物の形態が選択されました。書物の内容と形態の関係は、余り注目されることはありませんが、それだけにそのことを知っている、書物の内容を研究する際に、新たな視点を有することができます。この講義では、日本の書物の形態と内容にどのような関係があり、それを知ることがどのような役に立つのかを、できるだけ多くの現物に触れつつ、判りやすく講義していきます。併せて、書物を研究する方法をも履修者の目的意識に即して説明します。

テキスト：

藤井隆『日本古典書誌学総説』(和泉書院、2100円)

参考書：

開講時に説明します。

授業の計画：

- 第1回 書物の扱い方についての注意
- 第2回 日本の書物の種類の確認1
- 第3回 日本の書物の種類の確認2
- 第4回 書物の形態と内容の関係1
- 第5回 書物の形態と内容の関係2
- 第6回 書物の形態と内容の関係3
- 第7回 書物の形態と内容の関係4
- 第8回 書物の形態と内容の関係5
- 第9回 書物の形態と内容の関係6
- 第10回 書物研究の方法1
- 第11回 書物研究の方法2
- 第12回 まとめ1
- 第13回 まとめ2

履修者へのコメント：

書物と文化 から引き続いての履修を希望します。やはり欠席すると全体を理解することがむずかしくなりますので、欠席しないことを強く望みます。

成績評価方法：

レポートによる評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時受け付けます。

書物文化史研究 (春学期)(2単位)

中国の書物と文化

斯道文庫教授 高 橋 智

授業科目の内容：

中国における書物と歴史の関わりについての概要を講義する。漢字文化は中国独自の文字文化であり、大陸周辺国家に多大な影響をもたらし、今日に至っている。中国では、文字文化が、古来、政治経済など、人間社会の規範をも作り出してきたと考えられている。文字文化の象徴である、その書物とはどんなものなのか、そしてどんな歴史を展開してきたのか。書物を大きな枠組みでとらえてみよう。

テキスト：

特になし。随時プリントなど配布する。

参考書：

米山寅太郎『図説中国印刷史』(汲古書院・平成17)

授業の計画：

- 第1回 古代中国と知識の拡大
- 第2回 文献の意味
- 第3回 為政者と書物
- 第4回 為政者と書物
- 第5回 書物爛熟の時代
- 第6回 書物爛熟の時代
- 第7回 書物衰退の時代
- 第8回 書物衰退の時代
- 第9回 書物再生の時代
- 第10回 書物再生の時代
- 第11回 書物を支えた人々
- 第12回 書物を読んだ人々
- 第13回 まとめ

履修者へのコメント：

成績評価方法：

通常の出席と最後に試験を行います。

質問・相談：

随時応じます。

書物文化史研究 (秋学期)(2単位)

書物文化学の技法

斯道文庫准教授 住 吉 朋 彦

授業科目の内容：

書物は、思考の容れ物であるばかりか、失われた言語生活を伝える遺品でもあり、個人の生涯を越えて受け継がれる財産でもある。書物をめぐる文化現象は一通りではなく、様々の角度から探るべき、多くの側面を含んでいる。また、こうした文化の核となった書物そのものは、あたかも生命のある如く、その姿を少しずつ変え、自らの複製を繰り返してきた。そこで私たちが、多様な書物文化を探って、人間社会の一端を垣間見ようとする時、書物自体をしっかりと捕まえ、その生態を捉えるための技法が求められる。

この講座では、東洋の書物を事例として、書物文化を解き明かす三つの技法を紹介し、その世界を見通すための座標を提示してみたい。

- 一、書物の外見 直感的分類学の効用
- 一、書物の親族調査 本文変容の跡をたどる
- 一、求めることと、蓄えること 書物の集散を考える

テキスト：

特に使用しない。

参考書：

講義の中で、内容に応じて紹介する。

授業の計画：

- 第1~2回 東洋に伝わる書物の様相を、広く紹介する。
- 第3~5回 書物の外見を捉え、整理研究への糸口をつかむ。
- 第6~8回 複製された本文の変容を捉え、その振幅を測る。
- 第9~11回 集散する書物群の全体を捉え、社会的意味を考える。
- 第12~13回 東洋における書物文化の、全貌を見通す可能性を検討する。

(上記の回数は、大まかな目安です。)

履修者へのコメント：

書物文化学の技法を論じ、人文学の基礎工程について考えてみるつもりです。

成績評価方法

試験の結果による評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談

適宜応じます。

体 育 研 究 所 (三田設置)

(体 育 科 目)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉 J11 番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A(ウィークリー・スポーツ)が、6科目(テニス、バレーボール、合気道、弓術、剣道、柔道)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

(1) 体育学講義 (2単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。

(2) 体育学演習 (1単位)..... 講義+実習による演習形式の授業。

(3) 体育実技 A (1単位).....「身体活動」実技 A~Dの4段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

体育実技 A の成績評価方法は 100 点満点のうち、出席点が 60 点。欠席は 1 回につき 5 点減点、遅刻は 1 回につき 3 点減点します。評価対象者は全授業回数の 2/3 以上出席した者です。残りの 40 点を各授業担当者が技術・態度・理解の観点で配分します。

(4) 体育実技 B (1単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

ウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツの概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ.....週1回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ.....夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 三田設置科目履修申告までの流れ

4月7日(火)

体育科目ガイダンス(三田)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。

1限および2限 512番教室(いずれの時限も同内容)

4月4日(土)
~15日(水)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 第5校舎

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間	9:00~15:30	受付時間	9:00~15:30
4月4日(土)	男子	4月11日(土)	女子
5日(日)		12日(日)	
6日(月)	女子	13日(月)	男子
7日(火)	男子	14日(火)	女子
8日(水)	女子	15日(水)	男子 11時終了
9日(木)	男子		
10日(金)	男子		

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができませんのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口へ申し出てください。

授業開始時までに健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月8日(水)
~10日(金)
・13日(月)
・14日(火)

体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い、第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために、各日12時30分から14時まで、三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが、発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は、その場で抽選を行い、定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月10日(金)
16:00
~16日(木)
10:00

Webによる履修申告期間

学事Webシステムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は、履修申告すれば、必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても、履修申告はして構いません。ただし、許可証取得者が優先され、それでも定員に不足が生じた場合に限り、未取得者の中で抽選が行われます。

4月22日(水)

履修者数調整結果発表

9:00 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板
10:30 三田 西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける、定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには、体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し、定められた期間に学事センターで修正申告を行なってください。

5 日吉設置科目履修申告までの流れ

**4月6日(月)
・7日(火)**

体育科目ガイダンス(日吉)
体育科目の履修を希望する場合は、履修案内、講義要綱・シラバス、体育科目時間割を持参のうえ出席してください。
4月6日 9:00 DB201・DB202・DB203 番教室
7日 14:45 DB201・DB202・DB203 番教室

**4月4日(土)
~15日(水)**

定期健康診断を受診(日吉)
実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)
実施場所: 第5校舎

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口に出してください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

**4月8日(水)
~10日(金)
・13日(月)
・14日(火)**



体育科目ガイダンス週間(日吉)
体育科目の時間割どおりに実施します。
ただし、実技科目はこの期間のみ、すべて日吉記念館スタンドで行います(時間割の実施場所ではありません)。
各時限とも同一内容のガイダンスを、前半・後半の2回行います。
シーズン・スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館(総合案内)で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場 所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館(総合案内)

レベルの高低や、自己の都合などによる履修の取消、変更はできません。


**4月10日(金)
16:00
~16日(木)
10:00**

Webによる履修申告期間
学事 Web システムによる履修申告が必要です。
履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。
各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。
秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

 4月22日(水) 	履修者数調整結果発表		
	9:00	日吉	第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板
	10:30	三田	西校舎共通掲示板

体育実技 A, 体育実技 B, 体育学演習では, 履修希望者が定員を上回った場合, 抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は, 履修の可否を必ず確認してください。ただし, 体育学講義は, 抽選による履修者数の調整は行いません。

シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット, 水泳(オープンウォータースイミング)の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

4月22日(水) ~5月11日(月) 5月7日(木) ・8日(金) ・11日(月) 	追加履修について		
	履修調整の結果, 定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。		
追加履修は抽選で外れた場合のみ, 外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。			
追加履修するためには, 体育研究所許可証の取得と, 修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。			
履修調整結果を再確認し, 誤りのないようにしてください。			

体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について, 以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月22日(水) 9:15~11:30, 12:30~16:00	体育研究所
4月24日(金) 9:15~11:30, 12:30~16:00	
4月27日(月)~5月11日(月)(平日のみ) 受付時間 8:45~16:45 (最終日 16:00終了)	日吉学事センター総合窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は, 必ず22・24両日中に体育研究所許可証を取得してください。27日以降は取得できません。

修正申告の手続き

で受け取った体育研究所許可証を持参し, 定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

いずれの手続が不足しても追加履修はできません。また, 所属する学部が追加履修を認めていない場合は, 行っても修正申告の手続はできません。

6 シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち, 以下の合宿形式7科目については, 指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目 アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・
馬術・ヨット・水泳(オープンウォータースイミング)

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月22日(水)~5月11日(月)	8:45~16:45	日吉学事センター総合窓口(納入用紙交付)

上記科目は, 履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は, 総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は, 履修放棄として取扱います。(DまたはF評価)

(2) 実技費用納入締め切り後, なお人員に余裕がある科目については, 追加履修を受付けます。

体育実技 A（ウィークリー・スポーツ）

球技

体育実技 A（テニス） 月曜 1 限
（上級）

堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

綱町グラウンドテニスコート（屋外）

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット、シューズ（ハードまたはオールコート用）

〔参考書〕

「テニスはここから楽しくなる」情報センター出版局 堀場雅彦著

〔授業の計画〕

1 限（90 分）の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ、フォア・バックハンドストローク

30 サービス、シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペアーボレーボレー

50 ダブルスゲーム、MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週、毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが、参加者数により、ラリー（クロス・ストレート）、シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に、以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。

1～3 週：腕の振り

4～6 週：身体のバランス

7～10 週：足捌き（フットワーク）

11～13 週：総括および戦術

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて、全世界 120 개국以上に普及した国際的スポーツです。また、国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も、5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ、腕を競い合っています。正にグローバリゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に、是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し、その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。）

体育実技 A（テニス） 火曜 1 限
（初中級）

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

〔授業の計画〕

2 回をセットとして、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。3 回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技 A（テニス） 火曜 2 限
（中上級）

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得ならびに、テニスにおける戦術の指導。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレー、スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。実践的な練習が多い予定。雨天時は当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技 A（テニス） 金曜 1 限
（初級）

村松 憲

〔授業科目の内容〕

テニスを楽しむために必要な技術・エチケット・ルールを身につけます。実施場所は綱町グラウンド（屋外ハードコート 1 面、三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度）です。準備していただく物は、テニスシューズ、テニスラケット（シューズ、ラケットの貸し出しはありません）、運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが、履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1～2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3～6 回目 ボレー、サービス、グラウンドストローク、スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習、ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また、少し経験はあるけれども基礎を確認したい、という方も歓迎します。かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが、あくまで、初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので、あらかじめご理解下さい。授業は定刻（9 時）に開始します。綱町武道館で更衣を完了した上でテニスコートに来てください。2 限に授業がある方を考慮し、多少早めに終了します。なお 4 月のガイダンスはテニスコート上でなく、綱町武道館にて行います（ガイダンス当日はラケットや更衣は不要です）

〔成績評価方法〕

出席点が 60 点、技術点が 10 点、態度点が 15 点、理解点が 15 点です。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A（テニス） 金曜 2 限
（中級）

村松 憲

〔授業科目の内容〕

試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。エチケット、ルールを再確認します。実施場所は綱町グラウンド（屋外ハードコート 1 面、三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度）です。準備していただく物は、テニスシューズ、テニスラケット（シューズ、ラケットの貸し出しはありません）、運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが、履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

- 1～3回目 サービス、ボレー、グラウンドストローク、スマッシュ、リターン等、基礎技術の確認と練習
- 4～6回目 回転をかけるサービス、ジャンピングスマッシュなど、試合を有利にする上で役立つ応用技術の確認と練習
- 7回目以降 クロスコートでのサービスからのポイント形式練習、ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

このクラス（中級）では、技術レベルも成績評価の対象とします。また、実践形式を多く行います。したがって、「打ち合いで安定して10往復以上続けることができる（相手が打ちやすいボールを出してくれた場合）こと」が難しい方にはおすすめでできません。授業開始時刻は、1限に授業がある方を考慮し、10時50分を予定しています。綱町武道館で更衣を完了して、テニスコートに来てください。なお4月のガイダンスはテニスコート上でなく、綱町武道館にて行います（ガイダンス当日はラケットや更衣は不要です）。

〔成績評価方法〕

出席点が60点、技術点が15点、態度点が15点、理解点が10点です。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技A（バレーボール） 木曜1限・2限

石手 靖

〔授業科目の内容〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装・屋外シューズ

〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上（4回）
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解（4回）
サーブレシーブ時等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践（5回）
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。ゲームで活用できるような個人技能のレベルアップ。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、態度（20%）、理解（20%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

武道

体育実技A（合気道） 木曜2限

心が身体を動かす

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と身体からだの正しい使い方しんしんとういつ（心身統一）を習得する。

心身統一を日常生活で活用できるように習得する。

大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を習得する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

道着は貸与。Tシャツ（女子のみ）・タオル（汗をふくため）・道着を持ち運ぶバッグ等。

〔授業の計画〕

半期前半

- ・合気道基本技
- ・心が身体を動かす（心身統一）
- ・正しい姿勢（自然に安定した姿勢）
- ・安全な受身と間合い

半期後半

- ・合気道応用技
- ・正しいリラックス（虚脱状態との違い）
- ・大切な場面での心の落ち着き

・危険に対する察知と対

春学期と秋学期ではテーマは同じですが、内容は異なります。

半期が基本ですが、通年で履修をすると理解がさらに深まります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から確実にお伝えしますので、合気道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ますが、しっかりとした習得には通年で履修をおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技A（弓術） 火曜1限・2限

円谷 洋一

〔授業科目の内容〕

ウィークリースポーツとしての弓術の授業は、経験者（熟達者・初心者）と未経験者の3タイプに分けて行います。

経験者には、射法・射術の向上と、武道姿勢・礼節の習熟を学んでいただきます。

未経験者には基本弓術の習得を通じ、親しみ・理解を深めると共に、武道ならではの姿勢・礼節の意義を学んでいただきます。

〔テキスト〕

「諸注意事項」「慶應弓術の歩みと特徴」「武道姿勢・礼節の基本」「射法・射術解説」を記した、『指導テキスト』を作成。（A4 サイズ数ページ）

〔授業の計画〕

- 1 オリエンテーション...「諸注意」「道場内における武道姿勢・礼節」等
映像を使用した「和弓の特性」「射法・射術」解説
<経験者>の習熟レベル判断
- 2 <経験者> 的前練習...射法・射術の修正指導 以降12回まで継続指導
<未経験者> 射法基礎...素引き練習
- 3～5 <未経験者> 射法基礎...素引き練習・ゴム弓練習
- 6～9 <未経験者> 的前(近距離)練習 8限まで継続練習
- 10～12 <未経験者> 的前練習...射法・射術の修正指導
- 13 成果披露
まとめとしての講評

〔履修者へのコメント〕

弓術の楽しさと共に奥深さを感じていただければと、考えています。服装は、弓道着でなくとも、運動の出来る服装（前ボタンや胸ポケットのないもの）であれば自由です。靴下または足袋を必ず着用してください。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価

体育実技A（剣道） 水曜2限・3限

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）・手ぬぐい

剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- 1 ガイダンス剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎
- 2 素振りのバリエーション 五行の構え 对人的足さばき
- 3 基本の復習 日本剣道形の導入・1本目
- 4 日本剣道形1～2本目 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方
- 5 日本剣道形1～3本目 基本的な技の打ち方 防具の着け方
- 6 日本剣道形1～4本目 手の内の冴えについて 正中線の意味切り返し
- 7 日本剣道形1～5本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形1～6本目 連続技(二・三段打ちの技)払い技 巻き技
- 9 日本剣道形1～7本目 応じ技(すり上げ技・返し技)
- 10 日本剣道形1～7本目 応じ技(抜き技・打ち落とし技)
- 11 日本剣道形小太刀1～3本目 出頭技

12 日本剣道形復習試合規則の確認 試合形式の実践

13 紅白試合まとめ

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、对人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席60%、技術10%、態度20%、理解10%の割合で点数化して評価する。

体育実技A（柔道） 月曜2限・3限

（初心者、経験者を問わない～男女共習）

安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方をより深く解説する。また、見る柔道の立場から、国際国内ルールを説明する。更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（柔道場）

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する）、タオル、Tシャツ（女子のみ）

〔授業の計画〕

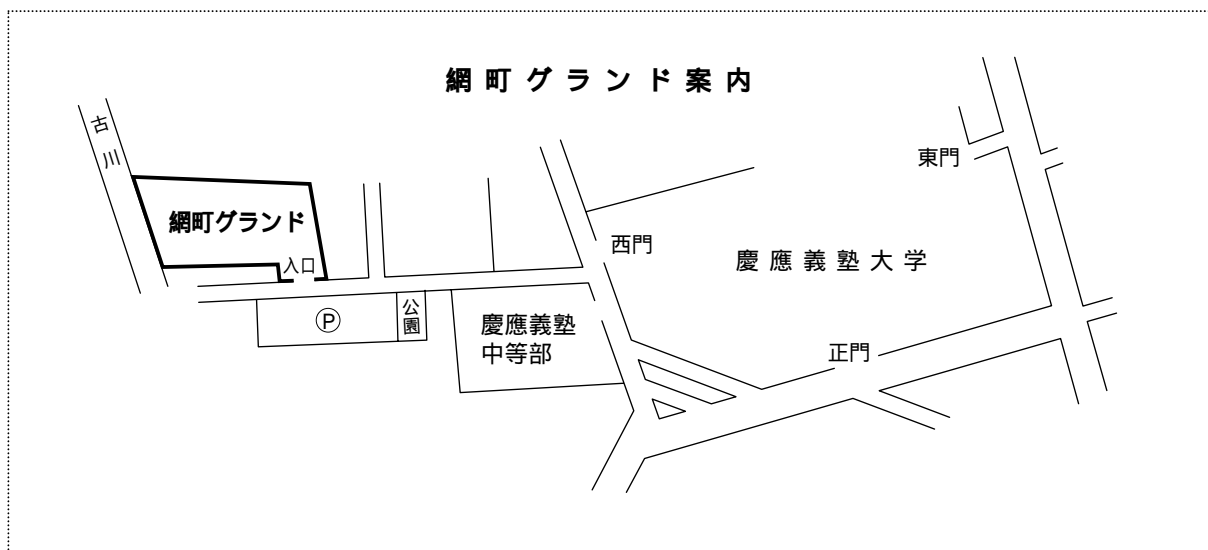
- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作（礼法、受身、体捌き）
- 3 投げ技と受身の反復練習（大外刈、大内刈等）
- 4 投げ技と受身の反復練習（大腰、背負投等）
- 5 投げ技と受身の反復練習（送足払、払釣込足等）と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技（抑込技、絞技、関節技）の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古（立技、寝技）
- 13 試合方法、審判法（国内、国際ルール）の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。）



福澤研究センター

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』、資料集、叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、28名の所員（専任2名、兼担26名）、9名の顧問、29名の客員所員、6名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会を作ることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文・経・法・商などの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は日吉で1コマの講義、三田で6コマの講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

（慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>）

近代日本研究 (春学期)(2)

『学問のすゝめ』とその時代

法学部教授 岩谷 十郎
商学部教授 牛島 利明
経済学部教授 小室 正紀
教職課程センター教授 米山 光儀

授業科目の内容:

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編に分けて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制発布、鉄道初開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正、民選議院設立建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱など、制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の次期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけでなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト:

福澤諭吉『学問のすゝめ』(各種の版がある。どの版でもよい。)

参考書:

福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版がある。どの版でもよい。)

慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年

慶應義塾編『福沢諭吉の手紙』岩波書店、平成16年

丸山真男『「文明論之概略」を読む』岩波書店、昭和61年

授業の計画:

- 第1回 はじめに 担当: 米山
第2~4回 初編~4編(明治5年2月~7年1月) 担当: 米山
第5~7回 5編~8編(明治7年1月~7年4月) 担当: 岩谷
第8~10回 9編~12編(明治7年5月~7年12月) 担当: 小室
第11~13回 13編~17編(明治7年12月~9年11月) 担当: 牛島

担当教員から履修者へのコメント:

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

成績評価方法:

1. 試験の結果による評価(試験方法については、第1回の講義で説明する。)
2. 平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

近代日本研究 (秋学期)(2)

- 福澤諭吉の近代化構想 -

福澤研究センター専任講師 都倉 武之

授業科目の内容:

福澤諭吉は明治維新前後の世の中の劇的な変化について「一身にして二生を経るが如し」と述べたことがある。彼は68年の生涯を、文字通り34歳で迎えた明治維新によって二分することとなった。しかし福澤は一般に、明治維新前後の著作活動、たとえば『西洋事情』『学問のすゝめ』などを著した啓蒙思想家としての評価が大きく、明治期の活動は、一般にあまり認識されていない。本講義では多様な側面を有した明治期の福澤の活動を最新の研究動向を踏まえながら取り上げ、福澤諭吉という人物のイメージを新たに描き出してもらいたいと考えている。

テキスト:

指定しない。

参考書:

適宜講義中に紹介する。

授業の計画:

1. 福澤諭吉の生い立ちと明治維新
2. 文明開化と福澤

3. 自由民権運動と福澤

4. 『時事新報』と明治政府

5. 朝鮮問題をめぐる言論と運動

6. 慶應義塾と福澤

7. 構内史蹟見学

担当教員から履修者へのコメント:

「福澤諭吉入門」と位置付けて講義を行うので予備知識は求めない。福澤の思想に触れてみたい学生を広く歓迎したい。

成績評価方法:

レポートによる評価

質問・相談:

講義後やEメールで適宜応じる。

近代日本研究 (春学期)(2)

- 「一身独立」「独立自尊」を考える -

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容:

福澤諭吉が近代社会に問いかけた「一身独立」そして「独立自尊」とは何であったのかについて、いくつかのトピックスを中心に生涯を通じて考察し、更に「士族社会」をキーワードに再考を試みる。

テキスト:

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書:

『福澤諭吉書簡集』(岩波書店、2001~2003年)

『福澤諭吉著作集』(慶應義塾大学出版会、2001~2003年)

他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画:

- 1 序論 授業テーマの説明および「一身独立」「独立自尊」に関する予備的講義
- 2 福澤諭吉の生涯と「一身独立」「独立自尊」
中津の学問的伝統
滞米滞欧体験
著作権確立運動
交詢社の設立
朝鮮からの留学生
- 3 福澤諭吉と士族社会 - 中津藩と三田藩を中心に -
「中津留別之書」と「旧藩情」
中津市学校
銀行類似会社
養蚕製糸業
開拓事業
- 4 まとめ 授業を通して考察したことについての意見交換

担当教員から履修者へのコメント:

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法:

1. レポートによる評価
2. 平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席率ではなく、参加態度を評価します。)

近代日本研究 (秋学期)(2)

- 福澤諭吉の女性論・家族論を考える -

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容:

福澤の女性論・家族論は、同時代のみならず大正期・昭和期に入っても、たとえば与謝野晶子、本間久雄、山高しげりなど多くの人々に高い評価を得ながら読み継がれてきた。また没後四半世紀をすぎても、強い批判を受け、戦時下においてはさらに激しくなった。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり、つまりは近代化の過程において、福澤が提示した課題は克服されなかったことを示している。近代日本において形成された女性像・家族像は、福澤の構想とは異なるものであった。

本授業では、福澤の著作を読むとともに、同時代の他者による女性

論や家族論とも比較しながら、福澤の意図はどこにあったのか、また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論や家族論との相違はいかなるものであったのかを考察し、その視点から近代日本について考えたい。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻（慶應義塾大学出版会，2003年）

他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 「中津留別の書」
 - 2) 『学問のすゝめ』
 - 3) 「日本婦人論」『日本婦人論後編』
 - 4) 『男女交際論』『男女交際余論』
 - 5) 『日本男子論』
 - 6) 『女大学評論・新女大学』
- 3 明六社の女性論・家族論
森有礼「妻妾論」・加藤弘之「男女同権の流弊論」
- 4 自由民権運動の中の女性論・家族論
土居光華『文明論女大学』・岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
植木枝盛『東洋の婦女』
- 5 キリスト教主義の女性論・家族論
矢島楯子，潮田千勢子，新島襄，内村鑑三
- 6 儒教主義の女性論
丹靈源『国母論』・大江スミ子『女房説法鉄砲三ぼう主義』
井上哲次郎『女大学の研究』
- 7 まとめ
* 1回ないし2回，福澤研究センターもしくは「女性と仕事の未来館」展示室の見学を行う。

担当教員から履修者へのコメント：

知識の授受ではなく、ともに考える授業にしたいと思います。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価（出席率ではなく、参加態度を評価します。）

質問・相談：

随時。

近代日本研究演習（春学期）(2)

明治期新聞『時事新報』を読む

福澤研究センター専任講師 都倉 武之

授業科目の内容：

この演習では、明治15年に福澤諭吉が創刊した日刊新聞『時事新報』を読んでいくことを通し、明治期の日本の姿と、それを捉える福澤の視点について考えていく。このことは、単に明治の社会や政治史に理解を深めるだけでなく、ジャーナリスト、教育者、また啓蒙思想家としての福澤の姿を浮かび上がらせる多くの示唆に富む作業となる。取り上げる記事は社説を中心とするが、風刺漫画や広告など、時代を表す紙面の全体像も題材として盛り込んでいきたい。

テキスト：

『時事新報』紙面のコピーを適宜配布する。

『近代日本メディア人物誌』（ミネルヴァ書房，近刊）

参考書：

- ・石河幹明『福澤諭吉伝』全4巻（岩波書店）
- ・富田正文『考証福澤諭吉』上下（岩波書店）
- ・寺崎修 編『近代日本の政治』第2巻（法律文化社）

授業の計画：

1. 『時事新報』概説 歴史と研究の現状
2. 国内政治論
3. 国際政治論
4. ジャーナリズム論

5. 風刺漫画，広告

6. 福澤没後の論調

担当教員から履修者へのコメント：

丁寧な解説が心がけるが、古いテキストを根気よく読み解く意欲ある学生を歓迎したい。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時。

近代日本研究演習（秋学期）(2)

地方新聞に見る明治

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

この演習では、主に福澤諭吉の故郷である中津で発行された『田舎新聞』『田舎新報』（明治9年～18年）を取り上げ、論説だけではなく社会面や広告欄も読むことによって、近代化が進みつつあった明治期日本の実情がいかなるものであったのかを考えたい。『田舎新聞』およびその後継紙である『田舎新報』は、福澤や門下生たちの関与があり、紙面構成は充実している。そこから中央の動静と地方の動静の双方を同時に読みときたい。

参考書：

野田秋生『豊前中津』『田舎新聞』『田舎新報』の研究：明治十一年代一地方紙の初志と現実』エヌワイ企画 2006年

授業の計画：

1. 予備的講義
2. 福澤諭吉と中津
3. 『田舎新聞』の創刊
4. 『田舎新報』の創刊
5. 両紙にみられる士族社会論
6. 両紙にみられる女性論
7. 広告の展開
8. 地域社会と地方新聞
9. 『田舎新聞』『田舎新報』の終焉
10. 発表と討論

担当教員から履修者へのコメント：

史料を手に、ともに考える授業にしたいと思います。

成績評価方法：

1. 平常点：出席状況および授業態度による評価（出席率ではなく、参加態度を評価します。）
2. その他（授業中に意見発表の時間があります。その際簡単なレポートの提出を求めます。）

質問・相談：

随時。

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休業期間中に開催されます。単なる語学研修でなく、講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会になっています。

現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

新たなプログラムが追加されることもありますので、国際センターホームページを参照してください。

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

【問合せ先】 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」
詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。春季講座の詳細は10月ごろホームページで発表します。

【夏季講座ガイダンス】 4月2日(木) SFC 11 番教室 16:30~18:00 4月6日(月) 三田 526 番教室 10:45~12:15
4月4日(土) 矢上 12-211 番教室 12:00~13:00 4月6日(月) 日吉 33 番教室 16:30~18:00

【夏季講座応募について】(すべて予定)

- (1) オンラインレジストレーション期限 4月12日(日)
- (2) 募集期間 4月13日(月), 14日(火)
- (3) 一次合格発表 4月22日(水)
- (4) 面接審査 4月25日(土)
- (5) 選考結果発表 5月1日(金)

【単位について】

各講座の単位は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは、各学部・研究科によって異なりますので各自確認してください。ただし、春季講座は次年度春学期設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は対象外となります。

ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学教員による6つの講義の中から3つを自由に選択する方式のため、自分の専攻分野の学習を深めるだけでなく、知識の幅を広げることができます。

【現地研修期間】2009年8月3日(月)~9月2日(水)(予定)

【研修内容】講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA)をまじえてのディスカッション(午後)、エッセイ作成(週末)

【開講予定科目】(予定)

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior.

【単位数】4単位

【募集人数】60名

ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は1693年創立の州立大学で、教育・研究で高い評価を得ています。両校の学生が混在する小グループで日米文化をめぐるトピックを研究します。

【現地研修期間】2009年7月29日(水)~8月13日(木)(予定)

【研修内容】ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションなど。

【単位数】4単位

【募集人数】40名

ワシントン大学夏季講座

シアトルの豊かな自然を活かしたフィールドトリップを織り込みながら「環境」を多面的な視点から学びます。この講座にはAPRU(環太平洋大学協会)に加盟している海外大学からも数名の学生が参加する予定です。

【現地研修期間】2009年8月3日(月)~8月22日(土)(予定)

【研修内容】講義/ワークショップ、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、体験宿泊旅行

【単位数】4単位

【募集人数】30名

オックスフォード大学リンカーンコレッジ夏季講座

ディベート、演劇のワークショップなどを織り込みながら、イギリスの歴史・政治・文化を学びます、また、800年に亘り英国エリートを輩出してきたオックスフォード教育を体験できます。

【現地研修期間】2009年8月21日(金)～9月5日(土)(予定)

【研修内容】講義、ディベート、ディスカッション、ワークショップ、観劇など

【単位数】4単位

【募集人数】20名

パリ政治学院春季講座

拡大するEUの政治・経済・社会・文化の諸問題、EU対諸外国との国際関係等、ヨーロッパをめぐる様々なテーマを学びます。フランス語の研修もあり、2カ国語を同時に磨く機会となります。講義はすべて英語で行われます。

【現地研修 2008年度参考】2009年2月16日～2009年3月13日

【講義内容 2008年度参考】共通ブロック1つと、選択ブロックの中から2つの計3ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

【単位数】4単位

【募集人数】定員：20名

延世大学春季講座

政治・経済・社会・文化についての講義、韓国語の授業や延世大学学生との交流、慶州へのツアー、テコンドー教室などがあり、韓国を全般的に理解することができます。講義はすべて英語で行われます。

【現地研修 2008年度参考】2009年2月9日～2009年2月21日

【講義内容 2008年度参考】

- 1 Japan-Korea Relationship: Current Issues and Prospects
- 2 Contemporary Korean Pop Culture and the Cultural Wave of "Hallyu"
- 3 Environmental Protection and the Role of NGOs in Korea
- 4 North-South Korean Relations: Challenges and Opportunities
- 5 Political Economy of Korean Development

【単位数】2単位

【募集人数】20名(学部生対象)

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取扱う国/地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、別科生および特別短期留学生（原則として学部の新入生を除く）
2. 単位 各科目 2 単位
（なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）

3. 手続方法

履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板および以下の WEBSITE の掲示板上に掲示されます。

6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「テキスト」「参考書」「授業の計画」「担当教員から履修者へのコメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

2009-2010 Keio University International Center: International Studies Courses (2009年度 慶應義塾大学国際センター国際研究講座)

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (**)のついた科目は学術生履修不可
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title (Japanese)	Lecturer (Japanese)	Offered by
	Spring	Fri	5	CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	Farrer, Gracia	現代中国社会	ファーラー, グラシア	
	Fall	Thu	3	SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2	Soeya, Yoshihide	東アジアの国際関係特殊研究 II	森谷 芳秀	F(Law)
	Spring	Fri	1	SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS(*)	Yamamoto, Nobuto	国際政治論特殊研究 (*)	山本 庸人	GS(Law)
	Spring	Wed	4	DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	Kurasawa, Aiko	開発と社会変容	倉沢 愛子	
Area Study: Asia, Oceania	Fall	Mon	4	WORLD OF SOUTHEAST ASIA	Nomura, Toru	東南アジア世界の諸相	野村 亨	
	Spring	Wed	4	CONSTRUCTING INDIA	Williams, Mukesh	インドをソウゾウする	ウィリアムズ, ムケーシュ	
	Fall	Thu	5	INDIA TODAY	Nishimura, Yuko	現代インド事情	西村 祐子	
	Spring	Thu	4	INDIAN MUSIC	Hoffman, T. M.	体系学としてのインド音楽	ホッフマン, T・M	
	Fall	Wed	4	LISTENING TO ASIA	Hoffman, T. M.	アジアの音楽	ホッフマン, T・M	
	Spring	Wed	5	AUSTRALIA AND THE ASIA-PACIFIC REGION	Ackland, Michael	オーストラリアとアジア太平洋地域	ア克蘭ド, マイケル	
	Spring	Mon	4	AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	Okuda, Akiyo	地域文化論(アメリカ)	奥田 暎代	
Area Study: North America, South America	Fall	Wed	4	AMERICAN STUDIES	Williams, Mukesh	アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策	ウィリアムズ, ムケーシュ	
	Fall	Tue	5	CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	Yellowlees, James	カナダという国とカナダの国際的な役割	イエローリース, ジェームズ	
	Spring	Tue	5	LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	Antolinez, Mario	世界政治におけるラテンアメリカ	アントリネス, マリオ	
Area Study: Europe, Russia	Fall	Thu	5	PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)	Tanaka, Toshiro	プロジェクト科目II: 欧州統合 (*)	田中 俊郎	GS(Law)
	Fall	Thu	5	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	Hayashi, Hioki	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	林 秀毅	F(Economics)
Area Study: Africa	Spring	Fri	4	AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	Kondo, Hidetoshi	アフリカン インシユーズ: アフリカにおける近代と危機の意味	近藤 英俊	
	Fall	Tue	4	BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	Freedman, David	グローバルヴィレッジ構築に向けて	フリードマン, デビッド	
	Spring	Fri	3	COMPREHENSIVE STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS	Abe, Tadahiro	国際関係概論	安部 忠宏	
	Fall	Thu	3	CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	Maik, Rabinder	現代の国際問題と国連の役割	マリク, ラビンダー	
	Fall	Fri	4	INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	Goto, Kazumi	国際開発協力論	後藤 一美	
	Fall	Wed	3	LAW AND DEVELOPMENT	Matsuo, Hiroshi	開発法学	松尾 弘	
	Fall	Wed	5	THIRD WORLD DEVELOPMENT AND THE POOR	Bockmann, David	第三世界の開発と貧困	ボックマン, デイヴ	
Global Community	Spring	Fri	3	INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	Hosotani, Akiko	国際人権法	細谷 明子	
	Spring	Thu	3	INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM	Holley, David	プリントジャーナリズム入門	ホーリー, デイヴィッド	
	Fall	Thu	4	COMMUNISM'S COLLAPSE	Holley, David	共産主義の崩壊	ホーリー, デイヴィッド	
	Spring	Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B (*)	Ertl, Wolfgang	倫理学特殊講義III B (*)	エートル, ヴォルフガング	GS(Letters)
	Fall	Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 4B (*)	Ertl, Wolfgang	倫理学特殊講義IV B (*)	エートル, ヴォルフガング	GS(Letters)
	Fall	Tue	2	ADVANCED STUDY OF FINANCE (*)	Fukao, Mitsuhiro	金融特論 (*)	深尾 光洋	GS(Business&Commerce)
Global Economy, Global Business	Spring	Thu	2	INTERNATIONAL ECONOMY (*)	Kashiwagi, Shigeo	国際経済 (*)	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
	Fall	Wed	3	ADVANCED STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS (*)	Kashiwagi, Shigeo	国際関係特論 (*)	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
	Spring	Mon	5	LITERATURE AS HISTORY	Ohandra, Elizabeth	歴史としての文学	オハーンダラ, エリザベス	
Culture, Cross-cultural Understanding	Fall	Mon	5	VISIONS OF THE PAST	Aings, Michael W.	比較映画論	エインジ, マイケル	
	Spring	Wed	5	CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	Yokokawa, Mariko	文化: 文化適応とアイデンティティ	横川 真理子	
	Fall	Wed	5	DISCOVERING CULTURE THROUGH OBSERVATION	Yokokawa, Mariko	文化観察による発見と理解	横川 真理子	

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (※のついた科目は学部生履修不可)
 Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title (Japanese)	Lecture (Japanese)	Offered by
Culture, Cross-cultural Understanding	Spring	Tue	4	CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	Shaules, Joseph	異文化と自己理解	ショールズ, ジョセフ	
	Fall	Tue	3	LEARNING FROM LIFE ABROAD	Shaules, Joseph	海外生活から学ぶ	ショールズ, ジョセフ	
Science	Spring	Mon	5	HUMAN ENGINEERING	Waniek, Jacqueline	人間工学	ワニェク, ヤクリーン	
	Fall	Mon	5	HUMAN RESOURCE MANAGEMENT FROM A PSYCHOLOGICAL PERSPECTIVE	Waniek, Jacqueline	心理学的観点から見る人材管理	ワニェク, ヤクリーン	

2009-2010 Keio University International Center: Japanese Studies Courses (2009年度 慶應義塾大学国際センター日本研究講座)

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (※のついた科目は学部生履修不可)
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title(Japanese)	Lecturer(Japanese)	Offered by
	Spring	Mon	5	LANGUAGE BEYOND GRAMMAR	Kim, Angela	日本語の話しことばと書外の意味	キム, アンジェラ	
	Spring	Wed	4	TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	Raaside, James M.	20世紀の日本と欧米の小説	レイサイド, ジェイムス	
	Spring	Wed	3	JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD	Armour, Andrew	浮世と運行き	アーマー, アンドルー	
	Fall	Wed	3	JAPANESE LITERATURE	Armour, Andrew	日本の文学	アーマー, アンドルー	
	Fall	Mon	3	INTRODUCTION TO MODERN JAPANESE ARTS AND VISUAL CULTURE	Murai, Noriko	日本の近現代美術	村井 則子	
	Spring	Tue	4	INTRODUCTION TO JAPANESE ART HISTORY	Shirahara, Yukiko	日本美術史入門	白原 由起子	
	Fall	Thu	6	ARTS/ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE	Hishiyama, Yuko	アートワークショップ/日本のアートと文化	藁山 裕子	
	Spring	Mon	4	JAPANESE CINEMA	Aings, Michael W.	日本映画入門	エインジ, マイケル	
	Spring	Thu	3	GEISHA	Graham, Fiona	「芸者」	グラハム, フィオナ	
	Fall	Tue	2	SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (*)	Inoue, Kyoko	科学技術文化特論 (*)	井上 京子	GS(Science&Technology) Note: YAGAMI Campus
Thought, Religion	Spring	Fri	4	JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING	Watts, Jonathan	日本仏教と現代社会	ワッツ, ジョナサン	F(Economics)
	Fall	Mon	5	SEMINAR (Seminar in Intellectual History)	Sakamoto, Tatsuya	演習 (権澤論言『学問のすずめ』を詠む)	坂本 達哉	
	Fall	Tue	5	JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	Iikura, Akira	政策決定, 歴史的記憶, 人権から見る明治期日本外交	飯倉 暁	
History	Fall	Mon	4	MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD	Ota, Akiko	近代日本の対外交渉史	太田 昭子	
	Spring	Tue	3	JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	Kimmonth, Earl H.	英国と米国のマスコミに描かれた日本	キンモンズ, アール	
	Fall	Tue	3	A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN	Kimmonth, Earl H.	戦後日本の社会史	キンモンズ, アール	
	Fall	Fri	4	POPULAR MUSIC AND THE CULTURAL HISTORY OF POSTWAR JAPAN	Dorsey, James	日本の戦後史とポピュラーミュージック	ドージー, ジェームズ	
	Spring	Thu	5	IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES	Bockmann, David	新市民社会論	ボックマン, デイヴ	
Society	Fall	Tue	4	MULTIETHNIC JAPAN	Kashiwazaki, Chikako	多民族社会としての日本	柏崎 千佳子	
	Fall	Fri	5	THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	Netter, David	家族の近代	ネット, デビッド	
	Spring	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション1	手塚 千鶴子	
	Fall	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション2	手塚 千鶴子	
	Spring	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学(1)	手塚 千鶴子	
	Fall	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学(2)	手塚 千鶴子	
Politics	Spring	Fri	5	INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN	Aoki, Hiroko	日本政治論	青木 裕子	
	Fall	Thu	5	JAPANESE FOREIGN POLICY	Nobori, Amiko	日本の対外政策	野垂 美子	
	Fall	Thu	2	JAPANESE ECONOMY	Kashiwagi, Shigeo	ジャパニーズ・エコノミー	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
Economy, Business	Spring	Mon	5	FOREIGN COMPANIES IN JAPAN	Harris, Graham	日本における外資系企業	ハリス, グレアム	F(Business&Commerce)
	Spring	Thu	5	MANAGEMENT IN JAPAN	Haghiran, Parissa	日本のビジネスマネジメント	ハギリアン, パリッサ	
	Fall	Thu	3	INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	Yoshida, Fumikazu	国際経営比較	吉田 文一	
	Fall	Fri	3	JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	Umezumi, Mitsuhiro	日本の経営	梅津 光弘	
Economy, Business	Spring	Fri	3	LEADING CREATIVE BUSINESS IN JAPAN	Tobin, Robert	日本の最先端創造的ビジネス	トビン, ロバート	
	Fall	Fri	3	ARTISANRY IN JAPAN'S SMALL BUSINESS	Tobin, Robert	日本の中小企業における職人芸	トビン, ロバート	
Law	Fall	Fri	5	INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	Kobayashi, Satsuo	日本法の制度と実態	小林 節	

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

(Spring)

現代中国社会

Farrer, Gracia
ファーラー, グラシア

Lecturer, International Center
国際センター講師

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2

(Fall)

東アジアの国際関係特殊研究

Soeya, Yoshihide
添谷 芳秀

Professor, Faculty of Law
法学部教授

Course Description:

This course is offered primarily as an introductory course for the "Three-Campus Comparative East Asian Studies Program," a collaborative program among the Underwood International College of Yonsei University, the Faculty of Social Sciences of the University of Hong Kong, and the International Center of Keio University.

The aim of the course is to give a general overview to the postwar history of international relations in East Asia as well as to more recent post-Cold War developments therein, including Japan's role and external relations in the region. It begins with an overview of the postwar evolution of East Asian politics and security, and proceeds to the discussions of U.S.-China-Japan relations after the Cold War, followed by the examination of the roles of the three countries represented by the three-campus program, i.e., China, Korea and Japan.

The course is thus divided into three parts. In **Part 1 and Part 2**, students are expected to read assigned articles for each week (30-50 pages in English) in order to familiarize themselves with the major issues and themes of postwar and post-Cold War international relations in East Asia. For these parts, **the enrolled students other than those in the three-campus program** are required to present a list of questions for discussion based on the assigned readings, both in writing (one page) and orally (5 minutes), at least once during the course.

Then, we will move on to **Part 3**, where **the students of the three-campus program** will take the role of leading the discussions relevant to the roles of their respective countries in contemporary East Asia.

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

(Spring)

開発と社会変容

Kurasawa, Aiko
倉沢 愛子

Professor, Faculty of Economics
経済学部教授

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ?

Critical analysis and evaluation are most welcome.

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

(Fall)

東南アジア世界の諸相

Nomura, Toru
野村 亨

Professor, Faculty of Policy Management
総合政策学部教授

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Sub Title:

Indian Identities and Japanese Policies

Course Description:

In August 2007, the Japanese prime minister Shinzo Abe, visited India as part of an emerging policy of building a bilateral relationship between India and Japan. He gave a speech outlining his concepts entitled, "Futatsu no umi no majiwari."

(<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/pmv0708/speech-2.html>) The speech was replete with Indian cultural references as the title of speech came from a 17th century book *Confluence of the Two Seas* by a Mughal prince and a "history" of Japan-India contacts over the centuries. Some commentators saw the speech as a "paradigm shift" in Japan's foreign policy with South Asia. (<http://japanfocus.org/products/details/2514>) As part of this visit and policy, Japan became an official partner in the Delhi-Mumbai Industrial Corridor Project (DMIC) agreeing to finance 30 billion USD of the project. (http://commerce.nic.in/PressRelease/pressrelease_detail.asp?id=2090)

Yet there is a wide gap between public policy and public knowledge, particularly as it relates to the multi-ethnic nature of Indian histories and societies. To bridge this gap, there is a need within Japanese academic context, to focus on the multiplicity of identities that have emerged in India since the last century and their impact on the contemporary political world, especially Japan. This course will use an interdisciplinary approach to explore the varieties of India's past, the development of Indian identities through literature and language, and how all of this goes to form fragments of a nation and its multiplicities, rather than a "grand" unified narrative. Beginning with an examination of the histories of an Indian past, the course will proceed through lectures by representatives of the India Embassy, Indian multinational companies, Keio University and Sophia University faculties and the Japanese Foreign Service to develop a more comprehensive perspective of India and the historical and cultural connections that inform Japan's policies today.

The class will be conducted in English and reading and writing will be primarily in English.

Grades are also based on attendance classroom participation.

Sub Title:

An Introduction to Social and Cultural Studies of Post-Modern India

Course Description:

This course is aimed at describing India through the 'the middle class', studying the post-colonial socio-cultural history and current problems/burning issues of Indian society. In this course, participants will learn where India's new middle class is at, how globalization influences Indian people (including the diasporas). We will study how caste, class, kinship and gender are inter-related. We will also study the cultural difference between the North, the South, and the West and the East. The emergence of Indian civic sector such as NGOs and grassroots organizations will be discussed and we will study the collaborative efforts between the local government and the grassroots civic organizations. We will also discuss how increasing earning power of women is changing the social relationships. Students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will focus on understanding such issues as the modernity in Asia, the subalterns (marginalized communities), development and untouchability. Handouts are to be distributed as essential reading materials, and some internet websites are to be suggested for reading. Guest speakers will be invited from time to time.

Sub Title:

Systematics, Mathematics, Linguistics and Poetics in Indian Music: Practical and theoretical studies in creative expression

数学・言語学・詩学・音楽学をむすぶ理論と実践

Course Description:

While Western music studies train individuals to follow a written script (notation) in a group situation featuring harmony, in Indian classical music the student is trained to improvise based on principles of melody and rhythm. This resembles the process of speech in language, where information and ideas are given form in verbal communication through spontaneous combination of phonetics and grammar. Proficiency in speech can also be nurtured through applying the time-tested theories and practices of Indian music. This is best achieved through the enjoyable study and practice of rhythm, melody and text in vocal music. This course will examine structural features of Indian music and apply them in experiencing the process of improvisation. Systematic exercises in rhythm and melody will introduce sophisticated concepts of time and space. Indian vocal music compositions will present language in relation to melody and emotion. Exercises for group, pair and individual will be introduced, and participants will be encouraged and assisted in composing and improvising upon their own creations. This course will promote understanding of the world of creative arts in general.

No prior experience in music or performing arts is required.

LISTENING TO ASIA アジアの音楽	(Fall)
Hoffman, T. M. ホッフマン, T. M.	Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association) 国際センター講師 (日印音楽交流会会長)

Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music
音楽・言葉・自然の音の構成・神性・魅力

Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

AUSTRALIA AND THE ASIA-PACIFIC REGION オーストラリアとアジア太平洋地域	(Spring)
Ackland, Michael アクランド, マイケル	Lecturer, International Center (Guest Professor, Center for Pacific and American Studies, University of Tokyo / Professor, Monash University) 国際センター講師 (東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授, モナッシュ大学教授)

Sub Title:

Records of a changing relationship in short fiction and film

Course Description:

This course introduces students to changing Australian attitudes to our common region, and to relevant, recent influential theories of racial and national interaction such as 'Orientalism'. It begins by examining notions of white supremacy and their origins, investigates the impact of successive waves of Asian immigration on Australian society, the development and eclipse of the White Australia policy, Australia's fluctuating attempts to engage with its region, and the growth of internal criticism of racist and paternalistic attitudes, as presented in a variety of short fiction and film. The first part of the course will trace these issues in the period up to, and including the First World War, the latter part will focus in particular on post-war Australia-Japan relations.

AREA STUDIES (THE UNITED STATES) 地域文化論 (アメリカ)	(Spring)
Okuda, Akiyo 奥田 暁代	Professor, Faculty of Law 法学部教授

Sub Title:

Multicultural History of the United States

Course Description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country's anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these "minorities" in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

AMERICAN STUDIES アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策	(Fall)
Williams, Mukesh K. ウィリアムス, ムケーシュ	Lecturer, International Center 国際センター講師

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand its history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies as a part of their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil

rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the integrated disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America. The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(Fall)

カナダという国とカナダの国際的な役割

Yellowlees, James

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ教育連盟日本代表)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

(Spring)

世界政治におけるラテンアメリカ

Antolinez, Mario

Lecturer, International Center

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS

(Fall)

Hayashi, Hideki

Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, Mizuho Financial Group/Shinko Securities Co., Ltd.)

林 秀毅

経済学部講師 (みずほフィナンシャルグループ・新光証券グローバルストラテジスト)

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, mainly on the economic aspects, as well as on the political and social aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part1, each lecture will be based on different chapters of Gilson(2000) and in part2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition.

As it is expected to be a small class composed of Japanese and non-Japanese students, active questions and comments by students are welcome.

Students are supposed to submit a report on one of the questions based on each lecture and submit it at the beginning of the next lecture.

AFRICAN ISSUES : THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA

(Spring)

アフリカン イシューズ : アフリカにおける近代と危機の意味

Kondo, Hidetoshi

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

近藤 英俊

国際センター講師 (関西外国語大学准教授)

Sub Title:

Social and Cultural Aspects of AIDS Epidemic in Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of HIV and AIDS in Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of African AIDS epidemic. Thus, the topics we deal with include: (1) history of HIV and AIDS in Africa, (2) popular conceptions and therapy management of AIDS, (3) AIDS epidemic in the context of urbanization and social mobility, (4) AIDS and gender relations, (5) AIDS and children, (6) The role of the state, international organizations and NGO, (7) AIDS and pharmaceutical industry.

Sub Title:

Sub-Saharan Africa

Course Description:

Focus: Japanese Policies in Southern Africa: Trans-National Issues/ Individual Response

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturnomics” was coined to define how various intellectual disciplines needed to be combined in order to gain a more complete view of the issues facing a “global” economy. This course will focus on a particular area, Sub-Saharan Africa and the various issues: political, cultural, economic and environmental, that the people of this region face as they look to integrate into the “global village.” Speakers from the various embassies of the region will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. In 2004, Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. Next year at the fourth Tokyo International Conference on African Development these efforts will face an renewed evaluation.

(<http://www.jica.go.jp/english/resources/field/2007/aug30.html>) Yet, there is an “information gap” between the policies and intents of the Japanese government and business community and the response and knowledge of the Japanese citizen as to the recent history, the varied cultures and issues in Africa today, and the goals and effects of the Japanese policies themselves.

This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa, and the possibilities of active response by the individual Japanese consumer.

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their “study” country and Japan on the focus issue of the course. This year, the focus will be on the individual consumer as an active participant in development policies.

Sub Title:

Multi-Faceted International Relations

Course Description:

At the outset of the 21st century, people expected that they could enjoy real peace and prosperity in the new century as a member of the international community where the global structure turned into the post-Cold-War regime from the Cold-War regime. The reality, however, was to the contrary as we see various incidents taking place in the international arena: From terrorist attacks to the alleged nuclear arms development in the supposedly war-less world with the prevailing Non Proliferation Treaty and so forth. Prospect of economic development in one country is more hinged upon politically maneuverable supply of energy and natural resources in the international markets, etc.

People are living in the age of uncertainty. It is becoming more important for us, under these circumstances, to understand international relations in a more comprehensive manner. We need to think about our future based on an accurate knowledge on the reality of the multi faceted international relations built upon various kinds of causality among various factors such as economy, politics and security considerations.

So, in my lecture, I would like to focus on major playing factors and mechanisms supporting the multi-layer international/regional relations, such as ASEAN, APEC, NATO, OSCE, NPT, WTO as well as Japanese bilateral relations with the US, North-Eastern/South-Eastern Asian countries and European countries. I also intend to touch on horizontal issues such as International Economy/Trade, Human Security, Development Assistance, etc. Eventual target of my lecture is to explore the possibility of working together with students a kind of global mechanism which may help us to materialize real peace and stability for the people in the future generation.

Sub Title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance the trans-cultural literacy and competence and enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world.

Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

The course is open to students from all faculties.

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

(Fall)

国際開発協力論

Goto, Kazumi

後藤 一美

Lecturer, International Center (Professor, Hosei University)

国際センター講師 (法政大学教授)

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

LAW AND DEVELOPMENT

(Fall)

開発法学

Matsuo, Hiroshi

松尾 弘

Professor, Law School

法務研究科教授

Sub Title:

Institutional Reform through Law to Get the Good Governance

Course Description:

This course aims to provide with the basic knowledge of Law and Development from a practical as well as a theoretical aspect. Development can be regarded as a comprehensive institutional reform of a society, in which a number of informal rules have been binding and restricting the attitudes and behaviors of its members. However, it is sometimes difficult for societies to reform their institutions for themselves when they are heavily burdened by the conventions maintained by the strict regimes. As the international societies have been more and more globalizing, it is becoming duties for each society to assist others to undertake their institutional reform.

Although it would be hard for us to expect the international societies to establish the world government, we should be able to keep our security by getting the global governance, which consists of the good governance of each state in the world. Good governance may be obtained through the institutional reform led by the good government, markets and firms, and civil societies, which are mutually assisted and assisting in their own functions. Law may be a strong measure to facilitate such an institutional reform to get good governance, and the legal assistance activities among nations should promote the global governance, which might be the only path to the international security and peace. In this context, we should explore the indicators of governance and the way by which developed countries can cooperate with developing countries to accomplish their legal reform that actually leads to development.

THIRD WORLD DEVELOPMENT AND THE POOR

(Fall)

第三世界の開発と貧困

Bockmann, Dave

ボックマン, デイヴ

Lecturer, International Center (Consultant)

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

Lessons from the Developing World

Course Description:

This course is designed to increase the student's awareness of third-world communities and the challenges they face in overcoming poverty. The U.N. Millennium Development Goals promise to end poverty by 2015. The goals are lofty and costly, but will they actually help the poor? Based on the lecturer's 30 years of community development experience in the U.S. and India, another approach, that of small locally based projects bringing real and immediate change to real people's lives will be examined. In this course, students will learn about:

- **Self Help Groups (SHGs):** How SHGs are organized and why. How the SHGs improve the financial stability of families and enhance the status of women.
- **Micro-Finance:** How small loans, often times of less than \$100, can move whole families out of poverty.
- **Appropriate Technology:** How, when the poor themselves are involved, appropriate technologies can be successfully conceived, designed and implemented by developing communities. Learn some of the skills required to help implement actual projects.
- **Culture and social-economic** factors that must be taken into account in planning and implementing development projects.
- **Hands-On Case-Study:** Working in small groups, the students will identify real 'problems' facing poor people in the developing world and propose a plan to solve the problem.

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

(1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

(2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization

(3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India

(4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other illtreatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.

(5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

Sub Title:

Reporting on the World Around You

Course Description:

This course will cover the basics of journalistic writing. Students will get practice in writing both in a wire-service style and in the kind of feature approach favored by many newspapers and magazines for longer articles. Students will write articles both as quick in-class exercises and as homework assignments that require interviews. Journalistic ethics will be addressed, as will trends in the media business. The course will help students improve their writing and give them increased confidence in approaching and interviewing strangers.

Sub Title:

States in Transition

Course Description:

This course will examine three models of how political systems can change. South Korea and Taiwan will be viewed as examples of transition from the authoritarianism of several decades ago to today's democracy. Post-1989 Eastern Europe will be studied as an example of Communist states quickly becoming democratic. China and Russia will be examined as cases where Communism has mutated into capitalist authoritarianism with many political features similar to Taiwan and South Korea of the 1970s and 1980s. Particular attention will be paid to the 1980 Kwangju Incident in South Korea, the 1989 Tiananmen Square protests and subsequent crackdown in China, and the role of Mikhail Gorbachev in the collapse of Communism in the Soviet Union and Eastern Europe. Students will consider what can be learned from these transitions of past decades in thinking about possible future paths for China and Russia. What factors might cause China and Russia to follow the same type of path to democracy as South Korea and Taiwan, and what might cause them to develop in other directions?

Sub Title:

The Colonial Experience

Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of fiction as source. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literary works provide what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to capture. They have the capacity to represent the fine curves of the political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such “sensitive” historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people’s particular schemes of culture. The fact that most records from the colonial period were produced by and spoke from the point of view of “power” further complicates historical reconstruction of the encounter.

For this course we shall consider novels, short stories and films, and attempt to catch glimpses of the colonial experience as diverse and intimate as the domestic order, racial negotiation, sexual taboos, humor, paranoia, and melancholia.

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

(Fall)

比較映画論

Ainge, Michael W.

Associate Professor, Faculty of Economics

エインジ, マイケル W.

経済学部准教授

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of representing history on film, starting with mainstream Hollywood historical drama, and then consider alternatives which have arisen in opposition to the dominant American mode, in various countries around the world. Readings in film criticism and in History will complement the films whose viewing constitutes the main homework for the class. No previous experience in Film Studies is required. Students will be introduced to basic critical and technical language to discuss films, and thus will learn to distinguish between personal taste (“I liked this film,” “I hated it.”) and analytic evaluation (using various intellectual and artistic standards to judge a film). Needless to say, issues related to cultural differences will arise throughout the semester, and no doubt form an important part of class discussions.

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

(Spring)

文化・文化適応とアイデンティティ

Yokokawa, Mariko

Lecturer, International Center

横川 真理子

国際センター講師

Sub Title:

How communication and understanding are affected by culture

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do presentation, as well as other projects.

DISCOVERING CULTURE THROUGH OBSERVATION

(Fall)

文化観察による発見と理解

Yokokawa, Mariko

Lecturer, International Center

横川 真理子

国際センター講師

Sub Title:

Doing Observational/Ethnographic Studies to Understand Culture

観察研究により文化理解を深める

Course Description:

When one encounters different behaviors and assumptions in a different culture, often the immediate reaction is one of irritation and confusion. “What is wrong with THESE people?”, we ask. Actually, people in a particular society are behaving according to patterns that make sense within the larger framework of their culture. This course is designed to discover those patterns through conducting observational/ethnographic studies on the behavior of people in different settings.

After explaining the concepts of culture and subculture, the methods used in observational studies will be introduced. Students will be given an opportunity to do observational studies on their own or in groups, discovering both behavioral patterns and the cultural patterns that underlie those behavioral patterns.

Students will be asked to come up with tentative behavioral and cultural patterns gleaned from their observations, and present their findings to the class, opening their study to discussion. They will then be asked to go back and reaffirm or modify their observations, which will result in a final report.

Through their own study and those of the others, students are expected to gain a deeper understanding of both the culture they observe and of their own unconscious cultural patterns.

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

(Spring)

異文化と自己理解

Shaules, Joseph

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of deep cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture’s unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like:

time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

LEARNING FROM LIFE ABROAD

(Fall)

海外生活から学ぶ

Shaules, Joseph
ショールズ, ジョセフ

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)
国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Internationalism and the cultural learning process

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

HUMAN ENGINEERING

(Spring)

人間工学

Waniek, Jacqueline
ワニェク, ヤクリーン

Lecturer, International Center
国際センター講師

Sub Title:

Human Factors

Course Description:

The ergonomic design of products, working systems and interfaces focuses on designing a comfortable environment, and aims to prevent damages and accidents. Goal of the course is to provide an overview of the interdisciplinary field ergonomics. Furthermore the course intends to help students to understand what impact ergonomic product design has for our environment and in our everyday life. The course introduces various aspects of ergonomic design such as "Universal Design", "Accessibility" or "Emotional Design", demonstrates methods for the evaluation of products and systems, and discusses future trends. By means of practical examples students will experience the importance of an ergonomic design of products and systems. Discussions will help participants to clarify the goals of ergonomic design, and to understand its potential and its feasibility.

HUMAN RESOURCE MANAGEMENT FROM A PSYCHOLOGICAL PERSPECTIVE

(Fall)

心理学的観点から見る人材管理

Waniek, Jacqueline
ワニェク, ヤクリーン

Lecturer, International Center
国際センター講師

Course Description:

Human Resources are the most valued assets in an organization and a critical success factor in business. Goal of Human Resource Management (HRM) from a Psychological Perspective is to enable employees to contribute to the enterprise productively. This course focuses on HRM from a psychological perspective. The employee is seen as an individual person with own motives, attitudes, emotions and goals that have to be considered in business management. Basic HRM topics such as Leadership, Recruitment, and Training are discussed as well as factors that affect employees' well-being and performance. The course intends to prepare students for their later working life and helps them to understand how to create a working environment that ensures employee well-being and enhances productivity.

日本研究講座 (JAPANESE STUDIES)

LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

(Spring)

日本語の話しことばと言外の意味

Kim, Angela A-Jeoung

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

キム, アジョン

日本語・日本文化教育センター専任講師

Sub Title:

Expressing 'something else' beyond information— markers and functions in spoken Japanese

Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language not only functions as a medium through which information can be conveyed, but also as a conduit for the speaker's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know, I mean, like*; and just and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne, yo, -janai, datte, maa, nan(i), no, and yappari* etc.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

(Spring)

20世紀の日本と欧米の小説

Raeseide, James

Professor, Faculty of Law

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

Sub Title:

Comparative Readings

Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by an American or European writer. The texts chosen will be relatively short: wherever possible, complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translations and the language of discussion will be English. However, the original Japanese texts will also be distributed and native speakers of Japanese are particularly encouraged to use their knowledge of the original language to add to the discussion. Those students with knowledge of European languages other than English are also welcome to use this knowledge in discussion, where appropriate. However, the original versions of texts in languages other than Japanese will not be provided. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand, and be prepared to talk about them in detail. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion.

JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD

(Spring)

浮世と道行き

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking a contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashō, Chikamatsu and Akinari. As well as the "floating world" of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

JAPANESE LITERATURE

(Fall)

日本の文学

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods.

Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

INTRODUCTION TO MODERN JAPANESE ART AND VISUAL CULTURE**(Fall)**

日本の近現代美術

Murai, Noriko

村井 則子

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Temple University)

国際センター講師 (テンプル大学専任講師)

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in various media including painting, sculpture, photography, performance and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

INTRODUCTION TO JAPANESE ART HISTORY**(Spring)**

日本史美術入門

Shirahara, Yukiko

白原 由起子

Lecturer, International Center (Chief Curator, Nezu Museum)

国際センター講師 ((財)根津美術館学芸部課長)

Sub Title:

From Ancient to the Medieval Periods

古代 中世

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid sixth century to the early seventeenth century. How religious imagery, decorative styles and techniques were introduced from the continent, transformed to be Japanese own? Each class will focus on one of a few artworks, about which the function, iconology, technique and artistic significance will be discussed.

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS - CULTURAL EXPERIENCE**(Fall)**

アートワークショップ / 日本のアートと文化

Hishiyama, Yuko

菱山 裕子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

With a focus on Japanese Art

Course Description:Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

JAPANESE CINEMA**(Spring)**

日本映画入門

Ainge, Michael W.

エインジ, マイケル W.

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

This is an introductory course that examines Japanese cinema from the perspectives of history, authorship, genre, and film art. Though by no means comprehensive due to the restriction of time, this course will allow students to gain an overview of a century of Japanese film, become familiar with a selection of major directors and film genres, as well as acquire a fundamental critical and technical language to discuss films. They will learn to distinguish between personal taste ("I liked this film," "I hated it") and evaluative judgment (using various intellectual and artistic standards to judge a film). Needless to say, issues related to cultural differences will arise throughout the semester, and no doubt form an important part of class discussions.

GEISHA**(Spring)**

「芸者」

Graham, Fiona

グラハム, フィオナ

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course will start with the narrow topic of geisha and spread out from there to consider the topic on a deeper anthropological level: how the West views the East, history, myth and tourism, the changing roles of women, and traditional culture, who decides what is traditional, how and why does this change, what is lost and what retained, and who controls the process?

This class will make use of DVDs and other visual resources and may have a class research trip. Students won't be able to passively rely on a single textbook, but will need to actively participate in collecting their own research materials from books, media, video and internet.

The course lecturer is an actively working geisha in one of Tokyo's geisha districts.

JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING

(Spring)

日本仏教と現代社会

Lecturer, International Center (Research Fellow, International Buddhist Exchange Center,
Research Fellow, Jodo Shu Research Institute)

Watts, Jonathan

ワッツ, ジョナサン

国際センター講師 ((財) 国際仏教交流センター研究員・浄土宗総合研究所研究員)

Sub Title:

Priests and Temples Reviving Human Relationship and Civil Society

僧侶と寺による人間関係と市民社会の再生

Course Description:

This course will look at Buddhism in Japan in a very different way – through the actions of Buddhist priests and followers to confront the real life problems and suffering of people in Japan today. We will look at such issues as: 1) human relationships (alienation, depression, suicide, *hikikomori*, and NEET); 2) development (social and economic gaps, aging society, community breakdown and depopulation of the countryside); 3) the environment and consumption; 4) politics and peace; and 5) gender. The creative solutions some individual Buddhists are developing in response to these problems mark an attempt to revive Japanese Buddhism, which is now primarily associated with funerals and tourism. These efforts are trying to remake the temple as a center of community in an increasingly alienated society.

This course will use a variety of teaching methods from homework readings, games and group processes, in-class videos and guest speakers, and occasional field trips. This course will attempt to be as interactive as possible, so students should be ready to reflect on the issues personally as they experience them as residents of Japan, and to express these reflections not only intellectually but emotionally as well.

SEMINAR (Seminar in Intellectual History)

(Fall)

演習 (福澤諭吉『学問のすすめ』を読む)

Sakamoto, Tatsuya

Professor, Faculty of Economics

坂本 達哉

経済学部教授

Sub Title:

Reading Yukichi Fukuzawa's "Encouragement of Learning"

Course Description:

This course will center on the theme of Keio University's founder Yukichi Fukuzawa (1835-1901), his thought and its legacy to our time. Among his numerous works, both academic and popular, is included "Encouragement of Learning" (『学問のすすめ』) as the single most famous and influential. This course will read this classical text on chapter-by-chapter basis in English translation from a variety of perspectives, historical, philosophical and social. Prospective students will be welcome who are seriously interested in the overall character and the precise details of one of the greatest intellectual leaders of the time. Any prior knowledge of Fukuzawa's life and work will not be required.

This course will also be offered at International Center for international students. I truly hope that the course will present an opportunity for intellectual exchanges between Japanese and non-Japanese students. Official language of this course will be English, but some subsidiary use of Japanese will be allowed.

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

(Fall)

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交

Iikura, Akira

Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

飯倉 章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making historical memory, and the concept of race.

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

(Fall)

近代日本の対外交流史

Ohta, Akiko

Professor, Faculty of Law

太田 昭子

法学部教授

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and the beginning of the twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (at least five pages, A4, double space) in January, and take the final examination.

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

(Spring)

英国と米国のマスコミに描かれた日本

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN

(Fall)

戦後日本の社会史

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

More than a half-century has elapsed since the end of the Pacific War. For most university students, this war is part of a distant past and references to prewar and postwar carry no special significance. In contrast, for those old enough to have experienced the Pacific War or its immediate aftermath, the terms prewar and postwar are very evocative and are part of the historical consciousness of many Japanese. This course attempts to answer three basic questions: 1) why is a distinction made between prewar and postwar Japan; 2) how was Japan changed by the Pacific War; 3) what has changed in the fifty-plus years the end of the war. To give students additional perspective on the Japanese experience, the course will make explicit comparisons with Germany and the United Kingdom.

POPULAR MUSIC AND THE CULTURAL HISTORY OF POSTWAR JAPAN

(Fall)

日本の戦後史とポピュラーミュージック

Dorsey, James

ドーシー, ジェームズ

Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

国際センター講師 (ダートマス大学准教授)

Course Description:

Crucial issues in Japan's postwar cultural history can be examined through its music:

- shifting social taboos are revealed in the songs banned from the airwaves
- Japan-U.S. tensions are visible in musical adaptations, imitations and subversions
- the values and aspirations of an age are apparent in its choice of musical stars and genres (including sentimental *enka*, breezy "group sounds," political folk and cutesy pre-pubescent "idol" singers)
- attitudes towards race and history come forth in groups singing in blackface, the embrace of hip-hop culture, the treatment of non-Japanese musicians, and the "invasion" of J-Pop throughout Asia
- technological advances and trends in consumer electronics, many of them pioneered by Japanese companies, have altered the world's experience of culture; much can be learned by pondering the cultural significance of karaoke, the walkman, and the digital sound file
- the changing attitudes concerning gender, love, sex and marriage inevitably appear in song

Using theories from the Frankfurt school and more recent work in cultural studies, this course will introduce students to the history of postwar Japan (with special focus on the 1960s and 1970s) as well as coach them in the interpretation of music as a window onto the workings of culture.

IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

(Spring)

新市民社会論

Bockmann, Dave

ボックマン, デイヴ

Lecturer, International Center (Consultant)

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

How NGOs and NPOs are changing society and the environment

Course Description:

"Civic engagement" refers to the participation of individuals and voluntary organizations (NGOs and NPOs) in the political and the public sectors, including governmental decision-making. "Civic Engagement" and "Civil Society" are sometimes used interchangeably and in this sense, civil society is well established in the U.S., less so in Japan. We will find out why.

In this course, we will examine civic engagement from several perspectives, globally and locally. We will examine civic engagement in the U.S. as well as Asia where the focus will be on Japan, India and China. We will see how the struggles by minorities, women and the poor for human rights alter the relationships of power and how environmental organizations are playing a leading role in the efforts to stop global warming.

MULTIETHNIC JAPAN

(Fall)

多民族社会としての日本

Kashiwazaki, Chikako

柏崎 千佳子

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various 'newcomer' immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

(Fall)

家族の近代

Notter, David

ノッター, デビット

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

Over the past 40 years or so, new work in the field of social history combined with new research on the family conducted by social scientists has produced a 'new history of the family'. In this course we will draw on this body of research to examine the institution of the family in historical and comparative perspective. The book we will use as our main text is a sociological study of the family system in postwar Japan. Lectures, by contrast, will focus on the emergence of the 'modern family' and modern family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America. Some consideration will also be given to Europe, the emergence of the modern family in Japan, and traditional family arrangements.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

(Spring)

異文化コミュニケーション 1

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

(Fall)

異文化コミュニケーション 2

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN(1)

(Spring)

日本人の心理学(1)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its selfimage as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively

deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)

(Fall)

日本人の心理学 (2)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

'*Amae*' Reconsidered

Course Description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of '*Amae*' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN

(Spring)

日本政治論

Aoki, Hiroko

青木 裕子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

The history of Japanese politics after World War II

Course Description:

The aim of this lecture is to acquire knowledge and thinking ability for problems that beset modern Japanese society by studying history of Japanese politics after WWII and reading newspaper articles on current affairs.

JAPANESE FOREIGN POLICY

(Fall)

日本の対外政策

Nobori, Amiko

昇 亜美子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course is a general introduction to postwar Japanese history with a focus on foreign policy; it also addresses important aspects of Japanese domestic politics as well as cultural issues. It will also deal with international relations of the Asia-Pacific region while offering an overview of Japan's evolving relations with a number of important actors in the region, such as the U.S., China and the ASEAN countries.

Also throughout the course, contemporary issues within the post-Cold War global environment as well as controversial issues within Japan, such as constitutional revision and Yasukuni issue, will be discussed using a historical perspective.

The class will combine lectures, academic readings, films, students' presentations and discussions in order to cover these areas noted above.

JAPANESE ECONOMY

(Fall)

ジャパニーズ・エコノミー

Kashiwagi, Shigeo

柏木 茂雄

Professor, Graduate School of Business and Commerce

商学研究科教授

Course Description:

The objective of this course is to discuss and understand the developments in the Japanese economy and its policies from a global perspective.

The course will provide opportunities for students, especially for those coming from abroad, to examine various policy issues that have arisen in Japan in the last three decades. The focus will be to understand the economic as well as political and social background of the specific economic actions taken during these years. Efforts will be made to enable students to understand the recent economic and political developments in Japan, based on my 34 years of experience with the Japanese government.

FOREIGN COMPANIES IN JAPAN

(Spring)

日本における外資系企業

Harris, Graham

ハリス, グレアム

Lecturer, Faculty of Business and Commerce (President, Harris Consultancy)

商学部講師 (ハリス・コンサルタンシー社長)

Sub Title:

A Success or a Failure?

Understanding the True situation of foreign companies in Japan

Course Description:

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the "Bubble era" and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

The Course which will be conducted in English will be a combination of lectures, discussions, student group presentations; case studies and research assignments.

MANAGEMENT IN JAPAN 日本のビジネスマネジメント Haghirian, Parissa ハギリアン, パリッサ	Lecturer, International Center (Assistant Professor, Sofia University) 国際センター講師 (上智大学専任講師)	(Spring)
---	---	----------

Sub Title:

The Kaisha in the 21st Century

Course Description:

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS 国際経営比較 Yoshida, Fumikazu 吉田 文一	Lecturer, International Center (Professor, Sanno University) 国際センター講師 (産業能率大学教授)	(Fall)
--	---	--------

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticize the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems.

Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS 日本の経営 Umezu, Mitsuhiro 梅津 光弘	Associate Professor, Faculty of Business and Commerce 商学部准教授	(Fall)
---	---	--------

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

LEADING CREATIVE BUSINESS IN JAPAN 日本の最先端創造的ビジネス Tobin, Robert I. トビン, ロバート	Professor, Faculty of Business and Commerce 商学部教授	(Spring)
--	--	----------

Course Description:

This course will provide students with an understanding of the unique challenges of starting and leading creative businesses in Japan. The focus will be on Japan-based businesses in fashion, art, music, food, advertising, and design.

Students will understand what is involved in starting and leading a company in one of these fields. We will examine some of the ways of doing business in Japan that are unique, such as the barriers of language and trade, agent arrangements, cultural aspects of creative businesses, consumer expectations, as well as recent efforts at pan-Asian alliances and the impact of globalization.

An important part of this course will be individual research projects to gain a greater understanding of a particular industry and a career plan that includes elements of starting a creative business.

Students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Course Description:

This course will focus on selected Japanese small businesses that have developed world class products. The focus will be decidedly on low tech businesses with an examination of industries such as sporting goods, stationery goods, pharmaceuticals, and traditional Japanese sweets and cultural products. Among the companies we will examine will be Olfa, Pilot, and Molten.

Students will explore the economic history of Japan, the motivation for entrepreneurs in Japan, consumer expectations, the compelling stories for starting certain types of businesses here, the focus on quality, the relationships between entrepreneurs and the larger trading companies, the challenges of globalization for these companies, and the efforts of revival of selected industries.

An important part of this course will be individual research projects to gain a greater understanding of particular industries and companies.

Students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Course Description:

1. Outline of Japanese Legal System
 - (1) Constitutional Law
 - (2) Civil Law
 - (3) Commercial Law & Corporation Law
 - (4) Security Exchange Law
 - (5) Bank Law
 - (6) Real Estate Law
 - (7) Intellectual Property
 - (8) Civil Procedure
 - (9) Labor Law
 - (10) Criminal Law
 - (11) Criminal Procedure
2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters
 - (1) Characteristics of Japanese People
 - (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
 - Administration
 - Judges and Public Prosecutors
 - Attorneys and Law Firms
 - (3) Clients
 - (4) Taboos
 - (5) Languages

保健管理センター

1 保健管理センター設置講座開講にあたり

めまぐるしい医学の進歩と社会情勢の変化に対応でき、健康で健康志向の強い人になるための独自の講座を設置しています。

2 設置科目履修上の取扱いについて

「現代社会と医学」(渡航医学)を春学期(月曜日 4 時限)と秋学期(月曜日 4 時限)に三田キャンパスにおいて、開講します。

「現代社会と医学」(現代社会と common disease)を秋学期(水曜日・4 時限)に三田キャンパスにおいて、開講します。

なお、これらの科目を受講希望する場合は、履修の取り扱いについて、各学部、研究科で確認の上、履修申告をして下さい。

現代社会と医学 Medicine in Modern Society (春学期)(秋学期)

渡航医学 Travel Medicine

南里清一郎, 河邊博史, 徳村光昭, 横山裕一, 広瀬 寛, 西村由貴

授業科目の内容:

渡航医学とは、海外の移動(旅行, 長期滞在)に伴って発生する病気や怪我の予防や治療を扱う医学のことです。

2005 年外務省統計では、1,600 万人以上の人々が海外旅行をし、仕事や留学などの長期滞在者は、約 96 万人です。

途上国は医療事情が悪く、いざという時の緊急医療でさえ不安があります。先進国では医療費が高く医療機関受診方法に不安があります。感染症の予防に関しては、予防接種が重要な意味を持ちますが、途上国においては、個人防衛のために必要であり、先進国、特にアメリカでは集団生活(留学など)を行う際に義務となります。生活習慣病に関しては、環境の変化による持出し病の悪化や、発症を早める可能性もあります。またカルチャーショックによる精神的な問題も生じます。以上のような事に関し、保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。

テキスト:

南里清一郎編・著『海外生活における健康管理 - 渡航に当たって心身の健康を守るために -』(ライフマネージメント社, 2005年, 2,500円)

参考書:

慶應義塾大学保健管理センター編『新・保健衛生』(慶應義塾大学出版会, 2007年)

授業の計画:

第1回	オーバービュー	教授	南里清一郎
第2回	海外の医療制度		〃
第3回	予防接種・感染症		〃
第4回	予防接種・感染症		〃
第5回	高血圧	教授	河邊 博史
第6回	糖尿病	准教授	広瀬 寛
第7回	肥満		〃
第8回	性感感染症・飲酒	准教授	横山 裕一
第9回	肝炎		〃
第10回	精神保健	准教授	西村 由貴
第11回	高山病・潜水病・時差 エコノミー症候群	准教授	徳村 光昭
第12回	薬物乱用		〃
第13回	試験	教授	南里清一郎

履修者へのコメント:

留学や海外研修をする予定の学生の受講を勧めます。

成績評価方法:

最終講義日の試験の結果による評価

授業科目の内容：

高血圧, 高脂血症, 糖尿病, 肥満, 動脈硬化など日本人の代表的な病気は, 運動不足, 食べ過ぎ, 喫煙などの生活習慣との関連が強いことから, 現在では生活習慣病と呼ばれています。さらにこれらが同時に存在するメタボリックシンドロームは中高年の 30~40%にみられ, 問題になっています。

また, ストレスの多い現代には精神保健もきわめて重要な課題です。さらに, 急速な国際化に伴う感染症, 薬物乱用も大きな問題です。

大学生に代表される若者が現代社会の医学の重要問題を理解し, 健康的な生活習慣を実行維持するための保健教育の意義はますます大きくなっています。下記の講義内容に関し保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。

参考書：

保健衛生

授業の計画：

第1回	オーバービュー	教授	齊藤 郁夫
第2回	精神保健 1	教授	大野 裕
第3回	精神保健 2		"
第4回	高血圧	教授	齊藤 郁夫
第5回	AIDS	准教授	森木 隆典
第6回	貧血, 薬物		"
第7回	高脂血症	准教授	辻岡三南子
第8回	糖尿病		"
第9回	結核	准教授	森 正明
第10回	食中毒		"
第11回	心臓病	准教授	和井内由充子
第12回	救急蘇生		"
第13回	試験	教授	齊藤郁夫

成績評価方法：

試験の結果による評価

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月3日(金) 2時限目(10:45~12:15) 515番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際、学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月8日(水) 9:00~16:45 場 所：三田学事センター

4月9日(木) 9:00~16:45

4月10日(金) 9:00~16:45

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込み用紙を提出しないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 注意事項

次のとおり、科目名を変更しました。

「情報処理概論」 平成18年度まで

「情報処理概論 (JavaB)」 平成19年度以降

平成18年度までに「情報処理概論」の単位を取得した学生は、新たに「情報処理概論 (JavaB)」を履修することはできません。

5 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

6 平成21年度開講科目および受講料

設置講座は受講料が必要です。

平成21年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名		クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論 (JavaB)	Java	12 A	藤村 光	通年	50	12,000円	4
情報処理概論 (JavaA)	Java	12 F	神林 靖	秋学期	30	6,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月8日(水)から開始されます。

「情報処理概論 (JavaB)」および「情報処理概論 (JavaA)」は、ほぼ同じ内容です。両方の科目を履修した場合、単位として認められるのはどちらか1科目のみです。詳しくは、情報処理教育室窓口にてお問い合わせください。

(参考)平成21年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名		クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論	C言語による プログラミング入門	11 A	恩田 憲一	通年	100	12,000円	4
		11 B	斎藤 博昭		50		
情報処理概論 (Java)	Java	12 D	藤村 光	春学期	50	6,000円	2
情報処理概論 (Java)	Java	12 E	藤村 光	秋学期	50	6,000円	2
情報処理応用	コンピュータグラフィックス	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月8日(水)から開始されます。

授業科目の内容:

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、およびプログラミングの基礎を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト:

Web サイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開しています。適宜更新します。

参考書:

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン, レイアウト, イベントの処理 (計 3 回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計 2 回)
7. 式, 演算子, カウンタ, 合計計算, 最大値・最小値 (計 2 回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. プログラムのスタイル (春学期復習)
11. 整列, 検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計 3 回)
13. マルチスレッドと描画 (計 4 回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計 2 回)
15. 最終演習 (計 2 回)

履修者へのコメント:

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

fujimura@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。

7. 制御文と演算子 (2)
8. クラスとメソッド
9. 1 次元配列と多次元配列
10. 配列上の探索と整列
11. クラスとコンストラクタ
12. Java クラスライブラリ
13. 行列を計算するプログラム

履修者へのコメント:

C 言語等他のプログラミング言語の既習者は申し出られたい。できるだけ、個別に対応したいと考えています。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

yasushi@hc.cc.keio.ac.jp で受け付けます。

授業科目の内容:

将来プログラムを用いて情報処理をする準備として、Java 言語によるプログラミングを学ぶ。簡単な計算やデータ処理を行うことによって、Java プログラムの構成を、そしてコンピュータによるデータ処理を理解できるようにしたい。一般的なコンピュータの知識があれば十分で、プログラミング関係の予備知識は必要としない。

テキスト:

「明解 JAVA 入門編」柴田望洋, ソフトバンククリエイティブ

参考書:

講義の中で紹介する。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. プログラムのコンピュータの関係
3. コンパイルと実行
4. 変数と代入, そして四則演算と型変換
5. 入出力
6. 制御文と演算子 (1)

アート・センター

経済のソフト化が言われて久しい。文化消費の高度化と量的拡充が続くなかで、知的財産への関心とコンテンツ産業振興が唱導されるようになったいま、あらためて感性の行方と文化消費との関連をとらえ、創造性と産業とのかかわりを包括的に研究教育する必要が生まれている。芸術文化の消費行動とコンテンツ提供者、媒介者のかかわり、新しいコンテンツ創造のための環境整備、それらのシステムの更新などは、産業振興に欠かせない。

アート・センターは、開設以来アート・マネジメントの研究と教育を推進してきた。本講座の目的は、その成果をふまえながら、産業とアート・創造性との連関、産業におけるアート・創造性の問題に対する関心を喚起するため、旧来の芸術諸ジャンルにとどまらず、建築、デザイン、ファッションも視野にいれた「クリエイティブ産業」とその構造、現状と将来について、現場の担当者を招聘しつつ、産業政策をふくめ総合的に検討することである。それとともに、効率や生産性を第一義とする考え方に対して、創造性や芸術資源デザインの重要性を提起することを目指している。

2009年度は、昨年、一昨年に引き続き、社団法人日本レコード協会寄附講座「クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に」を開講する。

講座 URL <http://www.art-c.keio.ac.jp/education/creative/>

1. 履修上の取り扱い

慶應義塾大学の各学部の学生が対象。履修の取り扱いについて各学部の履修案内で確認の上、履修申告する必要がある。履修希望者が多い場合は制限をすることがある。

2. ガイダンス

春学期第1回の授業でガイダンスを行うので、履修希望者は必ず出席し、履修希望票に必要事項を記入すること。秋学期にはガイダンスを行わない。春学期・秋学期の内容は連続するので、両方履修（いわゆるセット履修）するのが望ましい。

クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に
(社団法人日本レコード協会寄附講座)(春学期)2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容:

クリエイティブ産業が重視されるようになった背景と環境、およびコンテンツ・ビジネスの現状とそれをとりまく制度、著作権の動向、日本とアジアの関係、クリエイティブ産業政策について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

- クリエイティブ産業とその範囲
- コンテンツ・ビジネスとその歴史
- 日本の音楽産業
- イギリスにおけるクリエイティブ産業戦略
- 日本の知的財産政策と関連産業
- 著作権とクリエイティブ産業 1
- 著作権とクリエイティブ産業 2
- 東アジアにおけるコンテンツ・ビジネスをめぐって
- クリエイティブ産業と公共性
- アーティストの立場から

授業の計画:

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程は順次アート・センターのホームページにて発表する。

成績評価方法:

レポートと平常点により評価する。

質問・相談:

授業終了後に受け付ける。

クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に
(社団法人日本レコード協会寄附講座)(秋学期)2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容:

春学期の講義をふまえ、音楽ビジネスに焦点をあてた実践論、ならびにクリエイティブ産業の今後の課題について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

- 出版とプロダクション
- アーティストの発掘、契約と宣伝
- 日本の音楽の流通と配信
- 今後の課題
- クリエイティブ産業と今後の課題 ~
- 紛争回避
- 商用アーカイブの運営ほか

授業の計画:

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程は順次アート・センターのホームページにて発表する。

成績評価方法:

レポートと平常点により評価する。

質問・相談:

授業終了後に受け付ける。

1．知的資産センター設置講座について

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として1998年11月に設立されました。技術に関するものだけでなく、デジタルメディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果の特許保護、技術の移転、共同研究や受託研究の支援、ベンチャー起業の支援というように、研究成果の社会への還元をいろんな形で支援してまいります。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化し、多くの新製品やサービスの提供につながっています。さらに、バイオ分野を中心に多くのベンチャー企業がスタートアップしました。

これらの業務に加え、知的資産センターは技術移転の側面を中心に、知的財産に関する教育・研究も任務としています。今や知的創造の時代ですが、時代とともに知的財産の範囲や期待される役割なども変化します。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められます。そこで、知的財産に関する教育の一環として、全学部・研究科の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を設けています。

2．設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の1科目を、春学期 三田キャンパスで開講します。

授業時間は水曜日 18:10～19:40、単位は2単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する方は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

3．講義要綱

知的資産概論 保護と活用をめぐる課題（ナテグリニド特別講座）（春学期）

コーディネーター 知的資産センター所長（教授〔大学所属〕） 羽鳥賢一

授業科目の内容：

種々の知的資産や制度について、その仕組みを概括した上で、その保護のあり方や活用の方策に関し、今日の課題やその課題への対応策を考えます。また、その中で、現在および将来の知的財産のあり方に関する幅広い知識を修得することを目標とします。

知的財産には、技術（特許やノウハウ）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、プログラムやデータベース（著作権）、音楽・映画等のコンテンツ（著作権）といったものがありますが、その権利の内容や活用法は、それぞれ固有の特色があります。また、同じ知的財産が世界共通的に保護・活用される場合でも、国によってその取扱いが異なることもあります。本講義では、こうした種々の知的財産の保護と活用をめぐる現状と課題について、テーマに応じ、その分野の第一線でご活躍の有識者を招いて、講演および質疑応答の中で理解を深めてまいります。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「産業財産権標準テキスト」特許庁企画

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著，慶應義塾大学出版会

「よくわかる特許」羽鳥賢一他著，オーム社

「著作権の考え方」岡本著，岩波新書

授業の計画：

(内容と順序は変更になる場合があります。テーマにより第一線の外部講師を招きます。)

1. 知的財産の新たな時代、特許の仕組みと課題(1)
2. 特許の仕組みと課題(2)、デザインの保護と活用
3. 著作権の仕組みと課題
4. 商標・ブランドの価値と課題
5. コンテンツビジネスの仕組みと課題
6. 音楽に関する著作権と課題
7. 企業の知的財産戦略
8. 知的財産の権利行使と紛争処理
9. ベンチャー起業の仕組みと課題
10. 米国でのバイオベンチャー起業と知財戦略
11. 知的財産の国際動向
12. アジアでの知的財産保護と課題
13. 産学連携の現状と課題、まとめ

担当教員から履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱いについては、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点およびレポートによる評価

質問・相談：

各授業の最後に質問の時間を設けます。

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター（以下、「センター」と略す）では、「センター特設科目」を設置し、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語、アラビア語、イタリア語の9言語の授業を開講しています。センター特設科目では各学部の外国語教育を補完することをコンセプトとしながら、「聴く」「話す」「読む」「書く」の四技能がバランスよく身につくよう、工夫を凝らした授業を展開しています。また、特定のスキル強化（リスニング、ライティングなど）のための科目、超上級科目や基礎固めのための科目も用意しています。

これら「特設科目」のほか、センターが提供する科目に「オープン科目」があります。これは、各学部設置の語学科目のうち、他学部生に開放されているものを、センターに併設することにより、学生が履修しやすくしたものです。（「特設科目」「オープン科目」とも、卒業単位認定の仕方は学部により異なるため、それぞれ自分が所属する学部の履修案内を参照してください。）

センターでは、各種講演会やワークショップ、春休み期間中の海外語学研修、高校生から大学院生までを対象とする「アカデミック・ライティング・コンテスト」等、外国語学習に関連するさまざまなプログラムを実施しています。それぞれの詳細はセンターのウェブサイトや構内掲示板で随時案内していますので、チェックしてください。

以下に本年度開講の「特設科目」の一覧を掲載します。各特設科目の詳しい授業内容、ガイダンスや履修手続きに関する情報、ならびに「オープン科目」一覧については、別冊の『外国語教育研究センター履修案内・講義要綱』（ガイダンスおよびセンター事務室でも配布します）、またはセンター Web サイトを参照してください。

外国語教育研究センター <<http://www.flang.keio.ac.jp/>>
ガイダンス日程：4月6日(月)13:00～14:30 531番教室

外国語教育研究センター特設科目一覧（三田）

- * 履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。
- * 科目名に(a)(b)と表記されている科目は春(a)・秋(b)をセットで履修することが義務付けられている科目です。
- * 科目名に()と表記されている科目は春()と秋()どちらかひとつの履修あるいは両方の履修が可能です。
- * 「インドネシア語ベーシック速習1」「インドネシア語ベーシック速習2」については、月曜・金曜の授業を両方、かつ、春(a)・秋(b)セットで履修する必要があります。
- * 選抜方法は、 有資格者証明必須科目、 選考科目、 抽選科目を表します。 ~ 以外の科目は、直接学事 Web システムに登録してください。
- * 2009年2月から3月に実施された海外研修科目については、当センター「2009年度履修案内・講義要綱」の特設科目一覧（日吉）(p.9)を参照してください。

語種	科目名	担当講師名	設置学期	選抜方法	曜日・時限	定員	形態	単位数
英語	英語最上級 アドバンスト英語(a) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)	横川 真理子	春		水・4	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語(b) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)		秋	半期			1	
	英語翻訳(a)(Lost in Translation)	アーマー、アンドルー	春		火・2	15	半期	1
	英語翻訳(b)(Lost in Translation)		秋	半期			1	
	英語留学準備() (English for Studying Abroad)	ブルーカ、デイビッド	春		土・4	20	半期	1
	英語留学準備() (English for Studying Abroad)		秋	半期			1	
	英語経済・金融() (208パターンでおぼえる経済英語の基本用例)	日向 清人	春		月・3	30	半期	1
	英語経済・金融() (208パターンでおぼえる金融と会計の英語)		秋	半期			1	
	英語法律・法務() (208パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向 清人	春		月・4	30	半期	1
	英語法律・法務() (208パターンで学ぶ契約書の英語)		秋	半期			1	
	英語アカデミック・ライティング() (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春		火・1	25	半期	1
	英語アカデミック・ライティング() (Writing an Academic Paper in English)		秋	半期			1	
	英語オーラル・プレゼンテーション()(初級)	ブルーカ、デイビッド	春		土・3	20	半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション()(初級)		秋	半期			1	

語種	科目名	担当講師名	設置学期	選抜方法	曜日・時限	定員	形態	単位数
ドイツ語	ドイツ語表現技法 4(a) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春		月・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 4(b) (中・上級聴解・口頭表現)		秋	半期			1	
	ドイツ語表現技法 5(a) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル=タカヤマ, メヒティルド	春		火・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 5(b) (中・上級文章表現法)		秋	半期			1	
フランス語	フランス語表現技法 3() (DELF(A1, A2)対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法 3() (DELF(A1, A2)対応クラス)		秋	半期			1	
	フランス語表現技法 4() (DELF(B1, B2)対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法 4() (DELF(B1, B2)対応クラス)		秋	半期			1	
	フランス語表現技法 5() (DALF(C1, C2)対応クラス)	ベリセロ, クリスチャン・アンドレ	春		木・2	20	半期	1
	フランス語表現技法 5() (DALF(C1, C2)対応クラス)		秋	半期			1	
ロシア語	ロシア語表現技法 2() (ロシア語で発信しよう)	桜井 厚二	春		水・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 2() (ロシア語で発信しよう)		秋	半期			1	
中国語	中国語聴解 2()(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春		水・2	25	半期	1
	中国語聴解 2()(最上級) (時事中国語)		秋	半期			1	
	中国語表現技法 2()(最上級) (読解と翻訳)	蒋 文明	春		月・5	25	半期	1
	中国語表現技法 2()(最上級) (読解と翻訳)		秋	半期			1	
スペイン語	スペイン語表現技法 3()(上級) (スペイン語のさらなる向上とその文化的・ 社会的背景に対するより深い理解)	安藤 万奈	春		金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法 3()(上級) (スペイン語のさらなる向上とその文化的・ 社会的背景に対するより深い理解)		秋	半期			1	
インドネシア語	インドネシア語ベーシック速習 1(a)	野村 亨・ スランティ トリスナワティ	春		月(野村)・ 金2(スランティ)	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 1(b)		秋	半期			2	
	インドネシア語ベーシック速習 2(a)	野村 亨・ スランティ トリスナワティ	春		月2(野村)・ 金(スランティ)	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 2(b)		秋	半期			2	
イタリア語	イタリア語表現技法 2() (作文練習)(Composizione)	ジェズアート, マリーア=カティア	春		木・3	25	半期	1
	イタリア語表現技法 2() (作文練習)(Composizione)		秋	半期			1	

2009 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月			インドネシア語 ベーシック速習 ㄨ(a)	野村	英語経済・金融() フランス語 表現技法 ㄨ() ドイツ語 表現技法 4(a) インドネシア語 ベーシック速習 1(a)	日向 ルカルヴェ 三瓶 野村	英語法律・法務() フランス語 表現技法 ㄨ()	日向 ルカルヴェ	中国語表現技法 2() (最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング()	和田	英語翻訳(a)	アーマー	ドイツ語表現技法 ㄨ(a)	ドゥッペル =タカヤマ				
水			中国語聴解 2() (最上級)	山下	ロシア語 表現技法 2()	桜井	英語最上級 アドバンスト英語(a)	横川		
木			フランス語 表現技法 ㄨ()	ベリセロ	イタリア語 表現技法 2()	ジェズート				
金	インドネシア語 ベーシック速習 ㄨ(a)	スランティ	インドネシア語 ベーシック速習 1(a)	スランティ			スペイン語表現技法 3() (上級)	安藤		
土					英語オーラル・ プレゼンテーション() (初級)	ブルーカ	英語留学準備()	ブルーカ		

2009 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月			インドネシア語 ベーシック速習 ㄨ(b)	野村	英語経済・金融() フランス語 表現技法 ㄨ() ドイツ語 表現技法 4(b) インドネシア語 ベーシック速習 1(b)	日向 ルカルヴェ 三瓶 野村	英語法律・法務() フランス語 表現技法 ㄨ()	日向 ルカルヴェ	中国語表現技法 2() (最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング()	和田	英語翻訳(b)	アーマー	ドイツ語表現技法 ㄨ(b)	ドゥッペル =タカヤマ				
水			中国語聴解 2() (最上級)	山下	ロシア語 表現技法 2()	桜井	英語最上級 アドバンスト英語(b)	横川		
木			フランス語 表現技法 ㄨ()	ベリセロ	イタリア語 表現技法 2()	ジェズート				
金	インドネシア語 ベーシック速習 ㄨ(b)	スランティ	インドネシア語 ベーシック速習 1(b)	スランティ			スペイン語表現技法 3() (上級)	安藤		
土					英語オーラル・ プレゼンテーション() (初級)	ブルーカ	英語留学準備()	ブルーカ		

グローバルセキュリティ研究所 (G-SEC)

G-SEC では、これまで、グローバルとセキュリティというキーワードのもと、幅広い研究分野において、Watch & Warningの精神、すなわち各分野の問題を常にウォッチし、必要なウォーニングを発するという問題意識の中で研究活動を行ってきました。一方で、人材育成の観点からも、大学との連携という観点からも、教育活動についての重要性を認識してまいりました。このたび、義塾の学生を対象として、金融についての実践的知識や環境変化への対応の指針をつかんでいただき、問題発見・解決能力を高めることを目的として、新たに講座を設置いたしました。幅広い分野の学生の参加を望みます。

1. 設置科目、履修上の取扱いについて

「グローバル金融市場論」 2単位、春学期 木曜2限、三田キャンパス

慶應義塾大学の各学部、研究科の学生が対象。履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告する必要があります。

2. ガイダンス

4月6日(月)12時15分～13時にガイダンスを行います。(予定：三田515番教室)

また、G-SEC サイトにて告知いたします。(<http://www.gsec.keio.ac.jp>)

3. 講義要項

科目名：グローバル金融市場論 (Global Financial Markets)

(日興シティグループ証券寄附講座)

G-SEC 所長、メディアデザイン研究科教授 竹中平蔵

G-SEC 客員研究員、日興シティグループ証券調査本部日本株ストラテジスト 藤田勉

G-SEC 副所長、経済学部教授 櫻川昌哉

G-SEC 上席研究員、メディアデザイン研究科教授 岸博幸

授業科目の内容：

この講義は、日興シティグループ証券の寄附講座である。

竹中平蔵教授を中心とする担当教員及び日興シティグループ証券調査本部日本株ストラテジスト藤田勉(慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所客員研究員)が中心となって、理論、実務両面双方から国際資本市場の歴史、現状、そして今後の展望を講義する。

金融市場を理解するのに不可欠なものは、歴史観、世界観、そして理論である。その理論に関しては、経済学、金融論、公共政策論などマクロの視点のみならず、企業法制、金融法制、経営学、財務会計などに多岐に亘る総合的な知識が必要である。ところが、従来の国際資本市場論は学術的な立場から語られることが多く、実務家の立場からの意見が強く反映されているとはいいがたい。特に、経営学、財務会計、企業法制は理論と実践の乖離が大きく、それらを既存の理論と整合的、かつ有機的に分析する研究が進んでいるとはいいがたい。そこで、グローバルな視点から、これらの理論を金融市場と企業分析に応用することを、講義の中心にすることが特徴の一つである。講義の最後2回においては、経済学、金融論、法制、経営学、財務会計に関わる理論を応用して、過去や現在の国際金融危機、日米の不良債権問題を具体的に分析する。

教科書：

竹中平蔵監修、藤田勉著「グローバル金融市場論」毎日新聞社刊
(2009年4月に刊行し、履修学生には配布の予定)

参考書：

竹中平蔵著「構造改革の真実 竹中平蔵大臣日誌」, 2006年日本経済新聞社
竹中平蔵著「闘う経済学 未来をつくる「公共政策論」入門」, 2008年集英社インターナショナル
藤田勉著「新会社法で変わる敵対的買収」, 2005年東洋経済新報社
堀紘一、藤田勉共著「M & A で生きる企業消え去る企業」, 2007年PHP出版

授業の計画：

ガイダンス

世界の資本市場概論

日本の株式市場の歴史と現状

会社法と金融法制、証券市場とコーポレートガバナンス

会社法と金融法制、M & A の理論と実践

経営戦略論、ポジショニング理論、リソースベースビュー

経営戦略論、SECIモデル、ブルーオーシャン戦略、コーポレートブランド戦略

会計制度、フランコジャーマン型とアングロアメリカン型

会計制度、国際財務報告基準

資産運用の理論と実践、ファンドマネージャー入門

経済政策と株式市場

ケーススタディ：「小泉・竹中改革」の教訓

ケーススタディ：日米金融危機の比較研究

試験

担当教員から履修者へのコメント：

授業への感想・意見・質問・評価などを毎回積極的に受け付け、授業内容の軌道修正にも積極的に反映させていきたい。

成績評価方法：

試験、平常点(出席状況および授業態度による評価)